

セル骨牌ヲ偶々越前長次郎ナル者ニ賣渡シタルコトアリトスルモ固ヨリ骨牌ノ販賣ヲ營業ト爲シタルモノニ非サルコト勿論ナルヲ以テ爲ニ政府ノ免許ヲ受クルノ要ナク隨テ骨牌稅法第十四條ノ犯罪ヲ構成セサルニ不拘同條ノ規定ヲ適用シタル原判決ハ擬律ヲ誤リタル不當ノ裁判ナリト信スト云フニ在リ○因テ按スルニ我刑法上販賣ナル文辭ハ營業又ハ營利ノ爲メニスル販賣行爲ハ勿論民法上ノ賣渡行爲ヲモ指稱スル爲メ用キラレタルコトハ同法第百五十七條第二項第百三十七條第百三十八條第百九十三條第百二十五條第三號等ノ法文上明白ナレハ骨牌稅法第十四條第一項後段ノ販賣ナル文辭モ亦之ト同一意義ニ解スルヲ以テ其當ヲ得タルモノトス加之同條第一項前段ニハ骨牌ノ製造ヲ爲シタル者ヲ處罰スルノ規定アリテ其製造ニ付テハ酒造稅法酒精及酒精含有飲料稅法ノ適用ニ付キ從來本院カ判示シタルト同様營業又ハ營利ノ爲メニスル製造ハ勿論自用ノ爲メニスル製造ト雖モ免許ヲ受ケサルモノハ總テ之ヲ禁スル立法ノ趣旨ナルコト毫モ疑ナケレハ同條第一項後段ニ所謂骨牌ノ販賣ニ付テモ之ト同様營業又ハ營利ノ爲メニスル無免許販賣ハ勿論民法上ノ賣渡行爲ト雖モ免許ヲ受ケサルモノハ總テ之ヲ爲スヲ禁スルモノト解セサルヘカラス何トナレハ同一條項中ニ於テ骨牌ノ販賣ニ付テハ營業又ハ營利ノ爲メニスルコトヲ要件ト爲シ其製造ニ付テハ之ヲ要件トセサルモノト分離解釋ヲ爲スノ論據ナキノミナラス徵稅ノ目的ヲ達スル爲メ即チ脫稅ヲ豫防スル爲メニハ免許ヲ受ケスシテ骨牌ヲ製造スルコトヲ悉ク禁スルノ必要アルト同様免許ヲ受ケスシテ其販賣ヲ爲スコトヲ悉ク禁スルノ必要アルヤ論ヲ俟タサルヲ以テナリ是故ニ骨牌稅法及同法施行規則中骨牌ノ販賣ヲ以テ營業ト爲スニ非サレハ適用スルコトヲ得サル條項ナキニ非スト

雖モ之レカ爲メ同法第十四條第一項ノ販賣ナル文辭ヲ營業又ハ營利ノ爲メニスル販賣ノミヲ指稱スルモノト狹義ニ解釋シ免許ヲ受ケスシテ民法上ノ賣渡行爲ヲナシタル者ヲ不問ニ付スルヲ得サルモノトス而シテ原判決ニハ被告カ政府ノ免許ヲ受ケスシテ骨牌四組ヲ越前長次郎ニ販賣シタル事實ヲ認メアレハ被告ハ假令其販賣ヲ以テ營業トナシタルモノニアラストスルモ骨牌稅法第十四條第一項後段ノ適用ヲナスニ於テ毫モ妨ナキヲ以テ原院カ被告ヲ處分スルタメ同條項ヲ適用シタルハ相當ニシテ本論旨ハ上告ノ理由ナシ

○當テ知州ノ發售ヲ受ケスルニ非サレハ其相持限ニ盡スルハ否トニ關セズ



○苟モ政府ノ免許ヲ受ケスシテ酒精ヲ製造シタル以上ハ其飲料用ニ適スルト否トニ論ナク犯罪ヲ構成スルモノトス (明治三十九年六月十九日)

上告趣意書ハ原院ハ被告カ政府ノ免許ヲ受ケスシテ酒精ヲ製造シタル事實ヲ認め之ニ酒精及酒精含有飲料税法第五條第十五條非常特別税法第二條明治三十五年法律第二十二號第一條ヲ適用處斷シタルトモ右酒精及酒精含有飲料税法第五條第十五條等ニ所謂酒精ナルモノハ固ヨリ一種ノ飲料ナルコトハ同法第一條ニ酒精及酒精ヲ含有スル飲料云々トアルノミナラス右酒精及酒精含有飲料税法公布以前ノ酒精ニ關スル法律即チ明治二十九年三月法律第二十八號酒造税法第一條ニ於テ此税法ニ於テ酒類ト稱スルハ清酒濁酒白酒味淋燒酎酒精ノ六種トストアリテ而シテ其所謂酒精ナルモノハ固ヨリ飲用シ得ヘキモノ即チ飲料ナラサルヘカラサルコトハ今更喋々ヲ俟タサル所ナリトス然ルニ今被告カ免許ヲ受ケスシテ製造シタリト認めタル酒精ハ大ニ之ト異ナル所アリテ即チ該酒精ハ之ヲ稀釋シテ相當ノ芳香佳味ヲ有スルモノヲ混和セハ全ク飲用シ得サルモノニ非サルヘキモ若シ之ヲ稀釋シテ相當ノ芳香佳味ヲ有スルモノヲ混和セサレハ被告カ製造シタル儘ニテ飲用シ得ヘキモノニアラサルコトハ原判決ノ理由中ニ西脇定吉鑑定書中(前略)又該品ニハ樟腦ノ臭ヲ有スルヲ以テ飲料ニ適ストハ云ヒ難キモ之ヲ稀釋シテ相當ノ芳香佳味ヲ有スルモノヲ混和セハ全ク飲用シ得サルモノニ非サル旨ノ記事云々ト説明セラレタルニ徵シテ明斷ナルカ故ニ隨テ被告ノ所爲ハ免許ヲ受ケスシテ現在ニ於テ飲用シ得サル酒精ヲ製造シタルモノナレハ即チ被告事件罪トナラサルモノトス然ルニ原院カ被告ノ所爲ニ對シ酒精及酒精含有飲料税法第五條第十五條非常特別税法第二條明治三

十五年法律第二十二號第一條ヲ適用處斷シタルハ是即チ法律ヲ不當ニ適用シタル違法アルモノトスト云フニ在レトモ○本件酒精カ全ク飲料用ニ適セサルコトハ原判決ノ認ムル所ニアラザルノミナラス苟モ政府ノ免許ヲ受ケスシテ酒精ヲ製造シタル以上ハ其飲料用ニ適スルト否トヲ論セス犯罪ヲ構成スヘキヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由ナシ



○酒造稅法第三十二條ニ所謂酒類ヲ製造スル者ハ免許ヲ受ケタル酒類製造者ノ外免許ヲ受ケスシテ事實上斯業ニ從事スル者ヲモ包含セルモノトス (明治三十九年六月二十二日) (明治三十九年八月二十八日)

被告ノ上告趣意書ノ第二ハ酒類販賣ノ營業者ニシテ製造ノ營業者ニ非サルコトハ原判文中被告ノ肩書ニ酒類請賣業ト明記セラレアルヲ以テ明ナルノミナラス一件記録ニ徴シ明白ナル所ナリ而シテ本件第一第二ノ所爲ハ何レモ其雇人タル藤井忠吉ノ所爲ニシテ被告ノ聞知シタルモノニアラサルコトモ原判文ニ明記スル所ナレハ右雇人タル藤井忠吉ノ所爲ハ被告ニ其責任ヲ負ハシムヘキ道理アルヘカラス抑モ酒造稅法第三十二條ニ酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人戸主家族同居者雇人其他ノ從業者ニシテ其業務ニ關シ此稅法ヲ犯シタル時ハ其製造者又ハ販賣者ヲ處罰ストアルハ酒類ノ製造ヲ營業トスル者又ハ酒類ヲ販賣スル者ノ雇人等カ其業務ニ關スル稅法ヲ犯シタル場合ニ適用スヘキ法條ニシテ假令雇人又ハ家族ト雖モ其業務ニ關シタルニ非サル以上ハ該條ヲ適用セラルヘキモノニ非ス是即チ原判決ハ擬律ノ錯誤ナリト言ハサルヲ得スト云フニ在レトモ○本件第一第二ノ所爲ハ何レモ被告ノ雇人藤井忠吉ノ所爲ニシテ被告自ラ之ヲ爲シタルモノニアラサルコトハ上告所論ノ如シト雖モ原判決ノ認ムル所ニ依レハ本件無免許酒類製造ノ業務ハ被告ノ業務ニシテ藤井忠吉ハ被告ノ雇人タル資格ヲ以テ其業務ニ關シ第一第二ノ所爲ヲ爲シタルニ過キササルモノトス而シテ酒造稅法第三十二條ニ所謂酒類ヲ製造スル者ハ免許ヲ受ケタル酒類ノ製造者ノミヲ指稱スルニ止マラスシテ免許ヲ受ケスシテ事實上斯業ニ從事スル者ヲモ包含スルモノト解セサルヘカラス何トナレハ同條ニハ廣ク酒類ヲ製造スル者トアルノミニシテ何等ノ制限ナキノミナラス酒類ヲ販

賣スルニハ官ノ免許ヲ受クルコトヲ要セサルモノナルニ同條中酒類ヲ販賣スル者ニ對シテモ之ヲ製造スル者ト同一制裁ヲ加ヘアルニ依テ見ルモ事實上酒類製造ノ業務ニ從事スル者ヲ免許ヲ受ケテ酒類ヲ製造スル者ト同一制裁ノ下ニ置キタル法意ナルコトヲ推知スヘケレハナリ況ンヤ本法ニ依ル收稅ノ目的ヲ完全ニ達セシメムトスルニハ官ノ免許ヲ受ケスシテ事實上酒類製造ノ業務ニ從事スル者ニ對シテモ本條規定ノ制裁ヲ加フルノ必要アルヲ以テ本條ニ所謂酒類ヲ製造スル者トハ前示ノ如ク廣義ニ之ヲ解スヘキモノナルコトヲ確ムルニ十分ナルニ於テオヤ故ニ官ノ免許ヲ受ケスシテ酒類製造ヲ爲スヲ以テ己レノ業務ト爲ス者アリテ雇人カ其業務ニ關シ酒類ヲ製造シタルトキハ酒造稅法第三十二條第二十二條ニ依リ其主人ヲ處罰スルハ當然ノコトナルヲ以テ原院カ同法條ニ依リ被告ヲ處罰シタルハ擬律ノ錯誤ニアラス



○苟モ取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ニ類似スル賣建若ハ買建ノ契約ヲ爲シタル以上ハ未  
タ其履行ヲ結了スルニ至ラサルモ既遂トシテ取引所法第三十二條ヲ適用スヘキモノトス

(明治三十九年六月二十二日)

被告宮吉和七富藏新次郎ノ上告趣意第二點ハ一步ヲ讓リ取引所外ニ於テ前項ノ事實アリト  
假定スルモ本案處罰ノ條項タル取引所法第二十五條ニ依レハ取引所外ニ於テ取引所ノ定期取  
引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ストアリテ賣買取引ヲ遂行シタル者  
コソ同法第三十二條ノ制裁ヲ受クルハ至當ナリト雖モ熟ラ同法ヲ通覽スルニ未遂犯罪ヲ罰ス  
ルノ條項ナキヲ以テ本案被告事件カ未遂犯罪タルニモ拘ハラス既遂ナリトシ處罰セラレタル  
ハ明ニ法律ヲ不當ニ適用シタルモノナリト云フニ在レトモ○原判決ニ認メタル如ク被告等カ  
取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ニ類似セル賣建又ハ買建ノ賣買取引ヲ爲シタル以上ハ未タ  
其賣買取引ノ履行ヲ結了スルニ至ラサルモ取引所法第三十二條ヲ適用處斷スヘキモノトス何  
トナレハ同法第二十五條ニ「取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ  
賣買取引ヲ爲スヲ得ス」トアルハ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ  
爲スコトヲ一般ニ禁シタルモノニシテ苟モ其賣買取引アリタル以上ハ假令其履行ヲ爲スニ至  
ラサルモ既遂トシテ之ヲ處罰スルノ趣旨ナルコト法文上毫モ疑ナキヲ以テナリ故ニ本論旨ハ  
上告ノ理由ナシ

○免許ヲ受ケスシテ製造場ヲ二箇所ニ設ケ酒類ヲ製造シタル所爲ハ二箇ノ犯罪ヲ構成ス從テ  
其間意思ノ繼續アル場合ト雖モ之ヲ以テ一箇ノ犯罪トスルヲ得ス(明治三十九年八月十四日)

上告趣意書ハ原判決ハ不當ニ法則ヲ適用シタルモノナリ原判決ニ於テ本件被告カ其犯意繼  
續シタルモノナルコトヲ認メナカラ被告カ二箇所ニ於テ酒類ヲ密造シタル事實ハ酒造稅法第  
二條第二十二條ニ依リ格別ニ犯罪ヲ構成スルモノナリトシテ被告ニ二箇ノ犯罪アルコトヲ判  
定シタリ成ル程同法第二條ニハ一ヶ所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘキコトヲ規定シアルモ其第二  
十二條ニハ唯單ニ免許ヲ受ケスシテ云々ト規定シアルノミナルカ故ニ本件ノ如キ意思ノ繼續  
ヲ認メ得ヘクハ假リニ其製造場カ二箇所以上ナリトスルモ之ヲ以テ數箇ノ犯罪ヲ構成シ得  
ヘキモノニアラスト信ス蓋シ此ノ如キ場合ニ於テ立法當時ノ趣旨カ果シテ格別ノ犯罪ヲ構成  
スヘキ趣意ナリシナラムニハ特ニ其規定ヲ明定スヘキ筈ナルモ其規定ノ存セサル所ヨリ見レ  
ハ立法ノ精神モ亦斯ノ如キ場合ハ全ク意思繼續ノ有無ニ據ルヘキモノト爲シタルモノナリヤ  
明ナリト云フニ在リ○依テ按スルニ酒造稅法第二條前段ニ「酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造  
場一ヶ所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ」トアリ然ラハ本件被告ノ如ク製造場二ヶ所ヲ設ケ其二  
ヶ所ノ何レニ對シテモ免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造シタル行爲アルトキハ稅法ニ關スル制裁  
ノ性質トシテ其各行爲ハ別箇ノ犯罪行爲ヲ成スモノニシテ其間意思繼續ノ存スルモ以テ一箇  
ノ犯罪ヲ成サシムヘキモノニアラス然ラハ原判決ニ於テ本件被告カ無免許ノ儘二ヶ所ニテ酒  
類ヲ製造シタル行爲ニ對シ其犯意繼續ノ事實アルコトヲ認メタルニ拘ハラス各獨立セル二箇  
ノ犯罪ナリトシテ之ヲ處分シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ



○酒造稅法第三十二條ハ代理人等ノ稅則違犯ノ行爲ニ付テハ製造者又ハ販賣者ヲ以テ其責任者トナシ之ヲ處罰スルノ趣旨ニシテ犯則行爲者タル代理人等ヲモ併セテ處罰スルノ法意ニ非ス

○酒造稅法第三十二條ニ所謂酒類ヲ製造スル者トハ事實上酒類ヲ製造スル者ヲ指稱シ其免許ヲ受ケタルヤ否ヤハ問フ所ニ非ス (明治三十九年八月二十八日)(明治三十九年六月二十二日參照)  
被告四名ノ上告趣意ノ二ハ原判決ハ其理由ノ部二項ニ於テ被告鐵太郎儀兵衛宇一等ハ右密造ノ情ヲ知り彙次郎ニ雇ハレ云々何レモ意思繼續シテ前記濁酒ノ製造ニ從事シタルモノナリト判示セリ然レトモ法ヲ按スルニ被雇人ニシテ主人ノ業務ニ從事シ酒造稅法違犯ノ事實アルモ被雇人ノ責任ニアラサルコトハ同法第三十二條ノ所定ナリ或ハ同條ニ酒類ヲ製造スル者又ハ販賣スル者トアリテ何レモ既ニ當該官署ノ免許ヲ受ケタル者ニ係レリト云フモノアラムカ然レトモ所謂酒類ヲ製造スル者又ハ販賣スル者トハ固ヨリ廣義ノ文詞ニシテ單ニ免許ヲ受ケタル者而已ヲ指示スルニ止マラサルコト明白ニ隨テ被告鐵太郎儀兵衛宇一ハ同法第二十二條規定ニ該當セサルモノトス然ルニ原判決ハ之ヲ違犯トシテ各罰金ニ處スヘキモノト論定シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタルノ不法アルモノナリト云フニアリ○因テ按スルニ酒造稅法第三十二條ニハ「酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人戶主家族同居者雇人其他ノ從業者ニシテ其業務ニ關シ此ノ稅法ヲ犯シタルトキハ其製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス」トアリ代理人等ノ稅法違犯ノ行爲ニ關シテハ製造者又ハ販賣者ヲ以テ其責任者トシテ之ヲ處罰ストノ趣旨ニシテ犯則行爲者タル代理人等モ併テ之ヲ處罰ストノ趣旨ニアラサルヤ法文上一點ノ疑ヲ

容レス而シテ本條ニ所謂酒類ヲ製造スル者トハ事實上酒類ヲ製造スル者ニシテ其免許ヲ受ケタルト否トニ關セサルコトハ本院判例ノ認ムル所ナリ (明治三十八年(れ)第一三四九號明治三十九年(れ)第五五五號事件ノ判決參看) 今本件原判決ノ認メタル所ニ依レハ被告鐵太郎儀兵衛宇一ハ被告彙次郎カ濁酒密造ノ情ヲ知り同人ニ雇ハレ濁酒製造ニ從事シタリト云フニ在リテ右被告鐵太郎儀兵衛宇一ノ三名カ濁酒ノ製造ヲ爲シタルハ即チ其製造者ナル彙次郎ノ業務ニ關シ犯シタル行爲ナレハ其罪責ハ右法條ニ依リ彙次郎ヲシテ之ヲ負ハシムヘク右三名ヲシテ之ヲ負ハシムルヲ得ヘカラス然ルニ原判決ハ右三名ニ對シ酒造稅法第二十二條ヲ適用シテ刑ヲ科シタルハ擬律錯誤ノ判決ニシテ破毀ヲ免レス本論旨ハ理由アリ

○酒造稅法第三十二條ニ所謂酒類ヲ製造スル者トハ事實上酒類ヲ製造スル者ヲ指稱シ其免許ヲ受ケタルヤ否ヤハ問フ所ニ非ス (明治三十九年八月二十八日)(明治三十九年六月二十二日參照)  
被告四名ノ上告趣意ノ二ハ原判決ハ其理由ノ部二項ニ於テ被告鐵太郎儀兵衛宇一等ハ右密造ノ情ヲ知り彙次郎ニ雇ハレ云々何レモ意思繼續シテ前記濁酒ノ製造ニ從事シタルモノナリト判示セリ然レトモ法ヲ按スルニ被雇人ニシテ主人ノ業務ニ從事シ酒造稅法違犯ノ事實アルモ被雇人ノ責任ニアラサルコトハ同法第三十二條ノ所定ナリ或ハ同條ニ酒類ヲ製造スル者又ハ販賣スル者トアリテ何レモ既ニ當該官署ノ免許ヲ受ケタル者ニ係レリト云フモノアラムカ然レトモ所謂酒類ヲ製造スル者又ハ販賣スル者トハ固ヨリ廣義ノ文詞ニシテ單ニ免許ヲ受ケタル者而已ヲ指示スルニ止マラサルコト明白ニ隨テ被告鐵太郎儀兵衛宇一ハ同法第二十二條規定ニ該當セサルモノトス然ルニ原判決ハ之ヲ違犯トシテ各罰金ニ處スヘキモノト論定シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタルノ不法アルモノナリト云フニアリ○因テ按スルニ酒造稅法第三十二條ニハ「酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人戶主家族同居者雇人其他ノ從業者ニシテ其業務ニ關シ此ノ稅法ヲ犯シタルトキハ其製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス」トアリ代理人等ノ稅法違犯ノ行爲ニ關シテハ製造者又ハ販賣者ヲ以テ其責任者トシテ之ヲ處罰ストノ趣旨ニシテ犯則行爲者タル代理人等モ併テ之ヲ處罰ストノ趣旨ニアラサルヤ法文上一點ノ疑ヲ



○收稅官吏カ間接國稅ニ關スル犯則事件ヲ發見シタルトキハ其職務執行ノ區域如何ヲ顧ミルコトナク間接國稅犯則者處分法第十一條ニ從ヒ直チニ證據ヲ蒐集シ第十三條ノ手續ヲ爲シ得ルモノトス (明治三十九年八月三十一日)

辯護人指田義雄上告趣意擴張書第九點ハ (前略) 依テ按スルニ本案告發ハ天童稅務署稅務屬三名ノ連署ノ告發ニヨリテ提起セラル而シテ天童稅務署ハ被告住所ヲ管轄セサルコト及ヒ本案鹽ノ所在地ハ新大橋稅務署並ニ山形稅務署ノ管轄區域ナルコトハ一件記錄ニ依リ明確ナリ此場合ニ於テ天童稅務署ニ告發權換言スレハ公訴提起ノ基本タルヘキ告發ヲ爲スノ權限アリヤ否ヤハ講究ヲ要スル所ナリトス (中略) 同法第十二條ニハ收稅官吏ノ臨檢搜索則チ同法ニ所謂事件調査ノ範圍ハ其所屬稅務署ノ管轄區域内ニ制限セラル、規定アリ因是觀之收稅官吏カ職權上ノ限域ハ同法上劃然其所屬ヲ存シ毫モ相侵犯スルヲ許サ、ルモノトス (中略) 本案記錄ニ依レハ被告ハ山形稅務署管内ニ住居シ被告所在地トシテ天童稅務署ハ管轄權ヲ有セ又原判決ノ認定シタル事實ニ依レハ明治三十八年六月一日ヨリ同月五日迄則チ鹽ノ申告ヲ爲スヘキ期間ニ在テハ鹽ノ所在地ハ東京市深川區佐賀町倉庫ニシテ新大橋稅務署ノ管轄ニ屬シ其後ニ於テモ鹽ハ山形稅務署管内ニ運送セラレタリト雖モ鹽ノ所在地トシテモ亦天童稅務署ハ毫モ關係ヲ有セス明治三十八年勅令第三百三十七號第二條ニ依レハ鹽ノ所有者ハ鹽所在地ノ稅務署ニ申告スルヲ要ス隨テ本案申告義務ノ違背ヲ原因トスル犯則事件ハ當然其申告ヲ受クヘキ鹽所在地所轄ノ新大橋稅務署ノ管轄ニ屬セサルヘカラス然ラハ即チ被告ノ所在地ニモアラス又申告ヲ受クヘキ鹽ノ所在地ニモアラサル天童稅務署所屬稅務屬ハ本案告發ヲナスノ

權限ヲ有セサルモノト云ハサルヲ得ス然ルニ本案公訴ハ以上ノ如キ不適法ナル告發ニ因リ提起セラレタルモノニシテ之ヲ受理セラルヘキモノニアラスト云フニ在リ○然レトモ間接國稅犯則者處分法ニ依レハ收稅官吏ノ犯則事件ニ對スル職務權限ニ付キテハ概括的ニ「收稅官吏」ト規定シ其職務執行ノ區域ヲ限定セス唯タ收稅官吏カ臨檢搜索尋問又ハ差押ヲ爲ス場合ニ付キ第十二條前段ノ規定ヲ設ケタルモノナレハ其他ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ苟モ犯則事件アルコトヲ發見シタルトキハ同法第十一條ノ規定ニ從ヒ證據蒐集ヲ爲シ第十三條ノ手續ヲ爲スコトヲ得ヘク其職務執行ノ區域如何ヲ顧慮スルノ必要ナキモノト解釋セサルヲ得ス果シテ然ラハ本件犯則ノ目的タル鹽ハ天童稅務署ノ管轄區域外ニアリテ被告ノ所在地モ亦他ノ稅務署ノ管轄區域内ナルコト假リニ所論ノ如クナリトスルモ被告ノ犯則事件ヲ發見シタル天童稅務署ノ收稅官吏ニ於テ證據ヲ蒐集ヲ爲シ第十三條第三號ノ場合ニ該當スルモノト認メ直チニ告發ノ手續ヲ爲スコトヲ妨ケサルモノトス故ニ本論旨ハ其理由ナシ



○公私文書ヲ偽造行使スルニ因テ詐欺取財ヲ爲シタル場合ニハ犯罪行為終了ノ日ヨリ起算シ  
 公文書偽造行使ニ對スル公訴ノ時効期間ヲ經過シタルヤ否ヤニ依リテ其犯罪全部ニ對スル  
 時効ノ成否ヲ決セサルヘカラス (明治三十九年九月二十一日) (明治四十二年七月二十七日)

上告趣意ハ公私文書偽造行使私印盗用詐欺取財事件ニ付明治三十九年六月三十日宮城控訴  
 院ニ於テ言渡シタル判決ハ私印盗用ノ分公訴時効ニ罹リタルヲ以テ免訴トナリ私書偽造行使  
 詐欺取財モ公訴時効ニ罹リタルニ有罪ノ言渡ヲ爲シタルハ違法ナリト云フニ在リ○因テ按ス  
 ルニ私印盗用ノ所爲ハ一箇獨立ノ輕罪ナルヲ以テ其行為ノアリタル日ヨリ起算シ滿三ケ年ヲ  
 經過セハ公訴ノ時効ニ罹ルト雖モ文書偽造行使ニ因ル詐欺取財ハ本來數箇ノ犯罪行為ヨリ成  
 立スルモ法律ノ規定ニ依リ一罪ト做シ單一ノ刑ヲ以テ之ヲ處分スヘキモノナレハ各箇ノ行為  
 ハ一罪ノ一部トシテ包括的ニ之ヲ觀察シ其全部カ公訴ノ時効ニ罹ルヤ否ヤヲ定ムヘキモノニ  
 シテ之ヲ分割シテ其一部ハ公訴ノ時効ニ罹ルモ他ノ一部ハ之ニ罹ラスシテ訴追ノ目的トカリ  
 得ルモノト做スヲ得サルモノトス而シテ右犯罪ノ場合ニ於テハ犯罪行為終了ノ日ヨリ起算シ  
 罪狀最モ重キ行為ニ對スル公訴時効ノ期間カ滿了シタルヤ否ヤヲ識別シテ以テ犯罪行為ノ全  
 部ニ對スル公訴時効ノ成否ヲ決セサルヘカラサルコトハ本院カ明治三十七年(レ)第二一九  
 八號官文書偽造行使詐欺取財事件ニ付刑事ノ總部聯合ノ上已ニ判示シタルカ如クナルヲ以テ  
 本件ノ如ク公私文書ヲ偽造行使スルニ因テ詐欺取財ヲ爲シタル場合ニ於テハ其犯罪全部ハ犯  
 罪行為終了ノ日即チ明治三十五年三月三十一日ヨリ起算シテ重罪タル公文書偽造行使ニ對ス  
 ル公訴時効ノ期間即チ十ケ年ヲ經ルニアラサレハ公訴ノ時効ニ罹ルヘモキノニアラス即チ重

罪タル公文書偽造行使ノ點ハ訴追ノ目的トナルヲ得ルニ拘ハラス輕罪タル私文書偽造行使及  
 詐欺取財ノ點ノミ三ケ年ノ經過ニ依リ公訴ノ時効ニ罹ルヲ得サルモノトス故ニ原院カ私文書  
 偽造行使及ヒ詐欺取財ノ點ヲ公訴ノ時効ニ罹ラサルモノトシテ處罰シタルハ相當ニシテ違法  
 ニアラス

○本五ニ對シテ公訴ノ時効ニ罹ラサルモノトシテ處罰シタルハ相當ニシテ違法ニアラス



○不正ニ清酒ヲ製造シ之ヲ查定濟ノ清酒中ニ混入シテ其痕跡ヲ晦マシ以テ右造石數ノ查定ヲ免レタル事實明白ナルトキハ詐欺其他不正ノ所爲アリト認ムルハ相當ナリ(明治三十九年九月二十八日)

上告趣意書ノ第一點ハ酒造稅法第二十四條ハ酒類ヲ製造スル者詐欺其他不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ查定ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ニ對スル處罰法規ナリ而シテ原判決理由ニハ被告カ如何ナル詐欺其他如何ナル不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ查定ヲ免レタルカノ理由ナク單ニ前略「二十三號膠仕込ノ際膠約六石ニ相當スル米水ヲ増加シ之ニ對スル膠ヲ順次前號ノ膠ニ繰リ越シ第十五號第十六號膠槽上ノ際共ニ二十度以下ノ清酒ニ製成シ未タ其查定ヲ受ケス該清酒五石四斗八升ヲ查定濟ノ清酒ニ混入シ以テ二月十七日ニ查定ヲ免レタリ」トアリテ之ヲ爲スモ強テ詐欺又ハ不正ノ所爲トナラス故ニ此ノ說明ノミニテハ未タ以テ被告カ詐欺其他不正ノ所爲アリテ造石數ノ查定ヲ免レタルヤ否ヤ不明ナルニヨリ原判決ハ理由ニ不備アルモノナリト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ被告カ不正ニ清酒ヲ製造シ之ヲ查定濟ノ清酒中ニ混入シテ其痕跡ヲ晦マシ以テ右造石數ノ查定ヲ免レタル事實明白ニシテ其所爲酒造稅法第二十四條ニ該當スルコト勿論ナルヲ以テ原判決ハ所論ノ如キ不法アルコトナシ

○酒類製造者カ酒類ヲ密造シタル場合ニハ其所爲カ免許ヲ受ケタル製造場内ニ於テ行ハレタルト否トニ依リ法律ノ適用ヲ同ウセス故ニ其密造ヲ爲シタル場所如何ヲ判定セスシテ直ニ酒造稅法第二十四條ヲ適用シタル判決ハ不法ナリ(明治三十九年十月五日)

上告趣意書ハ原院カ酒類製造業ナル自分ハ明治三十八年十二月頃不明ノ場所ニ於テ查定ヲ受ケサル酒粕ヲ原料トナシ燒酎合計四石五斗五升ヲ密造シ以テ其石數ノ查定ヲ免レタルモノトシ稅法第二十四條ヲ適用シテ刑ノ言渡ヲ爲シタリ惟フニ酒類製造業者カ酒類ヲ密造シタルトキハ免許ノ製造所内ニ於テシタルト否トニヨリ第二十四條若ハ第二十二條ヲ適用スルノ別アルニ拘ハラス原院カ製造所ノ如何ヲ明示セス直ニ第二十四條ニ照ラシ處斷シタルハ理由不備ノ不法アルモノト信スト云フニ在リ○依テ審按スルニ酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場一ヶ所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘキモノナルコトハ酒造稅法第二條ノ規定スル所ナルカ故ニ免許ヲ受ケタル製造場以外ニ於テ製造シタル者ハ免許ヲ受ケスシテ製造シタルモノト做シ同法第二十二條ニ依リテ處斷スヘク若又免許ヲ受ケタル製造場ニ於テ酒類製造業者カ詐欺其他不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ查定ヲ免レタルトキハ同法第二十四條ニ依リテ處斷スヘク其製造ノ行爲カ免許ヲ受ケタル製造場内ニ於テ行ハレタルト否トニ依リ法律ノ適用ヲ異ニスルモノトス然ルニ原院カ本件酒造稅法違犯事件ヲ處斷スルニ當リ其密造カ免許ヲ受ケタル製造場内ニ於テ行ハレタルヤ否ヲ判斷セス漠然某所ニ於テ其(場所不明)密造シタルモノト認メ直チニ酒造稅法第二十四條ニ依リ處斷シタルハ理由不備ニシテ原判決ハ破毀ヲ免レサルモノトス



○收税官吏ハ現行犯ノ場合ヲ除ク外日没後ニ於テハ臨檢搜索又ハ差押ヲ爲スコトヲ得ス而シテ此禁令ハ臨檢搜索ヲ受クル者ヨリ何等ノ異議ヲ申立テサル場合ト雖モ亦之ヲ適用スヘキモノトス

○收税官吏カ臨檢ノ場所ニ於テ犯則者ヲ訊問スルハ臨檢ノ目的ヲ達スルノ手段ニシテ該處分ト離ルヘカラサル關係ヲ有ス從テ臨檢處分ニシテ不法ナル以上ハ其訊問手續モ亦不法ナリトス (明治三十九年十月十一日)

辯護人佐藤知一外二名上告趣意擴張書第六點ハ原判決ノ證據ニ採用シタル稅務官吏作成ノ中村辰藏ニ對スル第一回顛末書ニ依レハ明治三十九年一月二十二日午前九時同人方ニ臨檢屢人中村辰藏ニ對シ其取調ヲ爲シタル顛末左ノ如シトアリ同第二回顛末書ニ依レハ明治三十九年一月二十二日同人方ニ於テ中村辰藏ニ對シ第一回ノ訊問ヲ終了シタル後同人ニ於テ前非ヲ悔悟シ事實ノ供述ヲ爲スヘキ申立ニ依リ再ヒ其取調ヲ爲シタル顛末左ノ如シトアリテ該顛末書ハ稅務官カ上告人ニ臨檢ノ際中村辰藏ニ對シ訊問ヲ爲シタル顛末ヲ間接國稅犯則者處分法第十條ノ規定ニ依リ記載セシモノナルモ臨檢ハ同第八條ニ依リ日没ヨリ日出迄ノ間ハ之ヲ爲スコトヲ得サルモノナリ然ルニ該顛末書ニ依レハ第一回ハ午前十一時ニ始メ同日午後五時二十分ニ終リ第二回ハ午後五時三十分ニ始メ同日午後八時ニ終レリト記載アリテ而シテ層ニ依ルニ明治三十九年一月二十二日ノ日没ハ午後四時五十七分ナルニ付第一、二回共ニ日没後ニ至ル迄處分ヲ繼續シ顛末書ヲ作成シタルモノナルコト該調書自体ノ記載ニ依リテ明白ナレハ即チ法律ノ禁止スル所ニシテ無効ノ調書 (御院明治三十六年(レ)第三七號判決參照) ナルノ

ミナラス事實ニ於テハ是ヨリ一層甚シク同日稅務官ハ午前八時ニ上告人方ニ臨檢シ翌二十三日午前十二時三分ニ至ル迄晝夜引續キ臨檢訊問ヲ爲シタルモノナレハ間接國稅犯則者處分法第八條ノ規定ニ違背シ該顛末書ハ無効ナリ然ルニ原院カ之ヲ證據ニ採用シ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリト信スト云フニ在リ○依テ記錄ヲ調査スルニ原院カ稅務屬佐藤爲義外三名ノ明治三十九年一月二十二日作成シタル顛末書二通ノ中中村辰藏供述ノ部分ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルコトハ原判文ニ記載スル所ニシテ該顛末書ハ右稅務屬カ被告永井仙十方ニ臨檢ヲ爲シ併セテ同家雇人中村辰藏ヲ取調ヘタル結果ヲ記載セシモノナルコトハ其内容ニ徴シ明瞭ナリ然ルニ第一ノ顛末書ニハ「以上問答ハ同日午前十一時ニ始メ同日午後五時二十分ニ終ハレリ」トノ記載第二ノ顛末書ニハ「以上問答ハ同日午後五時三十分ニ始メ同日午後八時ニ終ハレリ」トノ記載アリテ臨檢處分ヲ其前ニ終リタルコトノ記載ナキノミナラス右問答ノ事項ハ臨檢ノ目的ニ關聯スルモノナレハ右臨檢處分モ問答ノ終了ト同時ニ終了セルモノ即チ午前ニ開始シタル臨檢處分ヲ日没後ニ至リテ終了セルモノト爲サルヲ得ス而シテ本件ノ現行犯ニ非サルコトハ告發書ニ徴シ明瞭ナリ然ルニ明治三十三年法律第六十七號間接國稅犯則者處分法第八條ハ日没後ニ於テハ現行犯ノ場合ヲ除クノ外收税官吏ニ臨檢搜索又ハ差押ヲ爲スコトヲ禁スルモノニシテ同條ノ禁令ハ臨檢搜索ヲ受クル者ノ異議ヲ申立テサル場合ト雖モ適用セラルヘキモノナルコトハ當院ノ判例 (明治三十六年三月十日判決) トシテ認ムル處ナレハ日没後ニ涉リタル右稅務屬ノ臨檢處分ハ當時被告人ノ異議ナカリシモノナリト雖モ不法ナルモノト云ハサルヘカラス而シテ臨檢ト被告人ノ訊問トハ通常ノ場合ニ於テハ區別アルモノナルヲ以テ



假令臨檢處分ハ不法ナリトスルモ日没後ニ於ケル被告人ノ訊問ヲ禁スルノ法文ナキヲ以テ本件ニ於ケル被告人ノ訊問ハ適法ナリト論スルヲ得ヘキモノ、如シト雖モ臨檢ノ場所ニ於テ被告人ヲ訊問スルハ臨檢ノ目的ヲ達スル手段ニシテ臨檢處分トハ離ルヘカラサル關係ヲ有スルモノニシテ且臨檢處分ハ主タル者被告人訊問ハ其從タル者ナレハ主タル手續ニシテ不法ナル以上ハ從タル手續モ亦不法ナリト云ハサルヘカラス而シテ如上ノ論定ハ臨檢調書ニ記載シタル被告人證人等ノ供述ニ關シ形式上ノ欠點アルカ爲メ此供述ニ關スル調書ノ部分ヲ不法ナラシムルモ檢證ニ關スル部分ヲ不法タラシムルコトナシトスル當院ノ判例ト抵觸スルモノニアラス何トナレハ前顯ノ論定ハ主タル者ノ不法ナルカ故ニ之ト離ルヘカラサル關係ヲ有スル從タル者ヲ不法タラシムルト云フニ在リテ右當院ノ判例ハ從タル者ノ不法ハ之ト分離シテ獨立スルヲ得ヘキ主タル者ノ不法ヲ來スコトナシト云フニ在レハナリ以上説明スルカ如ク本件顛末書ハ全部不法ナル以上ハ其一部タル中村辰藏ノ供述ニ關スル部分ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ亦不法ノモノニシテ破毀ヲ免レサルモノトス

○沖繩縣酒類出港稅則第一條ニ所謂燒酎トハ酒造稅法第一條ノ六ニ定メタル物品ヲ原料トシテ製造シタル燒酎ヲ指稱ス

被告兩名代理人井上好幾上告趣意書第四點ハ原院ニ於テハ沖繩縣下ニ於テ麴醪及水ヲ原料トシ製造シタル燒酎（泡盛）ヲ密輸出シタル者ト認定セラレタリ是レ泡盛ヲ以テ沖繩縣人ハ之ヲ燒酎ト稱スト云フ證人山崎胤義ノ證言ノミヲ偏信セラレタルモノ、如シ夫其燒酎ナルモノハ我國一般ノ定義ノ物アリテ決シテ一地方人ノ稱呼ニ準據ス可キ者ニ非ス又其名稱ハ裁判官ノ意見ヲ以テ之ヲ判定シ若ハ準據スヘキ者ニアラス宜シク法定ノ定義ニ從ハサルヘカラサル者ナリ於是酒造稅法ヲ按スルニ其第一條ノ六ノ一項ニ此稅法ニ於テ燒酎ト稱スルハ清酒粕ヲ蒸餾シタルモノヲ謂フ其二項ニ左ニ掲クル物品ヲ原料トシテ蒸餾シタルモノハ燒酎ト看做ス第四號ニ米麥粟黍稗若ハ甘藷ト麴及水トヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノトアリテ其燒酎ト看做スヘキモノハ皆麴ト水ノ外他ノ一物ヲ加ヘ三品ヲ以テ原料トシタル物ヲラサルヘカラス然ルニ沖繩縣下ニ於テ製造シタル泡盛ハ之ニ異ナリ原院認定ノ如ク麴ト水トヲ以テ原料トシ他ノ一物ヲ加ヘス（醪ハ醱酵ノ爲メニスル者ニシテ之ヲ除ク）醱造スル者ナレハ素ヨリ燒酎ニ非サルノミナラス又燒酎ト看做スヘキモノニ非サルナリ是此論理タル國太郎ノ代人井上好幾ノ詳說セシニ酒造稅法第三十八條ニ沖繩縣ニハ當分此稅法ヲ施行セスト規定シアルニ依リ其論旨ハ理由ナシト排斥セラレタリ嗚呼是何等ノ判示ソヤ其所謂稅法ヲ施行セストハ蓋シ稅法其者ノ名稱迄モ援用スヘカラサルノ法意ニ非サルヘシ



付スルニ至レルニ及ンテ行使ナル一箇ノ所爲ヲ完成シタルモノナレハ單ニ一箇ノ既遂罪ヲ構成スルニ過キヌシテ既遂罪ト未遂罪トノ二罪ヲ構成スルモノニアラス何トナレハ其所爲タルヤ單一ノ意思ニ基ケル繼續セル一箇ノ所爲ニシテ其侵害スル法益ノ單一ナルモノナレハナリ

(下略)

○刑事訴訟法第二百二十三條ニ所謂同居人トハ民事原告人又ハ被告人ノ家ニ住居シ其主宰ノ下ニ在ル者ニシテ親屬又ハ雇人ニ非サルモノヲ指稱ス (明治四十年二月五日)

辯護人高木益太郎上告辯明書ノ第二ハ原判決ハ證人坂本文次郎ノ豫審調書ヲ判斷ノ資料ニ供セラレタリ然レトモ同人ハ本件被告人椎名猪之助ト同居ノ關係アルコト同調書第六問ノ答ニ依リテモ明ナル所ニシテ即チ本件ニ付證人タルノ資格ヲ具有セサルモノナルニ豫審判事カ同人ニ宣誓ヲ爲サシメ訊問ヲ爲シタルハ違法ニシテ其供述ハ素ヨリ證言證據ノ効アルモノニ非ス原判決ハ其採證ニ違法アルモノナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第二百二十三條ニ所謂同居人トハ民事原告人又ハ被告人ノ家ニ住居シ其主宰ノ下ニ在ル者ニシテ親屬又ハ雇人ニ非サルモノヲ云フコトハ本院判例ノ夙ニ認ムル所タリ (明治三十四年(レ)第八五五號同三十五年(レ)第一七五四號) 而シテ訴訟記録ニ依レハ被告猪之助カ坂本文次郎方ニ同居スルモノニシテ坂本文次郎ニ於テ被告方ニ住居シ其主宰ノ下ニ在ルモノニ非サルヲ以テ坂本文次郎ハ前記法條ニ所謂被告人ノ同居人ト云フヘキモノニ非ス故ニ豫審判事カ同人ヲ證人トシテ訊問シタルハ違法ニ非サルヲ以テ原院カ其豫審調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ採證ノ法則ニ違背シタル不法アルモノニ非ス

○刑事訴訟法第二百二十三條ニ所謂同居人トハ民事原告人又ハ被告人ノ家ニ住居シ其主宰ノ下ニ在ル者ニシテ親屬又ハ雇人ニ非サルモノヲ指稱ス (明治四十年二月五日)

辯護人高木益太郎上告辯明書ノ第二ハ原判決ハ證人坂本文次郎ノ豫審調書ヲ判斷ノ資料ニ供セラレタリ然レトモ同人ハ本件被告人椎名猪之助ト同居ノ關係アルコト同調書第六問ノ答ニ依リテモ明ナル所ニシテ即チ本件ニ付證人タルノ資格ヲ具有セサルモノナルニ豫審判事カ同人ニ宣誓ヲ爲サシメ訊問ヲ爲シタルハ違法ニシテ其供述ハ素ヨリ證言證據ノ効アルモノニ非ス原判決ハ其採證ニ違法アルモノナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第二百二十三條ニ所謂同居人トハ民事原告人又ハ被告人ノ家ニ住居シ其主宰ノ下ニ在ル者ニシテ親屬又ハ雇人ニ非サルモノヲ云フコトハ本院判例ノ夙ニ認ムル所タリ (明治三十四年(レ)第八五五號同三十五年(レ)第一七五四號) 而シテ訴訟記録ニ依レハ被告猪之助カ坂本文次郎方ニ同居スルモノニシテ坂本文次郎ニ於テ被告方ニ住居シ其主宰ノ下ニ在ルモノニ非サルヲ以テ坂本文次郎ハ前記法條ニ所謂被告人ノ同居人ト云フヘキモノニ非ス故ニ豫審判事カ同人ヲ證人トシテ訊問シタルハ違法ニ非サルヲ以テ原院カ其豫審調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ採證ノ法則ニ違背シタル不法アルモノニ非ス



沖繩縣酒類出港税則ヲ見ルニ清酒濁酒白酒味淋焼酎ノ名稱アリテ其定義ニ於テ別ニ指示スルモノナケレハ一般普通ノ定義ヲ準用セサルヘカラス其總テノ酒類ハ皆之ヲ準用シテ獨リ其焼酎ノミハ準用スヘカラストシテ之ヲ排斥シ却テ之ヲ一地方幾部臣民ノ私稱ニ係ル名目ヲ裁判上ノ斷案トス其當ヲ得タル者ト爲スヘケンヤ是之ヲ思ハス泡盛ヲ以テ焼酎ト認認シテ科罰シタルハ擬律ノ錯誤アル違法ノ裁判ナリト謂フ可キナリト云フニ在リ○因テ按スルニ酒造税法第一條ニ掲ケタル酒類ノ定義ハ一般ノ通則タルモノニシテ各種ノ酒類ニ關スル法規ニ適用セラル、モノタルコト疑ヲ容レス果シテ然ラハ沖繩縣酒類出港税則第一條ノ焼酎トハ酒造税法第一條ノ六ニ定メタル物品ヲ原料トシテ製造シタル焼酎ヲ謂フモノタルコト論ヲ俟タス抑酒造税法第一條ノ六ノ第四項ニ依レハ焼酎ハ米麥粟黍稗等ト麴及水トヲ原料トシ製造スルコトヲ得ルモノトス而シテ原判決ノ認定ニ依レハ本案件焼酎ノ原料ハ麴ト膠及水トニシテ一見酒造税法ノ原料ト異ナルカ如キ觀アリト雖モ其實毫モ異ナル所ナシ夫ノ膠ハ元來麥等ト麴及水トヨリ成ルモノナレハ既ニ本案件ノ焼酎ノ原料ニ膠アル以上ハ其原料ニハ自カラ米若ハ麥等モアリ麴モアリ水モアリテ酒造税法ノ原料ト毫モ異ナルコトナシ而シテ膠ハ固ヨリ醱酵ノ効アリト雖モ酒酵母ノ如ク主トシテ醱酵ノ爲ノミニ用ウヘキモノニ非サルナリ故ニ本案件ノ焼酎ハ即チ酒造税法ニ定メタル原料ノ焼酎ト同一ノモノタルコト實ニ明白ナリ既ニ本案件ノ焼酎ニシテ酒造税法ノ焼酎ト同一ノモノタル以上ハ本案件ノ焼酎ハ即チ沖繩縣酒類出港税則第一條ニ所謂焼酎ニ該當スルモノタルコト亦論ヲ俟タス去レハ原院カ被告ノ所爲ヲ以テ沖繩縣酒類出港税則第六條ニ違反スルモノトナシ處分ヲ爲シタルハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

○單一ノ決意ニ基ク一箇ノ未遂及既遂ハ二罪ヲ構成スルモノニ非ス (明治三十九年十二月十日)

辯護人花井卓藏上告趣意擴張書ノ第一點ハ偽造貨幣ノ行使トハ他人ヲ欺キ真正ノ貨幣トシテ之カ交付ヲ受ケシムルコトヲ云フ從テ偽造貨幣ヲ行使セムト欲シ之ヲ他人ニ呈示スルモ偽造タルコトヲ覺知セラレ受領ヲ拒マル、トキハ行使ノ未遂ト云フコトヲ得ヘキモ行使トシテ處分スルコトヲ得ス原判決ハ「被告松藏ハ云々偽造ニ係ル日本銀行兌換十圓券一枚ヲ知情收受シ云々進藤一郎ニ交付シタル處偽造券タルコト同人ノ覺知スル所トナリ之カ返戻ヲ受ケタルヨリ犯意繼續シテ云々」ト判示シ被告カ偽造紙幣ヲ進藤一郎ニ提示シタルニ偽造券タルコト同人ノ覺知スル所トナリ受領ヲ拒絕セラレタル所爲ヲ以テ刑法第九十條第一項ニ問擬シタルハ擬律錯誤ノ不法アルモノト信スト云フニ在リ○依テ原判決ノ事實理由ヲ查閱スルニ被告松藏ハ行使ノ目的ヲ以テ明治三十九年八月二日氏名不詳者ヨリ偽造ニ係ル日本銀行兌換十圓券一枚ヲ知情收受シ翌三日居村ニ於テ賣掛代金ノ支拂トシテ進藤一郎ニ交付シタル所偽造券タルコト同人ノ覺知スル所トナリ之カ返戻ヲ受ケタルヨリ犯意繼續シテ更ニ同日被告居宅ニ於テ佐々木孫吉ニ對シ炭代金支拂ノ爲メ之ヲ交付シタルモノナリトアレハ原判決ノ趣旨ハ被告カ當初ハ進藤一郎ノミニ對シ偽造兌換券ヲ行使スルノ意思ナリシモ遂ケサリシヨリ新ニ佐々木孫吉ニ對シ行使ノ意思ヲ起シテ之ヲ行使シタルト云フニアラスシテ本件偽造兌換券ヲ行使セムトスル一箇ノ決意ニ基キ先ツ進藤一郎ニ對シテ其行使ヲ試ミ次テ佐々木孫吉ニ對シテ之ヲ交付シテ其行使ヲ遂ケタリトノ趣旨ナルコト自カラ明ナリ故ニ被告カ當初進藤一郎ニ對シテ本件偽造兌換券ヲ交付シタルハ一所爲中ノ第一ノ階段タルニ過キズ更ニ佐々木孫吉ニ交



付スルニ至レルニ及ンテ行使ナル一箇ノ所爲ヲ完成シタルモノナレハ單ニ一箇ノ既遂罪ヲ構成スルニ過キスシテ既遂罪ト未遂罪トノ二罪ヲ構成スルモノニアラス何トナレハ其所爲タルヤ單一ノ意思ニ基ケル繼續セル一箇ノ所爲ニシテ其侵害スル法益ノ單一ナルモノナレハナリ

(下略)

○刑事訴訟法第二百二十三條ニ所謂同居人トハ民事原告人又ハ被告人ノ家ニ住居シ其主宰ノ下ニ在ル者ニシテ親屬又ハ雇人ニ非サルモノヲ指稱ス (明治四十年二月五日)

辯護人高木益太郎上告辯明書ノ第二ハ原判決ハ證人坂本文次郎ノ豫審調書ヲ判斷ノ資料ニ供セラレタリ然レトモ同人ハ本件被告人推名猪之助ト同居ノ關係アルコト同調書第六問ノ答ニ依リテモ明ナル所ニシテ即チ本件ニ付證人タルノ資格ヲ具有セサルモノナルニ豫審判事力同人ニ宣誓ヲ爲サシメ訊問ヲ爲シタルハ違法ニシテ其供述ハ素ヨリ證言證據ノ効アルモノニ非ス原判決ハ其採證ニ違法アルモノナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第二百二十三條ニ所謂同居人トハ民事原告人又ハ被告人ノ家ニ住居シ其主宰ノ下ニ在ル者ニシテ親屬又ハ雇人ニ非サルモノヲ云フコトハ本院判例ノ夙ニ認ムル所タリ (明治三十四年(レ)第八五五號同三十五年(レ)第一七五四號) 而シテ訴訟記録ニ依レハ被告猪之助カ坂本文次郎方ニ同居スルモノニシテ坂本文次郎ニ於テ被告方ニ住居シ其主宰ノ下ニ在ルモノニ非サルヲ以テ坂本文次郎ハ前記法條ニ所謂被告人ノ同居人ト云フヘキモノニ非ス故ニ豫審判事力同人ヲ證人トシテ訊問シタルハ違法ニ非サルヲ以テ原院カ其豫審調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ採證ノ法則ニ違背シタル不法アルモノニ非ス



○間接國稅犯則者ニ對スル告發書ハ稅務署長ノ職務上作成スルモノニシテ其意見ヲ表示シタル文書ナレハ假令之カ記載事項ニ錯誤アルモ刑事訴訟法第三百一條第五號ニ該當セス

(明治四十年三月二十六日)

(參照) 再審ノ訴ハ左ノ場合ニ於テ重罪輕罪ノ刑ノ言渡ニ對シ被告人ノ利益ノ爲メ之ヲ爲スコトヲ得但判決確定ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス公正證書ヲ以テ訴訟記録ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ(舊刑事訴訟法第三百一條第五號)

檢事佐藤太眞伎再審趣意書ハ本件ハ明治三十八年七月一日宮城縣築館稅務署長稅務屬塚原庄三郎ノ告發ニ據リ同年七月四日當支部檢事ヨリ公訴ヲ提起シ同年同月二十五日當支部ニ於テ罰金百圓ニ處シ同年八月九日裁判確定シタルモノナリ然ルニ是ヨリ先キ明治三十八年五月二十九日右ト同一事件ニ付築館稅務署ニ於テ間接國稅犯則者處分法第十四條ニヨリ罰金ニ相當スル金百圓ノ通告ヲ爲シ同年六月五日履行シタルモノナルヲ以テ同一事件ニ付更ニ告發ヲ爲シタルハ錯誤ニ出テタルモノニ有之而シテ右告發カ錯誤ニ出テタルモノナル事ハ添付ノ公正證書ニヨリ明白ナリト思料スト云フニ在レトモ○所論告發書ノ如キハ稅務署長カ其職務上作成スルモノニシテ其意見ヲ表示シタルモノナレハ假令ヒ其記載事項ニ錯誤アリトスルモ之ヲ以テ刑事訴訟法第三百一條第五號ニ所謂記録ノ錯誤ト云フヲ得ス故ニ本論旨ハ理由ナシ

○間接國稅ニ關スル犯則者アルトキハ收稅官吏ハ證據ヲ集取スルノ職權ヲ有ス從テ其犯則物件ト思料スルモノニ付キ鑑定ヲ爲サシムルハ違法ニ非ス(明治四十年四月二日)

○間接國稅ニ關スル犯則者アルトキハ收稅官吏ハ證據ヲ集取スルノ職權ヲ有ス從テ其犯則物件ト思料スルモノニ付キ鑑定ヲ爲サシムルハ違法ニ非ス(明治四十年四月二日)

上告趣意書ハ原院ハ收稅官吏檜垣不可止外三名作成ニ係ル犯則事件調査顛末書ト題スル書面中ニ上告人供述ノ部分ト小林正藏ノ鑑定書ト題スル書面トニ依リ上告人カ無免許ニテ濁酒ヲ製造シタル犯罪アルコトヲ認メタレトモ間接國稅犯則者處分法第六條ニ依レハ間稅官吏臨檢ヲ爲スニ際シ犯則者及證人ノ陳述ヲ聽クコトヲ必要トスルトキハ之ヲ尋問スルコトヲ得トアリテ間稅官吏ハ犯則者及證人ヲ尋問スルコトヲ得ヘキモ鑑定人ヲシテ犯則物件ニ付鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得ルモノニ非ス然ルニ今該鑑定書ハ丸龜稅務監督局稅務監督局技手小林正藏ニ於テ觀音寺稅務署カ上告人ニ對スル酒造稅法違犯嫌疑ノ爲メ提出シタル犯則物件タル濁酒ニ付作成シタル鑑定書ナルコトハ其自體ニ徴シ明確ナルヲ以テ法律上無効ノモノナルニ原院カ之ヲ採リテ斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法ノ判決タルヲ免レスト云フニ在リ○依テ按スルニ間接國稅犯則者處分法第三條ニハ收稅官吏ニ於テ犯則物件ニ付自ラ鑑定ヲ爲シ又ハ他人ヲシテ之ヲ爲サシメ得ル旨ノ規定ナシト雖モ收稅官吏カ間接國稅ニ關スル犯則者アルコトヲ認知シタルトキハ證據ヲ集取スルノ職權ヲ有スルモノナルコトハ同法第一條第二條第十一條等ノ規定ニ徴シ明ナリ而シテ犯則物件ナリト思料スルモノニ付鑑定ヲ爲サシムルハ證據集取ノ方法ニ外ナラサレハ本件ノ取調ヲ爲スニ付職權ヲ有セシ觀音寺稅務署長カ丸龜稅務監督局技手小林正藏ニ本件犯則事件ノ鑑定ヲ爲サシメタルハ違法ニアラス從テ原院カ同鑑定書ヲ本件斷罪ノ證據ニ供シタルモ亦不法ニアラス



○酒造稅法第一條ニ依レハ燒酎ノ原料ニハ米麥其他ノ穀菜ト麴及水ヲ包含スルコトヲ必要トシ荷モ其一ヲ欠クトキハ同法ニ所謂燒酎ノ分類ニ屬セサルモノトス

○酒造稅法第一條ノ六第四項後段ニ「酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ」トアルハ其前段「米麥粟黍稗若ハ甘藷ト麴及水トヲ原料トシ」トアル文詞ヲ承ケ此等ノ原料ニ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシムルノ意ニ解釋スヘキモノニシテ前段ノ文詞ト關係ナキ獨立ノ項目ヲ爲スモノニ非ス

○酒造稅法ニ所謂麴トハ種麴ヲ指稱セルモノトス從テ米其他ノ穀菜ニ種麴ヲ加ヘ麴ヲ製作シ水ヲ加ヘテ醱ト爲シタル上之ヲ蒸餾セルモノハ同法ノ燒酎ニ該當ス (明治四十年四月十一日) 辯護人林榮三上告趣意第一點ハ(前略) 原院ハ被告代人ノ供述及其提出セル證據ニヨリ本件ノ泡盛ナル酒類ハ麴及水ヲ原料トシ之ニ醱ヲ加ヘテ製造シタルモノナルコト其醱モ亦麴及水ヨリ成レルモノニシテ要スルニ本件ノ酒類ハ麴ト水ノ二品ヲ以テ製造シタルニ過キサルコトヲ認定セルモノナルヤ明白ナリ然ルニ原審ハ沖繩縣酒類出港稅則第一條ニ所謂燒酎トハ酒造稅法第一條ニ規定セル定義ニ從ヒ解釋スヘキモノト爲セルニ係ラス其定義ニハ米麥粟黍稗若ハ甘藷ト麴及水トヲ原料トシテ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノヲ蒸餾シタルヲ燒酎ト看做ストアルヲ解釋シテ米麥等ト麴及水トノ三品ヲ原料トシ醱酵セシメタル場合ノ外其原料ノ何品タルヲ問ハス酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタル場合モ亦燒酎ト看做スヘキモノナリト爲シ而シテ被告人カ原審ニ提出セル鹿兒島稅務監督局長ノ報告書寫ニ酒母代用ノ爲メ醱ヲ加フル旨ノ記載ニ因リ本件ノ泡盛ハ麴及水ノ二品ヲ原料トセルニ係ハラヌ酒酵母

ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ蒸餾シタルモノナルニ依リ燒酎ト看做スヘキモノナリト斷シ本案被告ノ所爲ニ對シ沖繩縣酒類出港稅則ヲ適用シ處罰セリ然レトモ酒造稅法第一條ノ六第四項ニ「米麥粟黍稗若ハ甘藷ト麴及水ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ」トハ米麥等ト麴及水ヲ原料トシ醱酵セシメタルモノカ又ハ其原料ニ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノヲ云フヤ法文及事理ニ徴シ明ナルノミナラス(中略) 左レハ原審ノ判決ハ前述ノ如ク本案件ノ酒類ハ麴及水ニ醱ヲ加ヘテ製造シタル其醱モ亦麴及水ノ二品ノ混和セルニ過キサルノ事實ヲ認定シ乍ラ猶燒酎ト稱スヘキモノナリトシテ處斷シタルハ酒造稅法ニ下セル酒類ノ定義ニ反シ貴院判例ニ背クモノニシテ破毀ヲ免レサル失當ノ判決ナリト思考スト云フニ在リ○依テ按スルニ酒造稅法第一條ノ六第四項ニ「米麥粟黍稗若ハ甘藷ト麴及水ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ」トアリテ燒酎ノ原料中ニハ前掲米麥其他ノ穀菜ト麴及水ヲ包含スルコトヲ要シ荷モ其一ヲ欠クトキハ酒造稅法ニ所謂燒酎ノ分類中ニ入ラサルコト該條項ノ文理上甚明白ニシテ荷モ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノナル以上ハ其原料ノ何タルニ關セス總テ燒酎ト看做サルヘカラストノ原院ノ解釋ハ其當ヲ得タルモノト謂フコトヲ得ス何トナレハ酒造稅法第一條ノ六第四項後段ノ「酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ」トアルハ全ク其前段「米麥粟黍稗若ハ甘藷ト麴及水ヲ原料トシ」トアル文詞ヲ受ケテ是等原料ニ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシムルノ意ニ解スヘク前段ノ文詞ト關係ナキ獨立ノ項目ヲ爲スモノニアラサルハ其文理ニ徴シテ明ナルヲ以テナリ故ニ此點ニ關スル上告論旨ハ理由アリ然レトモ酒造稅法ニ所謂「麴」トハ種麴ヲ意味シ燒酎ノ製造ハ米其他ノ穀菜



二種麴ヲ加ヘテ先ツ麴ヲ製造シ之ニ水ヲ加ヘテ醗トナシタル上之ヲ蒸餾スルニ因リテ完成スルモノナレハ原院カ其證據説明ノ部分ニ於テ證據ニ依リテ認メタル如ク被告カ製造シタル泡盛ノ原料カ麴及水ナル以上ハ其泡盛ノ燒酎ニ該當スルコトハ判文上自ラ明白ナリトス何トナレハ原判文ニ所謂麴ハ種麴ニアラスシテ泡盛製造ノ第一段階トシテ其基礎ヲ爲ス所ノ麴ノ意ナルコトハ判文ノ趣旨ニ徴シテ明ニシテ其麴ハ即チ米其他ノ穀菜ニ種麴ヲ加ヘテ製作セラレタルモノニ係リ其中ニハ酒造税法カ燒酎ノ原料トシテ要求セル米其他ノ穀菜ト麴トヲ包含スルコトハ言フ俟タサルヲ以テナリ故ニ原院カ本件被告ノ製造シタル泡盛ヲ燒酎ナリト認定シタルノ理由ニハ多少不適當ノ點アルモ其認定ハ結局相當ナルヲ以テ上告論旨ハ其理由ナシ

○酒精及酒精含有飲料税法ノ所謂酒精ニハ純酒精ハ勿論其他總テ酒精ノ性質ヲ有スルモノヲ包含ス故ニ假令酒精ニ他物ヲ含有スルモ其性質ヲ變セサル以上ハ之ヲ酒精ト云ハサルヲ得ス（明治四十年六月十一日）

大阪控訴院檢察長代理檢察事郷津友彌上告趣意書ハ本件控訴事實ハ被告ハ政府ノ免許ヲ受ケスシテ擅ニ原容量百分中純酒精八十五箇ヲ含有スル不純酒精三石五斗一升ヲ密造シタリト云フニ在リ而シテ原院ハ以上ノ事實ヲ認ムルモ「其製造物ハ惡臭アリテ且有害ナル木精ヲ含有シ其木精ハ分雖シ難キモノナレハ飲料ニ供シ難ク從テ酒精含有飲料ノ材料ニ適セス」トノ西脇安吉ノ鑑定書ニ基キ直ニ酒精ト認ムルヲ得ス又酒精含有飲料ナリト認ムルヲ得ストシテ被告ノ所爲ヲ罪トナラサルモノト判定セリ然レトモ其含有スル木精ハ實ニ極微量ニシテ又其他ノ雜物ヲ混有スルモ微量ナレハ普通ノ意義ニ於テ酒精ナリト云ハサルヲ得ス且ノ普通坊間ニ販賣セラレ法律上酒精ト認メラル、モノト雖モ純粹ニシテ一切他物ヲ含有セサルモノハ殆ト稀ナルヘシ故ニ本件ノ製造物モ亦法律上酒精ナリト認定シテ其取締規則ヲ適用セサルヘカラサルハ論ヲ俟タスト信スルナリ又純酒精ハ其性芳烈ニシテ他物ヲ混和シ稀薄ナラシムルニアラサレハ到底飲用ニ供スヘカラサルモノニシテ且酒精ハ飲用ヲ唯一ノ目的トシテ製造サル、モノニ非ス從テ飲用ニ供スヘキト否トヲ論セス酒精ハ酒精トシテ本法ノ適用ヲ受ケサルヘカラス其醫藥用工業用ニ使用サル、モノハ醫藥用工業用酒精戻税法ノ規定ニヨリ税金ヲ返戻サル、特典アリト雖モ其製造ニ付テハ本法ノ適用ヲ免ル、ヲ得ス果シテ然ラハ本件ノ酒精ハ工業用ノ目的ヲ以テ製造サレタルモノニシテ到底飲用ニ供ス可カラストスルモ尙ホ本法ノ規定



ニ基キ免許ヲ得テ製造シタル後戻稅法ニ依リ税金返戻ヲ求ムヘキモノタルヤ勿論ナリト云ハサルヲ得ス又本件酒精ハ惡臭有害ナル水精ヲ含有スルモ其木精ハ極微量ナレハ之ヲ多量ノ芳香飲料中ニ混和スルトキハ充分飲料ニ供スヘキハ常識ヲ以テ容易ニ判斷シ得ヘキ所ニシテ若シ之ヲ不問ニ付ス可キモノトシ無免許ニテ製造シ得ヘキモノトセハ本法制定ノ精神ヲ貫徹シテ徵稅ノ目的ヲ達スルコトヲ得サルハ明白ナリトス以上ノ理由ニ依リ原判決ヲ取消シ更ニ酒精及酒精含有飲料稅法ヲ適用シ相當ノ判決有之度シト云フニ在リ○因テ按スルニ酒精及酒精含有飲料稅法ニ所謂酒精ニハ純酒精ハ勿論純酒精ニハアラサルモ酒精ノ性質ヲ有スルモノヲ廣ク包含スルモノナレハ假令酒精ニ他物ヲ含有スルモ酒精ノ性質ヲ變セサル以上ハ之ヲ酒精ト云ハサルヲ得ス原判決ニ就キ本件酒精ノ分析成績ヲ見ルニ每百立方「センチメートル」中ニ含有スル主成分ノ互量ハ大約比重（攝氏十五度半ニ於テ）○、八六一三酒精容量八○、六四二九其重量七四、五四五五木精存在溶解固形分（樹脂質物）○、○一〇四同灰分（鐵檢出ス）○、○一〇一四不溶解固形分○、○一七八同灰分（主成分鐵鹽類）○、○一〇〇ニシテ其含有スル他物ハ極微量ナレハ之カ爲メ本件酒精ノ性質ニ何等ノ變更ヲ來スヘキモノニ非ス然ルニ原院カ西脇安吉ノ鑑定書ノ記載ヲ援用シテ本件酒精ニ含有セル他物カ前示ノ如ク極微量ナル事實即チ酒精ノ變性セサル事實ヲ認メタルニ拘ハラス之ヲ酒精ニアラスト判斷シ本件被告ノ所爲ヲ罪トナラサルモノトシ無罪ヲ言渡シタルハ即チ擬律錯誤ノ判決ニシテ上告ハ其理由アルモノトス

○酒造稅法違犯事件ノ被告カ未成年者ナルモ親權者ノ許可ヲ受ケ獨立シテ酒造業ヲ營ム以上ハ其營業ニ付キ成年者ト同一ノ能力ヲ有シ犯則事件ノ通告ノ如キモ自ラ之ヲ受ケテ相當ノ處置ヲ爲シ得ルモノトス從テ該通告ハ被告本人ニ送達スヘキモノニシテ親權者ニ之ヲ送達スルモ其効ナキハ當然ナリ

○如上ノ場合ニ於テ親權者カ被告タル未成年ノ子ニ代リテ酒造業ヲ營ミ居ルトキハ犯則事件ノ通告ノ如キモ親權者之ヲ受ケテ相當ノ處置ヲ爲スコトヲ得故ニ該通告書ハ之ヲ親權者ニ送達スヘキモノトス（明治四十年七月二日）

宮城控訴院檢察長奧宮正治上告趣意書ハ原院ハ其判決理由ニ於テ高島稅務署長稅務屬宮田耕藏カ被告英一ニ對スル酒造稅法違犯ノ事實ヲ調査シ山形地方裁判所檢事局ニ告發ノ手續ヲ爲ス以前ニ明治三十三年法律第六十七號間接國稅犯則者處分法第十四條ノ規定ニ基キ通告書ヲ送達シ居レトモ其通告書ノ宛名ハ酒類製造主增淵英一親權者增淵よき殿ト記載シアリテ被告英一ヲ指名シアラサルヲ以テ該通告書ハ單ニ增淵よきニ對シ被告英一ノ爲メニ通告書所掲ノ金額ヲ納付スヘキ旨ヲ通告シタルニ止マリ犯則者タル被告英一ニ對シテハ其通告ヲ爲シタルモノト認メ難シ尤モ增淵よきカ被告英一ノ親權者タル事ハ通告書ノ表示スル所ナレトモ親權者ノ代表權ハ主トシテ私法上財產ニ關スル範圍ニ於テ認メラル、モノニシテ行政處分タル通告ニ關シテハ其代表權ヲ認メタル法規ナキヲ以テ親權者よきニ對スル通告ハ未成年者タル被告英一ニ對シ其効力ヲ生シタルモノト云フヲ得スト說明シ結局被告英一ニ對シテハ通告ノ手續ヲ爲サスシテ告發ヲ爲シタルカ故ニ本件ノ公訴ハ受理スヘキモノニ非スト判示セリ然ル



ニ本件ノ通告書謄本ヲ閱讀スルニ通告書ノ宛名ハ原院判示ノ如ク増淵よき殿ト指名シアレトモ其前項ニハ特ニ山形縣東置賜郡高島町大字高島八百二十七番地酒類製造主増淵英一ト明記アリテ本件通告ヲ受ヘキ犯則者ノ酒類製造主増淵英一ナル事ハ殆ト一見明瞭スル所ナリトス故ニ單獨ニ増淵よきニ代納ノ通告ヲ爲シタルモノニ非スシテ高島稅務署長ハ書類送達ノ慣例ニ遵據シ被告英一ハ未成年ノ營業者ナルヲ以テ同居ノ母ニシテ其親權者タル増淵よきヲハ法律上代理人ト認メテ同人ニ宛テ通告書ヲ送達シタルモノナルコトヲ推知スルニ難カラサルナリ(中略)現ニ民事訴訟法第三百三十八條ニハ訴訟能力ヲ有セサル者ニ對スル書類ノ送達ハ其法律上代理人ニ爲スヘキコトヲ規定シ刑事訴訟法第十九條ニモ書類ノ送達ニ關シテハ特別ノ規定ナキ限リハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用スル事トナセリ本件ノ場合ニ於テ高島稅務署長カ通告書ヲ送達スル手續ハ固ヨリ純然タル行政處分ニシテ訴訟行爲ニ非サルコトハ論ナシト雖モ間接國稅犯則者處分法及同法施行規則等ニハ未成年ノ營業者ニ犯則行爲ノ通告書ヲ送達スル手續ニ付何等格別ノ規定ナキヲ以テ高島稅務署長ハ送達ニ關シテハ一般ニ適用セラル、所ノ民事訴訟法並ニ刑事訴訟法ノ規定ニ準據シタルモノニシテ寧ロ相當ノ手續ヲ盡シタルモノト云ハサルヲ得ス又通告書送達ノ趣旨ヨリ之ヲ考覈スルモ通告書ノ送達ハ犯則者ニ犯則ノ事實ヲ知ラシメ煩累ナル裁判上ノ手續ヲ待タスシテ相當罰金額ヲ納付セシムトスルニ在ルコトハ勿論ナレハ犯則者ニ犯則ノ事實並ニ違犯シタル法律ノ適條等ヲ知悉セシムルヲ以テ通告書送達ノ主眼トナサ、ルヘカラス故ニ知慮淺薄ニシテ事理ニ暗キ未成年者(時ニハ全クノ幼者アリ)ニ通告書ヲ送達セムヨリハ却テ未成年者ノ保護者タルヘキ法定代理人ニ之ヲ送達スル

ヲ以テ通告書送達ノ趣旨ニ適合シタルモノト論セサルヲ得サルナリ原院ハ尙其理由ニ於テ本件ノ被告英一ノ如キハ年齢二十歳ニ達シ充分意思能力ヲ有スルモノト認メ得ルヲ以テ通告ハ犯則者タル被告ニ對シ之ヲ爲サ、ルヘカラサルモノニシテ之ニ反シタル本件ノ通告ハ同人ニ對スル通告トシテ認ムヘカラサルモノトスト説明セリ然レトモ元來本件ノ犯罪ハ所謂營業犯ニシテ犯罪ノ構成ニ關シテ毫モ年齢ノ制限ヲ受クヘキモノニ非ス隨テ同罪質ノ未成年犯則者中ニ於テモ年齢ニ就テハ種々ノ差異アルカ故ニ各事件ニ付キ通告書宛名ノ當否ヲ判定セムトスルカ如キハ蓋シ其當ヲ得タルモノニ非サルヘシ間接國稅犯則者處分法ニ關シ書類ノ送達方ヲ規定シタル法規ノ第二條ニ使丁ハ送達書類ヲ本人ニ渡スヘシ本人不在ナルトキハ同居人ニ渡スヘシトアリ然ルニ其本人トアルハ即チ通告書ノ宛名人ヲ指稱シタルモノニシテ必スシモ犯則者本人ヲ指定シタルモノニ非サルコトハ使丁ニ於テ内容ノ事實ヲ知り居ルヘキ道理ナキニ照シテ明ナリトス况ンヤ事理ヲ解セサル幼者ニ通告書ヲ送達セムトスルモ到底不可能ノ事ニシテ是等ノ規定ハ如何ナル場合ニ於テモ犯則ノ通告ハ犯則者本人ニ對シテ通告書ヲ送達スルニ非サレハ其効ヲ生スルモノニ非ストノ斷定ヲ下スヘキ論據トナルヘキモノニ非ス要スルニ本件ハ通告書ノ形式ニ於テ犯則者ノ被告増淵英一タル事ヲ指定シ其親權者ニシテ同居ノ母タル増淵よきニ於テ通告書ノ送達ヲ受ケ被告英一ノ代理人ハ告發後第一審裁判所及原院ノ法廷ニ於テ審理ヲ受クルニ當リテ毫モ通告ノ事實ヲ知ラザリシトノ辯解ヲ爲シタル事ナクシテ直チニ本案ノ抗辯ヲ爲シ居ルカ故ニ通告ノ事實ヲ知リタル點ニ就テハ少シモ疑ヲ容ルヘキ事件ニ非ス然ルニ原院ハ此ノ如キ通告書ノ形式ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法其他同法施行



規則等ニ於テ絶對ノ無効ヲ規定シタル法文ナキニ拘ハラズ容易ニ公訴不受理ヲ言渡シタルハ  
 法則ヲ不當ニ適用シタル違法ノ判決ナリト思料スト云フニアリ○依テ按スルニ本件被告英一  
 カ親權者ノ許可ヲ受ケ獨立シテ酒造業ヲ營ムモノナルニ於テハ民法上其營業ニ關シ成年者ト  
 同一ノ能力ヲ有シ一切ノ事項ヲ自ラ處理スルコトヲ得ルハ勿論ニシテ所謂犯則事件ノ通告ノ  
 如キモ亦自ラ之ヲ受ケテ相當ノ處置ヲ爲スコトヲ得ルハ條理上自ラ明ナリ隨テ右通告書ハ本  
 人英一ニ送達スヘク營業ニ關シ代理權ヲ有セサル親權者ニ之ヲ送達スルモ其効ナキハ疑ヲ容  
 レサルヘシ然レトモ若シ之ニ反シテ被告英一ハ自ラ獨立シテ酒造業ヲ營ムモノニ非ス親權者  
 タルよきカ英一ニ代リテ英一ノ爲メ其業ヲ營ムモノナリトセハよきニ於テ右通告ヲ受ケ之ニ  
 對スル相當ノ處置ヲ爲スコトヲ得ルハ親權ノ効力ヨリ生スル當然ノ結果ナリト謂ハサルヘカ  
 ラス故ニ此場合ニ於テハ通告書ハ之ヲ親權者よきニ送達スルヲ相當トス然ラハ即チ本件稅務  
 署長ノ爲シタル通告ノ有効ナルヤ否ヤハ被告英一カ獨立シテ酒造業ヲ營ムモノナルヤ否ヤノ  
 事實ニ依リテ之ヲ決セサルヘカラサルニ原判決ハ親權者ニ對スル通告ヲ絶對ニ無効ナリトシ  
 右必要ノ事實ニ付判斷ヲ下サスシテ輒ク公訴不受理ノ言渡ヲ爲シタルハ理由不備ノ不法アル  
 モノニシテ破毀ヲ免レス上告論旨ハ結局其理由アルモノトス

○酒類製造人カ清酒ニ蕃椒丁幾及ヒ甘硝石精ヲ含有スル辛味附ヲ混和スルニ於テハ一種ノ酒  
 精含有飲料物ヲ製造シタルモノトス (明治四十年七月二日)

上告趣意書ノ第二ハ上告人ハ酒精含有飲料ヲ製造スルノ意ニ非ス甘口ノ酒ニ辛味ヲ加ヘ矢  
 張り清酒トシテ販賣シタルモノナリ元來酒精及酒精含有飲料稅法ハ脫稅ノ所爲ヲ罰スヘキ法  
 律ニシテ毫モ逋稅ノ目的及事實ナキ行爲ヲ罰スルモノニ非ス上告人ハ清酒釀造ノ免許者ニシ  
 テ酒造稅法第一條ノ二第三項ニ百分ノ一迄酒精ヲ清酒ニ混入スルコトヲ許シ又同稅法施行規  
 則第十條ニハ混成酒ノ製造ヲ許セリ故ニ上告人カ清酒ニ或藥品ヲ混シ之ヲ清酒トシテ販賣シ  
 タルハ同稅法ニ所謂酒精含有飲料ヲ製造シタルモノニ非レハ原院カ稅法違犯トセラレシハ法  
 律ヲ不當ニ適用シタル不法アリト信スト云フニ在レトモ○酒造稅法第一條ノ二第二項第三號  
 ニ依レハ免許ヲ受ケタル酒類製造人ハ清酒ニ百分ノ一迄酒精ヲ混和シ得ルヲ以テ若シ被告人  
 ニシテ單ニ清酒ニ石ニ酒精ニ合ラ混和シタルモノナリトセハ酒精含有飲料物ヲ密造シタルニ  
 アラサルコトハ論旨ノ如シ然レトモ原判決ニ認メタル事實ニ依レハ被告人ハ酒精以外ニ蕃椒  
 丁幾及甘硝石精ヲ含有スル辛味附ヲ清酒ニ混和シタルモノナレハ酒類ノ範圍ヲ逸出シテ一種  
 ノ酒精含有飲料物ヲ製造シタルモノト云ハサルヲ得ス又酒造稅法施行規則第十條ニ依レハ酒  
 類製造人ハ酒精ヲ以テ酒類ヲ製造シ得ヘシト雖モ同條ハ酒類製造人ニ混成酒ノ製造ヲ許シタ  
 ルモノニ非ス而シテ清酒ニ石ニ辛味附ニ合ト水ニ斗ヲ加ヘ二石ニ斗ニ合ノ飲料トナシタル以  
 上ハ逋稅ノ意思及事實ナシト云フコトヲ得ス故ニ原院カ被告人ノ所爲ヲ以テ酒精含有飲料物  
 ヲ密造シタルモノト認メ同稅法ヲ適用シタルハ相當ニシテ論旨ハ理由ナシ



○現行間接國稅犯則者處分法施行規則ニ於テ犯則事件ノ通告期間ヲ翌日ヨリ起算スヘキ旨ノ規定ヲ設ケサルハ即チ之ヲ設ケタル舊施行細則ヲ改廢シ以テ即日ヨリ起算スルノ趣旨ニ出ツルモノトス

○酒造稅法第八條第三項ハ犯則ニ係ル酒類造石數ヲ認定スル證據方法ヲ制限シタルモノニ非スシテ當局者カ其造石數ノ査定ヲ爲スニ當リテハ必スシモ同條第二項ノ方法ニ依ルコトヲ要セス現在ノ酒類又ハ其現在セサルトキハ諸般ノ證據物件ニ就テ之ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ規定シタルモノトス (明治四十年七月五日)

上告趣意書ハ原院ニ於テ被告ヲ罰金八千五百六十六圓四十五錢ニ處スルノ判決ヲ爲シタルハ不當ナリトス抑モ本件ハ犯則ノ成立スヘキ理由ナキモノナリ何トナレハ犯則ノ原因トセルハ奈良稅務署長稅務官安田駒雄カ間接國稅犯則者處分法第十四條ニヨル通告書ニ基キ之カ告發セル結果ニ外ナラス然ルニ該通告書タルヤ明治三十九年六月七日附ニテ被告カ請取リタルハ同年六月八日トス而シテ奈良稅務署長カ本件ヲ告發セルハ三十九年六月十五日タリ故ニ通告ヲ受ケタル六月八日ノ翌日タル六月九日ヨリ起算スレハ其通告期間タル七日ハ即チ六月十六日ニ至ラサレハ滿了セサルモノトス果シテ然ラハ奈良稅務署長ハ右通告ノ期間ノ滿了七日ヲ俟タス則チ同年六月十五日ニ告發セルハ前記ノ間接國稅犯則者處分法第十七條ノ法則ニ違背シタル告發タリトス此違法ノ告發ニ原因セル本件ノ第一審以來第二審ニ於ケル審理判決共亦違法ヲ免レス斯ク其基本タル告發カ違法ニ出テタル以上ハ亦被告ニ對スル本件ハ總テ無効ニ歸着ス依テ此等ノ根本的不法ヲ以テ犯則ヲ構成セシムル原院判決ハ全ク其効力ヲ有セサル

モノナリ之ヲ以テ見ルモ原判決ハ破毀ヲ免レサル所以ナリト云フニ在レトモ○舊間接國稅犯則者處分法施行細則即チ明治二十三年大藏省令第三十一號第十七條ハ所論通告期間ヲ犯則者カ通告書ヲ受取リタル翌日ヨリ起算スヘキ旨ヲ明定セルモ現行間接國稅犯則者處分法施行規則ニ於テハ右期間起算點ニ關スル規定ヲ全然削除セリ今之ヲ他ノ法令ニ比照スルニ民法第四百四十條民事訴訟法第六十五條刑事訴訟法第十五條土地收用ニ關スル明治三十三年勅令第四百號第三條等ノ如キ日ヲ以テスル期間ニ初日ヲ算入スヘカラストスルトキハ必ス其旨ノ明文ヲ設ケルヲ例トスルノミナラス尙保管金規則第一條中「其義務ヲ解除シタル翌日ヨリ起算ス」保管ノ翌日ヨリ起算ス」裁判確定ノ翌日ヨリ起算ス」貨幣法第十六條中「通用禁止ノ翌日ヨリ起算シ」明治二十三年法律第十三號中「廢止ノ翌日ヨリ起算シ」明治二十九年法律第八號第二條中「前條期日ノ翌日ヨリ起算シ」等ノ用語ニ參照スレハ間接國稅犯則者處分法第十七條ニ犯則者通告ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ履行セサルトキハ「云々トアリ而シテ現行間接國稅犯則者處分法施行規則中右期間ヲ翌日ヨリ起算スル旨ノ規定ヲ設ケサルハ即チ之ヲ設ケタリシ舊同施行細則ヲ改廢シ以テ即日ヨリ起算スルノ趣旨ト爲シタルコト自ラ明ナリ而シテ被告カ大和國丹波市郵便局ヨリ明治三十九年六月八日口便ヲ以テ通告書ノ配達ヲ受ケタル事實ハ通告書謄本ニ添附セル郵便物配達證明書ニ依リ明ニシテ本件告發ハ通告期間ノ經過後ニ係ルコト亦隨テ明白ナルヲ以テ本論旨ハ其理由ナシ」第三點ハ酒造稅法第八條ニ依レハ酒類ノ造石數ハ製成ノ時之ヲ査定シ其査定ハ容器ノ容量ニ依ルモノナルモ犯則等ノ場合ニ於テハ現在ノ酒類又ハ證據物件ニ就キ之ヲ査定スルノ規定アリ然ルニ今本件第一審公判始末書



ヲ閱スルニ同審ニ於テハ其職權ニ基キ明治三十九年三月五日入江組運送店ニ於テ稅務官吏ノ爲メ差押ヘラレタル清酒三十樽ノ容量ヲ鑑定セシムルコトノ決定ヲ言渡シ稅務屬林龜太郎ヲシテ其鑑定ヲ爲サシメ押收ノ空樽ニ就キ十一石四斗四升六合ナル滿量石數ノ積算ヲ得之ヲ本件犯則石數ノ一部ト認定シ原判決ニ於テモ其鑑定書ニ記載セル同上積算石數ヲ斷罪ノ資料ニ供シタリ然レトモ犯則石數ノ量定ハ必ス同條第三項ニ規定セル如ク現實ノ酒類又ハ證據ニ依ルヘク同條第一、二項ニ規定セルカ如キ積算ノ方法ニ依ルヘカラサルコト明ナレハ原判決ハ則チ法律上許スヘカラサル手續ニ依テ成リタル違法アルモノト信スト云フニ在レトモ○酒造稅法第八條第三項ハ犯則ニ係ル酒類造石數ヲ認定スル證據方法ヲ制限シタルモノニ非スシテ當局者カ其造石數ノ査定ヲ爲スニ當リテハ必スシモ同條第二項ノ方法ニ依ルヲ要セス現在ノ酒類又ハ其現在セサルトキハ諸般ノ證據物件ニ就キ爲スコトヲ得ヘキ旨ヲ規定シタルニ過キサレハ事實裁判所カ犯則造石數ヲ認定スルニ付テハ固ヨリ他ノ犯罪ニ於ケルト同シク總テノ證據ニ依ルコトヲ得ヘク原院カ所論鑑定書ヲ本件犯罪ノ證據ニ供シタルハ毫モ不法ニ非ス

同審ニ於テハ其職權ニ基キ明治三十九年三月五日入江組運送店ニ於テ稅務官吏ノ爲メ差押ヘラレタル清酒三十樽ノ容量ヲ鑑定セシムルコトノ決定ヲ言渡シ稅務屬林龜太郎ヲシテ其鑑定ヲ爲サシメ押收ノ空樽ニ就キ十一石四斗四升六合ナル滿量石數ノ積算ヲ得之ヲ本件犯則石數ノ一部ト認定シ原判決ニ於テモ其鑑定書ニ記載セル同上積算石數ヲ斷罪ノ資料ニ供シタリ然レトモ犯則石數ノ量定ハ必ス同條第三項ニ規定セル如ク現實ノ酒類又ハ證據ニ依ルヘク同條第一、二項ニ規定セルカ如キ積算ノ方法ニ依ルヘカラサルコト明ナレハ原判決ハ則チ法律上許スヘカラサル手續ニ依テ成リタル違法アルモノト信スト云フニ在レトモ○酒造稅法第八條第三項ハ犯則ニ係ル酒類造石數ヲ認定スル證據方法ヲ制限シタルモノニ非スシテ當局者カ其造石數ノ査定ヲ爲スニ當リテハ必スシモ同條第二項ノ方法ニ依ルヲ要セス現在ノ酒類又ハ其現在セサルトキハ諸般ノ證據物件ニ就キ爲スコトヲ得ヘキ旨ヲ規定シタルニ過キサレハ事實裁判所カ犯則造石數ヲ認定スルニ付テハ固ヨリ他ノ犯罪ニ於ケルト同シク總テノ證據ニ依ルコトヲ得ヘク原院カ所論鑑定書ヲ本件犯罪ノ證據ニ供シタルハ毫モ不法ニ非ス

○砂糖消費稅法第六條ハ一般的规定ヲ以テ消費稅納付前又ハ擔保提供前ニ製造場稅關又ハ保稅倉庫ヨリ砂糖ヲ引取ルコトヲ禁シ其直接ナルト否トヲ區別セス從テ消費稅納付前又ハ擔保提供前ニ製造場稅關又ハ保稅倉庫ヨリ移出セラレタル砂糖ヲ引取リタル者ハ同法第十二條ノ制裁ヲ免レサルモノトス(明治四十年八月六日)

上告趣意書ハ第一點原院ニ於テハ被告タル拙者カ所爲ハ砂糖消費稅法第六條ノ違犯ニシテ第十二條ニ該當スルモノトシ處罰セラレタリ然ルニ其第六條ハ明文ノ如ク消費稅納付前又ハ擔保提供前ニ製造場稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ルコトヲ禁シタルモノニシテ之ヲ犯スモノハ其第十二條ニ依テ罰セラル、モノナリ原院カ認定セラレタル事實ノ如クスレハ拙者ノ所爲ハ之ニ異ナリ原院ニ於テ認メラレタル如ク自己ノ住所ニ於テ買入レ大阪ニ輸送賣却シタルモノニシテ所謂製造場稅關又ハ保稅倉庫ヨリ直接ニ引取リタルニ非ス受賣ノ者ヨリ買收シタルモノナレハ假令其物脫稅品ナレハトテ是レ其ノ物ヲ引取リ又ハ引渡シ或ハ政府ノ承認ヲ得スシテ之ヲ製造場外ニ移出シタルモノ、責任ニシテ拙者ノ如キ住所ニ於テ買入レ之ヲ輸出シタルモノヲ罰スヘキ理由アルコトナシ若シ之ヲモ罰スヘキモノトセハ行商或ハ店賣スル者ヨリ買受ケタルモノハ皆共ニ罰セラル、ニ至ルヘシ蓋シ法律ノ精神ハ其源ヲ拒クニ在リテ其末ヲ論スルモノナラムヤ原院ニ於テハ之ヲ窮メス法律ニ明文ナキモノヲ罰シタルモノニシテ不法ノ裁判ト謂フヘキナリト云フニ在レトモ○砂糖消費稅法第六條ハ一般的规定ヲ以テ消費稅納付前又ハ擔保提供前ニ製造場稅關又ハ保稅倉庫ヨリ砂糖ヲ引取ルコトヲ禁シ其直接ナルト間接ナルトヲ區別セサルヲ以テ消費稅納付前又ハ擔保提供前ニ製造場稅關又ハ保稅倉庫ヨリ移出



セラレタル砂糖ヲ引取りタル者ハ第六條ノ禁ヲ犯シタルモノトシ第十二條ノ制裁ニ服從セサルヘカラサルハ勿論ナリ左スレハ被告ハ直接ニ製造場稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取りタルニアラサルコト所論ノ如クナリトスルモ被告ノ所爲ハ第十二條ノ犯罪ヲ構成スヘキ筋合ナレハ被告ニ同條ヲ擬シタル原判決ハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

○（明治四十年八月三十日）

被告三名辯護人佐藤義彦上告辯明書第四ノ二ノ要旨ハ原判決ハ犯罪事件調査顛末書中稻本德次郎ノ供述ヲ證據ニ採用セラレタリ今該調査顛末書ヲ閱スルニ富山稅務署收稅官吏廣松甚太郎ノ署名捺印アリテ同人カ本件ノ臨檢搜索尋問及差押ニ關スル處分ヲ爲シタルコト明ナレハ間接國稅犯則者處分法第十一條第十二條ノ規定ニ違背スルモノトス隨テ其顛末書ハ不適法ノモノナリト云フニ在リ○依テ按スルニ酒造稅ニ關スル犯罪事件ノ證據ハ其事件發見地ヲ所轄スル稅務監督局ノ收稅官吏又ハ同發見地ヲ所轄スル稅務署ノ收稅官吏ニ限り之ヲ集取スルノ權限ヲ有スルモノナルコトハ間接國稅犯則者處分法第十一條第一項並ニ同施行規則第一條ニ依リ殊ニ明瞭ナリ若シ夫レ前記第十一條第一項ハ事件發見地ヲ所轄スル稅務監督局ノ收稅官吏並ニ同監督局管内ノ各稅務署收稅官吏ニハ總テ證據集取ノ權限ヲ與ヘタルモノト解スル如キハ文義解釋上其當ヲ得サルノミナラス之ヲ同法制定ノ趣旨ニモ亦適應セサルモノト云ハサルヘカラス何トナレハ各稅務署ノ收稅官吏ニ證據集取ノ權限ヲ與フルハ職務上ノ繁雜ヲ來シ毫モ利スル所ナケレハナリ今本件ニ付原院カ證據ニ採用シタル犯罪事件調査顛末書ナルモノヲ閱スルニ末尾ニハ富山稅務署收稅官吏廣松甚太郎ノ署名捺印アリ又各葉接續ノ部並ニ文字加入削除ノ部ニモ同人ノ捺印アルヲ以テ見レハ同人ハ松村重規外七名ト共ニ本犯罪事件ニ付キ調査訊問等ヲ爲シ其顛末書ヲ作成シタルモノト認メサルヘカラス而シテ同調査顛末書ニ依レハ本件ノ發見地ハ富山縣婦負郡黑瀬谷村大字須原村小字上山内ノ山腹ニシテ八尾稅務

○犯罪事件ノ證據ハ其事件發見地ヲ管轄スル稅務監督局ノ收稅官吏又ハ同地ヲ管轄スル稅務署ノ收稅官吏ニ限り之ヲ集取スヘキ權限ヲ有スルモノトス（明治四十年八月三十日）

被告三名辯護人佐藤義彦上告辯明書第四ノ二ノ要旨ハ原判決ハ犯罪事件調査顛末書中稻本德次郎ノ供述ヲ證據ニ採用セラレタリ今該調査顛末書ヲ閱スルニ富山稅務署收稅官吏廣松甚太郎ノ署名捺印アリテ同人カ本件ノ臨檢搜索尋問及差押ニ關スル處分ヲ爲シタルコト明ナレハ間接國稅犯則者處分法第十一條第十二條ノ規定ニ違背スルモノトス隨テ其顛末書ハ不適法ノモノナリト云フニ在リ○依テ按スルニ酒造稅ニ關スル犯罪事件ノ證據ハ其事件發見地ヲ所轄スル稅務監督局ノ收稅官吏又ハ同發見地ヲ所轄スル稅務署ノ收稅官吏ニ限り之ヲ集取スルノ權限ヲ有スルモノナルコトハ間接國稅犯則者處分法第十一條第一項並ニ同施行規則第一條ニ依リ殊ニ明瞭ナリ若シ夫レ前記第十一條第一項ハ事件發見地ヲ所轄スル稅務監督局ノ收稅官吏並ニ同監督局管内ノ各稅務署收稅官吏ニハ總テ證據集取ノ權限ヲ與ヘタルモノト解スル如キハ文義解釋上其當ヲ得サルノミナラス之ヲ同法制定ノ趣旨ニモ亦適應セサルモノト云ハサルヘカラス何トナレハ各稅務署ノ收稅官吏ニ證據集取ノ權限ヲ與フルハ職務上ノ繁雜ヲ來シ毫モ利スル所ナケレハナリ今本件ニ付原院カ證據ニ採用シタル犯罪事件調査顛末書ナルモノヲ閱スルニ末尾ニハ富山稅務署收稅官吏廣松甚太郎ノ署名捺印アリ又各葉接續ノ部並ニ文字加入削除ノ部ニモ同人ノ捺印アルヲ以テ見レハ同人ハ松村重規外七名ト共ニ本犯罪事件ニ付キ調査訊問等ヲ爲シ其顛末書ヲ作成シタルモノト認メサルヘカラス而シテ同調査顛末書ニ依レハ本件ノ發見地ハ富山縣婦負郡黑瀬谷村大字須原村小字上山内ノ山腹ニシテ八尾稅務



署ノ所轄地ナレハ本件ニ付證據集取ヲ爲スノ權限ヲ有スルモノハ八尾稅務署收稅官吏及ヒ金澤稅務監督局收稅官吏ニシテ富山稅務署收稅官吏タル廣松甚太郎ハ全ク其權限ナキモノトス然ルニ同人ニ於テ本件ノ證據集取ヲ爲シタルハ不法ナリ尤モ右證據集取ハ同人ニ於テ正當ノ權限アル收稅官吏松村重規外七名ト共ニ之ヲ爲シタルモノニシテ同人等ノ爲シタル部分ハ固ヨリ無効ニ非スト雖モ同顛末書中何レノ部分カ權限ヲ有スル者ノ爲シタルモノナルヤ其區別ヲ爲ス能ハサルヲ以テ右ノ不法ハ同顛末書全部ノ無効ヲ惹起スルモノトス然ルニ原院ニ於テ同顛末書ヲ本件斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ニシテ本上告趣意ハ理由アリ

○定期米取引ニ付キ證據金缺乏シタル場合ニ注文者カ追證據金ヲ差入レサルトキハ仲買人ニ於テ注文者ノ意思如何ニ拘ハラス當然手仕舞ト爲スヘキ慣例ハ相場ノ變動ニ因リテ注文者ノ被フル損失ヲ少カラシムル爲メニ存在スルモノナレハ毫モ公ノ秩序ニ反スル所ナシ

(明治四十年九月二十三日)

上告理由第一點(前略) 上告人ハ原審ニ於テ被上告人ヨリ發シタル甲第三號證葉書ニ對シテハ他ノ取引ニ關スル利益金ニテ流用スヘキ旨ヲ告知シ被上告人ニ於テ之ヲ承諾シタル旨ノ關係ヲ證明シ併セテ追證據金ニ付相場ノ高低ニ付證據金ニ不足ヲ生シタリト雖モ仲買人ト取引所ニ於ケル場合ハ格別客人ト仲買人トノ取引ハ一ツニ證據金ノ有無ニ拘ハラス信用取引ニ屬スルモノナレハ何レノ場合ヲ問ハス仲買人ハ委託者ノ承諾ナキ限リハ既ニ成立シタル定期賣買ニ付テハ仲買人ハ之ヲ手仕舞スルコトヲ得ス從テ仲買人ハ委託者ノ承諾ナクシテ賣買米ヲ自己勝手ニ手仕舞シ得ヘキ慣例ナキコトヲ斷言セリ數歩ヲ譲リ斯ル慣例アリト爲スモ法律上之ヲ許容スヘキモノニ非ス何トナレハ委託賣買ニ關スル原則ニ違背スレハナリ然ルニ原審裁判所ハ否認ノ事實ヲ採テ却テ前記慣例ヲ是認シタルカ如ク結局之レカ爲メ上告人ヲ敗訴ニ歸セシメラレタルハ當ニ審理不盡ノ責アル不當ノ判決ニテ尙且虛無ノ事實ヲ採テ判決セラレタル違法アルモノトスト云フニ在リ(下略) ○然レトモ原判決ノ事實摘示並ニ原院法廷調書ノ記載ニ徴スルニ上告人ハ原院ニ於テ定期米取引ニ關シテ證據金缺乏シタル場合ニ注文者カ追證據金ヲ差入レサルトキハ仲買人ハ注文者ノ意思如何ニ拘ハラス當然手仕舞ヲ爲スヘキ慣例アルコトヲ認メタルモノニシテ特ニ仲買人ト取引所間ニ於テノミスノ如キ慣例ノ存スルコト







後貨物ノ検査ヲ經タル上受クヘキモノナルニ依テ見ルモ船舶カ我領海内ハ勿論我港内ニ入ル  
モ未タ是ヲ以テ貨物ノ輸入アリタルモノトセサル立法ノ趣旨自ラ明ナルヲ以テナリ(中略)同  
條號ノ規定ハ本件ノ物品ヲ輸入品ナリトスルノ論據ト爲スニ足ラス論旨ハ理由ナシ

○清酒ト其成分中ニ包含セサル他ノ物品トヲ混和シテ之ヲ飲料ト爲シタル所爲ハ其物質ノ何  
ニタルヲ論セス又其混和ノ爲メニ酒類ノ性質ヲ變スルト否ト將タ該混和物カ特種ノ酒類トシ  
テ取引ノ目的ト爲ルト否トニ拘ハラス一種ノ酒精含有飲料ヲ製造シタルモノニ外ナラサレ  
ハ酒精及酒精含有飲料稅法ノ支配ヲ受クヘキモノトス  
○酒精及酒精含有飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ハ代理人家族同居者雇人其他ノ從業  
者カ爲シタル一切ノ稅法違犯ノ所爲ニ對シ正犯トシテ責任ヲ負フモノニ非スシテ唯其犯罪  
一行為カ製造者又ハ販賣者ノ業務ニ關スル場合ニ限り稅法違犯ノ責ニ任スルモノトス  
○酒精及酒精含有飲料稅法ハ正犯及從犯ニ對スル科刑ニ付何等ノ特別規定ヲ設ケサルヲ以テ  
同一ノ稅法違犯行為ニ干與シタル正犯並ニ從犯ハ刑法總則ノ規定ニ從ヒ各自刑罰ノ制裁ニ  
服セサルヘカラス (明治四十年十月十日)

被告濱吉上告趣意書ハ原判決ニ於テ被告濱吉ニ對スル罪狀トシテ掲記セラレタル第三第四  
ノ事項ハ要スルニ濱吉ハ清酒ニ酢ヲ混シタルモノヲ或ル方法ヲ以テ濾過シ之ニ清酒ヲ混和シ  
炭酸曹達安母尼亞水木香散ヲ投入シ酒精含有飲料ヲ製造シタルモノニシテ而モ其免許ヲ受ケ  
サルモノニ係ルト云フニ在リテ其法律適用ノ點ニ於テ右ノ所爲ハ酒精及酒精含有飲料稅法第  
十五條第二條ニ該當スルモノナリト云フニ在レトモ原判決ノ認メタル事實ハ酒ヲ濾過シ之ニ  
酒ヲ混シタリト云フニ過キスシテ少量ノ酒ト少量ノ酒ヲ合シテ多量ノ酒ト爲シタルニ歸シ或  
ル物ト或ル物トヲ混和シ一種別異ノ新液体ヲ製出シタルニアラス酒精及酒精含有飲料稅法ニ  
所謂酒精含有飲料トハ或ル物ト或ル物トヲ混和シテ酒造稅法ニ所謂酒類以外ノ特種ノ液体ヲ創



作スルノ謂ニシテ前記清酒ト清酒ヲ合シテ其品ヲ増加シタルコトヲ指スモノニアラサルハ法律ヲ一讀シテ明瞭ナレハ原判決ニ於テ斯ル事實ニ對シテ斯ル法律ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ト謂ハサルヘカラス尤モ原判決ニハ酒ト酒トノ間ニ炭酸曹達安母尼亞水木香散等ヲ混和シタル事實ヲ認メアルヲ以テ此點ニ於テ酒ト他物トヲ混シテ一種ノ液体ヲ創作シタリト論斷セラレタルヤモ難計ト雖モ右等ノ物体ハ清酒中ノ腐敗分子ヲ排除スルカ酸味ヲ除去スルカ又ハ酒ノ効力ヲ保持スル材料トシテ通例使用セラル、モノナル事ハ其物ノ性質上頗ル顯著ナル事實ナレハ果シテ斯ル目的ヲ以テ混和シタリトスレハ酒ト酒ヲ合シ其腐敗ヲ防キ其効力ヲ保持スル手當ヲ施シタリト云フニ過キスシテ一種別異ノ液体ヲ創作シタリト云フヲ得サルヘク反之スル目的ニアラスシテ酒ト酒トヲ合シテ其酒タル本質ヲ減却セシメ若ハ一種別異ノ液体ト化セシムル目的ヲ以テ混和シ且ツ其目的ノ如ク別異ノ液体創作セラレタリトセハ或ハ酒精含有飲料稅法ノ支配ヲ受クヘキニ至ルヤモ保シ難キ結果ヲ生スヘキヲ以テ右等ノ物ヲ混和シタル一事ヲ以テ右稅法ノ違反ナリト斷スルニハ少クトモ其何ノ目的ヲ以テ混和セラレタルカ且ツ其混和ニ依リテ酒ト酒トハ兩者各又ハ其一方カ其本質ヲ變シ爲ニ一種別異ノ液体ト化シタルコトヲ判示セサルヘカラス然ルニ原判決ニハ此點ニ付些モ言及セラレタル所ナシ是判決ニ必要ナル理由ヲ附セスシテ人ヲ處刑シタル不法アリト云ハサルヲ得スト云フニ在リ○依テ按スルニ清酒ノ成分ヲ増減變更スルハ要スルニ清酒釀造ノ行爲ニ屬シ清酒以外ノ飲料ノ製造ヲ以テ目スヘキニアラサルハ論ヲ俟タスト雖モ清酒ニ其成分中ニ包含セサル他ノ物質ヲ混和シテ之ヲ飲料トナスハ其物質ノ何タルヲ論セス又其混和ノ爲メニ酒類ノ性質ヲ變スルト否ト其

混和物ハ特種ノ酒類トシテ取引ノ目的トナルト否トニ拘ハラス清酒釀造ノ行爲ニアラスシテ清酒以外ノ酒精含有飲料ヲ製造シタルモノニ外ナラサルヲ以テ酒精及酒精含有飲料稅法ノ支配ヲ受クヘキモノトス而シテ原院ノ認メタル事實ニ依レハ被告ハ腐敗清酒ニ酢ヲ混和シ免稅ノ處分ヲ受ケタル酢元用ノ液体ニ清酒炭酸曹達安母尼亞水木香散ヲ混和シ清酒ニ擬シタル一種ノ飲料ヲ製造シタルモノニシテ其所謂酢元用ノ液体ノ清酒ニ非サルハ勿論炭酸曹達安母尼亞水木香散モ亦清酒ノ成分ヲ構成スル物質ニアラサルヲ以テ被告ノ所爲ハ上告論旨ニ謂フ如ク清酒ト清酒ヲ混和シタルモノニ非スシテ清酒ト清酒ノ成分ニ屬セサル他ノ物質トヲ混和シ一種ノ酒精含有飲料ヲ製造シタルモノト謂ハサルヘカラス且原院ノ認メタル事實ニ依レハ被告ノ製造シタル飲料ハ清酒ニ非スシテ之ニ擬シタル一種ノ飲料ナルコトハ判文ニ說示スル所ニ依リ明ニシテ上告論旨ニ謂フ如ク被告ニ於テ防腐ノ手當ヲ施シテ清酒ヲ製造シタル事實ハ原院ノ認メサル所ナレハ原院カ被告ニ擬スルニ酒精及酒精含有飲料稅法ヲ以テシタルハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

辯護人横山鑛太郎花井卓藏上告辯明書第六點ハ被告牛尾孟ハ本件ニ關シテ責任ヲ負擔スヘキモノニ非スト信ス酒精及酒精含有飲料稅法第二十三條ニ「酒精及酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人戶主家族同居者雇人其他ノ從業者ニシテ其業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ其製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス」ト規定セリ右ハ恰モ私法上ノ代理ニ於ケル法律行爲ノ効力ヲ本人ニ歸セシムルト同一轍ニ出テ實ニ刑罰法ニ於ケル責任ノ歸屬ニ關スル一大特例ナリト云ハサルヘカラス之ニ依リテ立法ノ趣旨ヲ推究スルトキハ前記飲料稅法ナ



ル法律ハ懲戒ヲ主トセスシテ徵收ヲ主トシタル稅法ナルコト寔ニ明瞭ナリト思料ス何トナレハ家族雇人同居者等ノ如キ者ヨリ多額ノ徵稅ヲ爲スコトハ普通ノ場合不可能タルヲ免レサレハナリ爾テ本件ノ事實ヲ觀察スルニ原院モ認ムル如ク被告孟ハ自己ノ管理スル父信正ノ酒造場ト其器具ノ使用ヲ被告濱吉ニ許容シ又信正カ免許ヲ受ケ製造セル清酒ヲ信正名義ヲ以テ賣渡シタルモノニシテ假令右等ノ行爲ハ被告孟ノ一存ノミニテ之ヲ爲シタルモノニモセヨ製造業者タル信正ノ營業ニ屬スル物件ナルコトハ爭フヘカラサル事實ナリトス然レトモ本件ハ總テ無免許ノ場合ナルヲ以テ前記飲料稅法第二十三條ヲ適用スル能ハサルカ如シト雖モ此點ニ關シテハ御院明治三十八年(レ)第一三四九號同年十二月十四日宣告酒精及酒精含有飲料稅法違犯事件ニ付キ下サレタル判例ニ同條ノ製造者若ハ販賣者ナル文詞ハ官ノ免許ヲ得テ此等ノ業務ニ從事スルモノナルト將タ其免許ヲ受ケスシテ斯業ニ從事スル者ナルトヲ問ハサル旨趣ナリト判示セラレアルニ據レハ製造者ノ家族ニシテ其代理人タル本件被告孟ノ行爲ニ對スル責任モ亦右ニ據リテ律セサルヘカラサル筋合ナリト信ス本件被告孟ノ行爲ハ主タル被告濱吉ノ從犯ニシテ濱吉ニ對スル器具等ノ貸與及清酒ノ販賣其モノカ犯罪行爲ナリト云フニ在リ而シテ被告孟ノ父信正ハ酒類製造業者ナルモ自ラ其業務ノ執行ヲ爲サスシテ自己名義ノ下ニ家族タル被告孟ニ萬事ヲ代理セシメ居タル事實ハ原院認定ノ如クナルカ故ニ被告孟ノ業務執行ニ因ル諸般ノ行爲ニ對シテハ製造業者タル父信正ニ於テ包括的ニ承認ヲ與ヘ居タル事實ト看做サルヘカラサルコトハ當然ノ事理ナリトス之ヲ要スルニ原院カ本件ノ責任ヲ被告孟ニ科シタルハ酒精及酒精含有飲料稅法第二十三條ノ適用ヲ遺忘シタル失當アリト云ハサルヘカラ

ス假リニ此失當ナシトスルモ原判決ハ被告孟カ製造業者タル父信正ノ命ニ依リ其名義ノ下ニ一切ノ業務ヲ代テ行ヒ居タル事實ヲ認メ乍ラ本件ノ行爲ノミニ限リ自ラ其責任ヲ負擔セサルヘカラサル理由ヲ明瞭ニ判示セサル違法アリテ少クトモ此點ニ關シ理由ノ不備アル裁判ナリト云ハサルヘカラスト云フニ在リ○依テ按スルニ酒精及酒精含有飲料稅法第二十三條ハ各人ハ其現ニ爲シタル犯罪行爲ニ對シテ刑事上ノ責任ヲ負フト同時ニ自己ノ關知セサル他人ノ犯罪行爲ニ對シテ刑事上ノ責任ヲ負ハサル刑事上ノ原則ニ對シ一大例外ヲ爲スモノナルコトハ誠ニ所論ノ如シ然レトモ例外法ノ解釋ハ嚴格ナルコトヲ要シ比附援引ヲ許サルコトモ亦解釋上ノ原則ナレハ前掲第二十三條ヲ適用スルニ當リテモ亦此原則ニ從ヒ其適用ノ範圍ヲ同條所掲ノ場合ニ制限スルコトヲ要シ猥リニ之ヲ他ノ場合ニ擴張スルコトナキヲ要ス而シテ同條ノ規定ニ依ルトキハ酒精及酒精含有飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ハ其代理人家族同居者雇人其他ノ從業者ノ爲シタル一切ノ稅法違犯ノ所爲ニ對シ正犯トシテ責任ヲ負フモノニアラスシテ其犯罪行爲カ製造者販賣者ノ業務ニ關スル場合ニ限リ稅法違犯ノ責任ヲ負フモノナルコトハ第二十三條ニ「其業務ニ關シ」ト掲ケ之ヲ以テ製造者販賣者ヲシテ責任ヲ負ハシムルノ一條件トナシアルニ徵シテ明確ナリ左スレハ假令是等ノ代理人其他ノ者カ稅法違犯ノ行爲ヲ爲スモ其犯罪行爲カ製造者販賣者ノ業務ニ關聯セサルモノナルニ於テハ第二十三條ノ例外的規定ヲ適用スルコトヲ得サル筋合ニシテ此場合ニ於テハ現ニ犯行ヲ爲シタル代理人其他ノ者ヲシテ刑事上ノ責任ヲ負ハシメ其犯行ニ干與セサル製造者販賣者ニ對シテ刑ヲ擬スルコトヲ得サルハ多言ヲ要セスシテ明ナリ而シテ本件ニ在テ被告孟カ其管理スル牛尾信正ノ酒



造場ノ一部並ニ酒桶ヲ被告濱吉ニ貸與シ且清酒ヲ同人ニ賣渡シテ酒精含有飲料ノ製造ヲ容易ナラシメタルハ父信正ノ酒造業ニ關スル行爲ニアラスシテ別箇獨立ノモノナルコトハ原院ノ認メタル事實關係上明白ナルヲ以テ原院カ刑法ノ原則ヲ適用シテ刑ヲ科シ酒精及酒精含有飲料稅法第二十三條ヲ適用シテ信正ヲ其責任者トナサ、リシハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

其第十一點ハ酒精及酒精含有飲料稅法ハ一ノ稅法ナリ從テ一ノ犯罪行爲アリテ一ノ違犯酒ヲ製造シタルトキハ其違犯酒其物ニ稅金ヲ課スルモノナルカ故ニ犯罪者ハ二人以上ナルモ稅金即チ罰金ハ一ナラサルヘカラス例之共犯ノ場合ニ於テハ共犯者ハ連帶シテ一箇ノ罰金ヲ納入スヘキモノトス然ルニ本件ニ於テハ濱吉ノ製造シタル全造石數ニ對シテ罰金ヲ科シタルニ拘ハラス其原料タル清酒ヲ賣却シタル孟ニ對シテモ更ニ罰金ヲ科シタルハ即チ一ノ犯則酒ニ對シ二重ノ稅金ヲ科シ二重ノ刑ヲ科スルモノニシテ不法ノ甚シキモノト信スト云フニ在レトモ

○刑法總則第四百條及刑法第九條ノ規定ニ依ルトキハ現ニ罪ヲ犯シタル正犯及他人ノ犯罪ヲ幫助シタル從犯ニ對シテハ各自ニ刑ヲ適用スルコトヲ要シ且刑法總則ノ規定ハ他ノ刑罰法ニ於テ特ニ除外例ヲ設ケサル限リハ之ヲ適用スヘキモノナルコトハ刑法第五條ニ規定スル所ナルヲ以テ同一ノ稅法違犯ノ行爲ニ干與シタル正犯從犯ハ各自刑法總則ノ規定ニ從ヒ刑罰ノ制裁ニ服從セサルヘカラスハ勿論ナリ尤モ稅法違反ノ制裁トシテ科スル所ノ罰金ハ名ハ刑罰ナルモ其性質ニ於テハ脫稅ニ對スル一種ノ賠償處分ナルヲ以テ國庫カ一回脫稅ニ對スル罰金額ヲ領收シタル以上ハ茲ニ賠償ノ目的ヲ達シタルモノニシテ被告ニ對シテ各別ニ懲罰ヲ加

フルノ必要ナキヲ以テ此點ヨリ觀察スルトキハ稅法違反ノ所爲ニ對シテハ其正犯從犯ヲシテ連帶シテ罰金ヲ支拂フノ責ニ任セシムルコト尙ホ共同不法行爲者カ其行爲ニ因リ他人ニ加ヘタル損害ニ付キ連帶シテ賠償ノ責ニ任スルト同一ナラシムルハ立法ノ當ヲ得タルモノト謂ハサルヘカラス然レトモ斯ノ如キ處分ハ特別規定ヲ待テ始メテ爲シ得ヘキコトニ屬シ解釋ヲ以テ之ヲ補フコトヲ得ス然ルニ酒精及酒精含有飲料稅法ヲ見ルニ他ノ點ニ付キテハ刑法ニ對スル特別例ヲ設ケタルニ拘ハラス正犯從犯ニ對スル科刑ニ付キテハ何等特別規定ヲ設ケサルヲ以テ稅法違犯ノ行爲カ一ノ犯罪行爲ニシテ各犯人ニ刑ヲ科スルハ刑法總則ニ認メラレタル刑罰法上ノ原則ナル以上ハ稅法違犯ノ行爲ニ加擔シタル正犯從犯ニ對シテモ亦各自ニ刑ヲ科セサルヘカラス故ニ原判決ハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ



○稅務監督局長ハ大藏大臣ノ特任ニ依リ其管内稅務署稅務屬ノ勤務地ヲ指定スルノ職權ヲ有ス而シテ某稅務署收稅官吏ナル名稱ハ某稅務署在勤ノ收稅官吏タルコトヲ表示スルニ外ナラサレハ稅務監督局長カ其在勤ヲ命スルニハ官職ノ任補ト異ナリ必スシモ辭令ヲ交付スルヲ要セス單ニ訓令若ハ口述ヲ以テスルモ妨ナシ

○間接國稅犯則者處分法第十條ハ顛末書ヲ作リタル收稅官吏ハ之ニ署名捺印スヘキコトヲ規定スレトモ其方式ニ違背スルトキハ書類ヲ無効ト爲ス旨ノ制裁ヲ付セス故ニ苟モ顛末書ニシテ真正ニ作成セラレタルコトヲ認メ得ル以上ハ捺印ヲ缺如スルノ一事ヲ以テ直チニ無効ナリト云フヲ得ス (明治四十年十一月十一日)

被告兩名上告趣意書ハ第一點原判決ハ上告人ニ對スル犯罪事實ヲ認定スル證據トシテ稅務官吏ノ上告人福島福之助ニ對スル顛末書及相被告中濱三次郎ニ對スル顛末書ヲ引用セラレタリト雖モ右顛末書ハ糞田良策井出信雄外二名ニ於テ船場稅務署收稅官吏ノ資格ニ於テ作成シ居ルモ該四名ノ官吏ハ本來中之島稅務署收稅官吏ニシテ船場稅務署ノ官吏ニアラサルコトハ原院ノ訊問セラレタル證人井出信雄糞田良策ニ於テ同人等カ船場稅務署兼務ノ收稅官吏タルヘキ辭令ヲ受ケタルコトナシト供述セル點ニ徵シ明瞭ナリ尤モ該證人等ハ船場稅務署兼務ニ付特ニ辭令ヲ受ケタルコトナキモ局長ヨリ中之島稅務署收稅官吏ハ同時ニ船場稅務署收稅官吏ト心得ヘキ旨ノ訓令ヲ受ケタルカ故ニ本件顛末書中船場稅務署ノ管轄内ニ於テ作成シタルモノハ船場稅務署收稅官吏ノ資格ヲ以テセリト陳述スレトモ中之島稅務署收稅官吏カ船場稅務署收稅官吏トナリ若ハ其兼務ヲ爲スハ適法ナル官吏任命ノ形式ニ依ラサルヘカラサルコト

多言ヲ俟タサル所ニシテ而シテ稅務監督局長ノ訓令ハ官吏任命ノ形式ニ非サルカ故ニ假令局長ニ於テ證人供述ノ如キ訓令ヲ發シタルコトアリトスルモ其訓令ニヨリテ中之島稅務署收稅官吏ハ船場稅務署兼務ノ官吏タルコトヲ得ヘキモノニ非ス果シテ然ラハ糞田良策外三名即チ中之島稅務署收稅官吏カ船場稅務署收稅官吏ノ資格ニ於テ作成シタル顛末書ハ不適法ニシテ無効ノ文書ナリト云ハサルヘカラス然ルニ原判決カ此ノ如キ無効ノ文書ヲ採リテ斷罪ノ資料ニ供セラレタルハ不法ナリト云フニ在リ○依テ按スルニ稅務監督局長ハ大藏大臣ノ特任ニ依リ其管内稅務署稅務屬ノ勤務地ヲ指定スルノ職權ヲ有ス而シテ某稅務署收稅官吏ナル名稱ハ官制上斯ル官職アルニ非スシテ某稅務署在勤ノ收稅官吏タルコトヲ表示スルニ外ナラサルヲ以テ稅務監督局長カ其在勤ヲ命スルニハ官職ノ任補ト異ナリテ必スシモ辭令ヲ交付スルヲ要セス訓令若ハ口述ヲ以テスルモ其効力ナシト云フヲ得ス然レハ本件糞田良策外三名ノ稅務屬ハ中之島稅務署收稅官吏ナルモ稅務監督局長ノ訓令ニ依リ船場稅務署收稅官吏ヲ兼勤スルモノナレハ原院カ糞田良策外三名カ船場稅務署收稅官吏ノ資格ヲ以テ作りタル顛末書ヲ以テ斷罪ノ資ト爲シタルハ相當ニシテ論旨ハ理由ナシ

第三點原院カ有罪事實認定ノ證據トセラレタル福島福之助顛末書ヲ見ルニ其作成者タル糞田良策ノ捺印ヲ缺如セリ抑モ間接國稅犯則者處分法第十條ニ依レハ收稅官吏臨檢搜索尋問又ハ差押ヲ爲シタルトキハ其顛末ヲ記載シ立會人又ハ尋問ヲ受ケタルモノニ示シ共ニ署名捺印スヘシトアルヲ以テ收稅官吏ニ於テ署名捺印ヲ爲サス若ハ兩者其一ヲ缺クトキハ其顛末書ハ同法ニ違反スル無効ノ文書タル疑ヲ容レス然ルニ原院カ右ノ如ク收稅官吏糞田良策ノ捺印ナキ



無効ノ文書ヲ斷罪ノ證據ニ供セラレタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○間接國稅犯則者處分  
 法第十條ニハ顛末書ヲ作りタル收稅官吏ハ之ニ署名捺印スヘキ旨ヲ規定シアレトモ刑事訴訟  
 法第二十條ノ如ク其方式ニ違背スルトキハ書類ヲ無効ト爲ス旨ノ制裁ヲ付セス故ニ顛末書ニ  
 シテ真正ニ作成セラレタルコトヲ認ムルニ足ル以上ハ捺印ヲ缺如スルノ一事ヲ以テ直チニ無  
 効ナリト云フヲ得ス而シテ福島福之助犯則顛末書ヲ查スルニ其作成官吏ノ一人タル蓑田良策  
 ノ捺印ヲ缺如スルモ他三名ノ收稅官吏ニ於テ署名捺印シアルノミナラス其他真正ニアラスト  
 認ムヘキ何等ノ形跡ヲ存セサレハ原院力之ヲ採テ以テ罪證ニ供シタルハ適法ニシテ本論旨モ  
 亦理由ナシ

○酒母醱及麴取締法第一條ハ酒母醱及麴ヲ製造スル者又ハ麴ヲ請賣スル者ニ對シテハ其製造  
 ノ目的如何ヲ問ハス總テ同法ヲ適用シ唯一ノ除外例トシテ酒造稅法ニ依リ酒類ノ製造免許  
 ヲ受ケタル者ニハ之ヲ適用セサルノ法意ナリトス（明治四十年十一月十五日）

辯護人川島仟司上告趣意擴張辯明書第六ハ酒母醱及麴取締法ニ所謂醱ナルモノハ同法第一  
 條ニ依リ酒造稅法ニ依テ製造免許ヲ得ヘキ酒類ノ醱ナルコトハ明白ナリ而シテ本件第三ノ犯  
 罪トシテ掲クル事實ハ酒精製造ノ爲メ酒母ニ糖蜜ヲ加ヘ酒精原料ノ醱ヲ製造シタルモノナル  
 カ故ニ酒精及酒精含有飲料稅法ニヨリ其製造ノ免許ヲ得ルハ格別酒造稅法ニヨリ免許ヲ受ク  
 ヘキ筋合ノモノニアラス隨テ之ニ對シテハ酒母醱及麴取締法ヲ適用スヘキ限ニアラス然ルニ  
 原判決カ同法ヲ之ニ適用シタルハ擬律錯誤ノ不法アルモノトスト云フニ在リ○依テ按スルニ  
 酒母醱及麴取締法第一條ニハ本法ハ酒造稅法ニ依リ酒類ノ製造免許ヲ受ケスシテ酒母又ハ醱  
 ヲ製造スル者販賣ノ爲メニ麴ヲ製造スル者及麴ヲ請賣スル者ニ之ヲ適用ストアルヲ以テ元則  
 トシテハ酒母醱麴ヲ製造スル者又ハ麴ヲ請賣スルモノニ對シテハ其製造ノ目的如何ヲ問ハス  
 總テ同法ヲ適用スヘク唯ターノ除外例トシテ酒造稅法ニ依リ酒類ノ製造免許ヲ受ケタル者ニ  
 同法ヲ適用セサル法意ナルコトハ法文上明ナルノミナラス若シ上告所論ノ如ク酒精又ハ酒精  
 含有飲料ノ製造免許ヲ受ケタル者ニ對シテハ同法ヲ適用スヘキモノニ非ストセハ本取締法ヲ  
 設ケタル立法ノ目的ハ到底之ヲ達シ得サルニ至ルヘシ何トナレハ酒精及酒精含有飲料稅法ニ  
 ハ毫モ酒母醱及麴取締ニ關スル規定ノ設ナキヲ以テ其免許ヲ受ケタル者ハ酒母醱及麴ノ製造  
 管理處分ニ付キ毫モ牽束ヲ受クル所ナカルヘキヲ以テナリ夫ノ酒造稅法ニ依リ酒類製造ノ免



許ヲ受ケタル者ニ對シ本法ヲ適用セサル旨ノ除外例ヲ設ケタル所以ノモノハ同法ニハ略ホ本法ト同一ノ取締手續規定アリテ之ニ對シ更ニ本法ヲ適用スヘキ要アラサルヲ以テナリ故ニ原院カ本件被告ノ第三所爲ニ對シ酒母醱及麴取締法ヲ適用シタルハ相當ニシテ本趣意ハ理由ナシ

○西遊酒及糖類取締法第一條ハ酒母醱及麴取締法ニ對シテ同法ニハ略ホ本法ト同一ノ取締手續規定アリテ之ニ對シ更ニ本法ヲ適用スヘキ要アラサルヲ以テナリ故ニ原院カ本件被告ノ第三所爲ニ對シ酒母醱及麴取締法ヲ適用シタルハ相當ニシテ本趣意ハ理由ナシ

○西遊酒及糖類取締法第一條ハ酒母醱及麴取締法ニ對シテ同法ニハ略ホ本法ト同一ノ取締手續規定アリテ之ニ對シ更ニ本法ヲ適用スヘキ要アラサルヲ以テナリ故ニ原院カ本件被告ノ第三所爲ニ對シ酒母醱及麴取締法ヲ適用シタルハ相當ニシテ本趣意ハ理由ナシ

○工業用酒精酒類其他酒精含有飲料戻稅法第六條ニ所謂請求トハ税金ノ下戻ヲ得ムトスル請求者一己ノ片面的意思表示ヲ指稱ス從テ政府カ其請求ニ應シテ税金ヲ下付シタルト否トハ犯罪ノ成否ニ何等ノ關係ナシ(明治四十一年二月二十日)

辯護人花井卓藏上告趣意擴張書第一點ハ工業用酒精酒類其他酒精含有飲料戻稅法第六條ハ詐欺其他不正ノ行爲ヲ以テ造石稅ノ下付ヲ受ケタル者ヲ處罰スルノ規定ニシテ本件ノ如キ單ニ其請求ノ手續ヲ爲シ未タ造石稅ノ下付ヲ受ケタル場合即其未遂ノ場合ヲ罰スルノ規定ニアラサルコトハ同法カ徵稅ニ關スル法律ニシテ政府ノ損害ヲ補償セシムル性質ノ規定ナルヲ以テ同法條ハ之ヲ適用スヘキモノニ非ス然ルニ原判決カ同法條ヲ適用處斷シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○工業用酒精酒類其他酒精含有飲料戻稅法第六條ニハ「詐欺其他不正ノ所爲ヲ以テ造石稅又ハ出港稅ニ相當スル金額ノ下付ハ政府ニ請求シタル者ハ云々」ト規定シアリテ法律ハ不正ノ所爲ヲ以テ税金ノ下戻ヲ政府ニ請求スルノ所爲ヲ以テ犯罪構成ノ要件トナシタルコトヲ認ムヘク所謂請求トハ税金ノ下戻ヲ得ムトスル請求者一己ノ片面的意思表示ヲ意味シ政府カ其請求ニ應シテ税金ノ下付ヲ爲シタルト否トハ請求ナル所爲ノ成否ニ何等ノ關係ヲ有セサルヲ以テ戻稅法第六條ノ犯罪ハ所論ノ如ク犯人カ税金ノ下付ヲ受ケタル時ヲ以テ既遂トナルモノニアラスシテ政府ニ對シ相當ノ方法ヲ以テ税金ノ下戻ヲ求ムル意思表示ヲ爲シタル時ヲ以テ完結シ犯人カ現ニ税金ノ下戻ヲ受ケタルコトヲ必要トセス是前掲法條ノ文理解釋上明確一點ノ疑ヲ容レサル所ナリ故ニ本論旨ハ理由ナシ



○別箇ノ法益侵害ハ獨立ノ犯罪ヲ構成スルモノトス而シテ各箇ノ法益侵害カ別異ナル犯意ノ發動ニ基クヤ將タ同一目的ヲ遂行スル爲メ同一意思ノ發動ニ因ルヤハ之ヲ問フノ要ナシ

○數箇ノ法益侵害ノ所爲カ互ニ原因結果ト爲リテ相連絡シ犯人ノ目的ヨリ之ヲ包括的ニ觀察スルコトヲ得ル場合ト雖モ法律カ特別規定ヲ設ケテ單一罪ト爲サ、ル限り裁判所ハ之ヲ數罪トシテ處分スヘキモノトス (明治四十一年三月五日)

上告趣意書ハ原院判決ニ被告ハ森田辨太郎名義ノ抵當權設定登記ノ委任狀並ニ同申請書ヲ偽造行使シタルハ刑法第二百十條第一項ノ犯罪ナリ云々ト説明シタルモ同上申請書ハ同上委任狀ヲ偽造シタル結果ニシテ決シテ獨立ノ犯罪ニアラス然ルニ兩者各獨立ノ犯罪ナリト説明シタルハ不法ナリト云フニ在リ○然レトモ凡ソ別箇ノ法益侵害ハ獨立ノ犯罪ヲ構成スルモノニシテ各箇ノ法益侵害カ別異ナル犯意ノ發動ニ基クト同一目的ヲ遂行スル爲メ同一意思ノ發動ニ基因スルトヲ問フコトナシ茲ヲ以テ數箇ノ法益侵害ノ所爲カ互ニ原因ト爲リ結果ト爲リテ相連絡シ犯人ノ目的ヨリ見テ之ヲ包括的ニ觀察スルコトヲ得ル場合ト雖モ刑法第三百九十條第二百六條ニ於ケルカ如ク法律カ特別規定ヲ以テ之ヲ連結シ單一罪ト爲サ、ル限りハ裁判所ハ各箇ノ所爲ヲ以テ各別罪ヲ構成スルモノトシ其原因タリ結果タルノ故ヲ以テ一罪トシテ之ヲ處分スルコトヲ得サルモノトス而シテ本件ニ在テハ委任狀及登記申請書ノ偽造行使トハ全ク別異ナル法益ノ侵害ニ屬スルヲ以テ假令其登記申請書ノ偽造ハ委任狀偽造ノ結果トシテ成立シタルモノナルニモセヨ之ヲ委任狀偽造ノ所爲中ニ包含セシメテ之ヲ不問ニ付スルコトヲ得ス故ニ原院カ各箇ノ行爲ニ對シ刑ヲ適用シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

○輸出ノ爲メ政府ヨリ製造煙草ヲ買受ケタル者カ其輸出前之ヲ他ニ賣却スルニ於テハ假令其賣買行爲カ輸出ノ目的ニ出テ又ハ之ヲ條件ト爲シタル事實アリトスルモ煙草專賣法第二十七條ノ違犯行爲タルコトヲ免レス (明治四十一年三月十日)

被告浩上告趣意書ハ明治三十七年三月法律第十四號煙草專賣法第二十七條ノ法意ハ假令輸出ノ爲メ政府ヨリ買受ケタル煙草ト雖モ結局輸出スル意思存在シ其目的ヲ達スルノ手段ニ出テタル時ハ輸出前ノ賣買讓渡ト雖モ之ヲ禁スルノ趣旨ニアラサルコトハ同法ノ目的カ輸出稅ノ徵收ニアルニ依リテ明カナリ則チ内地ニ於テ消費セラレサレハ輸出ニ至ル迄ニ何人ノ手ニ輾轉スルモ何等ノ實害ヲ生セス又法益ヲ害スルコトナシ而シテ本件被告ノ賣買行爲ハ總テ輸出ノ目的ヲ以テ讓受ケ又輸出ヲ條件トシテ讓渡シタルコトハ豫審廷以來ノ各證人ノ供述ニ徴シテ甚タ明確ナル事實ナリ然ラハ被告ハ無罪ノ判決ヲ得ヘキ理ナルニ拘ハラズ原院判決ハ事茲ニ出テス有罪ノ判決ヲ與ヘラレタルハ法律ヲ不當ニ適用セラレタル違法アリト信スト云フニ在レトモ○本件被告ノ賣買行爲ハ總テ輸出ノ目的ヲ以テ之ヲ爲シ又輸出ヲ條件トシテ之ヲ爲シタルモノナルコトハ原院判決ノ認メサル所ナルノミナラス假リニ被告ノ賣買行爲ハ輸出ノ目的ヲ以テ之ヲ爲シ又輸出ヲ條件トシテ之ヲ爲シタルモノトスルモ輸出ノ爲メ政府ヨリ買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ハ輸出前之ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費スルコトヲ得サルコトハ煙草專賣法第二十七條ノ明文ニ依リ明カニシテ同條ニ所論ノ如キ目的又ハ條件ニテ爲シタル賣買行爲ヲ除外スルノ文旨ナク又輸出ノ爲メ政府ヨリ買受ケタル煙草ヲ内地ニ於テ讓渡スルハ其賣買ノ本旨ニ背キ其公益ヲ害スルハ論ヲ俟タサルヲ以テ上告ハ其理由ナシ



○酒造合資會社カ業務執行上犯法行爲ヲ爲シ其結果ヲ告ケスシテ解散シタルトキハ清算人ハ之ヲ結了セシムルノ義務アリ從テ稅法違犯ノ訴追審理ヲ受クルカ如キモ亦商法第九十一條第一號ノ所謂現務中ニ包含スルモノトス（明治四十一年三月二十日）

東京控訴院檢察長河村善益上告趣意書ハ原判決理由ノ要旨ハ本件ノ寺田酒造合資會社ハ現行商法施行前明治二十年十月一日ノ設立ニ係ルモ其施行後明治四十年三月二十五日總社員ノ決議ニ基キ解散ヲ爲シ同月二十八日之カ登記ヲ遂ケ被告寺田善作並ニ藤田長民ハ清算人トシテ選任セラレタルモノニシテ商法施行法ノ規定ニ鑑ミ本件合資會社ノ清算ニ付テハ商法第五條ニ依リ同第八十四條乃至第一百三條ヲ準用スヘキ筋合ニシテ合資會社ハ原則トシテ解散ト同時ニ消滅スヘク只特例トシテ商法第八十四條ノ規定ニ依リ清算中ハ其清算ノ目的ノ範圍内ニ限り其存續ヲ認ムヘキモノニシテ會社カ犯罪ノ主体トナリ刑事訴追並ニ審理ヲ受クルカ如キ事項ハ商法第九十一條ニ規定セル清算ノ目的範圍外ニ屬スルヲ以テ明治三十三年法律第五十二號第一條ニ依リ定メラレタル法人タル會社カ犯罪ノ主体トナリ得ル能力ハ會社ノ適法ナル解散ト同時ニ消滅スヘク從テ之ニ對スル公訴權モ當然消滅ニ歸スヘキカ故ニ會社ノ清算人ハ前記法律第五十二號第二條ニ依リ會社ノ代表者トシテ刑事ノ被告人タルヘキモノニアラス而シテ本件ノ寺田酒造合資會社ニ係ル酒造稅法違犯ノ刑事訴追ハ第一明治四十年二月廿七日第二同年三月五日第三同年四月十九日ノ三回ニ亘リ右三回ノ公訴中同會社ノ解散後ニ係ル第三回訴追ノ部分ハ其提起ノ當初ニ於テ既ニ不法ニ屬シ其解散前ニ係ル第一回第二回訴追ノ部分ハ其業務擔當社員タル寺田善作ヲ被告トシタルカ故ニ右兩度ノ起訴ハ公訴提起ノ當時ハ正

當ナリシモ該會社ノ解散ニ因リ自然公訴權ノ消滅ヲ來スヲ免レス殊ニ右兩度ノ起訴ニ付審理ノ中途會社解散ノ故ヲ以テ後日被告ノ代表資格ヲ清算人ニ更改セルカ如キハ何等救濟ノ効ナク却テ前者ノ不法ノ轍ニ陥リタル次第ナレハ原裁判所ノ審理程度ニ於テ被告等ニ公訴不受理ヲ言渡スヘキモノナルヲ以テ本判決ニハ更ニ進テ本件會社カ既ニ清算ヲ結了シテ對絶的ニ消滅ニ歸シタリヤ否ヤヲ論議スルノ要ヲ見スト云フニ在リ然レトモ原判決ノ援用セル現行商法第九十一條清算人ノ職務ニ關スル規定ヲ閱スルニ同條ニ所謂現務ノ結了債務ノ辨濟ナルモノハ必スシモ稅法上ノ事項若ハ義務ニ關スル事項ヲ要セス公法ニ關スルモノヲモ包含スヘキナリ例ヘハ會社カ負擔セル諸般ノ納稅義務ノ如キ公法ニ關スルモノヲモ包含スヘク又法人タル會社カ不法行爲ニ關シ損害賠償ノ義務ヲ負擔シ其義務ノ履行ニ關シテ民事ノ訴追並ニ審理ヲ受クヘキコトハ前掲清算事務ノ中ニ包含スヘキヤ勿論ナリ而シテ法人ノ代表者又ハ其雇人其他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ稅法ヲ犯シタル場合ニ於テハ明治三十三年法律第五十二號第一條ニ依リ其法人ハ罰金又ハ科料刑ノ處罰ヲ受クヘキ義務ヲ負擔スヘク此義務負擔ノ性質カ法人ノ不法行爲ニ關スル損害賠償ノ義務負擔ノ性質ト異ナル所ハ單ニ其負擔スル義務ノ性質カ公法ノ規定ニ基クト私法ノ規定ニ基クトノ差アルニ過キサルナリ加之法人ニ科スル財產刑ノ執行方法ニ關スル前掲法律第五十二號第三條ノ規定ヲ閱スルニ法人ニ科スル罰金又ハ科料ノ徵收ニ對シテハ檢事ノ命令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ効力アルコトヲ認ムルカ故ニ此種ノ財產刑ハ其性質ハ刑罰ト云フ公法上ノ制裁タルト同時ニ亦他面ニ於テ私法上ノ制裁タル損害賠償ト等ク私法上ノ債務タルノ性質ヲモ併有スルモノト云ハサルヘカラス果シテ然



ラハ會社ノ解散前ニ發生シタル不法行爲ニ關シテ會社ニ對スル損害請求ノ民事訴訟ハ苟モ會社ノ清算結了前ニ提起セラル、以上ハ其解散前ニ提起セラレタルト否トヲ問ハス等シク適法ニシテ清算人ハ其職務ノ執行トシテ同訴訟ニ付同會社ヲ代表スヘキカ如ク會社ノ負擔スル財產刑ニ關スル公訴ノ提起ニ付テモ亦同一ノ結論ヲ是認セサルヘカラス從テ原判決中本件第三回ノ起訴カ本件寺田酒造合資會社ノ解散後ニ係ルヲ理由トシテ公訴受理スヘカラサルモノナリト判決シタルハ失當ナリト云ハサルヘカラス次ニ前掲法律第五十二條第二條ニ法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告トスト規定シ其代表者ハ會社ノ業務擔當社員タルト清算人タルトヲ區別セサルカ故ニ苟モ合資會社ノ清算人ハ現行商法第九十一條ニ依リ會社ニ對スル公訴ニ付テモ會社ヲ代表ストノ前提ニシテ誤リナキ以上ハ事件第一回第二回ノ公訴提起當時ニ於テ會社ノ業務擔當社員ヲ被告トシテ指示シタリトスルモ會社ノ解散後ハ當然清算人タル本件被告等ニ於テ同公訴ニ付會社ノ代表者トシテ其被告タル地位ヲ繼承スヘキモノト云ハサルヘカラス然レハ原判決理由中本件第一回第二回兩度ノ公訴ニ付テモ公訴受理スヘカラスト判決シタルハ失當ナリトス加之前掲法律第五十二條ニ於テ法人ヲ處罰スルノ規定ヲ設ケタルノ趣旨ハ法人ノ業務ニ關シ其代表者又ハ其雇人其他ノ從業者ノ爲シタル稅法違反ノ所爲ニ付テハ其實行者ヲ處罰セスシテ常ニ法人ヲシテ刑事ノ責任ヲ負ハシメ以テ徵稅ノ目的ヲ貫徹セムトスルニアルカ故ニ本法制定當時ニ於テ立法者ハ法人ノ業務ニ關スル稅法違反ノ事實ニ次キ直チニ法人タル會社ヲ解散シテ全然刑事ノ責任ヲ免レムト圖ルモノアルヘキコトヲ豫想シタリト認メ得ヘク而シテ此種ノ場合ニ關シテ別ニ救濟ノ規定ヲ設ケサリシハ蓋シ

立法ノ趣旨ハ叙上ノ場合ニ於テモ當然同法ニ依リ法人ヲ處罰スヘキモノナリトノ見解ヲ採リタルモノト云ハサルヘカラス要之前掲原判決ニ認定セラレタル事實關係ニ於テ本件公訴ハ之ヲ受理セスト言渡シタル原判決ハ擬律ノ錯誤アルモノト思料スト云フニ在リ○依テ按スルニ本件寺田酒造合資會社ニ係ル酒造稅法違反ノ公訴事實ハ同會社ノ目的トシタル酒造ノ業務執行上ニ基因シテ生シタル犯法行爲ナリトスルニ在ルヤ原判文上固ヨリ疑ヲ容レサル所ニシテ則チ其行爲タルヤ會社ノ業務自体ニアラスト雖モ其業務ニ附隨シテ密着雖ルヘカラス行爲ナリト云ハサルヘカラス而シテ會社カ其業務ヲ結了セシメ半途ニシテ解散シタルトキハ商法第九十一條第一號ノ規定ニ依リ清算人ニ於テ之ヲ結了セシムルハ其當然爲スヘキノ職務ニ屬スルヲ以テ會社カ業務執行上犯法行爲ヲ爲シ之カ結了ヲ告ケスシテ解散シタル場合ニ於テモ亦清算人ハ之ヲ結了セシムルノ義務アリト云ハサルヘカラス即チ本件ニ於ケルカ如ク刑事ノ訴追審理ヲ受クルモ亦同條第一號ニ所謂現務中ニ包含スルモノト解スルヲ以テ相當ナリトス然ルニ原院ハ右等ノ行爲ヲ以テ清算人ノ職務ニアラストシ本件清算人タル被告等ニ對スル公訴ノ不適法ナリトシテ受理セスト判決シタルハ失當ニシテ檢事長ノ上告其理由アリ原判決ハ破毀ヲ免レサルモノトス



○酒類製造ノ免許ヲ受ケサルモノカ免許人ノ代理名義ヲ藉リ自己ノ爲メニ製造營業ヲ爲シタル場合ト雖モ該犯則行爲ニ付テハ免許人其責ニ任スヘキモノトス (明治四十一年三月二十六日)

辯護人高野金重上告趣意擴張書第三點原判決ハ被告カ酒類製造所ヲ設ケ酒類ノ製造ニ從事シ喜安松太郎ハ其代理人ナル事實ヲ認定セルモ原判決ノ援用セル谷口愛吉ノ證言ニ依レハ營業名義ハ被告ナルモ實際ノ製造營業者ハ被告ニアラスシテ松太郎ナルコト明白ナリ左レハ酒造税法第三十二條ヲ適用スヘキ場合ニアラスシテ現實ノ違反者其者ヲ處罰スヘキ筋合ナルニ原判決爰ニ出テス前掲法條ヲ適用シテ被告ニ刑ヲ科シタルハ擬律錯誤ノ不法アルト同時ニ理由齟齬ノ不法アルモノト信スト云フニ在リ○然レトモ酒造税法ニ於テハ實際製造營業ヲ爲ス者ノ誰タルヲ問ハス政府ノ免許ヲ受ケタル者ヲ以テ製造營業人ト認ムヘキモノナレハ良シヤ喜安松太郎ハ被告ノ代理人名義ヲ藉リテ自己ノ爲メ製造營業ヲ爲シタルモノナリトスルモ其犯則行爲ニ就テハ免許人タル被告ニ於テ其責ニ任セサルヲ得ス故ニ原院カ所論谷口愛吉ノ證言ニ依據シテ被告ノ犯則行爲ヲ認メ酒造税法第三十二條ヲ適用シタルハ相當ニシテ原判決ニハ擬律ノ錯誤若ハ理由ノ齟齬アルコトナシ

○苟モ免許ヲ受ケスシテ酒精ヲ製造スルニ於テハ酒精及酒精含有飲料税法第十五條ノ犯罪ヲ構成ス而シテ其原料ノニスニシテ飲料ニ適セサルモ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ボスコトナシ (明治四十一年四月六日)

辯護人南茂平上告趣意擴張書ハ原院ハ被告ハ免許ヲ受ケスシテ酒精ヲ製造シタルモノト認定シ酒精及酒精含有飲料税法第十五條ヲ適用シタリ然レトモ同法ニ所謂酒精ナルモノハ飲料ニ供シ得ヘキモノナルニ限ラレ其他ノモノヲ包含セサルコトハ同法ニ散在スル各法文ニ酒精又ハ酒精ヲ包含スル飲料ト記載セル文句及法カ假令其性質飲料ニ適スヘキ酒精ト雖モ其使用ノ目的カ醫藥及工業用ニアルトキハ戻税法ヲ設ケ課稅ヲ免シタル精神ニ徴シテ明白ナリ而シテ本件ノ酒精ハ原判決ニ認ムルカ如ク其原料ヲ「ニス」ニ採リ而シテ其「ニス」ヲ原料トセル酒精ハ多量ノ樟腦油ヲ含有シ工業用若ハ醫藥ニ用キルノ外飲料ニ用キルコトヲ得サルコトハ學說及實際上疑ヲ容ルヘキ餘地ナシ故ニ本件被告ノ製造ニ係ル酒精ハ同法適用ノ範圍外ニ在リ然ルニ原院カ本件ノ酒精ノ原料ヲ「ニス」ニ採リテ多量ノ樟腦油ヲ含有スルコトヲ認定シタルニ不拘同法ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ナリト信スト云フニ在レトモ○被告ノ製造シタル酒精ハ樟腦油ヲ包含シ飲料ニ適セサルコトハ原院カ事實トシテ確定シタルモノニアラサルノミナラス一步ヲ讓リ該酒精ハ所論ノ如キ性質ノモノナリト假定スルモ苟モ免許ヲ受ケスシテ酒精ヲ製造スルニ於テハ酒精及酒精含有飲料税法第十五條ノ犯罪ヲ構成スヘク其原料ノニスニシテ飲料ニ適セサルコトハ本罪ノ構成ニ何等ノ影響ヲ及ボスコトナシ但工業用ノ酒精ニ付テハ工業用酒精酒類其他酒精含有飲料戻税法同施行規則ニ特別ノ規定アリ命令ノ定ムル



所ニ依リ命令ノ定ムル特種ノ工業用ニ供スル場合ニアラサレハ免稅ノ恩典ニ浴スヘキモノニアラス而シテ本件被告ノ所爲ハ此場合ニ該當セサルモノナレハ是等法令ノ規定ヲ援用シテ被告ノ無罪ヲ主張スルノ論據ト爲スコトヲ得ス故ニ本論旨ハ理由ナシ

○賣買取引ノ相手方カ取引所外ニ於テ取引スルノ意思アリタルヤ否ヤハ現ニ取引所外ニ於テ取引ヲ爲シタル者ノ犯罪成否ニ何等ノ影響ヲ及ボスコトナシ(明治四十一年四月七日) 被告兩名辯護人花井卓藏上告趣意擴張書第一點ハ原判決ハ被告兩名ハ津田米吉ナルモノ、委託ヲ受ケ同人ト取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト類似ノ方法ヲ以テ定期米ノ賣買取引ヲ爲シタリトノ事實ヲ認定セリ而シテ取引ナルモノハ賣買當事者雙方ノ合意アルコトヲ要スルモノナルカ故ニ原判決ノ如ク取引アリタリトノ事實ヲ認定セムニハ米吉ニ於テモ取引所外ニ於テ取引スルノ意思アリタル事實ヲ認定シ證據ニ基キ此ノ事實ヲ説明セサルヘカラス然ルニ原判決カ此點ヲ判斷セスシテ取引所ノ取引ニ類似スル賣買取引ヲ爲シタルモノトシ被告等ニ對シ取引所法第二十五條ヲ適用處斷シタルハ理由不備ノ不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○賣買取引ノ相手方カ取引所外ニ於テ取引スルノ意思アリタルヤ否ヤハ現ニ取引所外ニ於テ取引ヲ爲シタル他ノ一方ノ犯罪ノ成否ニ影響ヲ及ボスモノニ非ス各當事者ハ相手方ノ意思如何ニ拘ハラズ獨立シテ取引所法違犯ノ行爲ヲ爲シ得ヘキヲ以テ原判決ハ所論ノ如キ不法アルコトナシ



○間接國稅犯則者處分法第十四條ニ「犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其理由ヲ明示シ云々」トアルハ心證ヲ得タル所以ノ理由ヲ明示スヘシトノ義ニ非スシテ罰金科料等ヲ納付スヘキ所以ノ理由即チ犯則事實並ニ其該當スル法條ヲ明示シテ通告ヲ爲スヘシトノ謂ナリトス

(明治四十一年五月二十一日)

上告趣意第二ハ稅務署長カ犯則者ニ對シ發スル通告書ハ間接國稅犯則者處分法第十四條ノ規定ニ依據セサルヘカラス事件記録中ノ通告書乃チ船場稅務署長稅務官桑原政明カ上告人ニ對シ發シタル通告書ハ(中略)單ニ稅務署長カ調書ニ依リ得タル結果ヲ記述シタルニ過キスシテ前示法條所定ノ如ク稅務署長カ犯則ノ心證ヲ得テ爾カク認定スルニ至リタル理由ヲ適切ニ明示シアルモノト認ムルコト能ハス然ラハ本通告書ハ法律ノ規定ヲ遵守セサルモノニシテ通告書タルノ効力ヲ保有セス從テ之ニ基キ爲シタル告發ハ勿論檢事ノ起訴モ亦不適法タルニ歸シ本件ハ之ヲ受理審判セラルヘキモノニアラスト信スト云フニ在レトモ○間接國稅犯則者處分法第十四條ヲ按スルニ其條文ニ「犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其理由ヲ明示シ」云々トアルハ心證ヲ得タル所以ノ理由ヲ明示スヘシトノ謂ニ非スシテ罰金科料等ヲ納付スルニ至レル所以ノ理由即チ納付ノ基本タル犯則事實並ニ其該當スル法條ヲ明示シテ通告ヲ爲スヘシトノ謂ナルコトハ前記法文ノ全体ニ徵シテ明ナリ左スレハ船場稅務署カ被告ニ對シテ發シタル本件ノ通告書ニハ犯則事實及其該當シタル法條ヲ前提ニ記載シテ被告カ罰金ヲ納付スヘキ所以ノ理由ヲ明ニシ然ル後其結果トシテ罰金千十六圓ヲ納付スヘキ旨ヲ命シタルハ適法ナル通告書ニシテ隨テ船場稅務署ノ告發書並ニ檢事ノ起訴ノ有効ナルコト勿論ナレハ論旨ハ理由ナシ

○關稅法第八十三條ハ數多ノ犯則者アル場合ニハ各犯則者ヲシテ各獨立シテ同條所定ノ價格全部ヲ納付セシムルノ法意ナリトス (明治四十一年六月九日) (明治四十五年四月九日)

被告兩名辯護人宮崎恒三郎上告趣意書ハ第一審裁判所認定ノ事實ハ要スルニ被告兩名共謀シテ關稅金百貳拾八圓八十一錢ヲ遁脫シ沒收ニ係ル大豆二百六十六噸ヲ賣却シタリト云フニアルヲ以テ罰金ノ點ニ關シ關稅法第七十五條ヲ適用シタルハ擬律上論ナシト雖モ追徵ノ點ニ關シテハ刑法第四十七條若クハ民法第七百十九條ニ依リ其徵收上被告人兩名ニ連帶責任ヲ負ハシムヘキニ拘ハラス各被告人ニ對シ單ニ金一千二百二十三圓六錢ヲ追徵スト言渡シタルハ法律ノ適用ヲ誤リタル判決ニシテ其結果二重ノ追徵ヲ爲スノ悞ナシトセス故ニ第二審裁判所ハ原判決ヲ取消シ更ニ前掲趣旨ノ判決ヲ言渡スヘキ處ナルニ却テ本件ノ控訴ヲ棄却シタルハ亦法律ノ適用ヲ誤リタルモノト云ハサルヘカラスト云フニ在リ○然レトモ刑法第四十七條ノ規定ハ數人共犯ニ係ル裁判費用贖物ノ還給損害ノ賠償ニ關スルモノ又民法第七百十九條ノ規定ハ數人共同ノ不法行爲ニ基ク損害賠償ニ關スルモノナレハ本件ノ如ク懲罰ノ性質ヲ有スル徵收金ニ之ヲ適用スヘキモノニアラス而シテ關稅法第八十三條ニハ「本法ニ依リ沒收スヘキ貨物ハ犯則當時ノ所有者ノ所有ニ屬スル間ハ之ヲ沒收シ既ニ讓渡若クハ消費シタルトキハ其價格ニ相當スル金額ヲ犯則者ヨリ徵收ス」トアリテ犯則者多數アル場合ニ於テハ犯則者ヲシテ之ヲ連帶納付セシムル旨ヲ規定シアラサルヲ以テ各犯則者間ニ連帶債務者ノ關係ヲ有セシムルノ法意ニアラサルコト明カナリ又前段說示ノ如ク右相當價格ノ徵收ハ一ノ懲罰ナルヲ以テ民法上ノ債務ヲ以テ之ヲ目スヘキモノニアラサルコト勿論ナレハ民法第四百二十七條ノ法







○間接國稅犯則者處分法第十條ハ立會人カ顛末書ニ署名捺印スルコト能ハサル場合ニハ收稅官吏ニ於テ其旨ヲ附記スヘキ事ヲ規定スレトモ此方式ノ違背ニ對シテ無効ノ制裁ヲ付スルコトナシ（明治四十一年七月六日）

被告兩名辯護人川島仔司上告趣意擴張辯明書ハ第三間接國稅犯則者處分法第十條ヲ按スルニ立會人ハ收稅官ト共ニ其顛末書ニ署名捺印スヘク若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨顛末書ノ作成者ニ於テ附記スヘキ規定トス然ルニ原判決ノ證據トシテ援用セル前項顛末書中立會人田久保ことノ署名ハ被告田久保卯八ノ代署セルモノナルコト明瞭ニシテ全ク同條ノ規定ニ反セル不法ノモノナルカ故ニ之ヲ採テ斷罪ノ資料ト爲セル原判決モ亦不法タルヲ免レスト云フニ在レトモ○收稅官吏カ臨檢搜索等ヲ爲シテ其顛末書ヲ作成スル際立會人ニ於テ署名捺印スルコト能ハサル場合ニハ收稅官吏ニ於テ其旨ヲ附記スヘキモノニシテ決シテ他ノ立會人ニ於テ附記スヘキモノニ非サルコトハ間接國稅犯則者處分法第十條ニ徵シテ明ナリ而シテ所論ノ顛末書ヲ查閱スルニ其末尾ニ「立會人田久保こと」トアリテ其傍ニ「代書ス」トノ附記アリ右ハ立會人田久保卯八カ附記シタルモノニシテ收稅官吏ノ附記シタルモノニ非サルコト筆跡ニ徵シテ瞭然タレハ其附記ノ法式カ間接國稅犯則者處分法第十條ニ違背スル所ナキニ非ス然レトモ同條ニハ無効ノ制裁ナキカ故ニ右田久保ことノ名下ニハ其印顛ノ押捺アリテ同人ノ立會ヒタルコト自ラ明確ナル以上ハ由シヤ附記ノ法式ニ於テ違フ所アルニモセヨ之カ爲メニ所論ノ顛末書ヲ無効ナリト論スルコトヲ得ス因テ本論旨ハ理由ナシ

○非常特別稅法ニ所謂賃織依頼者トハ營業人ノミニ限リ自用者ハ之ヲ包含セス（明治四十一年九月八日）

上告論旨略○因テ按スルニ非常特別稅法第八條ノ二第一項第三號ニ所謂賃織依頼者トハ自用者タルト營業者タルトヲ問ハス總テノ賃織依頼者ヲ指稱シタル意義ニ解シ得ヘキモ右規定ニ牽聯セル同條第二項ニ前項ノ場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做ストアルヨリ之ヲ見レハ賃織依頼者トハ營業人ニ限リ自用者ハ之ヲ除外シタル趣旨ナリト解スルヲ相當ナリトス而シテ織物製造業者カ他ノ製造業者ノ依頼ヲ受ケ製造シタル賃織物ニ付テハ賃織業者及依頼者共ニ之カ爲メニ商業上ノ利益ヲ得ルモノナレハ斯ル場合ハ前示法條第二項ノ規定ニ依リ賃織物ノ移出先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做ス以上ハ同人ヨリ織物ノ消費稅ヲ納付スヘキハ當然ニシテ同一織物ニ付賃織業者ニ對シテモ課稅スヘキ謂レナシ然ルニ賃織者ニシテ自用者ノ依頼ヲ受ケ織物ヲ製造シタル場合ハ賃織業者ノ外他ニ商業上利スルモノナキヲ以テ同稅法ノ規定上同人ヨリ織物ノ消費稅ヲ納付スルニアラサレハ其引渡ヲ爲スコトヲ得サルヲ論ナシ又同法第六條及同第十二條但書ニ所謂自用ニ供スル織物トハ製造者カ自己又ハ其職工ヲ用キ製造スル自用ノ織物ヲ指稱シ織物製造業者カ他ノ自用者ヨリ賃織ノ依頼ヲ受ケ製造シタルモノヲモ之ニ包含セシメタル趣旨ニ非サルコトハ右法文ノ解釋上明ニシテ又被告ハ織物製造業者ニシテ自用者ヨリ賃織ノ依頼ヲ受ケ其織物ノ價格ニ相當スル消費稅ヲ納付セスシテ之ヲ引渡シ又ハ販賣ノ爲メ移出シタルコトハ原判決ヲ通讀セハ自ラ明ナレハ原院カ被告ノ所爲ヲ以テ非常特別稅法第十一條ニ違背スルモノトシ同第十七條ノ一第四第三條第四ヲ適用シ處斷シタルハ相當ナリ故ニ右論旨ハ理由ナシ



○煙草耕作者試作者又ハ煙草賣捌人ヲシテ其代理人戶主家族同居人雇人其他ノ從業者カ爲シタル犯法行爲ニ付キ罪責ヲ負ハシムルニハ此等ノ者カ其業務ニ關シ煙草專賣法又ハ同法ニ基キテ發セラレタル命令ニ違犯シタルコトヲ要スルモノニシテ該法律命令中煙草耕作者試作者賣捌人等ヲ以テ犯罪ノ主體ト爲シタル條項ニ違反シタルコトヲ必要トセス

(明治四十一年九月二十五日)

名古屋控訴院檢察長代理檢察長谷川定上告趣意書ハ原判決ハ其前段ニ被告ハ煙草耕作者西川とめト同居中とめカ政府ニ納付スヘキ葉煙草十七貫七百目ヲ自己ノ倉庫内ニ藏置シタル事實ハ被告ノ自供ニヨリ明瞭ナルモ云々ト記載シ後段ニ於テ本件ハ被告カ耕作者とめノ爲メ葉煙草ノ乾燥及ヒ調理中其葉煙草ヲ倉庫内ニ隱蔽シタルモノト認ムルヲ以テ云々ト明記セルカ故ニ右前後ノ記載ヲ綜合シ被告ハ煙草耕作者西川とめ方ニ同居シ其業務ニ從事中とめノ關知セサル間ニ於テ擅ニ政府ニ納付スヘキ葉煙草十七貫七百目ヲ自己ノ倉庫内ニ隱蔽シタル事實ヲ認定シタルコト明ナリ然ルニ葉煙草ヲ乾燥シ之ヲ政府ニ納付スルハ皆煙草耕作者ノ業務ニ屬スルカ故ニ若シ其間ニ於テ家族同居者又ハ其他ノ從業者カ之ヲ隱蔽スルカ如キコトアルトキハ煙草耕作者ハ其從業者ノ行爲ニ付處罰ヲ受クヘキモノナルコト煙草專賣法第六十五條ノ規定スル所ナルヲ以テ本件ニ於テ耕作者タルとめヲ處罰スルハ格別從業者タル被告ヲ罰スヘキモノニアラストノ理由ヲ以テ第一審判決ヲ是認シ檢事ノ控訴ヲ棄却シタルハ法律ノ適用ヲ誤リタル不當ノ判決ナリト信ス煙草專賣法第六十五條ハ各人ハ其現ニ爲シタル犯罪行爲ニ對シテ刑事上ノ責任ヲ負フト同時ニ自己ノ關知セサル他人ノ犯罪行爲ニ對シテ責任ヲ負ハサル

刑法上ノ原則ニ對シ例外ヲ爲スモノナルカ故ニ其解釋ハ嚴格ナルヲ要シ適用ハ必要ノ範圍ヲ超越スヘキニアラス煙草專賣法カ煙草耕作者等ノ業務ニ關シ規定スル所ヲ視ルニ何レモ煙草耕作者ハ云々ト明示シ犯罪ノ主體ヲ業務者ニ制限セルカ故ニ其以外ノ者ハ假令家族其他ノ從業者ト雖モ犯罪ノ主體タルコト能ハス而カモ是等ノモノニシテ違犯行爲アリシトキニ於テ業務者ハ自己ノ行爲ニアラサルノ故ヲ以テ責任ヲ負フコトナシトセハ業務ニ關スル煙草專賣法ノ規定ハ全ク徒法タルニ了ルカ故ニ斯ノ如キ場合ニ在リテハ家族其他從業者ノ所爲ニ對シ業務者ヲシテ其責ニ任セシムル必要ヲ生ス是同法第六十五條ノ規定アル所以ナリトス故ニ同條ハ煙草耕作者等ノ家族其他ノ從業者カ耕作者等ノ業務ニ關スル煙草專賣法ノ規定ニ違反シタルトキハ耕作者等ヲシテ其責ニ任セシムルノ律意ナリト解セサルヘカラス而シテ同法第四十八條ハ煙草耕作者ノ業務ニ關スル規定ニアラス何人ト雖モ政府ニ納付スヘキ葉煙草ヲ消費若クハ隱蔽シタルトキハ同條ノ處罰ヲ免カル、能ハサルモノナルコトハ同法カ煙草耕作者ノ業務ニ關シ規定シタルトキハ常ニ煙草耕作者若クハ試作者ハ云々ト明示シテ其意ヲ明カニスルニ係ハラス同條ハ單ニ政府ニ納付スヘキ葉煙草ヲ云々ト規定セルニ過キサノミナラス舊煙草專賣法第二十一條ニ葉煙草ヲ耕作スル者政府ニ納付スヘキ葉煙草ヲ云々トアリシヲ改メ煙草耕作者ナル文字ヲ削リタルニヨリ明瞭ナリトス既ニ同條ノ規定ニシテ煙草耕作者ノ業務ニ關スルモノニアラス何人ト雖モ其犯罪行爲ノ主體トナリ得ヘキモノナリトセハ業務者ヲシテ自己ノ關知セサル他人ノ犯罪行爲ニ對シ責任ヲ負ハシムルノ必要ナク隨テ同法第六十五條ヲ適用スヘキモノニアラスシテ一般ノ原則ニ從ヒ其行爲者ヲ處罰スヘキハ當然ナリトス(明治



三十七年九六九號貴院判決ハ煙草耕作者ニアラサレハ犯ス能ハサルモノナリシ舊葉煙草專賣法ノ判決ニシテ改正後ニ於ケル判例ト爲スコトヲ得ス。假リニ以上ノ解釋其當ヲ得サルモノアリトスルモ業務者ハ家族其他ノ從業者ノ爲シタル一切ノ違犯行爲ニ對シ責任ヲ負フニアラスシテ其違犯行爲カ業務者ノ業務ニ關スル場合ニ限ルヘキハ勿論ナリ煙草ヲ乾燥調理シ之ヲ政府ニ納付スルハ煙草耕作者ノ業務ナリト雖モ之レヲ隱蔽シ若クハ消費スルカ如キハ全ク業務ニ關係ナキ別箇ノ違犯行爲ナリ若シ政府ニ納付スルマテ業務上之レヲ占有スルカ故ニ其間ニ於ケル隱匿若ハ消費ハ業務ニ關スルモノナリトセハ從業者カ之ヲ竊取シテ隱匿若ハ消費シタル場合ニ於テモ尙ホ耕作者ヲシテ其責ニ任セシメサルヘカラス豈ニ斯ノ如キ理アラシヤ煙草專賣當局者カ煙草專賣法第四十八條ノ違犯ニ付テハ家族其他從業者ノ行爲ニシテ煙草耕作者ノ關知セサリシ場合ニ在リテハ常ニ其行爲者ニ對シ罰金ノ通告ヲ爲シ若クハ之ヲ告發シ來リシハ其當ヲ得タルモノナリトス要スルニ原判決ハ煙草專賣法第六十五條ノ解釋ヲ誤リ不當ニ之ヲ適用シタルモノニシテ破毀ノ原由アリト信スト云フニ在リ○因テ按スルニ煙草專賣法第六十五條ニ依レハ煙草耕作者試作者煙草賣捌人等ヲシテ其代理人戸主家族同居者雇人其他ノ從業者カ爲シタル犯法行爲ニ付其罪責ヲ負ハシムルニハ是等ノ者カ其業務ニ關シ煙草專賣法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルコトヲ要スルノミノコトニシテ右法律命令中煙草耕作者試作者煙草賣捌人等ヲ以テ犯罪ノ主體ト爲シタル條項ニ違反シタルコトヲ以テ其要件トセス而シテ其代理人戸主家族同居者雇人其他ノ從業者ノ爲シタル犯法行爲カ煙草耕作者試作者煙草賣捌人等ノ業務ニ關スルヤ否ヤヲ定ムルハ一ノ事實問題ニ外ナラサルヲ以テ

苟クモ是等ノ者カ煙草耕作者試作者煙草賣捌人等ノ業務ニ關シ前記法律命令ニ違反シタル事實アリト認メラレタル以上ハ煙草耕作者試作者煙草賣捌人等ハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其罪責ヲ免ルルヲ得サルモノトス原判文ヲ查スルニ其前段ニハ「云々被告カ本件葉煙草ヲ倉庫内ニ藏置シタル事實アリトスルモ直ニ之レヲ以テ被告カとめノ葉煙草ヲ竊取シタルモノト認ムルヲ得ス」トアリ又其後段ニハ「云々本件ハ被告カ耕作者とめノ爲メ葉煙草ノ乾燥及調理中其葉煙草ヲ倉庫内ニ隱蔽シタルモノト認ムルヲ以テ云々」トアリテ被告カ本件葉煙草ヲ隱蔽シタルハ則チ煙草耕作者タルとめヲシテ政府ニ對シ之ヲ納付スルノ義務ヲ免レシムル爲メニシテ同人ノ業務ニ關スル犯法行爲タルヤ論ナキヲ以テ原院カ「前記法條ニヨリ耕作

者タルとめヲ處罰スルハ格別從業者タル被告ヲ罰スヘキモノニ非ス」ト判示シ被告ニ對シ無罪ノ言渡ヲナシタル第一審判決ヲ是認シタルハ煙草專賣法第六十五條ノ解釋ヲ誤リ之ヲ不當ニ適用シタルモノニ非ス故ニ本論旨ハ上告ノ理由ナシ







○酒類製造業者カ一旦検査ヲ受ケタル醪ニ水ヲ混和セル場合ト雖モ收税官吏ヨリ酒造用原料品ノ検査ヲ受クヘキ旨ヲ命セラレタルトキハ其使用前更ニ新ナル酒造原料品トシテ之カ検査ヲ受クルコトヲ要ス (明治四十一年十月十三日)

東京控訴院検事長河村善益上告趣意書ハ原判決ハ本件控訴ノ事實ヲ認メナカラ酒類製造者ハ酒造税法施行規則第三十九條第四號ニ依リ收税官吏ノ承認ヲ得ルトキハ仕込濟ノ醪ニ水ヲ混和スルコトヲ得ルモノニシテ水ヲ混和スルトキハ醪ハ其量ヲ増加スルコト言フ俟タスト雖モ之ヲ新ナル醪ト云フコトヲ得ス而シテ被告ハ明治四十一年二月二十九日第二十三號仕込醪十九石九斗四升一合ノ検査ヲ受ケ其使用ヲ承認セラレタルモノナルヲ以テ其後ニ於テ被告雇人カ之ニ水四斗七升ヲ混和シタレハトテ醪ハ只其量ヲ増加シタルニ止リ水ヲ混和シタル一種ノ醪トシテ更ニ検査ヲ受クルコトヲ要セス從テ此間或ハ酒造税法第二十九條ノ犯罪ヲ構成スルコトアルハ格別之ヲ以テ同第二十七條ニ違犯シタルモノト謂フコトヲ得スト判定シタリ然レトモ收税官吏カ酒造用原料品ニ付使用前其検査ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒類製造主ハ之カ検査ヲ受クヘキコトハ酒造税法施行規則第三十七條ノ規定スル所ニシテ本件ニ於ケルカ如ク酒造主カ此命令ニ基キ一旦醪ノ検査ヲ受ケタリトスルモ其後ニ於テ該醪ニ水ヲ混和セムカ醪ハ是ニ相當スル量ヲ増加スルハ勿論ニシテ此増加シタル量ニ付テハ未タ検査ヲ受ケサルモノト謂ハサルヘカラス故ニ酒造主カ此状態ニ於テ故意ニ該醪ヲ使用シ又ハ使用セムトシタルトキハ前記相當増加量ニ付テ酒造税法第二十七條違反ノ罪ヲ構成スルモノト謂ハサルヘカラス蓋シ酒造原料醪ノ検査ヲ受クヘキコトヲ命シタル立法ノ理由ハ酒造業者ハ動モスレ

ハ清酒精製ノ前後ニ於テ脱税其他不正ノ行爲ヲ爲スノ虞アリ是等不正行爲ヲ未發ニ防止セムトスルニハ豫メ醪ノ検査ヲナシ以テ其間不正手段ヲ施スノ餘地ナカラシメムトスルニ在リ若シモ原判決ノ如ク一旦醪ノ検査ヲ受ケタル以上ハ之ニ水ヲ混和スルモ再ヒ検査ヲ受クルノ必要ナシトセムカ酒造業者ハ忽チ検査濟ノ醪ニ水ヲ混和シ精製ノ前後ニ於テ其増加シタル醪又ハ清酒ヲ容易ニ汲取リテ脱税ヲ圖ルニ至ルヘク斯クシテ前記立法ノ趣意ハ半ハ減却セラル、ニ至ルヘキナリ是豈法ノ趣意ナラムヤ故ニ酒造業者カ假令一旦醪ノ検査ヲ受ケタリトスルモ其後ニ於テ之ニ水ヲ混和セムカ其増加量ニ付テハ更ニ検査ヲ受ケサルヘカラスシテ之ヲ受ケスシテ使用ニ着手シタルトキハ即酒造税法第二十七條ニ違反シタルモノト解セサルヘカラス然ルニ原判決カ事此ニ出テスシテ本件ノ事實ヲ以テ前記違反ノ罪ヲ構成セストシ被告ニ無罪ヲ言渡シタルハ擬律ヲ誤リタル不法ノ裁判ナルヲ以テ原判決破毀ノ上更ニ相當ノ裁判相成タシト云フニ在リ○因テ按スルニ酒造税法施行規則第三十七條ニ依リ收税官吏カ酒造用原料品ノ検査ヲ爲スハ其目的之ヲ使用スルニ先タチ其數量ヲ確定シ酒類ノ製造ニ關シテ不正ノ行爲ヲ爲スヲ防止スルニ在ルモノナレハ一旦検査ヲ受ケタル醪ニ水ヲ混和シタル場合ト雖モ收税官吏ヨリ酒造用原料品ノ検査ヲ受クヘキ旨ヲ命セラレタルトキハ酒類製造業者ハ其使用前新ナル酒造原料品トシテ更ニ之カ検査ヲ受クルコトヲ要スルモノトス原判決ニ依レハ被告ハ收税官吏ヨリ醪ノ検査ヲ受クヘキ旨指定セラレ居ルモノニシテ本件第二十三號仕込醪ニ付テハ收税官吏カ被告方ニ至リ検査ヲ爲シ其數量十九石九斗四升一合ニ付検査使用ノ承認ヲ與ヘタル處其後被告雇人内藤麟藏ニ於テ之ニ水四斗七升ヲ混和シ之カ検査ヲ受ケサリシモノニシテ



検査済ノ醪ニ水ヲ加ヘテ二十石四斗一升一合ノ醪トナシタルモノナレハ其新ナル醪ニ付テハ  
 使用前更ニ收稅官吏ノ検査ヲ受クヘキモノナルニ被告雇人カ其検査ヲ受ケサリシハ即チ被告  
 ノ業務ニ關シ酒造稅法第二十七條ノ規定ニ違反シタルモノニシテ同條ノ犯罪ヲ構成スルヤ固  
 ヨリ論ナシ然ルニ原院カ被告雇人ニ於テ検査済ナル第二十三號ノ醪ニ四斗七升ノ水ヲ混和シ  
 タレハトテ只其量ヲ増加シタルニ止リ一種ノ醪トシテ更ニ検査ヲ受クルコトヲ要セスト判示  
 シ被告ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ不法ニシテ原判決ハ破毀ヲ免レス

○織物ノ賃織者カ營業人ニ非サル自家用依頼者ノ注文ヲ受ケ織物ノ製造ヲ爲ス場合ニ付テハ  
 非常特別稅法中別段ノ規定ナケレハ同第十二條ノ原則ニ從ヒ其賃織者ニ於テ届出ノ手續ヲ  
 爲ササルヘカラス (明治四十二年二月八日)

(參照) 織物ヲ製造又ハ販賣セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ但シ自用ニ供スル織物ノミヲ製造セムトスル者ハ此限  
 ニ在ラス (非常特別稅法第十二條)

上告趣意書第一抑モ本件ノ罪ノ有無ヲ斷スルニハ先ツ織物製造者ト之レカ賃織者トノ區別  
 ヲ明ニセサル可カラス凡ソ何種ノ物品ヲ問ハス自家ノ原料ヲ資用シ物品ヲ作成スル (他人ニ  
 依頼シテ作成セシムル者ヲ包含ス) ヲ製造者ト云ヒ依頼者ヨリ原料ノ供給ヲ受ケ單ニ賃金ノ  
 ミヲ得テ物品ヲ作成スルヲ賃業 (俗ニ下職) ト云フハ我國ニ於ケル商業上ノ通義ナリ熟ラ非  
 常特別稅法ヲ按スルニ立法ノ趣旨亦以上ノ理由ニ基キタルモノニシテ即チ同法第八條ノ二ノ  
 三號ニ賃織場ヨリ賃織依頼者ニ織物ヲ引渡ストキ同條末項ノ場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造  
 者ト見做シ同法第十二條ニ織物ヲ製造又ハ販賣セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシトアリ彼是  
 對照スルトキハ第八條ニ於テ依頼者 (製造者) ト被依頼者 (賃業者) トノ區分ヲ明カニシ第  
 十二條ニハ製造者ニ於テ申告ノ責務ヲ負ハシメタルモノナルコト明瞭ナリ况ンヤ該織物カ依  
 頼者ニ於テ他ニ販賣セラルル場合ト又自用ニ供セラルル場合トニ依リ別種ノ規定存セサルヲ  
 以テ共ニ依頼者ヲ以テ製造者ト見做ササル可カラサルコト勿論ナリ然ルニ原院判決理由説明  
 中ニ前略田中一郎外三十一名ヨリ其自用ニ供スル織物ノ賃織ヲ依頼セラレ同時ニ其原料トシ  
 テ絹糸六貫五百匁ノ供給ヲ受ケ云云トアリテ明カニ上告人カ賃織ヲ爲シタル事實ヲ認メナカ



ラ正當ナル第一審ノ判決ヲ取消シ更ニ有罪ノ判決ヲ言渡シタルハ法律ノ適用ヲ誤リタル失當ノ裁判ナリト云ハサル可カラスト云ヒ一第二之レヲ經濟學上ヨリ論スルモ凡テ物品ニ代價ヲ生スルハ原料代金ニ工作賃金技術ノ代價等ヲ加算シテ始メテ一ツノ代價ノ生スルモノニシテ工作ノ賃金ノミニテ代價ノ生セサルハ明ニシテ本法第八條ノ法意亦本論ヲ根據トシタルモノニシテ原料ヲ費用シ工作ノ賃金ヲ仕拂ヒ完全ニ製造者タル要素ヲ具備セル依頼者ニ對シ申告及消費稅納付ノ責務ヲ負ハシメタルモノナルコト明ナリ然ルニ原院ニ於テ上告人カ原料ノ供給ヲ受ケ單ニ賃業ヲ爲シタル事實ヲ認メナカラ之ヲ製造者トシテ從價稅ヲ課セムトスルハ共ニ法律ノ解釋ヲ誤リタル失當ノ裁判ナリト言ハサル可カラスト云フニ在リ○然レトモ非常特別稅法第十二條ニ所謂織物ノ製造トハ其文理ノ示ス如ク現ニ原料ニ勞力ヲ加ヘテ特種ノ織物ヲ製作スルコトヲ意味スルヲ以テ法律ニ例外ノ規定アル場合ノ外ハ前掲織物ノ製造者ニ於テ政府ニ申告ヲ爲スノ義務アルハ論ヲ俟タス而シテ同法第八條ノ第一項第三號ニハ「賃織場ヨリ賃織依頼者ニ織物ヲ引渡ストキ」トアリ其第二項ニハ移出先ヲ以テ製造場所ト看做シ移出先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做ストアリ此規定ニ依ルトキハ織物ノ賃織者カ營業者ノ依頼ニ依リテ織物ノ製作ヲ爲ス場合ニ於テハ移出先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做スノ結果賃織者ハ届出ノ義務ヲ免カレ依頼者ニ於テ此義務ヲ負擔スルモノナルコトハ洵ニ明瞭ナリト雖モ賃織者カ營業人ニアラサル自家用依頼者ノ注文ヲ受ケテ織物ノ製造ヲ爲ス場合ニ付キテハ同法中別段ノ規定ナキヲ以テ第十二條ノ原則ニ從ヒ其製作者タル賃織者ニ於テ届出ノ手續ヲ爲ササル可カラス是レ即本件ノ場合ナルヲ以テ原判決ハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

○沒收ハ必スシモ之ヲ科セサルヘカラサルモノニ非スシテ其之ヲ科スルト否トハ事實裁判所ノ職權ニ屬スルモノトス(明治四十二年三月八日)

被告辯護人井上保男上告趣意書原控訴審判決ヲ閱スルニ被告愛之助ハ公正證書作成ニ關スル委任狀ヲ偽造シ且ツ之ヲ利用シテ公正證書ノ原本ニ代理人ノ資格ヲ偽リ署名捺印シタルモノニシテ即チ第一審判決ノ通り委任狀竝ニ公正證書ノ原本ヲ偽造行使シタルモノナリト云フニ在リ果シテ然ラハ該委任狀竝ニ公正證書ノ原本ニ付テハ第一審ト同シク之レカ沒收ノ言渡ヲ爲ササルヘカラサル筋合ナルニ之ニ對シテハ何等沒收ノ言渡ヲ爲ササルハ法律ヲ適用セサル違法ノ判決ナリトス(中略)此點ニ付テハ上告審ニ於テハ宜シク原判決ヲ破毀セラルヘキモノニシテ例ヒ原判決ヲ破毀スルト雖モ單ニ之ヲ破毀スルニ止マリ被告ノ上告ナレハ不利益ニ變更スルコト能ハサルニ付沒收ノ言渡ヲナスヘキモノニアラス而シテ前陳ノ理由ニ依リ原判決ハ到底破毀ヲ免レサルモノト思料スト云フニ在レトモ○沒收ハ必ス之ヲ科セサルヘカラサルニ非ス之ヲ科スルト否トハ事實裁判所ノ職權ニ屬ス從テ本論旨ハ上告適法ノ理由トナラス



○刑法第五十四條ニ所謂一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ル、トハ數箇ノ別異ナル罪名ハ勿論其數箇ノ同一ナル罪名ニ觸ル、場合ヲモ包含セルモノトス（明治四十二年三月十一日）

辯護人布施辰治上告趣意書第二點原審ハ第一點摘示事實ニ對シ舊刑法第二百八條第二項第一項第二百十二條（私印盜用）及同法第二百十條第二百十二條（私書偽造行使）刑法第五百十九條第一項ノ律ヲ擬シタルニ止マルハ其判示事實ニ於テ佐藤小一郎田口秀太郎兩名ノ獨立別箇ナル二箇ノ法益侵害ヲ認定シタルニ拘ラス此ノ點ニ對シ舊刑法第百條刑法第四十五條第四十七條第十條ノ適用ヲ遺脱シタルハ擬律錯誤ノ不法ナリト思料ス御院ノ一罪數罪ニ關スル判例ハ侵害セル法益ノ箇數ニ據ルノ趣旨ト解セラル、ニ拘ラス事實ニ對スル說明區々當辯護人等ハ其適從ニ迷フノ感ナキニアラサルモ本件私印ノ法益ハ各人固有獨立ノ法益ナリト信スルカ故ニ特ニ慎重ナル審理ヲ仰クト云フニ在リ○依テ按スルニ文書ノ偽造ハ其製作名義ニ偽リアルコトヲ謂フモノナレハ單一ナル意思ノ發動ニ因リ同時ニ二人以上ノ印章若ハ署名ヲ使用シテ權利義務ニ關スル一箇ノ文書ヲ偽造シタルトキハ其行爲タルヤ一箇ナルモ二人以上ノ作製名義ヲ偽リタルモノ即チ二箇以上ノ同一ナル文書偽造罪ニ觸ル、モノナルヲ以テ刑法第五十四條ニ所謂一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ル、モノトス何トナレハ同條ニ所謂數箇ノ罪名ニ觸ル、トハ數箇ノ別異ナル罪名ハ勿論數箇ノ同一ナル罪名ニ觸ル、場合ヲモ包含セシムル趣旨ナレハナリ原判決ノ認定ニ依レハ被告ハ行使ノ目的ヲ以テ山口秀太郎佐藤小一郎名義ノ宛名ナキ土地賣渡契約證書一通ヲ作り秀太郎小一郎ヲ欺キ其名下ニ各實印ヲ押捺セシメ擅ニ自己ノ氏名ヲ宛名トシテ記入シ以テ右兩人ヨリ被告宛ノ土地賣渡契約書ヲ偽造シタル

事實ナレハ被告ノ所爲ハ同一ナル二箇ノ文書偽造罪ニ觸ル、一箇ノ行爲ニ外ナラスシテ獨立セル數箇ノ犯罪ヲ構成スルモノニ非サルヲ以テ刑法第五十四條第一項ヲ適用スヘク同第四十五條第四十七條ノ如キ併合罪ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス而シテ舊刑法ニ在テハ私印盜用罪ト私印盜用ニ因ル私書偽造行使罪トヲ以テ結合犯ト爲サ、ルカ故ニ私印盜用罪ト私書偽造行使罪トハ罪名ヲ異ニシ各獨立ノ犯罪ナルヲ以テ單一ナル意思ノ發動ノ下ニ同時ニ二人以上ノ印影ヲ盜用シ一箇ノ文書ヲ偽造行使シタルトキハ私印盜用ト私書偽造行使トハ各一箇ノ行爲ニシテ各一罪ヲ構成スルノミ數箇ノ私印盜用罪ト數箇ノ私書偽造行使罪トヲ構成セス是レ從來本院判例ノ認ムル所ナリ故ニ原院カ被告ノ所爲ニ對シ所論ノ如キ舊刑法ノ數罪俱發例及ヒ刑法ノ併合罪ニ關スル規定ヲ適用セサリシハ正當ニシテ論旨ハ理由ナシ



○煙草專賣法第三十四條ニ所謂所持トハ自己ノ爲メニスルト他人ノ爲メニスルトヲ論セス同條所定ノ物件ヲ自己ノ監督内ニ置クノ義ナリ (明治四十二年四月九日)

(參照) 何人ト雖本法ニ於テ認メタル場合ノ外葉煙草政府ノ證票ヲ附セサル製造煙草又ハ煙草製造專用ノ器具機械及卷煙草ヲ所持シ讓渡シ若ハ讓受クルコトヲ得ス (煙草專賣法第三十四條第一項)

上告趣意書第二點原院ハ被告ノ第三ノ所爲ニ對シ煙草何本ヲ預リ被告肩書ノ自宅ニ於テ所持シタルモノナリト認定セラレタルモ此認定タルヤ事實矛盾ノ認定ニシテ法律ノ適用モ亦不當ナリト信ス (中略) 所持トハ他人ノ爲メニアラス自己ノ爲メ其物ヲ占有スルノ意ニシテ所有ト同一意義ナリ既ニ自己ノ所有トシテ所持スル以上ハ自己ニ於テ讓受クルノ筋合ナシ本件ニ於テ第一ノ所爲ニ對シ讓受ケ之ヲ消費シタリトノ事實ヲ認定シタル以上ハ第三ノ所爲ハ單ニ預リニ過キス單ニ預リノ場合ニハ前項申立ツルカ如ク罪トシテ罰スルノ規定ナシ此點ハ事實ノ認定ヲ誤リ理由不備ニシテ且ツ法律ヲ不當ニ適用セラレタル判決ナリト信スト云フニ在リ○然レトモ原判決中第三ノ犯罪事實ハ被告カ煙草專賣法ノ認メタル場合ニ非スシテ政府ノ證票ヲ附セサル製造煙草ヲ預リ之ヲ自宅ニ於テ所持シタリト云フニ在リテ同法第三十四條第一項中ニ本法ノ認メタル場合ノ外政府ノ證票ヲ附セサル製造煙草ヲ所持スルコトヲ得ストアル規定ニ違反シタルモノニ該當スルカ故ニ原審カ同法第五十七條ヲ適用處斷シタルハ相當ナリ而シテ前示第三十四條ニ所謂所持トハ自己ノ爲メニスルト他人ノ爲メニスルトヲ論セス同條所定ノ物件ヲ自己ノ監督内ニ置クノ謂ニシテ之レヲ所有ト同一意義ナリト解スルハ失當ヲ免レス故ニ原判決ノ認定スル如ク被告カ他人ノ爲メニ本件ノ物件ヲ自宅ニ於テ所持シタル場

合ト雖モ同條ノ所謂所持ニ該當スルヤ疑ヲ容レス原判決中ニ他人ヨリ預リタル旨ヲ判示シア  
ルハ被告カ所持セシ原由ヲ說示スルニ止マリ所持以外ニ預リタル所爲カ煙草專賣法上罪トナ  
ルヘキ事實ヲ構成スルコトヲ判示シタルノ趣旨ニ非ス從テ之ニ對シテ同法第三十三條其他ノ  
處罰規定ヲ適用シタルコトナキハ判文上自ラ明白ナリ原審ハ唯被告カ煙草專賣法ノ規定ニ違  
反シテ製造煙草ヲ所持シタル事實ヲ犯罪トシテ處罰シタルノミ本論旨ハ要スルニ原判示ニ適  
切ナラサル論難ニシテ適法ノ理由ナシ



○繼續犯ハ一罪トシテ論スヘキモノナレハ其行爲ノ完結シタル時期ニ於テ行ハルル法律ヲ適用スヘキモノトス故ニ舊刑法ノ實施當時ヨリ新刑法ノ實施時期ニ涉リテ繼續實行セラレタル犯罪ニ對シテハ新舊法ノ比照ヲ爲スヘキ限ニ在ラス (明治四十二年四月二十三日)

上告趣意書ノ要旨ハ被告ハ決シテ本案ノ如キ罪ヲ犯シタル覺ナキニ原院カ被告ヲ有罪ニ處分シタリシハ不當ナリ縱シ假ニ一步ヲ退キ被告ニ罪アリトスルモ被告ノ本案行爲ハ明治四十二年五月頃ヨリ同月六日ニ涉リ繼續シテ犯サレタルモノナルカ故ニ法律ノ適用ニ際シテハ須ラク新舊刑法ノ比照ヲ爲スヘキニ原院ニ於テ單ニ刑法ノミヲ適用シ同法第二百四十九條同第五十七條ニ依リ被告ヲ處分シタリシハ不當ナリト云フニ在レトモ○本上告前段ノ趣旨ハ原審ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルモノニシテ適法ノ理由トナラス而シテ原審記録ヲ閱スルニ原判決書ニハ被告ハ美濃とくヲ恐喝シ金圓ヲ收受セムコトヲ企圖シ明治四十一年九月二十三日頃右同人方ニ赴キ同人ニ對シ自分ハ特務巡查ナルカ先般賭博ヲ爲シタル際金錢ヲ拾得シタルコトアリヤト尋ネ其後同月末頃再ヒ同人方ニ到リ他人ノ金十八圓餘ヲ拾得シナカラ僅カニ金三圓ヲ出シテ示談ヲ遂ケタル趣ナルカ若シ其殘金ヲ出ササレハ警察ヘ願ヒ懲役ニ遣ルソト威嚇シ同人ヲ畏怖セシメタル末終ニ十月六日右とく方ニ於テ同人ヨリ金五圓ヲ受取リタル旨ノ記載アリテ原審ニ於テハ被告カ本案ノ罪ヲ犯スニ該リ之レカ手段ヲ施シタルハ舊刑法施行當時ナリシトスルモ其犯罪ヲ完成シタル時期即チ犯罪ノ構成ハ正ニ新刑法實施後即明治四十一年十月六日ナル事實ヲ認メタルモノナルカ故ニ原審カ本案被告ノ所爲ヲ處分スルニ當リ單ニ新刑法ノミヲ適用シタリシハ相當ニシテ縱シ假リニ被告ノ所爲ヲ所論ノ如ク舊刑法

ノ實施當時ヨリ新刑法ノ實施時期ニ涉リ繼續實行セラレタルモノトスルモ繼續犯ハ一罪トシテ論スヘキモノナルカ故其行爲ノ完結シタル時期ニ於テ行ハルル法律ヲ適用スヘキ事ハ本院ノ判例トシテ夙ニ認ムル所ナルヲ以テ被告ノ本案事件ニ對シテハ新舊法ノ比照ヲ爲スヘキモノニ非ストス左レハ何レニスルモ論旨後段ノ旨趣亦理由ナシ



○公務員カ將ニ職務ノ執行ニ着手セムトスル場合ニ於テ之ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘテ其執行ヲ妨ケタル者ハ刑法第九十五條第一項ノ責罰ヲ免ルルコトヲ得ス(明治四十二年四月二十六日)

上告趣意書第二點原判決ノ事實認定ニ依レハ被告カ小森平作ニ對シ毆打シタリトノ場所ハ被告宅ノ戶外ニアリトス刑法第九十五條第一項ノ規定ニ依レハ公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行ヲ加ヘタルモノトハ其職務ノ執行中ナルコトヲ要ス故ニ職務ヲ執行スヘキ場所ニ赴ク途中若クハ其歸途ニ於テ暴行脅迫ヲ加フルモ本罪ヲ構成セサルモノト思料ス原判決ニ於テハ被告ハ熟醉ノ體ニテ其舉動ノ穩カナラサルヨリ小森書記ハ室内ニ入ルコトヲ躊躇シ居リタリトアリ小森平作カ警察署ノ聽取書ニ同人カ戶外ニ居リタルコトハ明確ニシテ假令同人カ村長ノ代理資格ヲ以テ差押物ヲ運搬セムトテ來リタルモノトスルモ家内ノ様子穩カナラサルニ依リ差押物運搬ノ職務執行ヲ見合セ居タル事實ハ知ルヲ得ヘシ故ニ公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リト云フ事實ハ原院ニ於テ認メサル事實ナルニ之ニ對シ刑法第九十五條第一項ヲ適用シタルハ理由不備ニシテ擬律錯誤ノ裁判ナリトスト云フニ在レトモ○凡ソ公務員カ職務ノ執行中ニ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘラレ執行ヲ妨ケラルル場合ハ刑法第九十五條第一項ニ該當スルモノタルコトハ論ヲ俟タサル所ナレトモ公務員カ未タ職務ノ執行ヲ爲シ始メサルモ將ニ其執行ニ着手セムトスル場合ノ如キモ亦同條項ニ所謂「公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ云云」トアルニ該當スルモノト去レハ此時ニ於テ犯人カ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘテ其執行ヲ妨クルトキハ犯人ハ同條項ノ責罰ヲ免ルルコトヲ得ス原判決ノ認定ニ依レハ栃木縣那須郡那珂村役場書記小森平作ハ村長ノ命ニ依リ村稅滯納處分トシテ曩ニ差押ヘラレタル鼠入ラス一箇ヲ同村

役場へ運搬スル爲ニ被告ノ宅ニ到リタルニ被告ハ熟醉ノ體ニテ其舉動ノ穩カナラサルヨリ書記小森平作ハ宅内ニ入ルコトヲ躊躇シ居タル處被告ハ同書記ニ對シ暴言ヲ吐キ且拳ヲ以テ同人ノ面部ヲ毆打シタルモノニシテ右ノ事實ニ由リテ之ヲ觀レハ小森平作ハ未タ差押物ノ運搬ヲ爲シ始ムルニ至ラサリシモ其將ニ運搬ニ着手セムトシタル場合ナリシコト明ナレハ此際被告カ同人ノ面部ヲ毆打シ其執行ヲ妨害シタルハ即チ刑法第九十五條第一項ニ該當スルモノナルカ故ニ原院カ同條ニ問擬シテ處斷ヲ爲シタルハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ



○賣買取引ニ付キ證據金ヲ納メシムルト否トハ取引所ノ定款ヲ以テ定ムヘキ事項ニシテ取引ノ成立要件ニ非ス故ニ證據金ハ取引所法違犯行爲ヲ組成スル物件ニ非スシテ其行爲ノ用ニ供シタル物件ナリ (明治四十二年六月三日)

被告俊三上告趣意書第二原審裁判所カ本件取引ニ關スル證據金ト認メ上告人所持ノ債券類ヲ沒收シタルハ不法ナリ何トナレハ定期取引ニ關スル證據金ナルモノハ取引行爲ヲ組成スル必要欠ク可カラサルモノニシテ定期取引ニ證據金ヲ欠クニ於テハ到底取引行爲ハ成立ス可キモノニアラサルナリ去レハ新刑法ニ於テハ之ヲ沒收スルコトヲ得ヘシト雖モ舊刑法適用ノ時期ニ於ケル犯罪行爲ニ付テハ之ヲ沒收スル能ハサルコト多辯ヲ要セサル所ナレハナリ然ルニ原裁判所カ舊刑法第四十三條ニ依リ之カ沒收ヲ言渡シタルハ不法ヲ免カレサル判決ナリト信スト云フニ在レトモ○賣買取引ニ付キ證據金ヲ納メシムルト否トハ取引所ノ定款ヲ以テ定ムヘキ事項ニシテ賣買取引ノ成立要件ニアラス故ニ證據金ハ取引所法違犯行爲ヲ組成スル物件ニアラスシテ其違犯行爲ノ用ニ供シタル物件ナレハ原院カ舊刑法第四十三條第二項ヲ適用シテ沒收シタルハ相當ニシテ本論旨モ亦理由ナシ

○酒類製造主カ豫メ申告シタル仕込高以外ニ於テ蒸米麴米及ヒ清酒ヲ原料ト爲シ白酒ヲ密造シタル所爲ハ酒造稅法第二十四條ニ所謂不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ査定ヲ免レタルモノニ該當ス (明治四十二年六月四日)

辯護人卜部喜太郎外一名上告趣意書第五點ハ酒造稅法第二十四條ニハ詐欺其他不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ査定ヲ免レタルトキハ云云ト規定セルヲ以テ同法ヲ適用シテ被告人ヲ處罰スルニハ被告人ニ詐欺其他不正ノ所爲アルコトヲ明示セサルヘカラス然ルニ原院ノ事實認定ニ依レハ被告音次郎ハ白酒製造業者ニシテ云云自己ノ白酒製造場内ニ於テ云云酒精分二十度以下ノ白酒三十二石二斗六升二合七勺四才ヲ密造シ査定ヲ免レタリトアリ被告カ嚴密ナル酒造検査官ノ監視ノ下ニアリ自己製造場内ニ於テ如何ナル詐欺其他不正ノ所爲ヲ以テ三十餘石ノ白酒ヲ密造シテ査定ヲ免レタルカ毫モ其手段方法ヲ判示セサルハ罪トナルヘキ事實ヲ明ニセサル理由不備ノ判決ト謂ハサルヘカラス蓋シ酒類カ査定石數ヨリ増減ヲ來スニハ種種ノ事由アルコトヲ豫想スルコトヲ得ヘク被告ノ詐欺其他不正ノ手段ニ依ラス検査官ノ不注意其他偶然ノ事由ニ依リ査定石數ニ超過セル酒類ノ現在ヲ來スコトアルモ是レ酒造稅法第二十四條ニ該當セサルコト論ヲ俟タス然レハ被告カ酒類ヲ密造シタリトスレハ其手段ヲ明ニシ査定ヲ免レタリトスレハ其方法ヲ示ササル可カラス原院カ右ノ事實ヲ示サスシテ酒造稅法第二十四條ノ犯罪アリト判定シタルハ到底理由不備ノ裁判タルヲ免レスト云フニ在レトモ○原判決ヲ按スルニ「蒸米麴米及ヒ清酒ヲ原料トシテ酒精量二十度以下ノ白酒三十二石二斗六升二合七勺四才ヲ密造シ云云」ト判示シアリ右ハ豫メ申告シタル仕込高以外ニ於テ前示方法ヲ以テ白酒



ヲ密造シタリト說示シタルモノト解スヘキカ故ニ該所爲ハ酒造稅法第二十四條ニ所謂不正ノ行爲ニ該當シ之ニ因リテ查定ヲ免レタル事實ノ判示アル以上ハ罪トナルヘキ事實ヲ明示セスシテ前示法條ヲ適用シタル不法アルコトナシ

○未納稅織物引取ノ行爲中ニハ自ラ同織物所持ノ行爲ヲ包含セルモノトス  
辯護人石原毛登馬上告趣意書第一點原判決ハ上告人カ織物販賣業者ニシテ織物製造人川島竹三郎外二名ヨリ絹綿交織物ヲ消費稅納付前ニ買受ケタル所爲ヲ非常特別稅法第十條ノ所謂未納稅織物ノ引取リナリトシ第十七條ノ一第四號ノ第十條ニ該當ストシテ消費稅五倍ノ罰金ニ處セラレ又製造人タル川島竹三郎等ハ同法第十一條ニ所謂未納稅ノ織物ノ移出ナリトシテ同條同號ノ第十一條ニ該當スト云フ理由ニテ別事件ニ於テ處分セラル要スルニ一ノ未納稅取引ニ關シ雙方トモ(一方ハ第十條違反一方ハ第十一條違反)罰セラレタルナリ一見スル所ニテハ非常特別稅法ハ右原判決ノ解スルカ如ク解スヘキカ如クナレトモ實ハ上告人即チ織物(毛織物外)販賣業者ニ右ノ第十條第十七條ノ一第四號ノ第十條ヲ適用スルハ擬律ノ錯誤ナリト信ス其理由ハ右稅法ニ於テ其第七條ニ消費稅ハ毛織物ニ就テハ其引取人(販賣者若クハ需用者ナリ)毛織物外織物ニ付テハ製造人之ヲ納ムヘキ義務アルコトヲ規定セリ尤モ毛織物外織物ノ中外國ヨリ輸入ノ分ハ引取人カ納稅スヘキコトハ解釋上然ルヘシ第十條ハ右第七條ノ毛織物及輸入毛織物外織物引取人ニ關シ第十一條ハ右第七條中毛織物外織物製造人ニ關スル規定ヲ受ケテ各納稅義務違反ヲ警メ收稅ヲ確實ニスヘク規定セラレタリ故ニ第十條ハ毛織物又ハ輸入毛織物外織物引取稅違反ノ場合ニ適用スヘク本件ノ如ク内國製絹綿織ノ販賣業者ニ適用スヘカラス尙本件事實ヲ原判決ノ如ク擬律スルトキハ製造人ニ對スル制裁ト販賣業者ニ

○消費稅納付前織物ヲ引取リタル場合引取人ハ稅法第十條ノ規定ニ又製造者ニ於テ之ヲ引渡シタルトキハ同第十一條ノ規定ニ各違反スルモノトス

○未納稅織物引取ノ行爲中ニハ自ラ同織物所持ノ行爲ヲ包含セルモノトス (明治四十二年六月十八日)

辯護人石原毛登馬上告趣意書第一點原判決ハ上告人カ織物販賣業者ニシテ織物製造人川島竹三郎外二名ヨリ絹綿交織物ヲ消費稅納付前ニ買受ケタル所爲ヲ非常特別稅法第十條ノ所謂未納稅織物ノ引取リナリトシ第十七條ノ一第四號ノ第十條ニ該當ストシテ消費稅五倍ノ罰金ニ處セラレ又製造人タル川島竹三郎等ハ同法第十一條ニ所謂未納稅ノ織物ノ移出ナリトシテ同條同號ノ第十一條ニ該當スト云フ理由ニテ別事件ニ於テ處分セラル要スルニ一ノ未納稅取引ニ關シ雙方トモ(一方ハ第十條違反一方ハ第十一條違反)罰セラレタルナリ一見スル所ニテハ非常特別稅法ハ右原判決ノ解スルカ如ク解スヘキカ如クナレトモ實ハ上告人即チ織物(毛織物外)販賣業者ニ右ノ第十條第十七條ノ一第四號ノ第十條ヲ適用スルハ擬律ノ錯誤ナリト信ス其理由ハ右稅法ニ於テ其第七條ニ消費稅ハ毛織物ニ就テハ其引取人(販賣者若クハ需用者ナリ)毛織物外織物ニ付テハ製造人之ヲ納ムヘキ義務アルコトヲ規定セリ尤モ毛織物外織物ノ中外國ヨリ輸入ノ分ハ引取人カ納稅スヘキコトハ解釋上然ルヘシ第十條ハ右第七條ノ毛織物及輸入毛織物外織物引取人ニ關シ第十一條ハ右第七條中毛織物外織物製造人ニ關スル規定ヲ受ケテ各納稅義務違反ヲ警メ收稅ヲ確實ニスヘク規定セラレタリ故ニ第十條ハ毛織物又ハ輸入毛織物外織物引取稅違反ノ場合ニ適用スヘク本件ノ如ク内國製絹綿織ノ販賣業者ニ適用スヘカラス尙本件事實ヲ原判決ノ如ク擬律スルトキハ製造人ニ對スル制裁ト販賣業者ニ



對スル其レト甚タシキ不權衡ナル結果ヲ示シ到底法律ノ精神ニ合セサルヘキヲ信セシム抑各納稅義務者納稅ヲナサスシテ取引スルノ狀態ニ置キ若クハ置カムトスルヲ制裁スルカ爲メニ消費稅五倍ノ罰金ニ處ストセハ第十條ノ引取人(毛織物及毛織物外織物)モ第十一條ノ製造人(毛織物外織物)モ同シ率ニ於テ處刑セラルヘキモノナリ故ニ第十七條ノ一第四號ニ第十條第十一條ヲ並記ス然ルヲ當然ノ納稅義務者ニ非サル販賣業者(内國製ノ毛織物外織物一切ナリ)ニ第十條ヲ適用スヘシトスルトキハ當然ノ納稅義務者ナル製造人ハ單ニ第十七條ノ一ニヨリ處罰セラル、ニ拘ラス販賣業者ハ尙第十七條ノ二第十七條ノ三ノ二個條若ハ其中一個條ニ該當シ罰セラルヘキ場合ヲ生ス蓋製造人ヨリ未納稅品ヲ買受ケタルヲ引取ナリトセハ勿論無印紙織物(印紙ヲ貼用スヘキトキ)ヲ所持スルニ至ルハ必然ナルカ故ニ第十七條ノ三ハ是非トモ販賣業者ニ適用スヘク若幾分他ヘ賣リタリトセハ第十七條ノ二ヲモ適用セサルヘカラサレハナリ且斯ノ如キハ販賣業者ヲ製造人ヨリ重ク罰スルコト、ナリ別ニ其必要アルコトナケレハナリ又各種稅法中未納稅品ノ取引ニ關シ賣方買方雙方トモヲ處罰スル立法例ハ殆ト之ナシ此等ノ點ヨリシテ研究スルモ結局原判決ハ擬律ノ錯誤アルモノト云ハサルヲ得スト云フニ在レトモ○非常特別稅法第十條ニハ第六條第八條ノ一第八條ノ二又ハ第八條ノ三ニ該當スル場合ノ外消費稅納付前ニ於テハ製造場稅關又ハ保稅倉庫ヨリ織物ヲ引取ルコトヲ得ストアリテ同條ニ所謂織物トハ外國ヨリ輸入シタル毛織物以外ノ織物ノミヲ指稱シ内國製ノ毛織物以外ノ織物ハ之ヲ除外シタル制限的文詞アルコトナケレハ織物ハ其外國ヨリ輸入シタルモノナルト内國製ノモノナルトヲ問ハス總テ之ヲ包含セシメタルモノトス故ニ右織物ノ消費稅納付前

之ヲ引取リタルトキハ引取人ハ前示第十條ノ規定ニ違背シ又製造者ニ於テ之ヲ他ニ引渡シ若クハ製造場外ニ移出シタルトキハ同第十一條ノ規定ニ違反スルコトハ右條文上寔ニ明ナレハ引取人及製造人ノ行爲ハ共ニ同法第十七條ノ一ノ第四號ニ該當シ何レモ同第十七條ノ一ノ制裁ヲ免ル、コトヲ得サルヤ論ヲ俟タス而シテ織物ノ消費稅納付前之ヲ引取リタル場合ニ於テハ假令引取人カ織物販賣業者ナリト雖モ其織物ヲ販賣セサル限リハ單ニ織物ヲ引取リ所持シタルノミヲ以テ別ニ同第十七條ノ三ニ規定セル犯罪ヲ構成スヘキモノニアラス何トナレハ他人ヨリ織物ヲ引取リタル場合ハ引取行爲中ニハ引取人ノ所持ヲモ自ラ包含セルヲ以テ別罪ヲ構成スヘキ謂レナケレハナリ今原判決ヲ見ルニ被告ハ消費稅納付前ニ於テ毛織物以外ノ織物ヲ引取リタルモノニシテ相當印紙ノ貼用ナキ織物ヲ被告カ織物販賣業者トシテ所持シタル事實ハ原判決ノ認メサル所ナレハ被告ノ所爲ヲ以テ非常特別稅法第十條第十七條ノ一第四號ニ違背スルモノトシテ同法第十七條ノ一等ヲ適用シ被告ヲ處斷シタルハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ



○稅務監督局織物查定濟ノ證ナル紙票ハ當局官吏カ納稅濟又ハ移出許可ノ證トシテ使用スヘキモノナルモ毛織物以外ノ織物ニ之ヲ貼用シ證印ニ代用スルモノナレハ刑法第六十六條ノ所謂官ノ記號ニ外ナラス

○納稅濟ノ證印ハ各稅務署ニ於テ之ヲ爲スモノナルモ稅務署ノ印ヲ以テスヘキヤ將タ稅務監督局ノ印ヲ以テスヘキヤニ付テハ法律上何等ノ規定アルコトナク一ニ實際事務取扱上ノ便宜ニ任スルモノトス (明治四十二年六月十八日)

辯護人星野春吉上告趣意書第二點原判決ハ事實ヲ確定セサルノ不法アリ原判決カ認メタル事實ヲ見ルニ……當局官吏カ納稅濟若クハ移出許可ノ證トシテ毛織物以外ノ織物ニ貼用スル「秋田稅務監督局織物查定濟之證」ノ文字ヲ刷記セル紙票ヲ偽造シ……トアリテ本件偽造ノ目的物タル紙票ハ納稅濟ノ證トシテ發行セラレタルモノナルカ又移出許可ノ證トシテ發行セラレタルモノナルカヲ知ル能ハス若シ納稅濟ノ證ナルトキハ所謂稅金領收證ニ代ルヘキモノニシテ官文書タルヘク單ニ移出許可ノ證票タルニ過キサルトキハ刑法第六十六條ノ記號タルナリ之ヲ確定セスシテ直ニ刑法第六十六條ヲ適用シタルハ確定セサル事實ニ法律ヲ適用シタル不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○本件紙票ハ當局官吏カ或ハ納稅濟ノ證トシテ之ヲ使用シ或ハ移出許可ノ證トシテ之ヲ使用スヘキモノナルモ毛織物以外ノ織物ニ貼用シ證印ニ代用スルモノニシテ刑法第六十六條ニ所謂官ノ記號タルヤ論ナキヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由ナシ

辯護人飯田宏作上告趣意書第二點假リニ本件ノ紙票ハ官ノ記號印章若クハ印紙ト同性質ヲ有シ又ハ非常特別稅法第七條第二項末段ノ證印ナリトスルモ稅務監督局ハ內國稅ニ關スル事務ヲ監督スルノ職權ヲ有スルモノニシテ徵收事務ハ稅務署ノ職權ナルノミナラス非常特別稅法施行規則第十二條ノ三ニ依レハ之等ノコトニ關シ職權ヲ有スルモノハ稅務署ナルコト明定シアリ故ニ稅務監督局ハ之等ノ印章記號若クハ印紙又ハ證印票ヲ製造使用スル權能ヲ有セス然ルニ官ノ記號印章ナリトシテ處罰シタルハ不法ノ判決ナリト云フニ在リ○因テ按スルニ納稅濟ノ證印ハ各稅務署ニ於テ之ヲ爲スモノナルモ稅務署ノ印ヲ以テスルヤ稅務監督局ノ印ヲ以テスルヤニ付テハ法律上何等ノ規定アルコトナク實際事務取扱上ノ便宜ニ任セアルモノニシテ秋田稅務監督局管内ニ於テハ各稅務署ヲシテ「秋田稅務監督局織物查定濟之證」ノ文字ヲ刷記セル紙票ヲ證印ニ代ヘ貼用セシメ居ルモノナレハ原院カ被告ノ所爲ヲ官ノ印章記號偽造行使罪ニ間擬シタルハ不法ニアラス



○仲買人カ他人ノ委託ニ依リ取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲シタルトキハ取引所ニ對シ獨立シテ責任ヲ負フヘキモノナレハ其賣買取引ハ委託者カ受渡期日ニ賣買ノ目的物若クハ代金ヲ仲買人ニ交付セサルノ故ヲ以テ當然解除セラルヘキモノニ非ス又此場合ニ於テ仲買人ハ委託者ニ對シ委託ニ因リテ生シタル義務ヲ當然免除セラルヘキモノニ非ス（明治四十二年七月三日）

上告理由第一點ハ株式定期賣買ハ普通ノ賣買ト異ナリ特別ナル取引所法ニ遵ヒテ設立セル取引所ノ公定市場ニ於テ取引所法第十八、九條賣買取引ノ方法ニ關スル規定（明治二十六年七月勅令第七十四號）竝ニ取引所法施行細則（明治二十六年農商務省令第十三號）第五條ニ依リテ農商務大臣ノ認可ヲ經タル定款ニ基キ所屬ノ仲買人ニ依テノミ行ハルヘキモノニシテ其賣建又ハ買建タル各株式ハ限月内ニ轉賣買戻ノ方法ニ依リテ終了セルモノノ外ハ必ス其期月ノ受渡期日ニ於テ賣方ハ株券ヲ提供シ買方ハ代金ヲ提供シテ受渡ヲ終了セサルヘカラス而シテ受渡期日ニ株券又ハ代金ヲ提供セサルモノハ違約者トシテ處分セラルヘク受渡期日ノ後ニ至リ株券ヲ提供シテ代金ヲ受取ラムトシ或ハ代金ヲ提供シテ株券ヲ引取ラムトスルカ如キハ定期取引ノ趣旨ヲ沒却スルモノニシテ法令ノ認容セサル所也故ニ何人ト雖株式定期賣買ヲ爲サムト欲スルモノハ一一此法令定款ヲ遵守シテ其欲スル所ノ賣買ヲ仲買人ニ委託セサルヘカラス而シテ委託ヲ受ケタル仲買人ハ自己ノ賣買ト同シク仲買人ノ名義ト責任ヲ以テ叙上法令定款ニ遵ヒ委託ノ賣買ヲ爲シテ終了スヘキモノ也去レハ委託者ハ限月受渡期日ニ於テ先以テ賣方ナレハ株券ヲ提供スヘク買方ナレハ代金ヲ提供シ仲買人ヲシテ賣買ノ履行ヲ完成セシムヘキ債務ヲ負ヒ定期賣買ニ於テハ普通ノ賣買ニ於ケル同時履行ノ法則ハ之ヲ適用スルコ

トヲ得サル所也加之ナラス株式仲買人ハ問屋營業竝ニ仲立人等ト其責任ヲ異ニシ委託者ニ對シテ定期賣買ノ對手タル資格ナキコト勿論ナレハ受渡期日ニ委託者カ賣建ノ株券又ハ買建ノ代金ヲ提供セサル時則委託者ニ違約アル場合ニ於テ仲買人カ委託者ノ爲メニ取引所ヘ株券ヲ提供シ又ハ代金ヲ立替ヘテ買建ノ株券ヲ引取り置ク債務ヲ負フヘキ筋合ナキハ自明ノ理也本件被上告人ハ明治四十一年六月五日八月限大阪株式取引所株式二十株ヲ大阪株式取引所ノ公定市場ニ於テ定期買建ヲ爲スヘキコトヲ上告人ニ委託シ上告人ハ即日被上告人ノ爲メニ同市場ニ於テ之ヲ買建タルニ被上告人ハ中途轉賣ヲ爲サシテ限月（八月二十九日）引取ルコトトナシ八月限受渡期日ノ後ナル同年十月一日證據金利益金ト差引ヲ爲シタル代金殘額ヲ供託シタルモノナル事實ハ原院ノ認ムル所ナレハ本件係爭ノ株券ハ定期取引ノ方法ニ據リ上告人カ被上告人ノ爲メニ買建タル事被上告人ハ八月限ナル受渡期日ニ代金ヲ提供セサリシ事言ヲ待タス而シテ被上告人ハ本件賣買ヲ委託スルニ方リ取引所ノ定款營業細則及仲買人組合規約中ニ規定スル賣買取引ニ關スル規定竝ニ商慣習等ヲ承知ノ上上告人ニ取引ヲ委託セシトハ被上告人自認スル所也假令受渡期日ニ至リ委託者カ違約シタル場合ニ於テ仲買人カ代金又ハ株券ヲ提供スルコトアランモ是ハ仲買人カ取引所ノ爲ス違約處分ヲ免レムトスル自衛ノ策ニ外ナラスシテ委託者ノ爲メニ是等ノ提供ヲ爲スモノニ非サルナリ然ラハ即上告人ハ叙上ノ法令定款竝ニ商慣習ニ依リ受渡期日ニ代金ヲ提供セサル被上告人ニ對シテ其後ニ至リテ買建ノ株券ヲ引渡スヘキ責任ナキコト誠ニ明白ナルニ原院ハ限月受渡期日ニ之カ代金ヲ提供セサリシ債務不履行ノ責任アル被上告人ニ對シテモ尙上告人ハ成規ノ手續ヲ履踐シテ（此場合ニハ上



告人ハ代金ヲ立替ユルノ外履踐ノ道ナシ一該買建株ヲ引取タル上之ヲ上告人ニ引渡ササルヘ  
 カラサル責任アリトセルハ定期取引法ノ一端タモ辨ヘサル不法ノ判決也ト云フニ在リ○然レ  
 トモ仲買人カ他人ノ委託ニ依リ取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲シタルトキハ取引所ニ對シ獨立シ  
 テ責任ヲ負フヘキモノナレハ其賣買取引ハ委託者カ受渡期日ニ賣買ノ目的物若クハ代金ヲ仲  
 買人ニ交付セサルノ故ヲ以テ當然解除セラレヘキモノニ非ス又此場合ニ於テ仲買人ハ何等ノ  
 手續ヲ盡サスシテ當然委託者ニ對シ委託ニ因リテ生シタル義務ヲ免除セラレルノ理ナシ本件  
 ニ於テ上告人カ被上告人ノ指圖ニ從ヒ買建株式ヲ轉賣シタリトノ抗辯事實ハ全然原院ノ否認  
 スル所ナレハ上告人ハ被上告人カ受渡期日ニ代金ヲ交付セサリシトテ直ニ其責ヲ免ルヘキニ  
 非サルヲ以テ被上告人ノ委任ニ從ヒ買建テタル株式ヲ引渡スノ義務アルモノト謂ハサルヘカ  
 ラス故ニ本論旨ハ其理由ナシ

○犯罪行為ノ單一ナルヤ否ヤヲ定ムルニハ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外行為其モノ、箇數ヲ  
 以テ標準ト爲スヘキモノトス故ニ數箇ノ法益ヲ侵害シタル場合ト雖モ犯罪行為單一ナルト  
 キハ刑法第五十四條ノ規定ニ從ヒ之ヲ處分スヘキモノニシテ併合罪ニ非ス(明治四十二年  
 九月二十三日)  
 各被告辯護人高木益太郎上告趣意書(二)原審ハ被告カ「シモ及ヒノブヲ末松方ニ連込ミ同  
 家ニ抑留シ被告等ハ交々其番ヲ爲シ逃走ヲ爲ス能ハサラシメ以テ不法ニ監禁シ居リシ」行為  
 ニ對シ刑法第二百二十條第一項第五十四條第一項前段第十條ヲ適用セラレタレトモ右ノ行為  
 ヲ以テ刑法第五十四條ニ該ルモノト爲スハ擬律ニ錯誤アルモノナリト信ス右ノ行為カ犯罪ノ  
 手段若クハ結果タル關係ヲ有スル數箇ノ行為ニアラサルハ論勿シ故ニ原院カ刑法第五十四條  
 ヲ適用シタルハ右ノ行為カ一箇ノ行為ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ル、モノト爲シタルモノナラン  
 然レトモ此見解ハ謬妄ナリ抑モ行為ノ一箇ナリヤ數箇ナリヤハ行為ノ自然の意味ニ依テ別ツ  
 ヘキモノニアラス嚴確ニ行為ノ自然の意味ニ依テ行為ノ箇數ヲ分テハ如何ナル犯罪カ數箇ノ  
 行為ヲ以テ成ラサルモノアラン左レハ刑法上ニ於ケル行為ノ箇數ハ行為ノ自然の意味ニ依テ  
 之ヲ定メス刑法所定ノ罪目ニ依テ保護セラル、法益ヲ根基トシ若シ數箇ノ法益侵害カ各々犯  
 人ノ認識的行為ニ出ルトキハ偶々其法益侵害カ同一時ノ意思ノ決定同一場所ノ意思發動ニ依  
 テ爲サルト雖モ而モ其行為ハ數箇ノ行為ニ依テ犯サル、モノト爲サ、ル可カラス假令ハ私法  
 上ニ於ケル法律行為ノ箇數カ偶々同一時ノ意思ノ決定同一場所ノ意思ノ發動ニ依テナサル、  
 トキト雖モ尙ホ數箇ノ賣買數箇ノ交換等ノ法律行為ヲ包含スルコトヲ妨ケサルカ如シ是レ實  
 ニ理ニ於テ已ムヘカラサル行為區別ノ標準ニシテ亦多數學說ノ肯認スル所ナリ原院カ被告ノ



行為カ偶々同一時同一場所ニ於ケル併發行爲ナリシノ故ヲ以テ漠然自然的行為箇數ノ大體的觀念ニ依リ其行為ヲ以テ一箇ノ行為トナシ而シテ其行為ハ刑法第五十四條第一項ニ該ルモノト爲シタルモノ、如シ然レトモ本件ニ於ケル被告ノ犯行ハ被害者ト不可離的關係ヲ有スル其人ノ自由ヲ拘束シタルモノニシテ其被害者ノ數人ナルコトハ前記判示ノ如クナレハ先キニ記述シタル行為箇數區別ノ標準ニシテ認容スルニ足ルモノナランカ原院ノ判決ハ行為ノ箇數ヲ誤リ爲メニ擬律ノ錯誤ヲ來シタルノ違法アルモノト信スト云フニ在レトモ○我刑法上犯罪行為ノ單一ナルヤ否ヤヲ定ムルニハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外行為其モノ、箇數ヲ以テ標準トスヘキモノニシテ法益侵害ノ箇數ヲ以テ標準ト爲スヘキモノニアラス左レハ數箇ノ法益ヲ侵害シタリト雖モ犯罪行為ノ單一ナルトキハ併合罪ニハアラスシテ刑法第五十四條ノ規定ニ從テ處分スヘキモノナルニ依リ原判決ニ被告等カ一箇ノ不可分の行為ヲ以テ二人ヲ監禁シ即チ二箇ノ法益ヲ侵害シタル事實ヲ認メ刑法第二百二十條第一項第五十四條第一項前段第十條ニ問擬シタルハ即チ相當ニシテ擬律ノ錯誤ニアラス

○連續犯ニシテ新法施行ノ前後ニ跨ルモノハ之ヲ一罪ト爲シ其終了當時ノ法律ニ依リテ處斷スヘキモノトス(明治四十二年九月二十七日同年十一月一日同年十一月二十九日同年十二月三日)  
 各被告辯護人高木益太郎上告趣意書原判決第三ノ事實ハ被告嘉平ハ明治四十年五月ヨリ被告政吉ハ同年六月ヨリ孰レモ翌四十一年十月六日マテノ間金錢ヲ賭シ博奕シタリト云フニ在リ從テ被告等ノ行為中明治四十一年十月一日以前ニ係ル分ハ犯時法タル舊刑法第二百六十一條カ賭博罪ヲ現ニ發覺シタルコトヲ罪ノ要件トナシタル結果當然現行犯タル事實ヲ判決ニ明示セサル可カラス然ラサル限リ被告等ノ賭博行為中刑法施行前ニ係ルモノハ全然罪ヲ成サ、ル筋ナルニ拘ハラス原判決カ尙且ツ之ヲ有罪行為ナリト判示セラレタルハ理由不備ノ違法アルニアラサレハ則チ擬律錯誤ノ瑕疵アルヲ免レスト云ヒ被告ノ所爲ハ明治四十年五月ヨリ同四十一年十月六日ニ至ル迄ノ間ニ於ケル犯罪ナルカ故ニ新舊兩刑法ノ施行ニ跨リ且ツ犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタル場合ニ該當スルヲ以テ宜シク兩法ヲ比照シテ其輕キモノヲ適用セラレサル可カラサル筋合ナリ然ルニ原判決法律理由ノ部ヲ査閱スルニ前記ノ如ク判示第二及第三ノ事實タル被告ノ所爲ニ對シ專ラ刑法ノ各本條ヲ適用處斷シ刑法第六條ヲ適用セラレサリシハ右法條ノ解釋ヲ誤リタルモノニシテ畢竟擬律錯誤ノ違法アルニ歸スト云フニ在レトモ○連續犯ハ前後ノ所爲ヲ通シテ一罪ト爲シ處斷スヘキモノナレハ新法施行ノ前後ニ跨リタル連續犯ハ之ヲ一罪ト爲シ其終了當時ノ法律ニ依リテ處斷スヘキモノトス原判決ヲ査閱スルニ所論ノ第二第三ノ犯罪ハ刑法施行ノ前後ニ跨リテ行ハレタルモノニシテ其終了ハ刑法施行後ニ在リシモノナレハ同法ニ依リテ處斷スヘキモノナルコト論ヲ俟タス故ニ原院カ單ニ刑

○連續犯ニシテ新法施行ノ前後ニ跨ルモノハ之ヲ一罪ト爲シ其終了當時ノ法律ニ依リテ處斷スヘキモノトス(明治四十二年九月二十七日同年十一月一日同年十一月二十九日同年十二月三日)  
 各被告辯護人高木益太郎上告趣意書原判決第三ノ事實ハ被告嘉平ハ明治四十年五月ヨリ被告政吉ハ同年六月ヨリ孰レモ翌四十一年十月六日マテノ間金錢ヲ賭シ博奕シタリト云フニ在リ從テ被告等ノ行為中明治四十一年十月一日以前ニ係ル分ハ犯時法タル舊刑法第二百六十一條カ賭博罪ヲ現ニ發覺シタルコトヲ罪ノ要件トナシタル結果當然現行犯タル事實ヲ判決ニ明示セサル可カラス然ラサル限リ被告等ノ賭博行為中刑法施行前ニ係ルモノハ全然罪ヲ成サ、ル筋ナルニ拘ハラス原判決カ尙且ツ之ヲ有罪行為ナリト判示セラレタルハ理由不備ノ違法アルニアラサレハ則チ擬律錯誤ノ瑕疵アルヲ免レスト云ヒ被告ノ所爲ハ明治四十年五月ヨリ同四十一年十月六日ニ至ル迄ノ間ニ於ケル犯罪ナルカ故ニ新舊兩刑法ノ施行ニ跨リ且ツ犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタル場合ニ該當スルヲ以テ宜シク兩法ヲ比照シテ其輕キモノヲ適用セラレサル可カラサル筋合ナリ然ルニ原判決法律理由ノ部ヲ査閱スルニ前記ノ如ク判示第二及第三ノ事實タル被告ノ所爲ニ對シ專ラ刑法ノ各本條ヲ適用處斷シ刑法第六條ヲ適用セラレサリシハ右法條ノ解釋ヲ誤リタルモノニシテ畢竟擬律錯誤ノ違法アルニ歸スト云フニ在レトモ○連續犯ハ前後ノ所爲ヲ通シテ一罪ト爲シ處斷スヘキモノナレハ新法施行ノ前後ニ跨リタル連續犯ハ之ヲ一罪ト爲シ其終了當時ノ法律ニ依リテ處斷スヘキモノトス原判決ヲ査閱スルニ所論ノ第二第三ノ犯罪ハ刑法施行ノ前後ニ跨リテ行ハレタルモノニシテ其終了ハ刑法施行後ニ在リシモノナレハ同法ニ依リテ處斷スヘキモノナルコト論ヲ俟タス故ニ原院カ單ニ刑



法第八十六條ヲ適用シテ處斷ヲナシタルハ相當ナリトス而シテ同法條ニハ舊刑法第二百六十一條ノ如ク現ニ賭博ヲ行ヒタルコトヲ以テ成立ノ要件トナサ、ルカ故ニ原院カ所論ノ如ク現行犯ナルヤ否ヤヲ判示セサルモ理由不備ノ判決ナリト云フヲ得ス因テ本論旨ハ理由ナシ

○數人共同シテ一團ト爲リ賄賂ヲ收受費用シタル場合ニ於テ其價額ヲ追徵スルニハ分配金額ノ多少ニ拘ハラズ各犯人ヲシテ平等ニ分割シタル數額ヲ負擔セシムヘキモノトス  
(明治四十二年十月五日)  
被告哲夫上告趣意書第一點凡賄賂ノ收受金ハ現ニ收受ヲナシテ費用シタル現實ノ金額ヲ追徵スヘキモノナルコトハ瀆職法第二條並ニ追徵ノ性質ニ徵シ明白ナリ然ルニ原判決カ被告等通謀ノ事實アリトシ直ニ各自ニ其全部ノ追徵ヲ命スヘキモノナリト判示シ各被告ノ現實收受シタリト認ムヘキ金額ヲ(豫審決定並ニ第一審判決ニハ各被告ノ現實收受ノ金額ヲ認定セリ)明カニ判斷セサリシハ理由ノ不備アルモノトス而シテ本件ノ場合ヲ以テ共同收受ナリトスルモ共同收受ノ場合ハ各自ニ全部追徵ノ責務ヲ命スヘキモノナリトノ法理ノ在存ヲ認メス又追徵金ハ裁判費用ノ如ク共犯者間連帶責任ナリトスル等特別規定アルニアラサレハ單ニ共謀ナリトノ故ヲ以テ現ニ收受セサル部分ニ對シテモ換言セハ其全部ニ對シ各被告共同ノ責任アリト論スルヲ得サルハ言ヲ俟タス(明治四十一年(レ)第一二〇七號本年三月二十三日御院判例引用)故ニ原判決ハ擬律ノ錯誤アル失當ノ判決ナリトスト云フニ在リ○因テ按スルニ原判決ニハ被告哲夫カ被告實及ヒ芳太郎ト通謀シテ其大阪府會議員タル職務ニ關シテ相被告於勢半三郎ヨリ賄賂トシテ金八百五十圓ヲ收受シタル事實ヲ判示シアルヲ以テ被告等各自カ收得シタル金額ノ明示ナキモ理由ノ不備アルモノニ非ス本論旨ノ前段ハ其理由ナシ然レトモ數人カ共同シ一團ト爲リ賄賂ヲ收受シタル場合ニ於テハ共犯人其全部ニ付キ責任ヲ負フヘク各自カ分配ヲ受ケタル部分ノミニ付キ責任ヲ負フモノニ非ス而シテ又費用シタル賄賂ヲ追徵スル場

○數人共同シテ一團ト爲リ賄賂ヲ收受費用シタル場合ニ於テ其價額ヲ追徵スルニハ分配金額ノ多少ニ拘ハラズ各犯人ヲシテ平等ニ分割シタル數額ヲ負擔セシムヘキモノトス  
(明治四十二年十月五日)

被告哲夫上告趣意書第一點凡賄賂ノ收受金ハ現ニ收受ヲナシテ費用シタル現實ノ金額ヲ追徵スヘキモノナルコトハ瀆職法第二條並ニ追徵ノ性質ニ徵シ明白ナリ然ルニ原判決カ被告等通謀ノ事實アリトシ直ニ各自ニ其全部ノ追徵ヲ命スヘキモノナリト判示シ各被告ノ現實收受シタリト認ムヘキ金額ヲ(豫審決定並ニ第一審判決ニハ各被告ノ現實收受ノ金額ヲ認定セリ)明カニ判斷セサリシハ理由ノ不備アルモノトス而シテ本件ノ場合ヲ以テ共同收受ナリトスルモ共同收受ノ場合ハ各自ニ全部追徵ノ責務ヲ命スヘキモノナリトノ法理ノ在存ヲ認メス又追徵金ハ裁判費用ノ如ク共犯者間連帶責任ナリトスル等特別規定アルニアラサレハ單ニ共謀ナリトノ故ヲ以テ現ニ收受セサル部分ニ對シテモ換言セハ其全部ニ對シ各被告共同ノ責任アリト論スルヲ得サルハ言ヲ俟タス(明治四十一年(レ)第一二〇七號本年三月二十三日御院判例引用)故ニ原判決ハ擬律ノ錯誤アル失當ノ判決ナリトスト云フニ在リ○因テ按スルニ原判決ニハ被告哲夫カ被告實及ヒ芳太郎ト通謀シテ其大阪府會議員タル職務ニ關シテ相被告於勢半三郎ヨリ賄賂トシテ金八百五十圓ヲ收受シタル事實ヲ判示シアルヲ以テ被告等各自カ收得シタル金額ノ明示ナキモ理由ノ不備アルモノニ非ス本論旨ノ前段ハ其理由ナシ然レトモ數人カ共同シ一團ト爲リ賄賂ヲ收受シタル場合ニ於テハ共犯人其全部ニ付キ責任ヲ負フヘク各自カ分配ヲ受ケタル部分ノミニ付キ責任ヲ負フモノニ非ス而シテ又費用シタル賄賂ヲ追徵スル場







○公務員カ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行ヲ加ヘ其身體ヲ傷害シタルトキハ同一行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルルモノナレハ刑法第五十四條ニ依リ重キニ從テ處斷セサルヘカラス (明治四十二年十月八日)

辯護人村松山壽同伊藤金次郎上告趣意書第三點原判決法律適用ノ部ヲ査閱スルニ「被告ハ公務員ノ職務執行ニ當リ之ニ對シ暴行ヲ加ヘタル所爲ハ刑法第九十五條第一項ニ傷害ノ所爲ハ同第二百四條ニ該ル一所爲ニ罪名ニ觸レタルモノナルヲ以テ刑法第五十四條ニ依リ云云」ト判示セラレタリ然レトモ元來刑法第九十五條ノ犯罪ハ公務員ニ對スル暴行ヲ以テ其構成要素トスルモノナレハ傷害罪ノ實質(傷ヲ生セシメサル場合モ包含ス)同條ノ暴行云云ノ犯罪ニハ常ニ構成要素トシテ隨伴スルモノト云ハサル可カラス而シテ之ニ對シ一所爲ニ罪名ニ觸ルルモノトシテ原判決ノ如ク法律ヲ適用シ得ルモノトセハ其結果職務執行中ノ公務員ニ對スル暴行者ニハ如何ナル場合ニ於テモ苟モ刑法ノ變更セラレサル限りハ刑法第九十五條第一項ニ定メタル刑期ニ依リテ處罰セラルル場合ナキカ如キ極メテ奇怪ナル結果ヲ生スルニ至ラム何トナレハ刑法第九十五條ノ暴行云云ハ即其實質刑法ノ傷害罪ナルハ即チ前ノ如ク而カモ傷害罪ノ刑期ハ同條ノ刑期ヨリ其長期長ク又長キニ從フハ刑法ノ原則ナレハナリ按スルニ刑法ハ全然適用セサルカ如キ無用ノ刑期ヲ明文ヲ以テ定ムル理由ナキヲ以テ前示ノ如キ解釋ハ到底容ル可キニアラス果シテ然ラハ本件ノ如ク他ノ罪名ニ常ニ觸ルル可キ構成要素ヲ具備スル犯罪ニアリテハ其要素ヲ捕ヘ來リテ刑法第五十四條ノ所謂他ノ罪名ニ觸ルルモノト云フヲ得サル筋合ナルニ原判決ハ右理論ヲ無視シ本件ニ對シ刑法第九十五條ノ外更ニ同第二百四條並ニ

刑法第五十四條ヲ適用處斷セラレタルハ違法ナリト云フニ在リ○然レトモ刑法第九十五條第一項ハ公務員ノ職務執行ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ヲ處罰スルノ規定ニシテ右暴行ニ因リテ公務員ノ身體ヲ傷害シタル者ニ對スル處罰ヲ包含セス故ニ傷害ノ所爲ニ付キテハ同法第二百四條ニ依ルヘキモノトス而シテ公務員ノ職務執行ニ對スル暴行ノ所爲ト右暴行ニ因リテ公務員ヲ傷害シタル所爲トハ素ト同一行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルルモノニ該當スルヲ以テ同法第五十四條ヲ適用シテ重キニ從テ處斷スヘキモノナリ故ニ原判決ノ擬律ニハ所論ノ如キ違法アルコトナシ



○取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一ノ方法ニ依リ賣買取引ヲ爲シタル以上ハ假令其取引ハ仲買人ニ依テ行ハレタルモノニ非サルモ取引所法違反罪(同法第二十五條)ノ成立ヲ妨ケス

○刑法施行前意思ヲ繼續シテ數次ニ取引所法違反ノ所爲(同法第二十五條)ヲ行ヒタルトキハ同法第三十二條及ヒ舊刑法總則ヲ適用シテ之ヲ處斷スヘキモノトス故ニ該犯罪ニ對シテ刑法第五十五條ヲ適用シタル判決ハ不法ナリ(明治四十二年十月十一日)

被告退藏上告趣意書第二原審ノ判決理由ニ依レハ被告自ラ對手トナリ取引所ノ定期取引ト同一ノ方法ニ依レル取引ヲナシタルモノノ如クナルモ廣島米取引所否一般取引所ノ取引ハ仲買人ニ依ラサレハ不可能ニシテ原審ノ認メラレタルカ如ク仲買人ニ依ラス被告自ラ客ニ對スル相對人ナリトセハ是レ固ヨリ取引所ノ定期取引ト同一ノ方法ニ依ル取引ニアラサルニ付取引所法第二十五條ニ觸ル、モノニアラサレハ此ノ認定ニ對スル同條ノ適用ハ不法ナリト云フニ在レトモ○取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一ノ方法ニヨリ賣買取引ヲ爲シタル以上ハ取引所法第二十五條違反ノ罪ヲ構成ス可ク賣買取引カ仲買人ニ依テ爲サレサルノ故ヲ以テ取引所ノ取引ト同一ノ方法ニ非スト云フコトヲ得ス從テ本論旨ハ理由ナシ  
辯護人法學博士花井卓藏辯護人渡邊澄也上告趣意書第四點原判決ハ刑法第五十五條ヲ適用シタレトモ本件ハ舊刑法時代ノ犯罪ニシテ同條ノ支配ヲ受ク可キモノニアラス假リニ同條ノ支配ヲ受ケ得ヘキモノトスルモ同法第八條ヲ適用シテ而シテ後第五十五條ニ及ホス可キモノトス原判決ハ爰點ニ於テ法則ノ適用ヲ誤レリト云フニ在リ○依テ原判決ヲ査閱スルニ其事實認

定ノ部ニ被告正吉庄八ハ共謀シテ明治四十一年初旬ヨリ同年四月十日過頃ニ至ル迄ノ間犯意ヲ繼續シテ數十回ニ被告幸兵衛ハ被告豐藏ト共謀シテ明治三十九年十一月九日頃ヨリ明治四十年四月十日頃ニ至ル間犯意ヲ繼續シテ數十回ニ取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一ノ方法ニヨリ米ノ賣買取引ヲ爲シタル事實ヲ判示シアリテ右判示ノ犯罪ハ孰レモ刑法施行前ニ終了シタルモノニシテ取引所法ハ刑法及ヒ刑法施行法ノ實施ニ因リ其主刑ノ刑名ヲ變更セラレタルモ取引所法第二十五條第三十二條ノ違反タル本案被告事件ニ付テハ其刑タル罰金額ハ變更セラレサルカ故ニ刑法第六條ヲ適用シテ新舊法ノ對照ヲ爲ス可キ場合ニアラサルヲ以テ本件犯罪ニ付テハ單ニ取引所法第二十五條第三十二條及犯罪當時ノ法律タル舊刑法總則ヲ適用シテ處斷スヘク刑法總則ノ規定ハ本件犯罪ニ付テハ適用ナキモノトス然ルニ原判決ニ於テ本件犯罪ニ對シテ刑法第五十五條ヲ適用シタルハ擬律ニ錯誤アル違法ノ裁判ニシテ本論旨ハ理由アリ從テ被告正吉庄八幸兵衛ニ關スル原判決ハ此點ニ於テ破毀ヲ免カレサルモノトス



○裁判所カ連續セル數箇ノ犯罪行為ヲ一罪トシテ處分シタル以上ハ刑法第五十五條ノ規定ヲ適用シタルコト自ラ明白ナレハ判文上特ニ該法條ヲ掲ケサルモ不法ニ非ス(明治四十二年十月十一日)辯護人渡邊輝之助上告趣意書ハ(前略)然リ而シテ判決ノ示ス所ニ依レハ三月十七日夕ヨリ同二十四日朝迄ニ至ル間ニ行ハレタル繼續犯ナルニ其措置ヲ爲サ、ルハ擬律ノ錯誤ナリト云フヘシト云フニ在リ○依テ按スルニ(中略)又法律ノ正條ハ必スシモ判決ニ之ヲ掲記スルコトヲ要セス其之ヲ適用シタルコトカ判文上明ナレハ即チ足ル今原判決ヲ見ルニ被告カ連續シテ數次ニ行ヒタル本件詐欺取財ノ所爲ヲ一罪トシテ處分シアリテ所論刑法第五十五條ヲ適用シタルコト自ラ明カナレハ判文上特ニ右法條ヲ掲ケタル廉ナシトテ直ニ擬律錯誤ノ不法アルモノト云フコトヲ得ス故ニ論旨ノ後段モ亦理由ナシ

○同一ノ物件ニ付キ沒收ノ理由二箇存スル場合ニ在テハ其中一箇ノ理由ヲ說示スレハ足り必スシモ二箇ノ理由ヲ說示スルコトヲ要セス(明治四十二年十月十四日)(明治四十三年五月六日)辯護人渡邊澄也上告趣意書第一點原判決ハ第三事實トシテ被告ハ里見喜作名義ノ手紙ヲ偽造シ之ヲ石川松次郎ニ提出行使シ松次郎ヨリ金圓ヲ騙取セムトテ其目的ヲ達セサルモノト認定シ文書偽造行使ノ點ハ刑法第百五十九條第一項第百六十一條第一項ニ問擬セリ左レハ被告ノ偽造シタル里見喜作名義ノ手紙ハ文書偽造行使罪ヲ構成スルト共ニ詐欺取財ノ犯罪行為ニ供シタルモノナルコト明白ナレハ刑法第十九條第一項第一號第二號ニ依リ處分スヘキ筈ナルニ拘ハラス同條第一項第一號ヲ適用セサル原判決ハ擬律錯誤ノ不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○同一物件ニ付キ沒收ノ理由二箇存スル場合ニ在テハ其中一箇ノ理由ヲ說示スルヲ以テ足り必スシモ二箇ノ理由ヲ說示スルコトヲ要スルモノニアラサレハ本論旨ハ理由ナシ

○同一ノ物件ニ付キ沒收ノ理由二箇存スル場合ニ在テハ其中一箇ノ理由ヲ說示スレハ足り必スシモ二箇ノ理由ヲ說示スルコトヲ要セス(明治四十二年十月十四日)(明治四十三年五月六日)辯護人渡邊澄也上告趣意書第一點原判決ハ第三事實トシテ被告ハ里見喜作名義ノ手紙ヲ偽造シ之ヲ石川松次郎ニ提出行使シ松次郎ヨリ金圓ヲ騙取セムトテ其目的ヲ達セサルモノト認定シ文書偽造行使ノ點ハ刑法第百五十九條第一項第百六十一條第一項ニ問擬セリ左レハ被告ノ偽造シタル里見喜作名義ノ手紙ハ文書偽造行使罪ヲ構成スルト共ニ詐欺取財ノ犯罪行為ニ供シタルモノナルコト明白ナレハ刑法第十九條第一項第一號第二號ニ依リ處分スヘキ筈ナルニ拘ハラス同條第一項第一號ヲ適用セサル原判決ハ擬律錯誤ノ不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○同一物件ニ付キ沒收ノ理由二箇存スル場合ニ在テハ其中一箇ノ理由ヲ說示スルヲ以テ足り必スシモ二箇ノ理由ヲ說示スルコトヲ要スルモノニアラサレハ本論旨ハ理由ナシ

○同一ノ物件ニ付キ沒收ノ理由二箇存スル場合ニ在テハ其中一箇ノ理由ヲ說示スレハ足り必スシモ二箇ノ理由ヲ說示スルコトヲ要セス(明治四十二年十月十四日)(明治四十三年五月六日)辯護人渡邊澄也上告趣意書第一點原判決ハ第三事實トシテ被告ハ里見喜作名義ノ手紙ヲ偽造シ之ヲ石川松次郎ニ提出行使シ松次郎ヨリ金圓ヲ騙取セムトテ其目的ヲ達セサルモノト認定シ文書偽造行使ノ點ハ刑法第百五十九條第一項第百六十一條第一項ニ問擬セリ左レハ被告ノ偽造シタル里見喜作名義ノ手紙ハ文書偽造行使罪ヲ構成スルト共ニ詐欺取財ノ犯罪行為ニ供シタルモノナルコト明白ナレハ刑法第十九條第一項第一號第二號ニ依リ處分スヘキ筈ナルニ拘ハラス同條第一項第一號ヲ適用セサル原判決ハ擬律錯誤ノ不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○同一物件ニ付キ沒收ノ理由二箇存スル場合ニ在テハ其中一箇ノ理由ヲ說示スルヲ以テ足り必スシモ二箇ノ理由ヲ說示スルコトヲ要スルモノニアラサレハ本論旨ハ理由ナシ



○刑法第五十四條ニ所謂行為ハ犯人ノ意思實行ト其實行ニ基ク結果トヲ包括セルモノトス

(明治四十二年十月十四日)

辯護人高木益太郎上告趣意書第一點原院認定事實ニ依レハ被告ハ明治四十二年一月二十六日吉土實村民ノ名義ヲ以テ告發書ヲ作り之ヲ廣島地方裁判所檢事局ヘ提出シテ板野清次郎大林逸作竹崎平四郎ノ三名ヲ誣告シタルモノナリ原院ハ此犯罪ハ一箇ノ行為カ三箇ノ罪目ニ觸レタルモノナリトシ之ニ刑法第五十四條第一項ヲ適用セリ此判決ハ擬律ニ錯誤アリ抑モ犯罪行為ノ一箇ナリヤ數箇ナリヤ一見其行為ノ自然の意味ニ於テ之ヲ決定スヘキカ如シト雖モ若シ此法則ニ從テ總テノ犯罪行為ヲ見ハ殆ト如何ナル犯罪ト雖モ數箇ノ行為ヲ以テ成ラサルモノナク同一時同一場所ニ於テ一ノ犯人カ一ノ被害者ヲ捉ヘ數回ノ暴行ヲ加ヘ數箇ノ傷害ヲ負ハシメタリトセハ其行為ハ數箇ヨリ成ルモノト云ハサル可ラサルヲ以テ刑法第五十五條ヲ適用シ連續犯ニ關スル正條ヲ引クニアラヌムハ一罪ト爲スコト能ハサルニ至ルヘシ然レトモ此場合ニ於テ之ニ刑法第五十五條ヲ引キ又ハ之ヲ數行為ト爲スモノナキハ從來學者又ハ判例ノ之ヲ唱出スルナキニ徴シ明ナレハ犯罪行為ノ箇數ハ決シテ其自然の意味ニ倚ツテ決定スルモノニアラサルハ言フ俟タス然ラハ其箇數決定ノ標準ハ唯之ヲ刑法本來ノ目的ニ考ヘ之ニ適應スル理論ニ依テ定ムルノ外ナシト云ハサルヲ得ス按スルニ刑法ノ目的ハ之ニ依テ特種法益ノ保護ヲ圖ルニ在リ故ニ若シ之ヲ侵スモノアルトキハ其犯シタル行為ヲ犯罪トシ犯シタルモノヲ犯人トシ因テ以テ之ヲ處罰スルモノナリ左レハ刑法ノ真隨ハ行為ノ外形ヲ罰スルニ非スシテ其行為ニ依ル特種法益ノ侵害ヲ罰スルモノト云フヘキカ故ニ犯罪行為ノ箇數モ亦其法益侵

害ノ數ニ依テ之レヲ分タサルヘカラサレハ自ラ明白ナラム然ラヌムハ刑法ハ其目的ノ大半ヲ達スル能ハサルニ至ルヘク巧ミナル犯人ハ一箇ノ行為ニ依リ數箇數十箇ノ法益ヲ侵害スルモ唯其中一ノ重キニ從テ處斷セラルルノ結果刑法第四十七條等ノ規定ハ毫モ其立法ノ目的ヲ達スル能ハサルニ至ルヘシ是レ實際ノ結果ニ外ナラサルモ之レニ依ルモ略ホ刑法上ニ於ケル行為ノ箇數ハ如何ナル標準ニ依テ分ツヘキカヲ定ムルノ資ト爲スコトヲ得ヘシ而シテ斯ノ如ク行為ノ箇數ヲ自然の意味ニ依テ定メサルハ獨リ刑法上ニ於ケル特異ノ事象ニアラスシテ私法上ニ於テモ亦事例ノ存スル所ナリ即チ數箇ノ契約ノ申込ニ對シ唯一言承諾ノ旨ヲ示スモ尙數箇ノ承諾アリタルモノト解シ數箇ノ法律行為アリトナスカ如キ是レナリ果シテ然ラハ法律上ニ於テハ亦法律上ノ意義ニ依テ成語ノ意義ヲ爲スヘキカ故ニ刑法上ニ於ケル行為ノ意義ヲ解シ之ヲ前示ノ如クナスハ最モ妥當ヲ得タルモノト爲ササルヘカラス然ルニ原院ハ冒頭認定事實ニ對シ之ヲ一箇ノ行為ト解シテ刑法第五十四條ヲ適用セリ是レ其認定事實ニ對シ正條ヲ誤解シテ之レニ副ハサル法律ヲ適用シタルモノナルカ故ニ擬律錯誤ノ不法アルモノト信スト云フニ在リ○依テ按スルニ刑法第五十四條ハ一箇ノ行為ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルル場合ニ付テ規定セリ即チ同條ハ一箇ノ行為ニシテ法律カ刑罰ヲ制裁トシテ保護スル法益ノ數箇ヲ侵害スル場合ヲ規定セルカ故ニ同條ニ所謂行為ノ箇數ヲ定ムル標準ハ行為ニ因テ侵害サル所ノ法益ノ箇數ニ依ルヘキモノニ非サルコトハ同法文ノ趣旨ニ徴シテ明了ナリトス然レハ同條ニ所謂行為トハ犯人ノ意思實行ト其意思實行ニ基ク結果トヲ包括シタルモノニシテ行為ノ箇數モ亦此ノ因果ノ關係ヲ有スル意思實行ト結果トヲ基本トシ算スヘク二者各二箇以上アルニ非サ



ル以上ハ行爲ハ數箇アリト謂フコトヲ得サルモノト解スルヲ穩當ナリトス而シテ原判決ニ於テ認定シタル事實ニ依レハ被告ハ廣島縣賀茂郡吉土實村村長武田豐四郎同村區長榎野清次郎同村區長代理大林逸作及ヒ同村竹崎平四郎ノ四名ヲシテ刑事ノ處分ヲ受ケシムル爲メ右四名ヲ誣告シタルモ其誣告ノ手段トシテハ原判決ハ被告カ判示虛偽ノ事實ヲ記載セル告發書一通ヲ判示ノ檢事局ニ提出シタルコトヲ認定シタルモノト解スヘキカ故ニ被告カ誣告ノ手段トシテ採リタル意思ノ實行ハ一箇タルニ過キササルヲ以テ假令此一箇ノ意思實行ニ因リ前記數名ヲ誣告シタル結果ヲ生スルモ判示被告ノ行爲ハ一箇ナリト謂ハサルヘカラス而シテ刑法第五十四條ニ所謂數箇ノ罪名ニ觸ルルトハ異ナリタル數箇ノ罪名ニ觸ルル場合ノミナラス同一罪名ニ數回觸ルル場合ヲモ包含スルモノト解スヘク此解釋ハ當院從來ノ判例ニ於テ認ムル所ナリ然レハ原判決ニ於テ右判示事實ニ對シ被告カ豐四郎外三名ヲ誣告セシハ各刑法第七十二條第六十九條ニ該當シ一箇ノ行爲ニシテ四箇ノ罪名ニ觸ルルモノトシテ同法第五十四條第一項ヲ適用シタルハ正當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

○刑法第五十四條ノ場合ハ次條ノ連續犯ト共ニ一罪トシテ規定セラレタルモノニシテ數罪ノ處斷方法ヲ規定シタルモノニ非ス（明治四十二年十月二十一日）  
被告辯護人中島松次郎上告趣意書ハ一件記録ヲ按スルニ豫審請求書ニハ事實ノ概略ト題シ司法警察官意見書記載ノ事實但シ昨二十六日及送致置候同人ニ對スル官吏抗拒其他ノ事件ト關聯スルニ付キ同事件ト共ニ審理相成度候也トアリ次ニ檢事上松操ノ現行犯處分ニ關スル意見書ニハ被告ハ留置場ヲ逃走セムトシ巡查ニ抗拒シ且之レニ創傷ヲ負ハシメタル旨ノ記載アリ而シテ豫審終始決定書ニ依レハ被告ハ竊盜罪ノ外公務員ノ職務執行妨害罪及傷害逃走ノ三罪ヲ犯シタルモノト肯定セラレタリ是レニ依テ觀レハ本件起訴ノ事實ハ竊盜傷害逃走及公務員ノ職務執行妨害ノ四罪タルコト蓋シ疑ナシ然ルニ原判決ハ竊盜及傷害ノ二罪ニ對シテハ有罪逃走罪ニ對シテハ無罪ヲ言渡シタルトモ職務執行妨害罪ニ對シテハ何等言渡ヲ爲シタル所ナク只其理由ニ於テ原判決ハ「第二ノ所爲ハ傷害罪ト公務員ノ職務執行抗拒罪ヲ構成スルモノトシ擬スルニ刑法第二百四條ノ外尙ホ同法第九十五條第一項ヲ以テシ同法第五十四條第一項ヲ適用シ重キ傷害罪ノ刑ニ從テ處斷スヘキモノトナシタルハ法律ノ適用ヲ誤リタル不當アリ」トノミ判示シタルニ過キス故ニ原判決ハ訴ヲ受ケタル事件ニ對シテ判決ヲナサ、ルノ不法アリ或ハ起訴事實ハ被告ハ假留置場ヨリ逃走セムト企テ巡查青砥鉦司ノ帶劍ヲ取り巡查上村豐ニ向ヒ切付ケムトシタル際青砥カ之ヲ抑制セムトシタルヨリ同人ニ切付ケ數個ノ創傷ヲ負ハシメ極力抵抗ノ末假留置場ヲ逃走シタリト云フニ在ルカ故ニ刑法第五十四條ニヨリ一罪ヲ以テ處斷スヘキモノナレハ假令職務妨害ノ點カ罪トナラストスルモ別ニ無罪ヲ言渡スモノ

○刑法第五十四條ノ場合ハ次條ノ連續犯ト共ニ一罪トシテ規定セラレタルモノニシテ數罪ノ處斷方法ヲ規定シタルモノニ非ス（明治四十二年十月二十一日）  
被告辯護人中島松次郎上告趣意書ハ一件記録ヲ按スルニ豫審請求書ニハ事實ノ概略ト題シ司法警察官意見書記載ノ事實但シ昨二十六日及送致置候同人ニ對スル官吏抗拒其他ノ事件ト關聯スルニ付キ同事件ト共ニ審理相成度候也トアリ次ニ檢事上松操ノ現行犯處分ニ關スル意見書ニハ被告ハ留置場ヲ逃走セムトシ巡查ニ抗拒シ且之レニ創傷ヲ負ハシメタル旨ノ記載アリ而シテ豫審終始決定書ニ依レハ被告ハ竊盜罪ノ外公務員ノ職務執行妨害罪及傷害逃走ノ三罪ヲ犯シタルモノト肯定セラレタリ是レニ依テ觀レハ本件起訴ノ事實ハ竊盜傷害逃走及公務員ノ職務執行妨害ノ四罪タルコト蓋シ疑ナシ然ルニ原判決ハ竊盜及傷害ノ二罪ニ對シテハ有罪逃走罪ニ對シテハ無罪ヲ言渡シタルトモ職務執行妨害罪ニ對シテハ何等言渡ヲ爲シタル所ナク只其理由ニ於テ原判決ハ「第二ノ所爲ハ傷害罪ト公務員ノ職務執行抗拒罪ヲ構成スルモノトシ擬スルニ刑法第二百四條ノ外尙ホ同法第九十五條第一項ヲ以テシ同法第五十四條第一項ヲ適用シ重キ傷害罪ノ刑ニ從テ處斷スヘキモノトナシタルハ法律ノ適用ヲ誤リタル不當アリ」トノミ判示シタルニ過キス故ニ原判決ハ訴ヲ受ケタル事件ニ對シテ判決ヲナサ、ルノ不法アリ或ハ起訴事實ハ被告ハ假留置場ヨリ逃走セムト企テ巡查青砥鉦司ノ帶劍ヲ取り巡查上村豐ニ向ヒ切付ケムトシタル際青砥カ之ヲ抑制セムトシタルヨリ同人ニ切付ケ數個ノ創傷ヲ負ハシメ極力抵抗ノ末假留置場ヲ逃走シタリト云フニ在ルカ故ニ刑法第五十四條ニヨリ一罪ヲ以テ處斷スヘキモノナレハ假令職務妨害ノ點カ罪トナラストスルモ別ニ無罪ヲ言渡スモノ



ニアラスト云フモノアラム然レトモ右第五十四條ハ一罪ナリヤ數罪ナリヤヲ定メタルニアラ  
 スシテ只或ル場合ニ於テハ之ヲ併合罪トナサス其重キ一罪ヲ以テ處斷スル旨ヲ定メタルニ過  
 キサレハ二個有罪ナルニ於テハ其重キ一罪ヲ以テ處斷スト雖モ他ノ一個ニシテ罪ヲ構成セサ  
 ルニ於テハ之ニ對シ無罪ヲ言渡サ、ルヘカラス現ニ原判決カ傷害罪ノ結果タル逃走罪ニ對シ  
 テ無罪ヲ言渡シタルニヨルモ亦自ラ明カナルヘシ故ニ難者ノ攻撃ハ理由ナシト云フニ在レト  
 モ○刑法第五十四條規定ノ場合ハ一罪ヲ構成スルニ止マリ同條ハ其一罪ニ對スル處斷方法ヲ  
 規定スルモノニシテ數罪ニ對スル處斷方法ヲ規定シタルモノニアラス數罪タル併合罪ニ付二  
 個以上ノ裁判アリタル場合ニ於ケル其罪ノ執行方法ニ關シテハ同法第五十一條ノ規定アルモ  
 同法第五十四條ノ場合ニ關シテ二個以上ノ裁判アリタル場合ニ付同法第五十一條ノ如キ規定  
 ヲ設ケサルニ由テ觀レハ同條規定ノ場合ハ數罪ニ關スル規定ニアラスシテ次條第五十五條ニ  
 規定スル連續犯ト共ニ一罪トシテ規定セラレタルモノナルコト明了ナリトス而シテ公訴事實  
 中一罪タル關係ヲ有スヘキモノ、一部カ無罪タル場合ニ於テ他ノ部分ヲ有罪トシ之ニ對シテ  
 有罪ノ言渡ヲナシタル以上ハ其無罪ノ部分ニ付特ニ之カ言渡ヲナスヘキモノニ非ス從テ一個  
 ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ル、モノトシテ刑法第五十四條第一項前段ニヨリ一罪タル關係  
 ヲ有スヘキ所論傷害ト公務員ノ職務執行妨害トノ公訴事實ニ付原判決ニ於テ公務員ノ職務執  
 行妨害ノ點ハ罪トナラサルモノトシ傷害ノ點ニ付テ法律理由ヲ付シ有罪ノ言渡ヲナシタル以  
 上ハ其無罪ノ部分ニ付特ニ之カ言渡ヲナサ、ルノ不法アリト云フコトヲ得ス故ニ本論旨ハ理  
 由ナシ

○牽聯シタル文書偽造ノ行爲カ數個併發セル場合ニ於テ其間ニ手段結果ノ關係アルヤ否ヤハ  
 併合罪ノ規定ヲ適用スルト否トニ關スル重要ノ事項ナレハ判決ニハ其關係ノ有無ヲ知ルニ  
 足ルヘキ程度ニ於テ事實理由ヲ明示セサルヘカラス（明治四十二年十一月九日）

辯護人布施辰治上告趣意書第一點ハ原院判決ノ趣意ヲ要約スレハ「被告次郎吉ハ酒色ノタ  
 メ財産ヲ蕩盡シ遊興ノ資ニ窮シタルニヨリ其妻「ナミ」ノ所有地所ヲ擅ニ處分シテ金錢ヲ得  
 ムト企テ其手段ニ供スルタメ先ツ小泉ナミノ委任狀ヲ必要トシ且ツ右委任狀ノ作成ニ要スル  
 「小泉ナミ」ナル同人ノ印ヲ偽造シテ印鑑新調届及印鑑證明願各一通ノ偽造ヲ遂ケ明治四十  
 二年二月九日同郡那珂村役場ニ提出シテ行使シタリト云フニ在リテ要スルニ本件ノ事實トシテ  
 原審ノ認定シタル所ハ「小泉ナミ」ノ委任狀ヲ偽造行使スルノ目的ヲ以テ其手段トシテ同人  
 ノ印章ヲ偽造シ且印鑑新調届及印鑑證明願各一通ヲ偽造行使シタリト云フニ歸着スルノ事實  
 關係ナリ然ラハ刑法各條ノ適用ニ於テ委任狀印鑑新調届印鑑證明願ノ三通ヲ偽造行使シタリ  
 トノ犯罪ヲ構成スルモ第一ノ委任狀行使罪ト第二第三ノ印鑑新調届及印鑑證明願トハ相互ニ  
 手段結果ノ關係ヲ有スヘキ罪案ニシテ原院判示ノ如ク「又次郎吉カ……ナミ名義ノ前記三通  
 ノ文書ヲ偽造シタル各所爲ハ刑法第五百十九條第一項ニ該當シ……尙ホ三罪ノ併合罪ナルヲ  
 以テ同法第四十五條第四十七條第十條第三項ニ……」ト各三通ノ三罪共ニ各獨立ノ併合罪ヲ  
 構成スヘキニアラス要スルニ原判決ハ爰點ニ於テ擬律錯誤ノ不法アリト云フニアリ○因テ按  
 スルニ牽聯シタル文書偽造ノ行爲カ數箇併發シタル場合ニ於テハ其間ニ手段結果ノ關係アル  
 ヤ否ヤハ併合罪ノ規定ヲ適用スルト否トニ關スル重要ノ事項ナレハ判決ニハ其關係ノ有無ヲ



知ルニ足ルヘキ程度ニ於テ事實理由ヲ明示スルノ要アルモノトス左レハ原院カ本件ニ付刑法第五十四條ニ據ラス併合罪ノ規定ヲ適用スルニ當リテハ所謂委任狀ト其他ノ文書トノ間ニ手段結果ノ關係ナキ獨立ノ文書ナルコトヲ知ルニ足ルヘキ程度ニ於テ事實理由ヲ明示セサルヘカラサルニ原判決ニハ單ニ小泉ナミ名義ノ委任狀(押第七三號ノ七)ト記載シタルノミニシテ如何ナル委任事項ナルカ之ヲ明示セサレハ他ノ文書ト何等關係ナキ獨立ノ文書ナルヤ否ヤヲ知ルニ由ナク即チ原判決ノ擬律カ其當ヲ得タルヤ否ヤヲ知ルニ由ナキ理由不備ノ違法アルモノニシテ原判決ハ此點ニ於テ破毀ヲ免レス

○刑法第五十四條ハ第五十五條ト共ニ併合罪ノ章中ニ在レトモ此兩條ハ孰レモ一罪ニ關スル規定ニシテ舊刑法ノ數罪俱發例ニ相當スル規定ニ非ス (明治四十二年十二月七日)

大阪控訴院檢察長上告趣意書原判決ニ於テハ被告知香カ明治四十二年三月十一日頃以降同年四月十三日頃迄ノ間政府ノ免許ヲ受ケス清酒製造ノ目的ヲ以テ炊米米麴及水各若干ヲ原料トシテ醱ヲ密造シ該醱中六升一合ヲ殘留シ他ノ部分ヲ濾過シテ清酒二升三合ヲ密造シタル事實ヲ認定シ之ニ法條ヲ擬スルニ當リ右醱密造ノ點ハ酒母醱及麴取締法第九條ニ清酒密造ノ點ハ酒造稅法第二十二條ニ各該當スル旨判示シナカラ二罪トシテ其罪ヲ併科セス單ニ清酒密造ノ一罪トシテ處分シタルハ不法ナリ蓋シ前記酒母醱取締法ハ密造ノ目的如何ヲ問ハス處罰スヘキ律意ナルヲ以テ苟モ無免許ニテ醱六升一合ヲ製造シ尙其以外ノ醱ヲ以テ清酒二升三合ヲ密造シタル事實併存スルコト原判決認定ノ如クナル以上ハ同取締法及酒造稅法違反ノ二罪トシテ處斷スヘク而シテ此等稅法違反ノ所爲ニ付テハ數罪俱發(刑法ノ併合罪)ノ例ヲ用キサル特別規定(酒母醱及麴取締法第十三條酒造稅法第三十一條)存スルヲ以テ二罪ノ刑ヲ併科スヘキ筋合ナルニ拘ラス原判決カ併合罪ノ一規定ナル刑法第五十四條一項ヲ適用シ重キ酒造稅法違反ノ刑ノミヲ科シタルハ前記兩稅法ノ特別規定ヲ無視シ刑法第五十四條ノ解釋ヲ誤リタル擬律錯誤ノ裁判ナリト思料スト云フニ在リ○因テ按スルニ酒母醱及麴取締法第十三條酒造稅法第三十一條ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用キストアルヲ以テ新刑法實施後ニ於テ右特別法ニ觸ルル二箇ノ獨立セル犯罪ヲ處斷スルニハ刑法施行法第二十二條ノ規定ニ從ヒ舊刑法ノ數罪俱發例ハ刑法ニ所謂併合罪ノ規定ニ適合スルヲ以テ其規定ヲ適用スヘキ限ニアラス從テ各



犯法行為ニ付其刑ヲ併科スヘキコトハ所論ノ如シ然レトモ原判決ニ依レハ本件事實ハ被告ハ酒類製造ノ免許ヲ受ケスシテ清酒製造ノ目的ヲ以テ炊米一升五合米麴一升五合ヲ原料トシテ酒母ヲ製シ之レニ蒸米三升米麴一升五合水三升ヲ添掛シテ之ヲ醱酵セシメ醱若干ヲ造リ其内幾部ヲ汲取り酒精分二十度以下ノ清酒二升三合ヲ製造シ殘醱六升一合ハ清酒製造前收稅官吏ニ差押ヘラレタルモノナレハ被告ノ行為ハ各獨立セル醱及清酒密造ノ二罪ヲ構成スル事實ヲ認メタルモノニアラスシテ其醱及清酒ヲ密造シタル行為ハ手段タリ結果タルノ關係ヲ有スル犯罪ヲ構成スル事實ヲ認メタルコトハ判文上寔ニ明ナリ而シテ舊刑法ニ於テハ斯ル場合ヲモ尙同法第百條ニ規定セル數罪俱ニ發シタルモノトシ前示特別法ノ規定ニ從ヒ各犯法行為ニ付其刑ヲ併科シタル事例ナキニ非スト雖モ新刑法實施後ニ於テハ如斯行為ハ同法ニ所謂併合罪ニ非スシテ同第五十四條ニ該當スルモノトス而シテ同條ハ同第五十五條ト共ニ併合罪ニ關スル章中ニアリト雖モ右兩條ハ共ニ一罪ニ關スル規定ニシテ數罪ニ關スル規定ニ非サルヲ以テ舊刑法ノ數罪俱發例ニ相當スル規定ニアラサルヤ誠ニ明ナリトス故ニ原判決カ本件ニ付酒母醱及麴取締法第十三條酒造稅法第三十一條刑法施行法第二十二條ヲ適用セス刑法第五十四條ニ從フヘキ一罪トシ重キ酒造稅法違反ノ行為ニ依リ被告ヲ處罰シタルハ相當ナルカ故ニ本論旨ハ理由ナシ

大正十四年四月二十五日 第一一號 關スル

○詳見第五十四條ハ第五十五條ト共ニ併合罪ノ章中ニ於テハ同法第百條ニ規定セル數罪俱ニ發シタルモノトシ前示特別法ノ規定ニ從ヒ各犯法行為ニ付其刑ヲ併科シタル事例ナキニ非スト雖モ新刑法實施後ニ於テハ如斯行為ハ同法ニ所謂併合罪ニ非スシテ同第五十四條ニ該當スルモノトス而シテ同條ハ同第五十五條ト共ニ併合罪ニ關スル章中ニアリト雖モ右兩條ハ共ニ一罪ニ關スル規定ニシテ數罪ニ關スル規定ニ非サルヲ以テ舊刑法ノ數罪俱發例ニ相當スル規定ニアラサルヤ誠ニ明ナリトス故ニ原判決カ本件ニ付酒母醱及麴取締法第十三條酒造稅法第三十一條刑法施行法第二十二條ヲ適用セス刑法第五十四條ニ從フヘキ一罪トシ重キ酒造稅法違反ノ行為ニ依リ被告ヲ處罰シタルハ相當ナルカ故ニ本論旨ハ理由ナシ

○稅法中造石稅ニ基キ罰金額ヲ定メタル場合ニ於テ其稅額ニ一錢未滿ノ端數アルトキハ明治四十年法律第三十一號第一條ニ依リ之ヲ切捨テ造石稅額ヲ定メ而シテ後之ニ據リテ罰金額ヲ算定スヘキモノトス

○差出人ニ還付ノ判決アリタル證據書類ト雖モ其還付前之ヲ罪證ニ供スルモ違法ニ非ス

○收稅官吏カ犯則者ノ尋問及ヒ應答ノ顛末ヲ記載スルニハ逐次之ヲ爲スヘキヤ否ヤ法規上何等明示スル所ナケレハ長時間ニ涉リタル尋問應答ヲ其終了後一括シテ顛末書ニ記載スルモ違法ニ非ス (明治四十二年十二月十四日)

辯護人大西眞一郎上告趣意書第一點明治四十年法律第三十一號第一條ニハ「國庫ノ收入金又ハ仕拂金ニ一錢未滿ノ端數アルトキハ之ヲ切捨ツ國稅ノ課稅標準額ニ付テモ亦同シ」トアルカ故ニ收入金ノ一タル租稅ニ付テモ該法律ノ適用アルコト明ナリ左レハ本件ニ醬油稅則第二十條ヲ適用シ隱蔽石數ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ヲ科セムトスルニハ先ツ明治四十年法律第三十一號第一條ニ則リ隱蔽石數ノ造石稅ヲ定メ其稅額ニ基キテ罰金額ヲ算定セサルヘカラス而シテ此順序ニ依ルトキハ隱蔽石數二百六十二石八斗三升ニ壹圓六十五錢ヲ乘シテ得タル積四百三十三圓六十六錢九厘五毛ノ壹錢未滿ノ端數ヲ切捨タル四百三十三圓六十六錢カ隱蔽石數ニ相當スル造石稅額ニシテ之ヲ三倍シテ得タル千三百圓九十八錢カ即チ罰金額タルヘキ筋合ナルニ原院カ先ツ隱蔽石數ニ相當スル稅額ヲ定ムルニ當ツテ明治四十年法律第三十一號ヲ適用セスシテ算定シタル稅額ヲ三倍シタルモノニ對シ之ヲ適用シタルハ該法律ノ適用ヲ誤リタルノミナラス罰金額算定ニ付具體的ニ其算定順序ヲ明示セサルハ理由不備ナル違法ノ



判決ナリト云フニ在リ○依テ按スルニ稅法中造石稅ニ基キ罰金額ヲ定メタル場合ニ於テ造石稅額ニ壹錢未滿ノ端數アルトキハ明治四十年法律第三十一號第一條ニ依リテ之ヲ切捨テ以テ造石稅額ヲ定メ而シテ後之ニ基キ罰金額ヲ算定スヘキモノトス然ルニ原判決ハ右ノ措置ニ出テス犯則ニ係ル溜ノ石數二百六十二石八斗三升ニ一石ノ造石稅一圓六十五錢ヲ乘シ因テ得タル四百三十三圓六十六錢九厘五毛ヲ以テ其造石稅額ト爲シ之ヲ三倍シタル千三百一圓八厘五毛ニ付前示法律ノ規定ヲ適用シ一錢未滿ニ屬スル八厘五毛ヲ除去シ以テ一千三百一圓ヲ得之ヲ罰金額トシテ判示シタルハ擬律上違法アルモノニシテ本論旨ハ理由アリ

第二點犯則事件ヲ告發シタル稅務官吏カ間接國稅犯則者處分法第十八條ニ依リ其差押物件ヲ裁判所ニ引繼キタルトキハ其物件ニ對スル差押ノ効力モ亦裁判所ニ移轉スルモノニシテ爾後差押物件ニ關スル差押ノ解否等ハ總テ裁判所ノ權能ニ歸屬シ差押ヲ爲シタル收稅官吏ハ差押物件ニ對シ全然關係ヲ離脫スルモノナレハ裁判所カ引繼ヲ受ケタル後之ヲ差出人ニ還付スヘキ言渡ヲ爲ストキハ差押茲ニ解除セラレ其物件ハ何等ノ稅務官吏ノ行爲ヲ俟タスシテ所有者ニ還付セラレ、モノナリ即チ本件ニ付キ明治四十一年八月七日附告發ト同時ニ最初稅務官吏カ裁判所ニ引繼キタル差押書類ハ明治四十一年十一月七日名古屋地方裁判所岡崎支部ニ於テ刑事訴訟法第二百二條ニヨリ押收ニ係ル書類ハ各差出人ニ還付スト言渡サレタル判決ニ依リ茲ニ差押ハ解除セラレ書類ハ總テ其所有者ニ還付セラレタルモノナリ故ニ稅務官吏カ還付セラレタル書類ヲ更ニ裁判所ニ提出セムトスルニハ再ヒ差押ノ手續ヲ爲シ然ル後間接國稅犯則者處分法第十八條ニ依リ引繼キノ手續ヲ爲サ、ルヘカラス然ルニ稅務官吏ハ前示還付判決言

渡ノ後再ヒ告發ヲ爲シタルモ前回差押ヲ爲シタル書類ニ付更ニ差押ヲ爲シテ之ヲ裁判所ニ引繼シタルモノニアラスシテ已ニ所有者ニ還付セラレタル物件カ偶々裁判所ノ手裏ニ存在セシニ過キサレハ裁判所ハ該書類ヲ適法ニ保有スルモノト云フ能ハサルナリ原院ノ援用セル證據第二號ノ一二三ノ如キハ該書類ノ一部ニシテ即チ原院カ適法ニ保有セサル書類ヲ斷罪ノ證據ニ供シタルハ違法ナリト云フニ在リ○然レトモ所論ノ證據書類カ論旨ノ如ク差出人ニ還付スヘキモノナリトスルモ其未ダ還付セラレサルニ先チ之ヲ罪證ニ供スルハ何等ノ違法ナキノミナラス假令押收手續ニ違法アリトスルモ既ニ證據物件トシテ公庭ニ顯出シタル以上ハ之ヲ援用シテ斷罪ノ資料ト爲スハ毫モ不法ニ非ス

第四點原院ノ援用セル平塚泰雄外數名ノ作成シタル取調顛末書(明治四十一年七月八日附)ハ以下數箇ノ違法手續ニ依リテ作成セラレタル無効ノ書類ナリ(一)間接國稅犯則者處分法第四條ニハ收稅官吏臨檢搜索尋問又ハ差押ヲ爲ストキハ其身分ヲ證明スヘキ證據ヲ攜帶スヘシトアリ然ルニ右顛末書及ヒ明治四十一年七月七日附顛末書ヲ視ルニ平塚泰雄外數名ハ臨檢搜索尋問差押等ノ手續ヲ爲シナカラ其身分證明ノ證據ヲ攜帶シタル旨ノ記載ナク押捺セル印影ハ總テ其氏ヲ表顯セルニ過キサレハ結局證據ヲ攜帶セスシテ爲シタル違法ノ手續ニシテ從テ該顛末書ハ無効ナリ(二)尙前示顛末書(明治四十一年七月八日附)ヲ視ルニ其末尾ニ於テ「以テ上尋問應答ハ明治四十一年七月七日一時ニ始メ同年七月八日午後四時三十分終了セリ」トアリ該記載中七日一時トハ午前一時ヲ指スカ午後一時ヲ指スカ不明ナリ假令之ヲ其孰レニ解スルモ日沒後日出前ニ於テ該顛末書中ノ一部ノ手續ヲ爲シタルコト瞭然ニシテ該顛末書ノ内容



タル尋問應答ニ問其許強テ帳簿ヲ提出セラレサルニ於テハ必ス帳簿等アルヘキモノト認ムルニ依リ家宅搜索ヲ爲スニヨリ立會セヨ答承知シマシタ茲ニ於テ長崎重治ニ立會セシメ藏匿スト認ムル居宅内ヲ搜索セシニ戸棚ノ内ニ於テ帳簿三冊ヲ風呂敷包トナシアルヲ發見セリ問其許立會ノ上現在溜及受拂高調査スルニ左ノ如シ云々トアリテ搜索差押ヲ爲シタルコト明ニシテ尙庫内賣場等ノ臨檢ヲ爲シタルコトモ明白ナリ然レハ此等ノ行爲ノ一部カ夜間ニ於テ執行サレタルモノニシテ間接國稅犯則者處分法第八條ニ違背セルモノナリ或ハ該顛末書ノ始メニ於テ搜索差押ハ明治四十一年七月七日午前四時三十分ニ始メ同六時二十分ニ終了セリトアルカ故ニ搜索差押ハ晝間行ハレタルモノナリト云ハムモ假ニ搜索差押カ晝間ニ行ハレタルモノトスルモ前述ノ如ク臨檢モ猶ホ晝間ニ行ハレタルコトヲ證明スルニ足ラサル耳ナラス元來尋問應答ニ關スル顛末書ハ尋問應答ト同時ニ時々作成セラルヘキモノニシテ尋問應答ヲ終リタル後其尋問應答ヲ想起シテ作成スヘキモノニアラス然レハ七日一時ヨリ始マリタル尋問應答中ニ於テ搜索差押ヲ爲シタルモノナルニ不拘其尋問應答ノ記載以前「七日午後四時三十分ニ始メ同六時二十分ニ終了セリ」トノ記載アル點ヨリ觀ルトキハ一面該顛末書ハ尋問應答ト共ニ時々作成セラレタルモノト看ル能ハスシテ其體裁上總テノ手續ヲ終リタル後其手續ヲ想起シテ一時ニ作成セラレタルモノト看ルノ外ナシ若然リトセハ此點ニ於テ該顛末書ハ違法手續ニ依リ作成セラレタル無効ノ書類ナリ原院カ之ヲ斷罪ノ用ニ供シタルモノニシテ其判決ハ違法ナリト云フニ在リ〇然レトモ間接國稅犯則者處分法第四條ハ訓示の規定ニシテ收稅官吏カ其證票ヲ攜帶セスシテ爲シタル臨檢搜索尋問又ハ差押ヲ無効ト爲スノ趣旨ニ非サルノミナラ

ス證票攜帶ノ事實ヲ取調顛末書中ニ記載スヘシトノ明文ナケレハ所論ノ如ク顛末書中ニ右事實ノ記載ヲ缺キタリトスルモ之ヲ以テ證票ヲ攜帶セサルモノト視ルヲ得ス故ニ所論ノ取調手續ニハ何等ノ違法ナケレハ其顛末書モ無効ニ非ス本論旨ノ(一)ハ其理由ナシ次ニ(二)ノ論旨ヲ按スルニ所論明治四十一年七月八日附顛末書末尾ニ於ケル「以上尋問應答ハ明治四十一年七月七日一時ニ始メ同年七月八日午後四時三十分終了セリ」トノ記載中「七日一時」トアルハ「七日午後一時」ト解スヘキコトハ明治四十一年七月七日附顛末書ニ取調ハ同年七月七日午前十時ニ始リ同日正午ニ終ル旨掲載シアリ而シテ同年七月八日附ノ顛末書ニハ前回ニ引續キ調査ヲ爲ス旨說示シアルニ徴シテ明確ニシテ尋問應答カ七月七日午後一時ヨリ翌八日午後四時三十分迄ノ間ニ於テ行ハレタルコトハ之ヲ確認スルコトヲ得ヘシト雖モ搜索差押カ夜間ニ於テ施行セラレタリト認ムヘキ形跡ハ毫モ存在セサルノミナラス同顛末書ニハ「搜索差押ハ明治四十一年七月七日午後四時三十分ニ始リ同六時二十分終了セリ」ト明記シアリテ搜索差押カ適法ニ晝間施行セラレタルコトハ洵ニ瞭然タリ又搜索差押以外ニ臨檢ノアリタル事實ハ何等徵スヘキモノナケレハ違法ニ臨檢施行セラレタリト論旨ハ根底ナキモノトス而シテ尋問應答ノ顛末ヲ記載スルニハ逐次之ヲ爲スヘキヤ將タ一括シテ之ヲ爲スモ妨ナキヤ法規上何等ノ明示スル所ナケレハ作成者ノ便宜ニ委ネサルヘカラス故ニ長時間ニ涉リタル尋問應答ヲ其終了後ニ於テ一括シテ之ヲ顛末書ニ掲載スルモ違法ニ非ス然ラハ所論顛末書ヲ罪證ニ供シタル原判決ハ不法ニ非スト謂ハサルヘカラス本論旨ノ(二)モ亦理由ナシ



○刑法第五十四條ニ所謂犯罪ノ手段トハ或犯罪ノ性質上其手段トシテ普通ニ用キラルヘキ行爲ヲ指稱シ又犯罪ノ結果トハ或犯罪ヨリ生スル當然ノ結果ヲ指稱ス

(明治四十二年十二月二十日)

辯護人大橋與四郎同後藤德太郎上告趣意書(一)原審ハ被告ノ證書騙取ト誣告ノ行爲ニ對シ刑法第四十五條第十七條等ヲ適用セラレタレトモ其ノ認定事實ニハ「被告宛手續書ト題スル書面ヲ作成交付セシメ之レヲ請取リ該書面ヲ證據トシテ明治四十二年二月十六日名古屋地方裁判所岡崎支部檢事局へ前示藤助ノ證言ハ眞實ナルニ拘ハラズ僞證ナリトシ虛僞ノ事實ヲ申告シ以テ誣告シタルモノナリ」トアリテ之レニ尙ホ其前段判文ヲ參照スレハ證書騙取ノ所爲ハ誣告ノ所爲ト手段結果タルコトノ關係ヲ有スルコト明白ナリ去レハ原審ハ此兩箇ノ行爲ニ對シテハ刑法第五十四條第一項後段ヲ適用セサルヘカラサルニ前示法條ヲ適施シタルハ擬律錯誤ノ違法アリト信スト云フニ在リ○因テ按スルニ刑法第五十四條ニ所謂犯罪ノ手段トハ或犯罪ノ性質上其手段トシテ普通ニ用キラルヘキ行爲ヲ謂ヒ又犯罪ノ結果トハ或犯罪ヨリ生スル當然ノ結果ヲ指シタルモノナレハ同條ヲ擬スルニハ必スヤ或犯罪ト其犯罪ノ手段若クハ結果タル犯罪ノ間ニ密接ナル因果關係アル場合ナラサル可ラス然ルニ原院認定ノ事實ニ依レハ手續書ヲ騙取シ之ヲ僞證罪ノ證據トシテ誣告ヲ爲シタリト云フニ在ルヲ以テ手續書ヲ騙取シタル所爲ハ誣告罪ノ性質上普通ニ用キラルヘキ手段ニアラス又誣告罪ハ手續書騙取罪ヨリ生シタル當然ノ結果ニアラスシテ誣告ノ目的カ手續書騙取ノ動機ト爲リタルニ外ナラス故ニ原院カ刑法第五十四條ヲ適用セス併合罪ヲ以テ論シタルハ相當ニシテ本論旨モ亦理由ナシ

○酒造稅法違反事件ニ付キ被告人カ酒精分二十度以下ノ濁酒若干石ヲ釀造シ他ヨリ移入シタル如ク裝ヒ之ヲ他人ニ販賣シ其査定ヲ免レタルコトヲ判示スルニ於テハ理由不備ノ不法アリト云フヲ得ス (明治四十二年十二月二十一日)

辯護人猪股淇清上告趣意書第三點抑モ酒造稅法第二十四條ノ犯罪ヲ構成スルニハ單ニ造石數ノ査定ヲ免カレ又ハ免カレムトスルノミヲ以テ足レリトセス其之ヲ免ルル爲メ詐欺其他不正ノ所爲アルコトヲ要ス從テ造石數ノ査定ヲ免ルル爲メニ行ヒタル不正ノ所爲ヲ明示セサル判決ハ違法ナリトス(御院三十八年判例參照)然ルニ原判決ハ單ニ「被告人長塚音次郎ハ酒類製造業者ニシテ明治四十一酒造年度中肩書地製造場ニ於テ酒精分二十度以下ノ濁酒七石五斗(割水共)ヲ釀造シ他ヨリ移入シタルカ如ク裝ヒ同年十月乃至十二月間ニ於テ之ヲ飯田良作外十六名ニ販賣シ其査定ヲ免カレタルモノナリ」ト摘示スルノミニシテ被告カ如何ナル不正ノ所爲ニヨリ査定ヲ免カレタルカヲ明示セス之レ前記御院判例ニ背キタル違法ノ裁判ナリトスト云フニ在リ○然レトモ原判決ニハ他ヨリ移入シタルカ如ク裝ヒ云云其査定ヲ免レタルモノナリトアルヲ以テ被告カ査定ヲ免カルル爲メ不正ノ所爲ヲ爲シタルコトヲ明示シアルニ因リ本趣意ハ理由ナシ



○二人ニ對シテ唯一ノ詐術ヲ施シ同時ニ其術中ニ陥レ金圓ヲ騙取シタル以上ハ縱令騙取ノ日時又ハ場所ニ異同アルモ單純ナル一罪ト認ムヘキモノニシテ連續犯ヲ以テ論スヘキモノニ非ス (明治四十二年十二月二十三日)

辯護人布施辰治上告趣意書第一點原判決ヲ閱スルニ「被告ハ……明治四十二年六月二十四日頃安二郎及其妻ワカニ對シテ代リノ犯人ヲ探シ出セハ安二郎ハ放免セララルコトヲ得ヘク其運動費トシテ金十五圓ヲ要スル旨ヲ詐言シ兩人ヲ欺キ同月二十四五日頃同區入谷町三百五十六番地被告宅ニ於テワカヨリ金七圓同月二十六七日頃同所ニ於テ安二郎ヨリ金五圓ヲ受取リ以テ騙取シ云云」ト金圓ヲ交付シタル對手者ヲ異ニシ其都度モ亦二回ニシテ明カニ連續セラル二箇ノ事實ニ該當スヘキモノナレハ後段法律ノ適用ニ當リ……右被告ノ所爲中第一ハ刑法第二百四十六條第一項ニ云ト說示シテ刑法第五十五條ノ適用ヲ按セサリシハ結局擬律錯誤ノ不法アリト信スト云フニ在レトモ○二人ニ對シ唯一ノ詐術ヲ施シ同時ニ其術中ニ陥レ其結果二人ヨリ金圓ヲ騙取シタル以上ハ騙取ノ日時場所ニ異同アルモ單純ナル一罪ト認ムヘキモノニシテ連續犯ヲ以テ論ス可キモノニ非ス故ニ本論旨ハ其理由ナシ

○當該收稅官吏カ被告ノ密造シタル清酒ヲ押收シ樽入封印ノ儘之ニ保管セシメタルトキハ其清酒ハ依然收稅官吏ノ占有ニ屬スルモノトス從テ該物件ヲ竊取シタル被告ノ所爲ハ刑法第二百四十二條第二百三十五條ノ犯罪ヲ構成ス (明治四十三年二月十五日)

(參照) 自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付キテハ他人ノ財物ト看做ス (舊刑法第二百四十二條)  
他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス (舊刑法第二百三十五條)

上告趣意書原判決ハ擬律ノ錯誤アリ原審ノ認定シタル事實ニ依レハ被告ハ明治四十二年六月十一日被告所有ノ犯則清酒全部七斗ヲ樽入封印ノ儘當該稅務屬ヨリ保管ヲ命セラレ前記自宅ニ於テ保管中同日被告ハ擅ニ在中ノ犯則清酒全部ヲ取出シテ之ニ換フルニ汚水ニ米磨汁ヲ混セルモノヲ右樽ニ入レ置キタリト云フニ在リテ被告ハ獨リ其容器タル樽ノミヲ保管シタルニアラスシテ在中ノ犯則清酒七斗ヲモ共ニ保管占有シタリトノ事實ヲ認定シタルコトハ原判決中之カ證據トシテ黒石稅務署官吏坂本直外四名ノ告發書中「右密造清酒ハ一旦被告ニ保管ヲ命シタルニ」云云トアルト被告ニ對スル檢事ノ聽取書ニ「被告カ稅務官吏ノ命ニ依リ保管シタルモノハ白水等ニアラス清酒ナリシ」云云ノ證據ヲ舉示シ以テ右事實認定ノ根據ヲ説明シアルニ徵シテ明確ナリ叙上ノ如ク原審ハ本件犯則清酒七斗モ亦被告ノ占有中ニアリタル場合ニ於テ之ヲ取出シタル事實ヲ認定シタルニ係ハラス之ヲ刑法第二百四十二條第二百三十五條ニ問擬シタルハ失當ナリ何トナレハ竊盜罪ハ他人ノ占有換言スレハ所持タル他人ノ實力的支配關係ヲ侵害シ之ヲ取去スルニヨリテ成立スルモノニシテ本件ノ如ク稅務官吏ハ何等現實



的ニ支配關係ヲ有セス被告ニ於テ公務所ヨリ保管ヲ命セラレ占有中ノ處分スルハ竊盜罪ヲ構成スヘキモノニアラサルニ拘ハラヌ之ヲ竊盜ナリト判斷シタルハ失當ナリト云フニ在レトモ○原判決認定ノ事實ニ依レハ本件被告ノ密造ニ係ル清酒ハ當該收稅官吏ニ於テ之ヲ押收シタル上樽入封印ノ儘被告ニ保管セシメタルモノナルカ故ニ該清酒其モノハ依然右收稅官吏ノ占有ニ屬セシモノニシテ被告ノ占有ニ移リタルモノニアラサルヤ疑ヲ容レス何トナレハ右物件ニハ前示ノ如ク收稅官吏ニ於テ封印ヲ施シ以テ之ニ對スル一切ノ處置ヲ禁シタルモノナル以上ハ該物件ニ對シテハ被告ニ於テ事實上支配力ヲ及ホスコトヲ得サリシモノナレハナリ左レハ右物件ヲ竊取シタル本件被告ノ行爲ハ刑法第二百四十二條第二百三十五條ニ依リ處分スヘキモノニ該當スルヲ以テ右行爲ニ對シ是等ノ法條ヲ適用處斷シタル原判決ハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシト曰フ

○當該收稅官吏ノ職務ニ關シテハ、明治四十二年三月十六日買受ノ前記酒桶ニ分入シテ更ニ德之助ニ保管ヲ託シ德之助ハ之ヲ承諾シテ自己ノ釀造場ナル若松市中六日町十、十一番地倉庫ニ於テ之ヲ保管シタル事實ヲ認ムルニ足ルヲ以テ占有ノ改定ニ因リテ其引渡シアリタルモノト謂ハサルヲ得ス果シテ然ラハ前記清酒及酒桶ノ所有權ハ完全ニ原告ニ移轉シタルモノニシテ第三者タル被告ニ對抗シ得ヘキモノナルヲ以テ被告ノ該抗辯ハ之ヲ採用スルコトヲ得ス云々即チ占有ノ改定アレハ物ノ引渡アリトシ以テ第三者ニモ對抗シ得可シトナス然レトモ民法第七十八條ニ所謂引渡ハ動產讓渡ヲ第三者ニ對抗スルノ要件ニシテ占有ノ改定ハ代理ニ依リテ占有ヲ取得スルノ一方法タルニ過キス二者ハ全ク獨立ノ規定ヲ爲シ相異レル觀念ナリ抑動產ノ讓渡ヲ第三者ニ對抗セムトセハ物ノ引渡ヲ要スルコトハ民法第七

○民法第七十八條ニ所謂引渡ハ必スシモ現實ニ物ノ授受アル場合ニノミ限ルモノニ非スシテ占有ノ改定ニ因リ物ノ現實ノ授受アリタルト同視スヘキ場合ヲモ包含スルモノトス

○國稅徵收法第十四條ハ收稅官吏カ國稅滯納處分トシテ差押ヘタル財產ト雖モ第三者ノ所有ニ屬スルトキハ國ハ之ニ因テ不當ニ利得スヘカラサルニ依リ所有者タル第三者ヲシテ其取戻ヲ得シムル法意ナリトス故ニ收稅官吏ニ於テ之カ賣却ヲ決行シタルトキハ國ハ其利益ノ存スル限度ニ於テ不當利得返還ノ責ニ任セサルヘカラス(明治四十三年二月二十五日)

若松稅務署上告理由第一點ハ原判決ニ依レハ被告代表者ハ假リニ賣買若ハ交換ニ因リ右清酒及酒桶ノ所有權カ原告ニ移轉シタルトスルモ其引渡ナカリシヲ以テ第三者タル被告ニ對抗スルコトヲ得サルモノナリト抗辯スト雖モ甲第四號證等並證人渡邊泰ノ供述ニ依レハ原告カ德之助ヨリ前記ノ如ク買受ケ又ハ交換シタル清酒ヲ明治四十二年三月十六日買受ノ前記酒桶ニ分入シテ更ニ德之助ニ保管ヲ託シ德之助ハ之ヲ承諾シテ自己ノ釀造場ナル若松市中六日町十、十一番地倉庫ニ於テ之ヲ保管シタル事實ヲ認ムルニ足ルヲ以テ占有ノ改定ニ因リテ其引渡シアリタルモノト謂ハサルヲ得ス果シテ然ラハ前記清酒及酒桶ノ所有權ハ完全ニ原告ニ移轉シタルモノニシテ第三者タル被告ニ對抗シ得ヘキモノナルヲ以テ被告ノ該抗辯ハ之ヲ採用スルコトヲ得ス云々即チ占有ノ改定アレハ物ノ引渡アリトシ以テ第三者ニモ對抗シ得可シトナス然レトモ民法第七十八條ニ所謂引渡ハ動產讓渡ヲ第三者ニ對抗スルノ要件ニシテ占有ノ改定ハ代理ニ依リテ占有ヲ取得スルノ一方法タルニ過キス二者ハ全ク獨立ノ規定ヲ爲シ相異レル觀念ナリ抑動產ノ讓渡ヲ第三者ニ對抗セムトセハ物ノ引渡ヲ要スルコトハ民法第七



十八條ノ明ニ規定スル所ナリ即チ引渡ハ動產讓渡ヲ公示スル方法ナリ既ニ動產讓渡ノ公示方法タル以上ハ少クモ第三者ノ認識シ得ヘキ程度ニ於テ有體的ニ之ヲ爲サ、ル可ラス換言スレハ物ノ現實ノ引渡ヲ要シ讓渡人カ其物ニ對シ事實上ノ支配力ヲ失フノ程度ニ於テ所持ノ移轉アルコトヲ必要トシ單ニ占有ノ改定アルヲ以テ足レリトセス原判決ニ所謂占有ノ改定ハ民法第百八十三條ニ該當シ單ニ意思ノ表示アルヲ以テ足リ何等有體的ノ行爲アルヲ要セス占有ノ改定アレハ第百七十八條ノ引渡アリトナス原判決ハ相異レル觀念ヲ混同スル論理上ノ矛盾アルノミナラス民法第百七十八條ノ精神ヲ沒却シ法則ヲ不當ニ適用シタルモノナリトスト云フニ在リ○然レトモ民法第百七十八條ニ所謂引渡ハ必シモ物ノ現實ノ授受アル場合ニノミ限ルモノニ非スシテ占有ノ改定ニ因リ物ノ現實ノ授受ト同視スヘキ場合ヲモ包含スルモノナレハ原院カ被上告人ニ於テ宮森德之助ヨリ買受ケ又ハ交換シタル清酒及ヒ酒桶ヲ更ニ德之助ニ保管ヲ託シ同人ハ之ヲ承諾シテ自己ノ醸造場ニ於テ保管シタル事實ヲ認メ占有ノ改定ニ因リテ係爭動產ノ引渡アリタルモノナルヲ以テ被上告人ハ前記清酒及ヒ酒桶ノ所有權ヲ以テ第三者タル上告人ニ對抗スルコトヲ得ルモノト判示シタルハ適當ニシテ本論旨ハ採用スルニ足ラス同第二點ハ如上ノ理由ニ依リ上告人ノ爲シタル滯納處分ハ適法ナリ被上告人ハ之ニ對シテ不當利得返還ノ請求ヲ爲シ得キモノニ非ス假リニ數步ヲ讓リテ占有ノ改定ニ依リ前記酒桶及清酒ノ所有權カ完全ニ被上告人ニ移轉シ第三者タル上告人ニ對抗シ得キトスルモ上告人カ酒桶及清酒ノ上ニ爲シタル差押及公賣ハ訴外人宮森德之助ニ對スル國稅滯納處分ノ執行ニ出ラタルモノニシテ純然タル行政行爲ナリ苟クモ行政行爲タル以上ハ之ニ私法上ノ責任ヲ負ハ

シメムトセハ特別ノ法規上ノ根據アルヲ要シ當然ニ民法ノ規定ヲ適用ス可キモノニ非サルコトハ法理ノ然ラシムル所ナルノミナラス不法行爲ニ因ル損害賠償ノ責任ニ關スル貴院ノ判例ニ徵スルモ亦明ナリ然ルニ原判決ニ依レハ被告ハ宮森德之助ニ對スル國稅滯納處分トシテ同人ノ財產ヲ差押ヘ之ヲ賣却スルコトヲ得可シト雖モ他人ノ所有物件ヲ差押ヘ之ヲ賣却スルノ權ナキヤ論ヲ俟タサルニ依リ被告カ之ニ因リテ利益ヲ受ケ他人ニ損失ヲ及ホシタル場合ニ於テハ民法上不當利得ノ原則ニ依リ其利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スルノ義務アルモノトス云々トアリテ何等ノ明文ナキニ拘ハラヌ私法ノ規定ヲ當然ニ行政行爲ニ適用シタルハ從來ノ例ニ反シ不當ニ法則ヲ適用シタル違法ノ判決ナリトスト云フニ在リ○然レトモ國稅徵收法第十四條ニハ「收稅官吏財產ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者其財產ニ就キ所有權ヲ主張シ取戻ヲ請求セムトスルトキハ賣却執行ノ五日前マテニ所有者タルノ證據ヲ具ヘテ收稅官吏ニ申出ヘシ」トアルヲ以テ國稅滯納處分トシテ差押ヘタル財產ト雖モ苟モ第三者ノ所有ニ屬シ國稅滯納者ノ所有ニ屬サセルコト明ナルニ於テハ國ハ之ニ因リテ不當ニ利得ス可カラサルニ依リ所有者タル第三者ノ請求ニ應シテ之カ取戻ヲ得セシムル法意ヲ推知スヘシ隨テ收稅官吏ニ於テ是カ賣却ヲ執行シタルトキハ國ハ其利益ノ存スル限度ニ於テ不當利得返還ノ責任ニ任スヘキハ當然ニシテ國稅滯納者ニ對スル財產ノ差押及ヒ賣却カ國稅滯納處分ノ執行上爲ス行政行爲タルノ故ヲ以テ如上第三者ノ請求ニ對スル私法的責任ヲ免カレ得ヘキモノニ非ス然レハ是ト同一趣旨ニ出タル原判決ハ適當ニシテ本論旨ハ理由ナシ



○家宅侵入ノ行爲ハ放火ノ目的ヲ以テ之ヲ爲シタル場合ト雖モ放火行爲ノ一部ヲ成スモノニ非スシテ全然別異ノ犯罪行爲ナリトス(明治四十三年二月二十八日)

被告友三辯護人花井卓藏上告趣意書第三點原判決ハ被告ハ放火ノ目的ヲ以テ古河鑛業事務所ニ侵入シ燐寸ニテ點火シ以テ火ヲ放チタルモノト認定セリ左レハ家宅ニ侵入シタルハ放火ノ所爲ニ伴フ當然ノ結果ニシテ強盜又ハ竊盜ノ目的ヲ以テ家宅ニ侵入シタル場合ニ於テ別ニ家宅侵入罪ヲ構成セサルト毫モ撰フ所ナシ然ルニ家宅侵入罪ヲ構成スルモノト判斷シタル原判決ハ擬律錯誤ノ不法アルモノト信スト云フニ在リ○因テ按スルニ家宅侵入ノ行爲ハ本件ノ如ク放火ノ目的ヲ以テ爲シタル場合ト雖モ放火ノ行爲トハ全ク異別ノ行爲ニシテ其一部ヲ成スモノニアラサレハ原院カ是ヲ放火未遂ノ手段ニシテ刑法第三百十條ニ該當スルモノト爲シ同法第五十四條ヲ適用處分シタルハ擬律ノ錯誤ニ非ス

○煙草販賣ノ準備(煙草專賣法第四十九條)ハ其販賣前ニ在テハ犯罪行爲トシテ獨立ノ存在ヲ有スルモ既ニ販賣ヲ爲シタル以上ハ該行爲ヲ包括的ニ觀察シ其全部ニ對シテ販賣罪ノ刑ヲ適用セサルヘカラス(明治四十三年四月二十九日)

(參照) 煙草賣捌人ニ非スシテ製造煙草ヲ販賣シ又ハ販賣ノ準備ヲ爲シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル製造煙草ハ之ヲ沒收ス(煙草專賣法第四十九條)

上告趣意書原判決ノ理由ニ依レハ煙草專賣法第四十九條ノ規定ハ免許ヲ得スシテ煙草販賣ノ準備ヲ爲シタルハ煙草販賣ノ準備罪ヲ構成スルモ既ニ販賣ヲ爲シタル以上ハ準備ノ行爲ハ販賣行爲ニ包含セララルカ故ニ別ニ準備罪ヲ構成スルモノトシテ處罰スルコトヲ得ス而テ若シ其煙草ニ既ニ販賣シ了リタルモノト販賣シ了ラスシテ一部ノ殘存シタルモノアル場合ト雖モ販賣行爲ニ關スル物件ト認ム可キモノニシテ準備罪ヲ構成セスト判示シタルトモ煙草專賣法第四十九條ニハ販賣準備罪ト販賣罪ト二箇ノ行爲ヲ認メタルモノナル以上ハ販賣ヲ爲シタル行爲ニ付テハ販賣ヲ爲シタルモノトアル法條ヲ適用シ未タ販賣ヲ爲ササルモノニ對シテハ販賣準備ヲ爲シタルモノナリトノ法條ヲ適用ス可キモノニシテ一部販賣ヲ爲シタル行爲アル以上ハ未タ販賣ヲ了セサルモノマテモ販賣行爲ニ包含シタルモノト解釋スルコト能ハサルハ勿論ナリ若シ夫レ原判決ノ解釋ヲ正當ナリトセムカ其理由ト反對ニ煙草販賣ノ準備行爲ハ凡テ販賣ト云フ觀念中ニ包含セララルト云フ結果ヲ生ス可キモノト云ハサルヲ得ス之レヲ正當ノ解釋ナリトセハ法條ニ於テ準備罪ト販賣罪トヲ區分セル理由ヲ見出スコト能ハサルニ至ラム要スルニ原判決ニ於テ未タ販賣シ了ラサルモノヲモ凡テ販賣罪ニ包含セルモノト爲シタル



ハ法律ノ適用ヲ誤リタル不當ノ判決ナリト思料スルヲ以テ判決全部ノ破毀ヲ求ムル所以ナリト云フニ在リ○依テ按スルニ專賣法ニ所謂煙草販賣ノ準備ハ其名稱ノ示ス如ク煙草ノ販賣以前ニ於テ販賣ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ意味シ煙草ノ販賣前ニ在テハ犯罪行爲トシテ獨立ノ存在ヲ有スルモ犯人カ既ニ販賣ヲ爲シタル以上ハ犯人ノ所爲ハ之レヲ包括的ニ觀察シ準備行爲ノ範圍ヲ離レ茲ニ賣買行爲ノ區域ニ入りタルモノトシ其所爲ノ全部ニ對シ煙草販賣ノ所爲アルモノトシテ刑ノ適用ヲ爲スヘク其所爲ヲ分割シ其一部ニ付準備罪ノ刑ヲ適用シ他ノ一部ニ付販賣罪ノ刑ヲ適用スルコトヲ得ス故ニ犯人其準備シタル煙草ノ一部ヲ賣却シ他ノ一部分ハ尙之レヲ手裡ニ保有スル場合ト雖モ其煙草ハ販賣ニ關スルモノトシテ之レカ處分ヲ爲ス可キモノトス故ニ原判決ハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

○國稅滯納者カ同時ニ若クハ連續シテ財產ノ藏匿及ヒ脫漏ヲ爲シタルトキト雖モ其所爲ハ藏匿脫漏ノ名稱ノ下ニ一罪ヲ以テ論スヘキモノニシテ二罪ニ問フヘキモノニ非ス(明治四十二年五月二日)

各被告辯護人牧野賤男同山田辰之進上告趣意書第一點公訴事實ニ對シ判斷ヲ與ヘサル不法アリ第一審檢事ノ起訴ハ第二審判決ノ事實摘示ノ外猶ホ被告友三ハ明治四十二年七月中諸方ノ掛先ヨリ取立テタル金二千餘圓ヲ以テ同八月十七日ノ二回ニ債權者小樽區稻穂町傳與平外六名ニ對シ債權ノ辨濟ヲ爲シ以テ現金千六百三十圓ヲ脫漏シタル事實竝ニ被告友三ハ明治四十二年七月二十日頃被告正ニ情ヲ告ケテ其所有ニ係ル清酒七十六樽此石數三十一石ノ藏匿ヲ依頼シ同月二十日頃ヨリ同月三十日頃迄ノ間ニ數回ニ情ヲ知リタル被告二太郎ヲシテ之ヲ被告正方ニ運搬セシメ被告正ハ更ニ之ヲ小樽區住江町金谷イソ所有ノ空屋ニ藏匿シタリトノ事實ヲ指摘起訴シタルモノナルコトハ起訴狀竝ニ第一審判決ノ公訴事實摘示ニヨリ明白ナリトス(中略)前述ノ事實ニ對シテハ孰レモ國稅徵收法第三十一條第一項ヲ適用シ其間別段ノ差別ヲ設ケサルモ元來同法條ハ一個條ナルモ之レニ包含スル罪質ハ一箇ニアラスシテ三箇ナリ即チ財產脫漏罪財產隱匿罪虛偽契約罪ノ三罪ヲ一個條中ニ規定セリ而シテ財產脫漏罪ト財產隱匿罪トハ其罪質殆ント同一ナルカ如キモ其實其行爲ノ性質ヲ異ニス一ハ財產ヲ隱匿シ他ノ發見ヲ防クノミニシテ財產ノ權利ハ被告ヨリ離脱セサルモノナリ然ルニ脫漏罪ハ之ニ反シ財產ノ權利ハ全然被告ヨリ離脱シ他人ニ移遷スルモノナリ故ニ財產脫漏ノ行爲ト隱匿ノ行爲トハ假令其目的カ同一ニ出テ繼續的ニ行ハル、モ罪質ヲ異ニスルヲ以テ連續犯トシテ之レヲ一罪中ニ包括スルコトヲ得サルモノトス果シテ然リトセハ原判決カ其事實摘示ヨリ脫漏セシ

○國稅滯納者カ同時ニ若クハ連續シテ財產ノ藏匿及ヒ脫漏ヲ爲シタルトキト雖モ其所爲ハ藏匿脫漏ノ名稱ノ下ニ一罪ヲ以テ論スヘキモノニシテ二罪ニ問フヘキモノニ非ス(明治四十二年五月二日)

各被告辯護人牧野賤男同山田辰之進上告趣意書第一點公訴事實ニ對シ判斷ヲ與ヘサル不法アリ第一審檢事ノ起訴ハ第二審判決ノ事實摘示ノ外猶ホ被告友三ハ明治四十二年七月中諸方ノ掛先ヨリ取立テタル金二千餘圓ヲ以テ同八月十七日ノ二回ニ債權者小樽區稻穂町傳與平外六名ニ對シ債權ノ辨濟ヲ爲シ以テ現金千六百三十圓ヲ脫漏シタル事實竝ニ被告友三ハ明治四十二年七月二十日頃被告正ニ情ヲ告ケテ其所有ニ係ル清酒七十六樽此石數三十一石ノ藏匿ヲ依頼シ同月二十日頃ヨリ同月三十日頃迄ノ間ニ數回ニ情ヲ知リタル被告二太郎ヲシテ之ヲ被告正方ニ運搬セシメ被告正ハ更ニ之ヲ小樽區住江町金谷イソ所有ノ空屋ニ藏匿シタリトノ事實ヲ指摘起訴シタルモノナルコトハ起訴狀竝ニ第一審判決ノ公訴事實摘示ニヨリ明白ナリトス(中略)前述ノ事實ニ對シテハ孰レモ國稅徵收法第三十一條第一項ヲ適用シ其間別段ノ差別ヲ設ケサルモ元來同法條ハ一個條ナルモ之レニ包含スル罪質ハ一箇ニアラスシテ三箇ナリ即チ財產脫漏罪財產隱匿罪虛偽契約罪ノ三罪ヲ一個條中ニ規定セリ而シテ財產脫漏罪ト財產隱匿罪トハ其罪質殆ント同一ナルカ如キモ其實其行爲ノ性質ヲ異ニス一ハ財產ヲ隱匿シ他ノ發見ヲ防クノミニシテ財產ノ權利ハ被告ヨリ離脱セサルモノナリ然ルニ脫漏罪ハ之ニ反シ財產ノ權利ハ全然被告ヨリ離脱シ他人ニ移遷スルモノナリ故ニ財產脫漏ノ行爲ト隱匿ノ行爲トハ假令其目的カ同一ニ出テ繼續的ニ行ハル、モ罪質ヲ異ニスルヲ以テ連續犯トシテ之レヲ一罪中ニ包括スルコトヲ得サルモノトス果シテ然リトセハ原判決カ其事實摘示ヨリ脫漏セシ



事實中前記債權者ニ對シ債務ノ辨濟ヲナシタル事實ハ本來無罪ナリト雖モ之ヲ起訴シタル檢事ノ意見並ニ之ヲ有罪ト斷セシ第一審判決ハ共ニ財產隱匿罪ニアラスシテ財產脫漏罪ト看做シタルハ起訴狀ノ記載並ニ第一審判決ノ記載ニ徴シテ明白ナリ而シテ又第一行為中他ノ部分ハ孰レモ財產隱匿罪トシテ起訴シ亦第一審カ其意味ニ於テ判決シタルハ是又爭フヘカラサル事實ナリ而シテ又第二審判決モ亦同一ナリトス然ラハ被告カ債權者ニ辨濟シタル行為ハ起訴ノ趣旨ニ於テモ又其行為ノ性質ニ於テモ財產隱匿ニアラス故ニ第一行為中ノ他部分ト共ニ之ヲ財產隱匿罪トシテ之ヲ連續犯ト見做シ一罪トシテ取扱ハルヘキモノニアラス故ニ既ニ此點ヨリスルモ特ニ事實ヲ摘示シ之ニ相當ナル判斷ヲ與ヘサルヘカラサルモノナリ然ルニ之レヲ判決事實摘示ヨリ脫漏シ何等判斷ヲ與ヘザリシハ違法ノ甚タシキモノトスト云フニ在リ○然レトモ苟モ犯罪カ單一ナル以上ハ其單一カ自然ナルト法律ノ規定ニ依ルトテ問ハス之ヲ區分シテ數箇ノ裁判ヲ爲スヘキモノニアラス故ニ裁判所ニ於テ檢事カ連續ノ一罪トシテ起訴シタル事實中其一部ヲ以テ犯罪ヲ構成セスト認メタルトキハ只之ヲ犯罪事實ヨリ除却スルヲ以テ足り特ニ犯罪ヲ構成セサル理由ヲ說示シテ無罪ヲ言渡スノ要ナキモノトス又國稅徵收法第三十二條第一項ニ所謂藏匿トハ財產ヲ隱匿スル行為ニシテ脫漏トハ之ヲ減少セシムル行為ナレハ其間外形ニ於テ異ナル所ナキニアラスモ其目的タルヤ何レモ納稅ノ資力ナキモノノ如ク假裝シテ國稅ノ遁脫ヲ圖ルニ在テ同一法條ノ適用ヲ受ク可キ行為ナリ故ニ同時若クハ連續シテ財產ノ藏匿及脫漏ヲ爲シタルトキト雖モ一括シテ藏匿脫漏ノ名稱ノ下ニ一罪ヲ以テ論ス可キモノニシテ藏匿及脫漏ノ二罪ニ問フ可キモノニアラス故ニ論旨ハ何レモ其理由ナシ

○數種ノ砂糖ヲ使用シ之ヲ混和シテ他ノ種類ニ屬スル砂糖ヲ得ルトキハ其砂糖ハ之ヲ製造シタルモノトス (明治四十三年五月二十三日)

被告富三郎上告趣意書第一點原院判決中被告ハ第一內地消費ノ目的ヲ以テ政府ニ申告セスシテ明治四十二年六月二十八日云々第三種ニ屬スル砂糖臺灣黃雙<sup>TOK</sup>印百斤ニ對シ第二種ニ屬スル砂糖臺灣黃雙<sup>TOK</sup>二百斤ノ割合ヲ以ツテ混和シタルモノニ水約七升ヲ加ヘ云々木製煉臺ノ上ニテ摺潰シY印ト稱スル第三種ニ屬スル砂糖三千斤ヲ製造シ尙同一意思ヲ繼續シテ同年七月二十九日同所ニ於テ第三種ニ屬スル砂糖臺灣黃雙<sup>IIIM</sup>印二十四俵ニ第二種ニ屬スル砂糖同黃雙<sup>IIIM</sup>印一俵ヲ混和シ前記同一方法ニ依リ第三種ニ屬スル<sup>IIIM</sup>印砂糖百斤入二十五俵ト五十九斤トヲ製造シタリト判決セラレタルモ第二種ト稱シ第三種ト稱スルモ均シク是レ砂糖ニシテ砂糖ノ原料ニアラス故ニ砂糖其物ヲ製造シタルニアラス又原素性質ヲ變シタルニ非ス唯或方法ヲ以テ糖種ニ變更ヲ來シタリト云フニ過キサルハ原院モ亦之ヲ認メラル、所ナリ然リ即チ本件ハ砂糖製造ニアラスモ混和方法ニ依テ糖種ノ異ナルモノカ出來上リタルトキハ之ヲ製造ナリト見做スヤ否ニアリ然ルニ我稅法ハ如斯モノニ對シテハ何等規定アルコトナシ抑モ法律上或ル行為ヲ以テ或ル行為ト見做スト云フカ如キハ法律ノ主體ニシテ枝葉ニアラス即チ一ノ基礎ヲ設クルモノナレハ之ヲ製造ナリト見做スノ必要アラハ必ス一ノ條項ヲ規定セサルヘカラサルモノニシテ單ニ解釋法上ノ範圍ニアラス然ルニ原院ニアリテハ法律上認メサル本件ニ對シ砂糖消費稅法ヲ適用處斷シタルハ法律ヲ不法ニ適用シタル判決ナリト思料スト云フニ在リ○依テ原判決カ適用シタル砂糖消費稅法ヲ查閱スルニ同法第二條ニ製品ノ原料トシテ砂糖



糖蜜又ハ糖水ヲ使用スルハ其消費ト看做ストアルニ依レハ砂糖ヲ原料トシテ砂糖ヲ製造シ得ルコト明ナレハ數種ノ砂糖ヲ使用シ之ヲ混和シテ他ノ種類ニ屬スル砂糖ヲ得ルニ於テハ同法第三條所定ノ消費稅ノ割合ヲ異ニスル結果ヲ來スニ依リ其砂糖ハ之ヲ製造シタルモノトス故ニ原判決ニ判示セル被告ノ所爲ヲ以テ砂糖消費稅法第十三條ニ問擬シタル原判決ハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

○賣藥ノ效能書及ヒ包裝紙ハ賣藥規則ノ所謂賣藥ニ包含セス  
 ○賣藥規則第二十四條ノ犯罪ハ他人ノ藥劑其物ノミヲ贗造スルニ依リテ成立ス從テ贗造ノ賣藥ニ附シタル效能書及ヒ其包裝紙ニシテ偽造ニ係リ他ノ法律ニ觸ル、トキハ其所爲ニ對シ別ニ刑律ヲ適用スルヲ當然トス (明治四十三年六月二日)

(參照) 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ贗造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ沒收シ藥劑一方ニ付五十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ (賣藥規則第二十四條)

被告森平太郎上告趣意書第一點本被告事件ハ純然タル賣藥規則違反ナルニ原審ニテハ私文書及私印章偽造行使商標法違反トシテ罰セラレタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリトス抑モ賣藥規則第二十四條ニ諸鑑札ヲ偽造シ他人ノ賣藥ヲ贗造シタル者ハ五十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ストノ明文アリ茲ニ所謂他人ノ賣藥トハ同法第二條以下ニ於テ効能及用法等ヲ附記シ製造者ノ住所氏名ヲ記入スヘシトアルニ依リテ明カナルカ如ク一箇ノ賣藥ヲ製造スルニハ藥劑ト共ニ必スヤ附屬スヘキ効能書及外袋等ヲ造リ印紙稅法ノ定ムル所ニ依リ印紙ヲ貼用シ之ニ消印ヲ施シ始メテ賣藥製造ヲ完成シタル者ト云フヘシ素ヨリ單純ノ丸散藥ヲ何等ノ設備ヲ施サス藥劑ノミニテ販賣ナシ得ラレサルハ明瞭ナル所ニシテ亦斯ル物ハ賣藥トシテ認メサル所ナリトス賣藥規則第二十四條ノ所謂他人ノ賣藥ニハ此効能書及外袋藥劑ノ偽造及印紙ノ消印ヲ包含スルハ法文上明確ナル所ニテ假リニ原審判決ノ如ク賣藥偽造テフ一箇ノ行爲中ニハ私文書及私印章ノ偽造行使ノ犯罪ヲ經テ始メテ完成セラレ、モノニシテ刑法第五十四條ヲ適用シ數箇ノ行爲中重キ一ノ犯罪ヲ以テ罰セラルヘキ者トセムカ賣藥規則第二十四條ハ死セル空文ト



ナラサルヲ得ス素ヨリ此手段ヲ經ルニ非サレハ絶對ニ賣藥ヲ贋造スルコトハ不可能ノ事ニ屬ス然ルヲ原審ニテ刑法第五十九條ヲ適用處斷セラレタルハ是レ擬律ニ錯誤アル裁判ナリトスト云フニ在レトモ○賣藥規則第二十四條ニハ他人ノ賣藥ヲ贋造シタル者ハ云々トアリテ同規則中右賣藥ノ文詞ニ賣藥ノ效能書及包裝紙ヲモ包含セシメタルモノト解シ得ヘキ規定アルコトナク且他人ノ賣藥ヲ贋造スルモ其效能書及包裝紙ヲ偽造セスシテ之ヲ其儘贋造シタル賣藥ニ使用シ得ヘキ場合ナキニ在ラサレハ同條ニ所謂賣藥ノ贋造トハ必スシモ效能書及包裝紙ノ偽造ヲモ包括シテ是ヲ指稱シタルモノト解スルヲ得ス故ニ他人ノ藥劑其モノ、ミヨ贋造スルニ依リ前示法條ノ犯罪ヲ構成シ贋造ノ賣藥ニ附シタル效能書及其賣藥ノ包裝紙ニシテ偽造ニ係リ其所爲他ノ法律ニ觸ル、モノナルニ於テハ其所爲ニ對シテ別ニ法律ヲ擬スヘキハ論ナシ從テ原判決ニ判示スル如ク被告カ他人ノ賣藥效能書及包裝紙ヲ偽造シ之ヲ使用シテ賣藥ヲ贋造販賣シタル各所爲ニ對シ判示ノ各罰條ヲ適用シ刑法第五十四條ニヨルヘキ一罪トシテ被告ヲ處斷シタルハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

○豫審調書ノ作成ニ付キ通常ノ方式ヲ遵守スルコト能ハサル事由ハ該調書中裁判所書記及ヒ豫審判事ノ署名捺印アル箇所ノ後行ニ之ヲ記入スルモ妨ナシ(明治四十三年七月七日)

辯護人高木益太郎上告趣意書第七點原判決ニ援用セラレタル被告ノ第一回豫審調書ニハ其末尾ニ被告裁判所書記並豫審判事ノ署名捺印後即チ調書完成後ニ尙「本調書ハ中島郡稻澤町稻島鶴飼清次郎宅ニ於テ作ルヲ以テ所屬官署ノ印ヲ用ユル能ハス」トノ附記アルモ右附記ハ豫審判事及裁判所書記ノ署名捺印シタル後行ニ記載セラレ而モ此附記ニ被告及豫審判事ノ捺印ナキニ依レハ豫審判事等ノ保證ヲ經タル記載ト認ムルコトヲ得ス從テ右附記ハ全ク無効ナリト云ハサルヘカラス果シテ然ラハ右豫審調書ハ其作成ノ場所ヲ認ムル能ハサルノミナラス所屬官署ノ捺印ヲ欠如スル違法アルニ歸スルヲ以テ右調書ヲ罪證ニ供シタル原判決ハ到底破毀ヲ免レスト信スト云フニ在レトモ○所論附記事項ハ豫審調書ノ内容ヲ成スモノニアラス單ニ作成ノ通常方式不遵守ニ關スル事由ノ記載ナレハ之ヲ裁判所書記及豫審判事ノ署名捺印アル箇所ノ後行即チ左側ニ記入スルヲ妨ケス從テ被告第一回豫審調書ノ該附記ハ刑事訴訟法第二十條第一項規定ノ條件ヲ充タシタルモノト云ハサルヘカラス原判決力之ヲ罪證ニ供シタルハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

○豫審調書ノ作成ニ付キ通常ノ方式ヲ遵守スルコト能ハサル事由ハ該調書中裁判所書記及ヒ豫審判事ノ署名捺印アル箇所ノ後行ニ之ヲ記入スルモ妨ナシ(明治四十三年七月七日)

辯護人高木益太郎上告趣意書第七點原判決ニ援用セラレタル被告ノ第一回豫審調書ニハ其末尾ニ被告裁判所書記並豫審判事ノ署名捺印後即チ調書完成後ニ尙「本調書ハ中島郡稻澤町稻島鶴飼清次郎宅ニ於テ作ルヲ以テ所屬官署ノ印ヲ用ユル能ハス」トノ附記アルモ右附記ハ豫審判事及裁判所書記ノ署名捺印シタル後行ニ記載セラレ而モ此附記ニ被告及豫審判事ノ捺印ナキニ依レハ豫審判事等ノ保證ヲ經タル記載ト認ムルコトヲ得ス從テ右附記ハ全ク無効ナリト云ハサルヘカラス果シテ然ラハ右豫審調書ハ其作成ノ場所ヲ認ムル能ハサルノミナラス所屬官署ノ捺印ヲ欠如スル違法アルニ歸スルヲ以テ右調書ヲ罪證ニ供シタル原判決ハ到底破毀ヲ免レスト信スト云フニ在レトモ○所論附記事項ハ豫審調書ノ内容ヲ成スモノニアラス單ニ作成ノ通常方式不遵守ニ關スル事由ノ記載ナレハ之ヲ裁判所書記及豫審判事ノ署名捺印アル箇所ノ後行即チ左側ニ記入スルヲ妨ケス從テ被告第一回豫審調書ノ該附記ハ刑事訴訟法第二十條第一項規定ノ條件ヲ充タシタルモノト云ハサルヘカラス原判決力之ヲ罪證ニ供シタルハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ



○沒收ノ目的タルヘキ物カ犯人以外ノ者ニ屬スルヤ否ヤハ沒收ノ判決言渡當時ニ於ケル權利關係ヲ標準トシテ之ヲ定ムヘキモノトス (明治四十三年七月八日)

上告趣意書第一點原判決ハ其主文ニ於テ「押收ノ日本刀ハ之ヲ沒收ス」ト判決セラレタルトモ右原判決自身ニ於テ認メタル如ク犯罪當時ニ於テハ他人ノ所有ニ屬シ犯罪後ニ被告ノ所有ニ歸シタルモノナルカ故ニ之ヲ沒收スルハ失當ナリ何者刑法ノ精神ハ犯罪當時ニ於テ其所有ニ屬スル物ヲ沒收スルノ趣意ナリト解セサルヘカラサレハ也故ニ原判決ハ此點ニ於テ不法アルモノト信スト云フニ在リ○依テ按スルニ刑法第十九條第二項ニ於テ沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ルト規定シタルハ犯人以外ノ者カ物ノ上ニ有スル權利ヲ保護スルノ趣旨ニ出テタルモノナレハ沒收ノ目的タルヘキ物カ犯人以外ノ者ニ屬スルヤ否ヤヲ定ムルニハ沒收ノ判決言渡當時ニ於ケル權利關係ヲ標準トシテ之ヲ定ム可ク犯罪當時ノ權利關係ヲ標準トス可キモノニアラス今原判決ヲ見ルニ同判文ニハ所論ノ日本刀ハ判示犯罪ノ用ニ供シタル物ニシテ犯罪當時ニハ被告ノ父ノ所有ナリシモ其後父ノ死亡ニ基ク家督相續ニ因リ判決言渡當時ニ在リテハ被告ノ所有ニ歸シ居リタルコトヲ判示シアルカ故ニ同判決ニ於テ右日本刀ハ犯罪供用ノ物ニシテ且ツ犯人以外ノ者ニ屬セサルモノトシテ刑法第十九條第一項第二號第二項ヲ適用シ同主文ニ於テ之ヲ沒收スト言渡シタルハ正當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

○藥劑ヲ調製シテ之ヲ一人ニノミ販賣シ未タ廣ク公衆ニ販賣スルニ至ラサル場合ト雖モ其目的公衆ヲシテ醫師ノ指揮ニ依ラス疾病治療ノ爲メ之ヲ使用セシムルニ在ル以上ハ該藥劑ノ豫メ調製シ置キタルモノナルト否トニ論ナク賣藥營業ヲ爲シタルモノニ外ナラス

○藥劑ヲ調製シテ之ヲ一人ニノミ販賣シ未タ廣ク公衆ニ販賣スルニ至ラサル場合ト雖モ其目的公衆ヲシテ醫師ノ指揮ニ依ラス疾病治療ノ爲メ之ヲ使用セシムルニ在ル以上ハ該藥劑ノ豫メ調製シ置キタルモノナルト否トニ論ナク賣藥營業ヲ爲シタルモノニ外ナラス (明治四十三年七月二十六日)

上告趣意書第一點原判決理由中第二ノ事實第一ヨリ第六ニ至ル行爲ヲ以テ賣藥規則違反ト認メラレタルモ被告ノ所爲ニシテ非行ナリトスレハ私ニ醫業ヲ營ミタルモノニシテ醫師法違反ナリト認メラルルハ兎モ角賣藥規則ニヨリ處罰セララルハ擬律ニ錯誤アル者ナリ何トナレハ被告ノ各行爲ハ何レモ病症ヲ訊問シ各其病症狀ニ適應スルト信スル藥品ヲ配劑シテ賣却シタルモノニシテ藥味分量用法服量各一定ノ賣藥ヲ調製シタル者ニアラサルナリ反言スレハ豫メ製藥シ置キタルモノニアラサルナリ (但キエン丸ハ例外トスルモ) 既ニ然レハ之ヲ擬スルニ賣藥規則ヲ以テセラレタルハ不法モ甚タシキ判決ナルヲ以テ速ニ原判決ハ破毀セラレタシト云フニ在リ○依テ按スルニ賣藥トハ公衆ヲシテ醫師ノ指揮ニ依ラス疾病治療ノタメ使用セシムルコトヲ以テ主タル目的トシテ販賣スル藥劑ヲ謂フモノナレハ藥劑ヲ調製シテ之ヲ一人ニ販賣シタルニ止リ未タ廣ク公衆ニ販賣スルニ至ラサルモ其目的ニシテ公衆ヲシテ醫師ノ指揮ニ依ラスシテ疾病ヲ治療スルタメ之ヲ使用セシムルニアリタル以上ハ其藥劑ノ豫メ調製シ置キタルモノナルト否トニ關セス其所爲タルヤ賣藥營業ヲナシタルモノトス原判決ニ依レハ第二ノ(一)乃至(六)ノ事實ハ被告ニ於テ患者ヲ診察シテ投藥ヲ爲シタルニ非ス賣藥營業ノ免許ナクシテ而モ如上ノ目的ヲ以テ或ル藥劑ヲ調製シ之ヲ或ル特種ノ疾病ニ功能アリト稱シテ



販賣シタルモノナルコトハ判文上明白ナレハ其藥劑ハ豫メ調製シ置キタルモノニアラス且未  
タ廣ク之ヲ公衆ニ販賣スルニ至ラザリシモノナルモ其所爲タルヤ無免許ニテ賣藥營業ヲナシ  
タルモノニ外ナラサレハ之ヲ醫師法ニ問擬セスシテ賣藥規則第二十三條ヲ適用シテ處斷シタ  
ル原判決ハ正當ニシテ論旨ハ理由ナシ

○非常特別稅法第七條及ヒ織物消費稅法第四條ニ所謂引取人トハ織物販賣者ヲ指稱シ販賣者  
ニ非サル者ヲ包含セス (明治四十三年十月四日)  
(參照) 毛織物ノ消費稅ハ製造場稅關又ハ保税倉庫ヨリ毛織物ヲ引取ルトキ引取人之ヲ納付スヘシ(非常特別稅法第七  
條第一項)  
上告理由書原判決ハ被告人ハ賃織業者ニシテ明治四十一年八月以降四十三年三月ニ至ル間  
賃織ノ依頼ヲ受ケタル絹織物二百五十三反絹綿交織物二反絹兵兒帶十一本合計價格千十一圓  
ニ對スル稅金一百一圓十錢ハ織物ノ査定ヲ受ケス織物消費稅納付前賃織依頼者ニ引渡シタル  
モノニシテ舊非常特別稅法第十一條ニ違反セル犯罪ナリト認定シタリ然レトモ同法第十一條  
ハ納稅ノ義務アルモノニシテ初メテ犯シ得ヘキ處罰規定ニシテ納稅ノ義務ナキ者カ織物ヲ他  
ニ引渡スモ之レカタメニ何等ノ犯罪ヲ構成スルモノニアラス而シテ同法第四條ニヨレハ「消  
費稅ハ製造場(中略)ヨリ織物ヲ引取ルトキ引取人之ヲ納付スヘシ」ト規定シアリ而シテ此引  
取人中ニハ賃織依頼者カ賃織營業場ヨリ引取ル場合ナルト又ハ織物販賣者カ織物製造所ヨリ  
引取ル場合トヲ區別シアラサルヲ以テ織物ノ引取リヲ請求シ得ヘキ者カ製造場ヨリ引取ル總  
テノ場合ニ於テ引取人之ヲ納付セサル可ラサル法意ナリト解セサル可ラス加之明治四十三年  
三月法律第七號織物消費稅法第四條ニヨルモ「消費稅ハ製造場稅關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ  
引取ルトキ引取人之ヲ納付スヘシ」ト規定シアルヲ以テ賃織業者ナル上告人ハ如何ナル場合  
ニ於テモ納稅ノ義務ナキモノト云ハサルヲ得ス從テ納稅ノ義務ナキ賃織業者カ納稅前ニ織物  
ヲ依頼者ニ引渡シタル場合ニ於テハ同第十一條(同條ハ納稅ノ義務アル製造者ニ對スル規定

○非常特別稅法第七條及ヒ織物消費稅法第四條ニ所謂引取人トハ織物販賣者ヲ指稱シ販賣者  
ニ非サル者ヲ包含セス (明治四十三年十月四日)

(參照) 毛織物ノ消費稅ハ製造場稅關又ハ保税倉庫ヨリ毛織物ヲ引取ルトキ引取人之ヲ納付スヘシ(非常特別稅法第七  
條第一項)

上告理由書原判決ハ被告人ハ賃織業者ニシテ明治四十一年八月以降四十三年三月ニ至ル間  
賃織ノ依頼ヲ受ケタル絹織物二百五十三反絹綿交織物二反絹兵兒帶十一本合計價格千十一圓  
ニ對スル稅金一百一圓十錢ハ織物ノ査定ヲ受ケス織物消費稅納付前賃織依頼者ニ引渡シタル  
モノニシテ舊非常特別稅法第十一條ニ違反セル犯罪ナリト認定シタリ然レトモ同法第十一條  
ハ納稅ノ義務アルモノニシテ初メテ犯シ得ヘキ處罰規定ニシテ納稅ノ義務ナキ者カ織物ヲ他  
ニ引渡スモ之レカタメニ何等ノ犯罪ヲ構成スルモノニアラス而シテ同法第四條ニヨレハ「消  
費稅ハ製造場(中略)ヨリ織物ヲ引取ルトキ引取人之ヲ納付スヘシ」ト規定シアリ而シテ此引  
取人中ニハ賃織依頼者カ賃織營業場ヨリ引取ル場合ナルト又ハ織物販賣者カ織物製造所ヨリ  
引取ル場合トヲ區別シアラサルヲ以テ織物ノ引取リヲ請求シ得ヘキ者カ製造場ヨリ引取ル總  
テノ場合ニ於テ引取人之ヲ納付セサル可ラサル法意ナリト解セサル可ラス加之明治四十三年  
三月法律第七號織物消費稅法第四條ニヨルモ「消費稅ハ製造場稅關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ  
引取ルトキ引取人之ヲ納付スヘシ」ト規定シアルヲ以テ賃織業者ナル上告人ハ如何ナル場合  
ニ於テモ納稅ノ義務ナキモノト云ハサルヲ得ス從テ納稅ノ義務ナキ賃織業者カ納稅前ニ織物  
ヲ依頼者ニ引渡シタル場合ニ於テハ同第十一條(同條ハ納稅ノ義務アル製造者ニ對スル規定



ニシテ此義務ナキモノハ本條ノ適用ヲ受ケサルモノト信ス。以テ問擬シ得ヘキモノニアラスト信スト云フニ在レトモ○非常特別稅法第七條及ヒ織物消費稅法第四條ニ消費稅ハ引取人之ヲ納付スヘキ旨規定スル所ノ引取人ナルモノハ織物販賣者ヲ指稱シ販賣者ニ非サル者ヲ包含セサルヲ以テ販賣者ニ非スシテ自家用ノ爲メ織物ノ製造ヲ依頼スルモノニ納稅ノ義務アラサルコト明カナリ而シテ織物製造者カ販賣者ニ非サル者ヨリ自家用ノ爲メ織物ノ製造ヲ依頼サレタル場合ニ於テ納稅義務カ製造者ニアルコトハ非常特別稅法第六條織物消費稅法第三條ニ製造者カ自家用ノ爲メ自ラ製造シタル織物ニ付テハ免稅セラルルノ規定アルヲ以テ知ルニ足ル原判決ニ依レハ被告ハ賃織物業ニ從事中氏家丈吉外數十名ノ自用者ヨリ賃織ノ依頼ヲ受ケ論旨所掲ノ織物ヲ製造シタルモノニシテ被告ノ自家用ノ爲メ製造シタルモノニ非サルヲ以テ被告カ該織物ヲ消費稅納付前各賃織自用依頼者ニ引渡シタル所爲ニ對シ非常特別稅法第十一條ヲ適用シタル原判決ハ正當ナリ論旨ハ理由ナシ

○被告ハ賃織物業ニ從事中氏家丈吉外數十名ノ自用者ヨリ賃織ノ依頼ヲ受ケ論旨所掲ノ織物ヲ製造シタルモノニシテ被告ノ自家用ノ爲メ製造シタルモノニ非サルヲ以テ被告カ該織物ヲ消費稅納付前各賃織自用依頼者ニ引渡シタル所爲ニ對シ非常特別稅法第十一條ヲ適用シタル原判決ハ正當ナリ論旨ハ理由ナシ

○零細ナル反法行爲ハ犯人ニ危險性アリト認ムヘキ特殊ノ情況ノ下ニ決行セラレタルモノニ非サル限り共同生活上ノ觀念ニ於テ刑罰ノ制裁ヲ加フヘキ法益ノ侵害ト認メサル以上ハ犯罪ヲ構成スルコトナシ（明治四十三年十月十一日）

被告辯護人添田増男上告趣意書第二點原判決ハ煙草專賣法ノ精神ヲ不當ニ適用セラレタルノ不法アリ夫レ煙草專賣法ハ一ツニ國家ノ收益ヲ計ルヲ以テ目的トス蓋シ同法第四十八條第一項ハ國家カ此目的ヲ遂ケムトスルヲ妨ケ之カ權利ヲ侵害シタルモノヲ處罰スルノ律意ナルヤ明ナリ故ニ該條違犯ノ所爲タラムニハ（一）國家ノ收益權ヲ侵害スルコト（二）其侵害ノ結果國家カ之ヲ收納セサリシコトヲ要ス從テ此二箇ノ條件ヲ具備スルニアラサレハ則チ該條違犯ノ犯罪ニアラサルモノトス今ヤ翻テ原審ニ於テ被告カ犯シタリト判定シタル事實ヲ査閱スルニ被告ハ「葉煙草七分ヲ手刻トナシ消費シタリ又判決中費消シタル葉煙草七分ノ價額金一厘云々」トアリ仍テ之ヲ按スルニ該葉煙草七分ハ縱令被告カ明治四十二年度煙草耕作人トシテ政府ニ納付スヘキモノナリト雖モ煙草專賣法第十六條ニ依レハ煙草耕作者ノ納付シタル葉煙草ハ鑑定人ヲシテ之ヲ鑑定セシメ其等級ニ依リ賠償金ヲ交付スヘキモノナルコト明ナリ從テ今被告カ假リニ之ヲ納付シタルモノトナシ之ヲ論セムカ該七分ノ價額ニシテ原審判定ノ如ク僅カニ金一厘ナリト雖モ政府ハ之ヲ被告文吉ニ賠償セサル可カラサルモノトス蓋シ政府ハ該七分ノ煙草ヲ製造販賣シ以テ幾何ノ收益ヲ收ムヘキカ今之ヲ二倍ノ價格即チ二厘ニ賣上リタリト假定スヘシ而シテ政府ハ該賣上金二厘ヲ收得スルニ付テハ頗ル煩雜ナル手數ヲ要シテ之ヲ獲得シタルモノナレハ其純益金ハ結局元價一厘ノ四割即チ四毛位ト認ムルヲ相當ナリト信



ス然リ而シテ僅カニ金四毛ハ四拾五入ノ法則ニ則リ之ヲ切捨ツヘキモノナリトス又此點ニ關シ余ハ二三ノ大銀行ニ付調査スルニ縱令一厘ナリト雖モ實際ニ於テハ之ヲ算數ニ加ヘサルヘシト云フ然ラハ則チ被告文吉ニ於テ原判決ノ如ク葉煙草七分ヲ消費シタリトスルモ敢テ政府ノ收益ニハ影響スル所ナキヲ以テ之カ權利ヲ侵害シタリト言フコトヲ得サルモノトス四毛又ハ一厘ノ損害ナリト雖モ苟モ法律ニ反スルモノハ悉ク明文ニ照シテ嚴罰セサル可ラサル乎則チ暫ク冷靜沈思熟考スルヲ要ス何トナレハ只僅カニ四毛又ハ一厘ノ金實ニ一枚ノ青銅此カ如何ニ活躍ヲ恣ニススト雖モ其影響ノ及フ所夫レ幾程ソヤ之ヲ善用シテ益スル所數ナラス之ヲ惡用シテ毒スル所看ルヲ得ス否寧ロ共ニ社會反應ヲ呼起スニ足ラサルモノト云フヘシ論者或ハ曰ハン惡ハ寸毫微細ト雖モ惡ナリ善ハ僅少塵片ト雖モ之レ皆善ナリ苟モ惡ナル範圍ニ入レハ其寸毫微細ヲ問ハス法ニ照シテ罰セサル可ラストス是レ理論上當ヲ得タルモノ、如ク看ユレトモ實ハ甚タシク常軌ヲ逸シタル論ナリトノ批難ヲ免レサルモノナリ何トナレハ總テ法律ハ社會ヲ基礎トシテ設ケサルハナク而シテ又之カ爲メニ存立ヲ全フスヘキモノナレハナリ故ニ若シ夫レ之ヲ以テ論者ノ說ノ如ク論セムカ這ハ寧ロ社會ト此點ニ於テ沒交渉ナル遠索究理即チ眞ヲ捕ヘテ以テ足レリトナス哲學的論法ト等シカラム蓋シ理論ハ哲學ノ天地ト法律ノ世界トヲ問ハス常ニ一貫ス然レトモ哲學ハ元來理論ノ上ニ其生命ヲ有シ法律ハ實現社會ノ上ニ其血液ヲ循環セルモノナレハ哲學カ實踐ナル天地ヲ有セサルニ反シテ法律ハ實行ナル世界ヲ有ス是ヲ以テ法律上ニ應用セラルヘキ理論ハ實踐社會ナル限界ヲ付セラレ此範圍ヲ脫スルコトヲ得サルモノトス然ルニ原審カ何等社會ニ反映ヲ與ヘサル青銅一個ノ爲メニ之ヲ強テ法律ノ

制裁範圍ニ入レタルハ所謂實際社會ナル限界ヲ脫シテ徒ニ人事ト沒交渉ナル哲學的理論ニ走リタル嫌ヲ免レサルモノトス以上ノ次第ニ付原判決ハ到底破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ○因テ按スルニ凡ソ純然タル物理學上ノ原則ニ從ヒ判斷ヲ下スヘキ物界ノ現象トシテ事物ヲ觀察スルトキハ其有無ノ間ニハ人意ヲ以テ動カスコトヲ得サル截然タル分界アリ秋毫ノ末ト雖モ苟クモ實在セルモノナル以上ハ常ニ必ス是ヲ有的ノモノトナスコトヲ要シ事ノ零細ニ涉ルカ爲メニ無的ノモノトシテ是ヲ閑却スルコトヲ許サスト雖モ國民共同ノ生活關係上ヨリ事物ヲ觀察スルニ當リテハ常ニ必スシモ物理的觀念ノミニ準據スルコトヲ得ス而シテ此見地ヨリスルトキハ人類非行ノ零細ナルモノハ惡性ノ特ニ認ムヘキモノナキ限リハ其人生ニ及ホス害惡極メテ僅少ナルヲ以テ是ヲ計算外ニ置キテ全然不問ニ付スルヲ常態トスル所ナリ是レ他ナシ此種ノ非行ハ之ヲ問フノ必要ナク又之ヲ問フニ因リテ被ムル損失ハ之ヲ問ハサルカ爲メ生スル害惡ニ比シテ遙カニ大ナルモノアレハナリ是レ國民ノ共同生活上ニ於テ一般ニ認メラル、所ノ觀念ナリトス刑法其他ノ刑罰法ヲ解釋スルニ當リテハ物理學上ノ觀念ノミニ從フヘキヤ若クハ共同生活上ノ觀念ニヨルヘキヤ若シ夫レ單ニ前者ノミニ從フヘシトスルトキハ一粒ノ粟一滴ノ水ト雖モ尙刑罰法ニ於テ之ヲ侵害スルコトヲ禁スル法益タルニ妨ケナク之ヲ侵害シタル者アルニ當リテハ場合ノ如何ニ拘ラス之ニ對シテ當該條規ヲ適用シ刑罰ヲ當行シテ寸毫モ假借スル所ナキニ至ルヘシ然レトモ刑罰法ハ斯ル場合ヲ豫想シテ制裁ヲ設ケタルモノニアラサルハ何人ト雖モ之ヲ爭フコトヲ得サル所ナリ抑モ刑罰法ハ共同生活ノ條件ヲ規定シタル法規ニシテ國家ノ秩序ヲ維持スルヲ以テ唯一ノ目的トス果シテ然ラハ之ヲ解釋ス



ルニ當リテモ亦主トシテ其國ニ於テ發現セル共同生活上ノ觀念ヲ照準トスヘク單ニ物理學上ノ觀念ノミニ依ルコトヲ得ス而シテ零細ナル反法行為ハ犯人ニ危險性アリト認ムヘキ特殊ノ情況ノ下ニ決行セラレタルモノニアラサル限り共同生活上ノ觀念ニ於テ刑罰ノ制裁ノ下ニ法律ノ保護ヲ要求スヘキ法益ノ侵害ト認メサル以上ハ之ニ臨ムニ刑罰法ヲ以テシ刑罰ノ制裁ヲ加フルノ必要ナク立法ノ趣旨モ亦此點ニ存スルモノト謂ハサルヲ得ス故ニ共同生活ニ危害ヲ及ボサル零細ナル不法行為ヲ不問ニ付スルハ犯罪ノ檢舉ニ關スル問題ニアラスシテ刑罰法ノ解釋ニ關スル問題ニ屬シ之ヲ問ハサルヲ以テ立法ノ精神ニ適シ解釋上ノ原理ニ合スルモノトス從テ此種ノ反法行為ハ刑罰法條ニ規定スル物的條件ヲ具フルモ罪ヲ構成セサルモノト斷定スヘク其行為ノ零細ニシテ而モ危險性ヲ有セサルカ爲メ犯罪ヲ構成セサルヤ否ヤハ法律上ノ問題ニシテ其分界ハ物理的ニ之ヲ設クルコトヲ得ス健全ナル共同生活上ノ觀念ヲ標準トシテ之ヲ決スルノ外ナシトス而シテ原院ノ認メタル事實ニヨレハ被告カ政府ニ對シテ怠納シタル葉煙草ハ僅僅七分ニ過キサル零細ノモノニシテ費用ト手數トヲ顧ミスシテ之ヲ誅求スルハ却テ税法ノ精神ニ背戾シ寧ロ之ヲ不問ニ付スルノ勝レルニ如カサルノミナラス被告ノ所爲ハ零細ナル葉煙草ノ納付ヲ怠リタルノ外特ニ之ヲ危險視スヘキ何等ノ狀況存セサリシコトハ原院文上明白ナレハ被告ノ所爲ハ罪ヲ構成セサルモノナルニ原院カ之ニ對シテ刑ヲ言渡シタルハ失當ニシテ上告論旨ハ理由アリ原判決ハ破毀ヲ免レサルモノトス既ニ此點ヲ以テ原判決ヲ破毀シ被告ヲ無罪トスヘキモノナル以上ハ他ノ上告論旨ニ對シテハ一々説明ヲ爲スノ要ナシ

○政府ニ納付スヘキ葉煙草ヲ他ニ讓渡スル行為ト葉煙草ノ竊取行為トハ各犯罪ノ性質上互ニ手段タリ若クハ結果タル關係ヲ有セス從テ其竊取行為カ讓渡行為ニ對シテ具體的ニ手段タリ又ハ結果タル關係アリトスルモ刑法第五十四條第一項後段ノ規定ニ依リ一箇ノ牽連犯ヲ以テ處斷スヘキモノニ非ス (明治四十三年十月二十五日)

東京控訴院檢察長河村善益上告趣意書原判決ハ云云「本件ニ於ル葉煙草讓渡行為ハ所謂贓物ノ處分ニシテ竊盜ノ結果タルニ外ナラス而シテ主タル犯罪ト其結果タル行為カ合一的ノ一罪ナルコトハ刑法第五十四條第一項ノ規定ニ徵シ明カニシテ云云煙草專賣法ニ特別ノ規定ナキカ故ニ刑法第八條ニ依リ該條ノ規定ハ煙草專賣法犯則者ニモ之ヲ適用スヘキモノナリ然ラハ被告カ前示ノ如ク葉煙草竊取ノ行為ニ付キ處斷セラレタル以上ハ一事不再理ノ原則ニ從ヒ其結果犯タル讓渡行為ニ付再ヒ更ニ罪責ヲ負フヘキモノニ非ス云云」ト判定シタルモ抑モ煙草專賣法ノ罰則ハ國家ノ煙草專賣權ヲ保護スルニ出テタル特種ノ刑罰法ニシテ何人ト雖モ擅ニ葉煙草ヲ處分スルコトヲ禁止シタルモノナレハ其之レヲ取得シタル原因ノ違法ナルト否トヲ問ハス苟クモ之ヲ處分シタルニ於テハ專賣權侵害ノ不法行為タルヲ免カレサルノミナラス其讓渡行為ハ竊盜行為ニ對シ獨立セル異別ノ行為ニシテ密接ナル因果ノ關係ヲ有スルモノニ非ス加之其侵害セラルヘキ法益ニ於テモ二者同シカラサルモノトス然ルニ原院カ讓渡行為ヲ以テ竊盜ノ結果トシ合一的ノ一罪ナリト判定シタルハ擬律錯誤ノ不法アル裁判ナリト信スト云フニ在リ○因テ按スルニ葉煙草ヲ竊取シタル犯人カ其贓物タル葉煙草ヲ處分シタルトキハ他人ノ財產權ヲ侵害スル關係ニ於テ後ノ處分行爲ハ前ノ竊取ニ因リ既ニ領得シタル目的物ニ



對シ横領ノ目的ヲ實行シタルニ過キサルヲ以テ前ノ竊取行爲カ竊盜ノ罪名ニ觸ルル外後ノ處分行爲ハ別ニ何等ノ罪名ニモ觸ルヘキモノニアラス從テ此場合ニ於テハ刑法第五十四條第一項後段ノ適用ナキモノトス而シテ政府ニ納付スヘキ葉煙草ヲ他ニ讓渡スル行爲ハ煙草專賣法ニ依テ保護スル政府ノ煙草專賣權ヲ侵害スルモノナレハ他人ノ財產權ヲ侵害スル葉煙草ノ竊取行爲トハ各犯罪ノ性質上手段タリ若ハ結果タル關係ヲ有セサルモノトス左レハ假令葉煙草ノ竊取カ政府ニ納付スヘキ葉煙草ノ讓渡行爲ニ對シテ具體的ニ手段タリ若クハ結果タル關係アリトスルモ右二箇ノ行爲ハ各獨立シテ別箇ノ罪ヲ構成スヘク刑法第五十四條第一項後段ニ所謂犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルモノトシ一箇ノ牽連犯ヲ以テ處斷スヘキモノニ非ス而シテ本件公訴ニ係ル事實ハ被告ハ明治四十二年十月六日高野嘉平次方ニ於テ同人ニ被告カ煙草耕作人渡井利作方ヨリ竊取シタル其耕作ニ係ル政府ニ納付スヘキ同年度產葉煙草二貫三百目ヲ代金二圓四十錢ニテ讓渡シタリト云フニ在レハ假令原判決ニ認ムル如ク右葉煙草ハ被告カ渡井利作方ヨリ葉煙草約二貫五百目ヲ竊盜シタリトシテ既ニ處刑セラレタル犯罪ノ贓物タルニ該當スルモ叙上説明ノ理由ニ依リ右竊取行爲ト煙草專賣法違反ノ行爲トハ各別箇ノ罪ヲ構成シ併合罪ヲ以テ論スヘク此併合罪中竊盜ノ罪ニ付既ニ裁判ヲ經タルトキハ未タ裁判ヲ經サル煙草專賣法違反罪ニ付テハ刑法第五十條ニ依リ更ニ裁判ヲ爲スヘキモノトス然ルニ原判決ニ於テ論旨所掲ノ理由ニ依リ本件公訴ニ係ル煙草專賣法違反ノ行爲ハ前記竊盜行爲ノ結果ニシテ刑法第五十四條第一項ニ依リ合一的一罪ヲ爲スモノトシ既ニ其一罪ノ一部ニ付キ處刑セラレタル以上ハ一事不再理ノ原則ニ從ヒ其結果犯タル讓渡行爲ニ付

キ再ヒ其罪責ヲ負フヘキモノニ非サルヲ以テ本件ニ付テハ刑事訴訟法第二百二十四條第二三二十六條第六十五條第四號ヲ適用シ被告ニ免訴ヲ言渡スヘキモノトシ此ト同一理由ニ依リ被告ニ免訴ヲ言渡シタル第一審判決ヲ正當トシ檢事ノ控訴ヲ棄却シタルハ擬律ニ錯誤アル違法ノ判決ニシテ本論旨ハ理由アリ



○死體遺棄ノ行爲ハ殺人ノ行爲ヨリ當然生スヘキ結果ニ非ス故ニ殺人ノ行爲ニ付キ豫審請求アリタル場合ニ死體遺棄ノ事實ヲモ併セテ公判ニ付シタル決定ハ不適用ノモノナルヲ以テ公判裁判所ハ此點ニ付キ公訴不受理ノ判決ヲ爲サ、ルヘカラス（明治四十三年十一月一日）

辯護人竹下延保上告趣意申立書第一點本件起訴狀ヲ査閱スルニ福島地方裁判所檢事佐々木丸治ノ作成ニ係ル起訴狀（記録三〇五丁）ニハ被告等ニ對スル犯罪事實トシテ「被告等ハ共謀シテ明治四十三年一月二十七日ノ夜岩井村字戸ノ内杉本キヲ殺害シタリ」トノ事實ノ記載アリテ前掲死體遺棄ノ犯罪ニ付テハ起訴ノ事實ナキニ不拘豫審以來原院ニ至ル迄被告ニ對シ死體遺棄ノ犯罪事實ヲ認定セラレタルハ刑事訴訟法第八十四條第一項末段ノ規定並同第百八十五條第三號ニ依リ起訴ヲ要セストナシ該犯罪事實ヲ認定セラレタルナラム然レトモ原判決ノ認定セラレタル死體遺棄ノ犯罪事實ハ單ニ「死ニ至ラシメ之カ死體ヲキヲ方西側ノ井戸ニ投棄シタルモノナリ」トアリテ果シテ被告カ右殺人ノ罪ヲ免ル、爲メナルヤ否ヤノ事實ノ認定ヲ爲サ、ルヲ以テ原判決ノ事實認定ノミニテハ本件死體遺棄ノ犯罪ヲ直チニ附帯犯ナリト斷シ得サルモノトス尙刑法第五十四條犯罪ノ結果ニシテ他ノ罪名ニ觸ル、場合ハ重キ犯罪ノ起訴ノ中ニ當然包含セラル、如ク論スルモノアルモ本件死體遺棄ノ犯罪ハ殺人罪ヨリ其當然ノ結果トシテ生シタル行爲ニアラスシテ被告カキヲ殺害シ進テ其死體ヲ井中ニ投棄シタルモノナレハ之ヲ目シテ直チニ第五十四條ヲ適用スヘキモノニアラサルヤ明カナリ要スルニ原院ハ訴ヲ受ケサル事件ニ付裁判ヲナシタリトノ不法ヲ免レスト思料スト云ヒ「第二點原判決ハ被告ニ對シ殺人及ヒ死體遺棄ノ二箇犯罪事實ヲ認定シ之ニ對スル法律ノ適用トシテ刑

法第九十九條同第九十條ヲ引用シ而シテ後者ハ前者ノ結果ナリトシ同法第五十四條第一項ヲ適用セラレタリ刑法第五十四條ノ規定ハ元來一箇ノ犯罪ヲ構成スルニ止マリ一罪ニ對スル處斷方法ヲ規定シタルモノニシテ犯罪ノ手段若クハ其結果タル行爲カ偶々他ノ罪名ニ觸ル、モ之ヲ論セサルノ法意ナリトス然ルニ原院ニ於テ被告ニ對シ刑法第五十四條ノ適用ヲ爲シナカラ重キ殺人罪ヲ認定シタルニ不拘更ニ其結果タル死體遺棄ノ犯罪ヲモ併セ認定シ被告カ宛モ二箇ノ犯罪行爲ヲ爲シタルカ如ク認定セラレタルハ不法ナリト云フニ在リ○因テ按スルニ刑法第五十四條ニ所謂犯罪ノ結果タル行爲トハ或ル犯罪ニ原因シテ其當然ノ結果トシテ生スル行爲ヲ云フモノナレハ二者ノ間ニ因果關係アルニ非サレハ同條ヲ適用スルヲ得サルモノトス原判決ニ判示スル死體遺棄ノ犯罪ハ豫審終結決定ニ基キ審判シタルモノナルモ死體遺棄ノ行爲ハ殺人ノ行爲ヨリ當然生スヘキ結果行爲ニ非サルヲ以テ本件ノ死體遺棄ノ點ニ付キ起訴ナキト所論ノ如ク豫審請求書（記録三〇五丁）ノ記載ニ依リ明確ナル以上ハ此點ニ關スル豫審終結決定ハ起訴ナキ事實ヲ公判ニ付シタル不適用ノモノナレハ公判裁判所ハ公訴不受理ノ判決ヲ爲サ、ルヘカラサルニ原院ノ措置玆ニ出テス其公訴ヲ受理シテ之ヲ審理シ刑法第五十四條ヲ適用シテ處斷シタルハ失當ニシテ論旨ハ何レモ結局理由アリ原判決ハ破毀ヲ免レ



○家宅侵入未遂行爲ニ付キ巡查ノ逮捕ヲ免ル、爲メニ爲シタル公務執行妨害ノ行爲ハ侵入未遂ノ所爲ヨリ生スヘ當然ノ結果ト云フヲ得サルヲ以テ刑法第五十四條第一項後段ノ規定ニ該當セス（明治四十三年十一月十日）

辯護人一又又七上告趣意書第一點原判決ハ被告ノ家宅侵入未遂行爲及公務執行妨害行爲ヲ關聯ナキ獨立ノ犯罪ナリトシ刑法第四十七條ヲ適用スヘキ併合罪ナリト判示シタルトモ本件被告ノ公務執行妨害行爲ハ家宅侵入未遂行爲ニ付キ巡查ノ逮捕ヲ免ル、タメナシタルモノニシテ其結果タルモノナリ蓋シ犯罪ノ結果タル行爲トハ斯ル犯罪ノ當然ノ結果タル行爲ヲ指稱スルモノト解セサルヘカラサルモノナレハ被告ニ對シ刑法第五十四條ヲ適用スヘキハ格別ナレトモ第四十七條ヲ適用スヘキモノニアラス從ツテ原判決ハ擬律ヲ誤リタルノ違法アルモノト信スト云フニ在レトモ○家宅侵入未遂行爲ニ付巡查ノ逮捕ヲ免ル、爲メニナシタル公務執行妨害ノ行爲ハ家宅侵入未遂ノ行爲ヨリ生スヘキ當然ノ結果ト謂フヲ得サルヲ以テ刑法第五十四條第一項後段ニ該當スルモノニアラス然ラハ原審カ同法第四十七條ヲ適用シテ處斷シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

○連續シタル數箇ノ行爲ニシテ同一罪名ニ觸ルル以上ハ其犯罪ノ結果ノ量カ行爲ノ箇數ニ從ヒテ擴大セラルルト否トヲ問ハス等シク連續ノ一罪トシテ刑法第五十五條ヲ適用處斷スヘキモノトス（明治四十三年十一月十八日）

辯護人布施辰治上告趣意書第一點刑法第五十五條ニ「數箇ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之レヲ處斷ス」トノ所謂連續犯トハ數箇ノ行爲ヲ各箇別立ノ行爲トシテ部分的ニ觀念スルモ尙ホ犯罪ヲ構成シ且ツ其ノ繰返サレタル數箇ノ行爲ヲ連續シタル一罪トシテ觀念スルトキハ犯罪ノ結果ノ量ヲ擴大セラルヘキ性質ノ罪案ナリト思料セラル今原判決ヲ閱スルニ一被告ハ下水内郡外様村大字中曾根小林辰右衛門外家内合計六名ノモノニ刑事上ノ處分ヲ受ケシムルノ目的ヲ以テ同人等ハ明治四十二年十二月九日同郡外様村字繰黒倉宮林ニテ炭燒竊盜ヲ爲シタリ而シテ其額ハ凡ソ五十俵位ナリトノ事實ヲ飯山警察署ニ一回長野區裁判所ニ一回同事實ヲ以テ小林辰右衛門ノミニ對シ飯山警察署ニ一回都合三回虛偽ノ申告ヲ爲シタリトノ趣意ニアリテ刑法第五十五條連續犯ニ關スル規定ヲ問擬セラレタルモ原院ノ判示事實ニ由レハ被告ノ繰返シタル三回ノ申告ハ全ク同一ノ犯罪事實ヲ同一ノ警察署ニ二回及同一所管ノ檢事局ニ爲シタルモノニシテ假リニ其目的ヲ遂行シ得タリトスルモ之ヲ刑事裁判ニ所謂一事不再理ノ原則ヨリスルトキハ其申告ノ一回タルト數回タルトニヨリテ犯罪ノ結果ニ何等ノ異同影響ヲ生ス可キモノニアラサルコトハ假例殺人ノ犯罪手段トシテ一刀ヲ揮ヒテ其目的ヲ達シタルト亦數刀ヲ加ヘテ其目的ヲ達シタルトニヨリテ犯罪ノ結果ニ何等ノ異同影響ヲ生セサルト同一ナル單一ノ事實也然ラハ原判決カ如上ノ三回ノ申告事實ニ對シテ連續



犯ノ規定ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ不法也ト云フニ在レトモ○連續シタル數箇ノ行爲ニシテ同一罪名ニ觸ルルモノナル以上其犯罪ノ結果ノ量カ犯罪行爲ノ箇數ニ從テ擴大セラルルモノナルト否トヲ問ハス等シク連續ノ一罪トシテ刑法第五十五條ヲ適用處斷スヘキモノナルヲ以テ原判決ニ於テ所論ノ事實ヲ認メ右條文ヲ適用シタリシハ相當ナリ

○間接國稅犯則者處分法第八條ハ當該官吏カ現ニ所屬官廳内ニ存在セル物品ヲ押收スル場合ニハ之ヲ適用スヘキモノニ非ス (明治四十四年二月十日)

辯護人赤松乙也上告趣意書第七點煙草專賣法第六十七條ニヨリ準用セラルルトコロノ間接國稅犯則者處分法第八條ニ現行犯ヲ除ク外日沒後差押ヲ爲スヲ得サルコトノ規定アルニモ拘ラス本件明治四十二年十一月十九日ノ犯行ニ對シ約一个月ヲ經過シタル同年十二月十六日午後七時即チ夜間ニ於テ稅關監視三牧市郎カ犯則物件差押處分ヲナシタルハ(差押ノ午後七時ナルコトハ差押目錄ニ明記シアリ)違法ノ處置ニシテ從テ之ヲ錄取シタル差押目錄ト題スル書面ハ法律上無効ノモノナルニ原院ニ於テ之ヲ採用シテ有罪ノ判決ヲ與ヘラレタルハ違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○煙草專賣法第六十七條ノ規定ニ依リ準用セラル可キ間接國稅犯則者處分法第八條ハ刑事訴訟法第四條ト等シク被告人ノ住居又ハ物件ヲ藏匿スル者ノ住居ニ於テ差押ヲ爲ス場合ノミニ適用ス可キモノニシテ本件ノ如ク現ニ當該官吏カ所屬官廳内ニ存在スル物件ヲ押收スル場合ニハ適用ス可キモノニ非ス左レハ本論旨ハ理由ナシ

○間接國稅犯則者處分法第八條ハ當該官吏カ現ニ所屬官廳内ニ存在セル物品ヲ押收スル場合ニハ之ヲ適用スヘキモノニ非ス (明治四十四年二月十日)

辯護人赤松乙也上告趣意書第七點煙草專賣法第六十七條ニヨリ準用セラルルトコロノ間接國稅犯則者處分法第八條ニ現行犯ヲ除ク外日沒後差押ヲ爲スヲ得サルコトノ規定アルニモ拘ラス本件明治四十二年十一月十九日ノ犯行ニ對シ約一个月ヲ經過シタル同年十二月十六日午後七時即チ夜間ニ於テ稅關監視三牧市郎カ犯則物件差押處分ヲナシタルハ(差押ノ午後七時ナルコトハ差押目錄ニ明記シアリ)違法ノ處置ニシテ從テ之ヲ錄取シタル差押目錄ト題スル書面ハ法律上無効ノモノナルニ原院ニ於テ之ヲ採用シテ有罪ノ判決ヲ與ヘラレタルハ違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○煙草專賣法第六十七條ノ規定ニ依リ準用セラル可キ間接國稅犯則者處分法第八條ハ刑事訴訟法第四條ト等シク被告人ノ住居又ハ物件ヲ藏匿スル者ノ住居ニ於テ差押ヲ爲ス場合ノミニ適用ス可キモノニシテ本件ノ如ク現ニ當該官吏カ所屬官廳内ニ存在スル物件ヲ押收スル場合ニハ適用ス可キモノニ非ス左レハ本論旨ハ理由ナシ



○賭場開張罪ト賭博罪トハ別箇獨立ノ犯罪ナルヲ以テ被告カ自己ノ開張シタル賭場ニ於テ自  
 ラ賭博ヲ爲スモ之カ爲メニ其各犯罪ハ獨立ノ性質ヲ失フヘキモノニ非ス(明治四十四年  
 辯護人法學博士鶴澤總明上告趣意書第一點本件第二犯罪事實ハ既ニ確定判決ヲ經タル事實  
 ナルヲ以テ該事實ニ付審理裁判ヲ爲シタル原判決ハ一事不再理ノ原則ニ違反スル不法ノ裁判  
 ナリト信ス原審ニ於テハ新潟區裁判所ニ於テ既ニ確定判決ヲ經タル事實ハ賭博罪ニシテ本件  
 第二犯罪事實ハ賭博開張罪ナルヲ以テ其間犯罪事實異ナルヲ以テ一事不再理ノ原則ニ反スル  
 モノニアラスト思料スルニアルヘキモ本件ハ被告カ自己カ開張シタル賭場ニ於テ自己モ亦賭  
 博ヲ爲シタルモノナルヲ以テ開張ノ事實ト賭博ノ事實トハ少クモ手段若クハ結果ノ關係ヲ有  
 スルヲ以テ刑法第五十四條第一項後段ニ據リ法律上ノ一罪トシテ重キ刑ヲ以テ處斷セサルヘ  
 カテサルニ之ヲ別罪トシテ審理裁判シタルハ不法ナリト云フニ在リ○因テ按スルニ原判決竝  
 ニ別冊記録中新潟區裁判所ノ判決ヲ閱スルニ何レモ論旨ニ摘示シアルト同一ノ犯罪事實ヲ判  
 示シアレトモ賭場開張罪ト賭博罪トハ元來別箇獨立ノ犯罪ニシテ被告カ自己ノ開張シタル賭  
 場ニ於テ自ラ賭博ヲ爲シタルカ爲メニ其各犯罪カ獨立ノ性質ヲ失フヘキ謂ハレナケレハ本件  
 被告ノ賭場開張ノ犯罪事實ハ被告カ曩キニ新潟區裁判所ニ於テ有罪ノ判決ヲ受ケタル賭博ノ  
 犯罪事實ト同一ノモノニアラスト從テ本件ハ未タ確定判決ヲ經サルモノナレハ原審カ之ヲ審理  
 シテ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ正當ニシテ不法ニアラスト又賭場開張ノ行爲ト賭博ノ行爲トハ其間  
 ニ手段結果ノ關係アリト謂フヲ得サルカ故ニ本件賭場開張罪ハ前示賭博罪ト共ニ刑法第五十  
 四條第一項後段ニ依リ一罪トシテ論スヘキモノニアラスト

○刑法施行以前ノ犯罪カ數箇ノ行爲ニシテ舊刑法ニ依レハ各行爲ハ獨立ノ犯罪ヲ構成シ其行  
 爲中公訴ノ時効ニ罹ルヘキモノアルモ刑法ニ於テハ相互ニ牽聯シテ一罪ヲ成スヘキモノナ  
 ルトキハ其公訴時効モ亦全體ニ付キ成就スルモノニシテ各行爲相分離シ各別ニ時効ニ罹ル  
 コトヲ容サス(明治四十四年二月二十七日)

被告勇三郎辯護人花井草藏上告趣意書第五點被告勇三郎ハ明治四十三年五月三十一日ノ起  
 訴當時ハ既ニ犯罪後三年ヲ經過シテ公訴權ノ消滅シタルモノナルコト明カナルヲ以テ公訴不  
 受理ノ言渡ヲ爲スヘキ筈ナルニ事茲ニ出テス娼妓取締規則第十三條第一號ニ問擬シタル原判  
 決ハ不當ニ公訴ヲ受理シタル不法アルモノト信スト云フニ在リ○然レトモ新舊刑法ヲ比照シ  
 テ處斷スヘキ舊刑法施行中ノ犯罪カ數箇ノ行爲ニシテ舊刑法ニ據レハ各行爲ハ獨立ノ犯罪ヲ  
 構成シ其行爲中公訴ノ時効ニ罹ルヘキモノアルモ刑法ニ據レハ各行爲カ牽聯シテ一罪ヲ成  
 スヘキモノナルトキハ其公訴ノ時効ハ全體ニ對シテ成就セサルヘカラス各行爲カ分離シテ各  
 別ニ公訴時効ニ罹ルコトヲ容サス故ニ刑法ニ據レハ公訴事實ノ全般ニ涉リテ審判スヘキモノ  
 トスルニ於テハ舊刑法ニ據リテモ亦同一轍ニ出テサルヘカラス何トナレハ公訴時効ノ成否ハ  
 起訴ノ効力ニ關スル問題ニシテ犯罪ノ成否ニ關スルモノニ非サルカ故ニ同一案件ニ付キ新舊  
 刑法ノ適用上判定ヲ異ニスル理由存セサレハナリ原判決ヲ按スルニ所謂娼妓取締規則違反ノ  
 行爲ハ詐欺罪ノ手段トシテ行ヒタルモノニシテ一ノ牽聯犯ヲ組成スヘキ行爲ニ過キサレハ該  
 行爲ニ對スル公訴ノ時効ノミ獨立シテ完成スヘキニ非ス故ニ原審ニ於テ右行爲ニ付キ適法ノ  
 起訴アリタルモノトシテ受理審判シタルハ相當ニシテ所論ノ如ク違法アルモノニ非ス



○荷モ署名者自ラ其氏名ヲ紙若クハ其他ノ物體ニ現出セシムル以上ハ汎ク理化學的ノ方法ニ依ルコトヲ妨ケサレハ炭酸紙ヲ用キテ氏名ヲ現出セシムルカ如キモ亦筆記ト同シク署名タルヲ失ハス（明治四十四年三月九日）

被告宗太郎傳吉辯護人横山勝太郎同安齋直江上告趣意書第一點本件被告傳吉ニ對スル檢事ノ起訴狀ヲ閱スルニ炭酸紙ヲ用キ其氏名ヲ複寫シタルモノニシテ不適法ノモノナルニ原院ハ「……依テ被告傳吉ニ對スル豫審請求書ヲ査閱スルニ同書中檢事杉本時三郎ノ氏名等ノ記載ハ炭酸紙ヲ用ヒ記シタルモノナルヲ認ムルニ足リテ墨汁ト毛筆トニ依リ記シタルモノニ非サルコト明カナリト雖同檢事自ラ其氏名ヲ記シタルモノト認ムヘキヲ以テ署名ノ効アリ從テ起訴ハ適法ナリ故ニ右公訴不受理ノ申立ハ之ヲ却下スヘキモノトス」ト判示シ辯護人ヨリ提出シタル公訴不受理ノ申立ヲ却下シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○署名ヲ爲ス方法ハ法律上何等規定スル所ナケレハ必スシモ普通ノ方法ニ從ヒ筆墨ヲ用キルコトヲ要セス苟クモ署名者自ラ其氏名ヲ紙若クハ其他ノ物體ニ現出セシムル以上ハ汎ク理化學的ノ方法ニ依ルコトヲ妨ケス故ニ夫ノ炭酸紙ヲ用キテ氏名ヲ現出セシムルカ如キモ筆記ト同シク署名タルヲ失ハサルモノトス被告等ニ對スル起訴狀ヲ閱スルニ檢事杉本時三郎ノ署名ハ自署ト認ムヘキカ故ニ炭酸紙ヲ用キ其氏名ヲ紙上ニ現出セシムルモ敢テ違法ト爲サス然ラス所論起訴狀ハ孰レモ適法ニシテ之ヲ受理審判シタル原判決ハ相當ナリト謂ハサルヘカラス本論旨ハ共ニ理由ナシ

○刑事訴訟法第五十七條ハ其第二號ニ所謂其他ノ物體ニ付キ何等限定スル所ナケレハ苟モ犯罪行為ヨリ生シタル物體其モノヲ携帯セルニ依リ現ニ犯人タルコトヲ確認スルニ足ル以上ハ既知ノ犯罪ニ非サルモ同條所定ノ准現行犯ト爲スヲ相當トス（明治四十四年三月十六日）

（參照）重罪輕罪ニ付キ左ノ場合ハ現行犯ニ准ス「兇器贓物其他ノ物體ヲ携帯シ又ハ身體被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料ス可キトキ（舊刑事訴訟法第五十七條第二號）」

辯護人高木益太郎上告趣意書第一點本件ハ被告カ偽造約束手形ヲ所持シ居タリトノ故ヲ以テ之ヲ准現行犯トシテ取扱ハレタレトモ抑モ刑事訴訟法第五十七條第二號ノ所謂「兇器贓物其他ノ物體ヲ携帯シテ犯人ト思料スヘキトキ」トハ必スヤ曩キニ或一定ノ犯罪アリシコト明カニシテ且其攜帶物體カ之ニ相應スルヲ以テ則チ既知ノ犯罪ハ此者ノ所爲ナリト推認シ得ヘキ場合ナラサルヘカラス然ルニ本件ノ約束手形ハ明治四十三年八月三日ニ偽造完成シ爾來自己ノ手裡ニ收メ居リテ何人モ之レカ犯行アリシコトヲ確知セサリシニ其後九月二十七日ニ至リ偶然ノ事由ニ依リ初メテ發覺シタルモノナレハ之レヲ以テ准現行犯ナリトシテ特別處分ノ手續ニ依ル能ハサルハ勿論ナリ果シテ然ラハ本件ニ付キ檢事ハ訊問調書ヲ作成スルノ權限ヲ有セサルヲ以テ原判決カ其證據ノ部ニ援用セラレタル被告ニ對スル檢事ノ訊問調書ハ無効ノ書類ナリト云ハサルヘカラス故ニ之ヲ罪證ニ援用シタル原判決ハ採證ノ法則ニ違反スルモノト信スト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第五十七條第二號ニハ兇器贓物其他ノ物體ヲ携帯シ云云犯人ト思料スヘキトキトアリテ同號ニ所謂其他ノ物體ニ何等限定スル所ナケレハ犯罪行為ヨリ生シタル物體其モノヲ攜帶スルニ依リ現ニ犯人タルコトヲ確認スルニ足ル以上ハ既知ノ



犯罪ニ非サルモ前示法條ニ規定スル准現行犯ト解スルヲ相當トス故ニ本件ニ於ケル如ク行使ノ目的ヲ以テ他人名義ノ證書ヲ偽造シ之ヲ所持セル者ヲ警察署ニ同行シタル場合ニ於テ巡査カ右偽造證書ヲ發見シ其者ヲ證書偽造ノ犯人ト思料シタルトキハ現行犯人ニ准シ之ヲ逮捕シ司法警察官ニ告發シ得ヘク而シテ右告發ヲ受ケタル司法警察官ハ逮捕及告發ニ關スル證書ヲ作成スルハ違法ニ非ス從テ檢事カ被告惣太郎ヲ准現行犯トシテ訊問シタル調書ハ適法ノモノナルヲ以テ之ヲ罪證ニ供スルモ無効ノ書類ヲ採用シタルモノト云フヲ得ス本論旨ハ理由ナシ

○屋內ニ於テ濁酒ヲ密造シ居タル現行ヲ收稅官吏ニ發見セラレタルモノナル以上ハ間接國稅犯則者處分法第八條第一項但書ノ規定ニ從ヒ日沒後臨檢シ其顛末書ヲ作成スルモ違法ニ非ス

○收稅官吏カ臨檢顛末書ノ記載ヲ立會人ニ示シ其名下ニ拇印ヲ爲サシメタル以上ハ縱令同人無筆ナルモ其記載事項ハ之ヲ承諾シタルコトヲ認メ得ヘケレハ右ノ記載ヲ讀聞ケサルモ之ヲ以テ違法ナリト云フヲ得ス

○間接國稅犯則者處分法第十條ニ顛末書ノ記載ヲ示スヘキ旨規定シアルハ立會人又ハ尋問ヲ受ケタル者ニ右記載ヲ示スコトノ可能ナル場合ニ限り之ヲ爲シ其然ラサル場合ニ於テモ尙示スコトヲ要求セル趣旨ニ非ス (明治四十四年四月十七日)

○屋內ニ於テ濁酒ヲ密造シ居タル現行ヲ收稅官吏ニ發見セラレタルモノナル以上ハ間接國稅犯則者處分法第八條第一項但書ノ規定ニ從ヒ日沒後臨檢シ其顛末書ヲ作成スルモ違法ニ非ス

○收稅官吏カ臨檢顛末書ノ記載ヲ立會人ニ示シ其名下ニ拇印ヲ爲サシメタル以上ハ縱令同人無筆ナルモ其記載事項ハ之ヲ承諾シタルコトヲ認メ得ヘケレハ右ノ記載ヲ讀聞ケサルモ之ヲ以テ違法ナリト云フヲ得ス

○間接國稅犯則者處分法第十條ニ顛末書ノ記載ヲ示スヘキ旨規定シアルハ立會人又ハ尋問ヲ受ケタル者ニ右記載ヲ示スコトノ可能ナル場合ニ限り之ヲ爲シ其然ラサル場合ニ於テモ尙示スコトヲ要求セル趣旨ニ非ス (明治四十四年四月十七日)

被告辯護人阿部喜藤治上告趣意書第一點原判決ハ被告ノ第一第二ノ事實ノ證據トシテ臨檢顛末書ヲ援用シタリ然レトモ該顛末書ハ違法ノ作成ニ係ルモノニシテ無効ノモノナルヲ以テ罪證ニ供スルコトヲ得ルモノニアラス何トナレハ間接國稅犯則者處分法第八條ニ收稅官吏ハ日沒ヨリ日出マテノ間臨檢搜索又ハ差押ヲ爲スコトヲ得ス但シ現行犯ノ場合ハ此ノ限りニアラスト規定セラレタリ而シテ罪カ現行犯ナリトスルニハ刑事訴訟法第五十六條及第五十七條ノ場合ナラサルヘカラス然ルニ右臨檢書ヲ作成シタル藏田有久其他二名ノ稅務署屬ハ被告ニ酒造稅法犯則アラムコトヲ疑ヒ八月六日午後六時折柄ノ大雨ヲ利用シ午後十一時五十分被告居村ニ着シ熊谷巡査ノ同行ヲ求メ被告ノ居室ニ至リシトキ屋內ニ於テ點火シ犯則物件様ノモノヲ何カ操作ヲ爲シ居ルモノ、如クナルヲ以テ現行犯者ト認メタルコトハ臨檢顛末書ノ明示ス



ル處ナリト雖モ斯ル場合ハ刑事訴訟法第五十六條第五十七條ノ何レノ場合ニモ該當セスシテ却テ非現行犯タル事ヲ表明スルモノナリトセサルヘカラス何トナレハ單ニ犯則物件携帯ノ疑アル程度ニ過キスシテ未タ以テ所謂贓物其他ノ物件ヲ現ニ攜帶スル事實ヲ確認シタルモノニアラサレハナリ然ラハ右稅務屬等ノ行爲ハ明カニ違法ニシテ之レニヨリテ成立シタル臨檢顛末書モ亦違法無効ナルモノトス而シテ之ヲ罪證ニ供シタル原判決モ亦從テ違法ニシテ破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在レトモ○所論臨檢顛末書ヲ見ルニ右兩名ハ共謀シ云々夜中盛ニ濁酒ヲ密造販賣スルノ事實ヲ探知シ云々八月六日午後六時佐沼稅務署ヲ出發シ午後十一時五分云々熊谷巡查ノ同行ヲ求メ被告宅前ニ至リシニ屋內ニ於テ點火シ犯則物件様ノモノヲ何カ操作ヲ爲シ居ルモノ、如クナルヲ以テ現行犯ト認メ本職等ハ屋外ヲ監視シ熊谷巡查ハ屋內ニ入り云々沼倉うめノ曰クアナタハ密造シタ所ヲ御覽ニナリマシタカ實ハ自分ノ密造シタ濁酒ヲ所持シテ居リマストヲ提出シタリト熊谷巡查ノ通知ニ依リ居宅續キノ物置ニ於テ手桶入ヲ密造シ居タル現行ヲ收稅官吏ニ發見セラレタルモノナルコト明ナレハ間接國稅犯則者處分法第八條第一項但書ノ規定ニ從ヒ收稅官吏カ日沒後臨檢シ其顛末書ヲ作成スルモ違法ニ非ス故ニ右顛末書ヲ罪證ニ供シタル原判決ハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

第二點間接國稅犯則者處分法第十條ニ依レハ臨檢顛末書ハ之ヲ立會人ニ示スヘキ旨ヲ規定セルモ右ハ當該書面ノ内容ヲ立會人ニ知ラシムルノ趣旨ナレハ若シ其立會人カ盲目又ハ無筆ナル場合ニハ其書面ヲ立會人ニ讀聞ケ以テ其趣旨ヲ完フセシメサルヘカラス然ルニ本件臨檢顛

末書ノ末尾附記ニ立會人沼倉うめ無筆云々ノ記載アルニ拘ハラヌ該顛末書ハ之ヲ立會人タルうめニ示シタルモノニシテ之ヲ讀聞ケサルモノナレハ立會人トシテ記名捺印シタル趣旨ヲ沒却スル無効ノモノナルニ拘ハラヌ原院ニ於テ之ヲ被告ノ罪證ニ供シタル違法ノモノニシテ從テ破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在レトモ○間接國稅犯則者處分法第十條ニハ顛末書ノ記載ヲ立會人又ハ尋問ヲ受ケタル者ニ示スヘキ旨規定シアルカ故ニ所論顛末書ノ記載ニシテ之ヲ沼倉うめニ示シ其名下ニうめカ捺印ヲ爲シタル以上ハ假令うめノ無筆ナルモ右記載事項ハ同人ニ於テ之ヲ承諾シタルモノナルコトヲ知り得ヘケレハ前示規定ノ要求スル手續ハ適法ニ履踐セラレタルモノトス從テ右記載ヲ讀聞ケサルモ之ヲ以テ違法ナリト云フヲ得サレハ所論顛末書ヲ罪證ニ供シタル原判決ハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

第三點原判決ハ被告ニ對スル尋問顛末書ヲ援用シテ被告ノ犯罪事實ヲ認定セラレタルモ該尋問顛末書ハ顛末書タル程度ニ達セサルモノニシテ罪證ト爲スコトヲ得ヘキモノニアラス何トナレハ間接國稅犯則者處分法ハ收稅官吏ニ尋問權ヲ許シ且ツ其犯則事實ニ對スル後日ノ證據ニ供スルカ爲メ之カ尋問顛末書ノ作成權ヲ許スト雖モ同法ハ其方式トシテ作成後之ヲ被尋問者ニ(1)示シ以テ其内容ヲ知ラシムルヲ要シ且ツ(2)之ニ署名捺印セサルヘカラサルヲ規定セリ而シテ同法ハ署名捺印ノ點ニ關シテハ一定ノ場合ヲ限リ其例外ヲ設ケタルモ之ヲ被尋問者ニ示ス手續ニ對シテハ何等ノ例外ヲ設ケサルヲ以テ若シ其尋問顛末書ノ記載ニシテ被尋問者ニ示ス能ハストセハ其記載ハ未タ尋問顛末書タル効力ナキモノト云ハサルヘカラス而シテ本件顛末書ニハ被尋問者タル被告カ尋問中立去リタルヲ以テ示ス能ハサル旨ヲ記載セルモ尋問中



立去リタル場合ハ單ニ署名捺印セシムルコト能ハサル場合ニアラス之ヲ被尋問者ニ示スコトモ能ハサル場合ナレハ未タ署名捺印スヘキ程度ニ達セサルモノト云ハサルヘカラス換言スレハ未タ顛末書トシテ之ニ作成者ハ勿論立會人ト雖モ署名シ得ヘキ程度ノモノニアラス從テ顛末書トシテ見ルヘキモノニアラサルニ拘ハラヌ原院ニ於テ之ヲ顛末書トシテ斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法ニシテ破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在レトモ○所論顛末書ヲ見ルニ收稅官吏ノ尋問ニ對スル沼倉うめノ供述ヲ錄取シ引續キ尋問ヲ爲スニ際シうめハ便所ニ行クトテ出テタル儘何處ヘ行キシカ歸リ來ラス加フルニ日没ニ近ツキタルヲ以テ止ムヲ得ス尋問ヲ中止シタリ本件ハ以上ノ狀況ナルニヨリ本人ニ示ス能ハスト記載シアルニ依レハうめカ便所ニ行クト稱シ立去リタル當時既ニ錄取シアリタル供述ハうめニ對スル尋問顛末ヲ記載シタルモノニ相違ナケレハ其供述事項ニ付キテハ被尋問者ニ示シテ署名捺印セシメ得ヘキ程度ニアルモノト云ハサルヘカラス而シテ間接國稅犯則者處分法第十條ニ顛末書ノ記載ヲ示スヘキ旨規定シアルハ立會人又ハ尋問ヲ受ケタル者ニ右記載ヲ示スコトノ可能ナル場合ニ限リ之ヲ爲シ其然ラサル場合ニ於テモ尙ホ示スコトヲ要求セル趣旨ニ非ス從テ所論顛末書末段ニ記載スル如クうめニ示スコトノ不可能ナル場合ハ同人ヲシテ其顛末書ニ署名捺印ヲモ爲サシムルコト能ハサルハ自明ノ理ナルヲ以テ其事由ヲ附記シタル顛末書ヲ採テ原判決カ罪證ニ供スルモ其採證ニ不法ノ廉アルコトナシ故ニ本論旨ハ理由ナシ

○刑法第九十五條第一項ニ公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リトアルハ其職務ヲ行フコトカ人ヲ強制スルニ至ルヘキ場合ノミニ限ラス汎ク職務ノ範圍内ニ屬スル事項ヲ行フ場合ヲ包含スルモノトス (明治四十四年四月十七日)(大正三年十一月十日)

被告辯護人後藤德太郎上告趣意書一原審ハ其認定事實ニ對シ刑法第九十五條第一項ヲ適用處斷セリ然レトモ其説明スルトコロニ依レハ被告カ中川清久等ヲ途中ニ擁シ暴行ヲ加ヘタル時ハ既ニ酒造税法違反嫌疑事件ニ付其證據物件タル桶ヲ差押ヘ執行官吏タル職務ヲ終ヘテ歸路ニ在ルノ時ニシテ刑法第九十五條第一項ニ所謂「職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行ヲ加ヘタルモノ」ト云フニ當ラス或ハ原審判示ノ「稅務屬宮武吉カ明治四十三年八月十五日同縣高岡郡戸波村宮ノ内矢野安吾方ニ於テ酒造税法違反嫌疑事件ノ證據物件トシテ差押タル桶一箇ヲ同署雇員中川清久ニ携帶セシメ同署屬土居富助之ヲ看守シ所屬官署ニ送付ノ途中同人等ヲシテ右桶ヲ持テ歸ラサシムカ爲メ」トノ事實ヲ解シテ尙「職務ヲ執行スルニ當リ」トナスニ妨ケストナスモノナラムモ斯ノ如キハ現行刑法第九十五條第一項ニ於テハ同第九十四條第九十五條ノ「職務ヲ行ヒ」ナル字句ト異ナリ特ニ「職務ヲ執行スルニ當リ」云云ノ字句ヲ用キテ強制的ニ其職務ヲ實行スル場合ノミヲ限リタルノ旨意ヲ無視スルモノト云ハサルヲ得ス此點ハ同條ノ沿革ニ徴セハ更ニ疑ナキトコロナリ果シテ然ラハ被告カ既ニ強制的處分ノ實行ヲ終ヘテ歸路ニ在ルノ稅務官吏ニ對シ暴行ヲ加ヘタリトスルモ其行爲ハ僅カニ刑法第二百八條ニ規定セル罰金以下ノ罪案タルニ過キサルニ原審カ之ニ對シテ懲役八月ノ刑ヲ科シタルハ違法ナリト信スト云フニ在レトモ○刑法第九十五條第一項ニ公務員ノ職務ヲ執



行スルニ當リトアルハ其職務ヲ行フコトカ人ヲ強制スルニ至ルヘキ場合ノミニ限ラス汎ク職務ノ範圍内ニ屬スル事實ヲ行フ場合ヲ包含スルモノニシテ敢テ執行ナル語辭ニ於テ強制ノ意義ヲ表彰シタルモノト云フヘカラス又酒造税法違反嫌疑事件ノ證據物件トシテ稅務屬ノ差押ヘタル物ヲ差押場所ヨリ所屬官署ニ送付スルニ當リ稅務署雇員カ稅務署屬ノ命ヲ承ケテ之ヲ携帶シ稅務署屬カ其携帶物ヲ看守スルカ如キ各其職務ノ範圍内ニ屬スル事項ナリトス原判決ノ認ムル所ニ依レハ被告ハ高知縣須崎稅務署收稅官吏稅務署屬宮武吉カ同縣高岡郡戶波村宮ノ内矢野安吾方ニ於テ酒造税法違反嫌疑事件ノ證據物件トシテ差押ヘタル桶一箇ヲ同署雇員中川清久ニ携帶セシメ同署屬土居富助之ヲ看守所屬官署ニ送付ノ途中同人等ヲシテ桶ヲ持チ歸ラサラシメムカ爲メ暴力ヲ用キ極力抵抗シタルモノナレハ其行爲ハ即チ公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之レニ對シテ暴力ヲ加ヘタルモノニ外ナラス原判決ニ於テ刑法第九十五條第一項ニ問擬シ處罰シタルハ相當ナリ論旨ハ理由ナシ

○刑法第五十五條ニ所謂同一ノ罪名ニ觸ルルトキトハ行爲カ同一處罰規定ニ該當セサルモ同一罪名ニシテ同一罪名ノ下ニ規定セラルル場合ヲ汎稱スルモノトス

○一箇ノ連續犯ヲ構成スヘキ各行爲カ處罰規定ヲ異ニスル場合ニ於テハ其最モ重キ刑ヲ科スヘキ行爲中ニ他ノ輕キ刑ヲ科スヘキ行爲ヲ包含セシメ一罪ヲ以テ處斷スルヲ相當トス

(明治四十四年五月八日)(大正四年四月十五日)

○刑法第五十五條ニ所謂同一ノ罪名ニ觸ルルトキトハ行爲カ同一處罰規定ニ該當セサルモ同一罪名ニシテ同一罪名ノ下ニ規定セラルル場合ヲ汎稱スルモノトス

○一箇ノ連續犯ヲ構成スヘキ各行爲カ處罰規定ヲ異ニスル場合ニ於テハ其最モ重キ刑ヲ科スヘキ行爲中ニ他ノ輕キ刑ヲ科スヘキ行爲ヲ包含セシメ一罪ヲ以テ處斷スルヲ相當トス

(明治四十四年五月八日)(大正四年四月十五日)

辯護人高木益太郎上告趣意書第二點原判決ハ第一ニ特別橫領罪ヲ第二ニ普通橫領罪ヲ認メ結局本件ハ二罪俱發ニ係リタルモノトシ併合罪トシテ處斷セラレタルモ其第一ト云ヒ又第二ト云フモ等シク同一期間内ニ同一意思ノ下ニ混淆シテ行ハレタルコト原判決ノ明カニ認ムル所ナルニヨリ從テ總テノ行爲ヲ包括的ニ觀察シ重キ一罪ニ歸納スヘキモノトスルヲ至當トス從テ強テ之レヲ分別シ二罪トナシタル原判決ハ擬律錯誤ノ違法アリト思料スト云フニ在リ○依テ按スルニ刑法第五十五條ニ所謂同一ノ罪名ニ觸ルルトキトハ行爲カ同一處罰規定ニ該當セサルモ同一罪名ニシテ同一罪名ノ下ニ規定セラルル場合ヲ汎稱スルモノトス故ニ數箇ノ行爲カ罪質及罪名ヲ同ウスル以上ハ縱令處罰規定ヲ異ニスルモ同一ノ意思發動ニ因リ連續シテ實行セラルルトキハ一箇ノ連續犯ヲ構成スルモノトシテ判定スヘキモノトス而シテ一箇ノ連續犯ヲ構成スヘキ各行爲カ處罰規定ヲ異ニスル場合ニ於テハ其最モ重キ刑ヲ科スヘキ行爲中ニ他ノ輕キ刑ヲ科スヘキ行爲ヲ包含セシメ一罪ヲ以テ處斷スルヲ相當トス然ラハ同一ノ意思發動ニ基キ普通ノ橫領罪(刑法第二百五十二條)ニ該ル數行爲ト業務上ノ橫領罪(同法第二百五十三條)ニ該ル數行爲トヲ反覆實行シタル場合ニ於テハ處罰規定ヲ異ニスルニ拘ハラ



其罪質ト罪名トヲ同ウスルヲ以テ之ヲ包括的ニ觀察シ重キ業務上ノ橫領罪中ニ輕キ普通ノ橫領罪ヲ包含セシメ一箇ノ連續犯トシテ重キ刑ニ依リテ處斷セサルヘカラス然レトモ原判決ニ據レハ被告ハ別箇ノ意思發動ニ因リテ普通ノ橫領罪ニ該ル數行爲ト業務上ノ橫領罪ニ該ル數行爲トヲ連續實行シタルモノナルヲ以テ原判決ニ於テ各別ニ連續犯ヲ構成スルモノトシテ併合罪ノ規定ヲ適用シタルハ相當ニシテ本論旨ハ結局理由ナキニ歸ス

○大陰曆ハ現行法令上公認セル曆ニ非サルモ廢止後尙ホ民間ニ遵守セララル、モノナルヲ以テ苟モ判文上犯罪ノ時期ニ付キ大陰曆ニ依ル月日ノ說示シアル以上右月日ハ大陽曆ノ某月某日ニ該當スルコト兩曆ノ對照上容易ニ之ヲ推算シ得ヘキヲ以テ犯罪ノ時期ヲ確定セサルノ違法アリト云フヲ得ス (明治四十四年五月二十二日)(大正十三年十二月十七日)

被告兩名辯護人阿部彦兵衛同阿部喜藤治上告趣意書第三點原判決ハ被告勘九郎ハ明治四十四年舊八月云々ノ行爲ヲナシ又被告勘四郎ハ同二年舊二月云々ノ所爲ヲナシト認定セラレタルモ元來舊曆ハ我國法令ノ認メタル曆數ニアラサルカ故ニ結局原判決ハ未タ犯罪ノ時ヲ確定セサル違法アリト云フニ在リ

○按スルニ所謂舊曆ハ大陰曆ニシテ現行法令ノ上ニ於テ公認セル曆ニ非サルモ往古ヨリ明治五年マテ慣用シ來リタルモノナレハ因襲ノ久シキ其廢止後ト雖モ民間尙ホ之ヲ遵守スル者ノ跡ヲ絶ツニ至ラス證人若クハ被告人ノ豫審調書等ニ於テ住々大陰曆ニ依ル月日ノ記載ヲ存スルハ止ムヲ得サルナリ故ニ此等豫審調書中ノ供述記載ヲ證據トシテ判文ニ採用スルニ當リテ其記載ニ遵ヒ大陰曆ノ月日ヲ掲記スルハ失當ニ非サルヘシト雖モ右ノ證據ニ依リテ一定ノ事實ヲ判斷スル場合ニ於テ大陰曆ニ依ル月日ヲ舉示スルハ頗ル妥當ヲ欠クノ憾ナキニ非ス然レトモ判文上犯罪ノ時期ニ付キ大陰曆ニ依ル月日ノ說示シアル以上ハ右月日ハ大陽曆ノ某月某日ニ該當スルコト兩曆ノ對照上容易ニ之ヲ推算シ得ヘキヲ以テ犯罪ノ時期ヲ確定セサル違法アリト謂フヘカラス論旨ハ理由ナシ



○取引所法第二十五條ニ違背スル賣買取引ハ元來公ノ秩序ニ違反スル事項ヲ目的トスルモノナルヲ以テ無効ナリ從テ同罪ノ成立ニハ其賣買取引カ形式上存在スルヲ以テ足り必スシモ當事者間ニ於テ有効ニ成立スルコトヲ要セサルモノトス (明治四十四年六月九日)

辯護人今村力三郎上告趣意書第一原院ハ判示第一ノ行爲ニ付取引所法第二十五條ヲ適用セラレタレトモ同條ヲ適用セラレヘキ行爲ハ取引ノ當事者ニ於テ共ニ取引所外ニ於テ類似ノ定期取引ヲ爲スノ情ヲ知ルコトヲ條件トス凡商取引ト稱スヘキ行爲ハ常ニ相對スル二以上ノ當事者ヲ必要トス然ルニ若シ一方ノ當事者ハ正當ニ株式取引所ニ於テ賣買スヘキモノナリト信シ他ノ一方ノ當事者ハ然ラサル意思ヲ有スルトキハ當事者ノ意思ノ一致ヲ欠キ所謂類似取引ナルモノ成立セス故ニ本件第一ノ事實ニ付キ原院カ取引所法第二十五條ヲ適用シタルハ擬律ニ錯誤アル判決ナリト云フニ在レトモ○取引所法第二十五條ニ違背シ取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲ス罪ノ成立ニ必要ナル其賣買取引ハ元來公ノ秩序ニ違反スル事項ヲ目的トスルモノニシテ無効ニ屬スルコト論ヲ俟タス (民法第九十條) 從テ同罪ノ成立ニハ其賣買取引ハ形式上存在スルヲ以テ足レリトシ賣買取引カ當事者間ニ於テ有効ニ成立スルコトヲ要セサルヤ寔ニ明瞭ナリトス故ニ賣買取引ノ相手方カ取引所外ニ於テ取引スルノ意思アリタルヤ否ヤハ現ニ取引所外ニ於テ取引ヲ爲シタル他ノ一方ニ對スル犯罪ノ成立ニ影響ヲ及ホスモノニアラス各當事者ハ相手方ノ意思如何ニ拘ラス獨立シテ右取引所法第二十五條違反ノ行爲ヲ爲シ得ヘキヲ以テ原判決ハ所論ノ如キ違法アルコトナク本論旨ハ理由ナシ

○酒精及酒精含有飲料稅法第二十三條ノ適用ヲ受クヘキ者ハ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造シ若クハ之ヲ販賣スルモノナラサルヘカラス從テ麥酒又ハ酒造稅法ニ所謂酒類ヲ製造スル者若クハ之ヲ販賣スル者ノ雇人ニシテ雇主ノ業務ニ關シ酒精及酒精含有飲料稅法ヲ犯スコトアルモ雇主ニ對シ同法條ヲ適用スルヲ得ス (明治四十四年六月二十七日)

辯護人高木益太郎上告趣意書第二點被告萬吉ハ本件ニ關シ何等責任ヲ負フヘキモノニアラス何トナレハ酒精及酒精含有飲料稅法第二十三條ハ酒精又ハ酒精含有飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スルモノノ……雇人……其業務ニ關シ同法ヲ犯シタル場合ニ於テ其製造者又ハ販賣者ヲ罰スト規定スルモノナルニ本件被告ハ單ニ酒類ノ委託販賣ヲ爲スニ過キサル者ナルヲ以テ其飲料製造ノ如キハ其業務ニ關スルモノニアラスシテ長三郎ノ獨斷行爲ナレハナリ然ルニ原判決カ被告ニ對シ無罪ヲ言渡シタル第一審判決ヲ取消シ之ニ同法第二十三條第十五條第二條ヲ適用處斷シタルハ違法ナリト云フニ在リ○依テ按スルニ酒精及酒精含有飲料稅法第二十三條ニハ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人戶主家族同居者雇人其他ノ從業者ニシテ其業務ニ關シ同法ヲ犯シタルトキハ其製造者又ハ販賣者ヲ處罰スヘキ旨規定シアリテ同條ノ適用ヲ受クヘキ者ハ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造シ若クハ之ヲ販賣スル者ナラサル可ラサルカ故ニ麥酒又ハ酒造稅法ニ所謂酒類ヲ製造スル者若クハ之ヲ販賣スルモノ、雇人ニシテ雇主ノ業務ニ關シ酒精及酒精含有飲料稅法ヲ犯スコトアルモ雇主ニ對シ酒精及酒精含有飲料稅法第二十三條ヲ適用スルヲ得ス原判決ヲ閱スルニ被告萬吉ハ酒類委託販賣業者ニシテ酒精及酒精含有飲料製造ノ免許ヲ受ケサルニ其雇人柳田長三郎ハ



被告ノ業務ニ關シ明治四十三年七月中被告ノ住宅ニ於テ城戶傳治ヨリ清酒四十三挺販賣ノ委託ヲ受ケ其内二十八挺ニ蕃椒若干ヲ混和シ酒精容量二十一度以下ノ酒精含有飲料一挺ノ數量三斗四升合計九石五斗二升ヲ製造シタルモノナリト判示シアリテ被告ハ清酒ノ委託販賣業者タルニ過キスシテ酒精又ハ酒精含有飲料ノ製造者クハ販賣業者ニ非サルコト明ナレハ假令被告ノ雇人ニ於テ判示ノ如ク酒精及酒精含有飲料稅法違反ノ行爲アリトスルモ被告ハ同法第二十三條ニ依リ處罰セラレヘキ理由ナシ左レハ被告ニ對シ同條ヲ適用シテ處斷シタル原判決ハ擬律錯誤ノ不法アルモノニシテ論旨ハ理由アリ原判決ハ破毀ヲ免レス

○酒類及酒類含有飲料稅法第二十三條ノ適用ニ關シ  
 被告ハ清酒ノ委託販賣業者タルニ過キスシテ酒精又ハ酒精含有飲料ノ製造者クハ販賣業者ニ非サルコト明ナレハ假令被告ノ雇人ニ於テ判示ノ如ク酒精及酒精含有飲料稅法違反ノ行爲アリトスルモ被告ハ同法第二十三條ニ依リ處罰セラレヘキ理由ナシ左レハ被告ニ對シ同條ヲ適用シテ處斷シタル原判決ハ擬律錯誤ノ不法アルモノニシテ論旨ハ理由アリ原判決ハ破毀ヲ免レス

○稅務監督局及ヒ稅務署ノ屬カ密造ニ係ル濁酒在中ノ桶ニ封印ヲ施シ其保管ヲ爲サシメタル場合ニ於テ保管者カ擅ニ右封印アル桶ヨリ濁酒ヲ洩出セシメタルトキハ刑法第九十六條ニ所謂公務員ノ施シタル封印ヲ無効ナラシメタルモノニ該當ス（明治四十四年七月十日）  
 辯護人前田藤吉郎上告趣意書第二點假リニ稅務屬ニ於テ該權限（稅務屬カ私人ノ財產ニ對シ封印ヲ施シ處分ヲ禁スルノ權能ノ意）アリトスルモ原院ニ顯ハレタル證據ニ依レハ稅務屬ノ施シタル封印ニハ何等ノ異狀ナキコト明カナリ然ルニ原院カ刑法第九十六條ヲ以テ被告人ヲ處罰シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○原判決ニハ數多ノ證據ヲ參酌シ稅務監督局及稅務署ノ屬カ被告ノ密造ニ係ル濁酒二斗四升四合在中ノ桶ニ封印ヲ施シ其保管ヲ被告ニ爲サシメタルニ被告ハ擅ニ封印アル濁酒在中ノ桶ヨリ約一斗九升七合ヲ洩出セル事實ヲ認メアレハ所論封印其モノノ外形ニハ何等異狀ナキモ被告カ濁酒ヲ洩出シタルカ爲メニ其封印ヲ無効ニ歸セシメタルコト論ヲ俟タス從テ被告ノ所爲ハ刑法第九十六條ニ公務員ノ施シタル封印ヲ無効ニ効ナラシメタル者トアルニ該當スルヲ以テ原判決カ同條ヲ適用シ處斷シタルハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ



○竊盜罪ノ目的物ハ必スシモ經濟的交換價值ヲ有スル物ニ限ラス財產權ノ目的タル物ナルヲ以テ足ル從テ消印濟ノ收入印紙ト雖モ獨立シテ若クハ證書ニ貼用セラレ證書ノ一部ヲ成シテ財產權ノ目的タルコトヲ得ルモノトス (明治四十四年八月十五日)

辯護人横山勝太郎上告趣意書第三點原院ハ公正證書ノ原本ヨリ消印濟ノ五圓一圓ノ收入印紙ヲ剝離シ之ヲ竊取シタル所爲ヲ目シテ竊盜罪ナリト認定シ之レカ擬律ヲ爲シタリト雖モ抑モ竊盜罪ハ財產上ノ法益ヲ侵害スルノ所爲ニシテ不正ニ領得セラルル物ハ經濟上ノ交換價值ヲ有シ竊取ノ所爲ニ依リ被害者ハ財產上ノ損害ヲ蒙ルノ事實ナカル可ラス然リ而シテ既ニ消印セラレタル收入印紙ハ其効用ヲ終リタルモノニシテ經濟上交換ノ價值ナキハ勿論法律上財產權ノ目的タルヲ得ルモノニ非ス後日犯人ノ手ニ於テ之ヲ洗滌シ未タ使用セサルモノノ如ク裝ヒ事實上之ヲ使用スルコトアルモ之レ固ヨリ犯人ノ加工思慮ニ依リテ此ノ如ク變則ノ現象ヲ呈スルニ止マリ經濟的的法律的ノ觀察ニ於テハ依然トシテ價值ナク財產權ノ目的ト爲ルモノニ非ス故ニ被告ノ所爲ハ決シテ法律上竊盜罪ヲ構成ス可キモノニ非ス此點ニ於テ原判決ハ擬律ノ錯誤アル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○竊盜罪ノ目的タル物ハ必スシモ經濟的交換價值ヲ有スル物ニ限ラス財產權ノ目的タル物ナルヲ以テ足ル所論消印濟ノ收入印紙ハ交換價值ヲ有セストスルモ獨立シテ若クハ證書ニ貼用セラレ證書ノ一部ヲ成シテ財產權ノ目的タルコトヲ得ルヤ論ナシ然ラハ原判決カ公正證書ノ原本ニ貼用セル消印濟ノ收入印紙ヲ剝離シ之ヲ領得シタル被告ノ行爲ヲ以テ竊盜罪ニ問擬シタルハ違法ニ非ス

○刑事訴訟法第五十六條ニ所謂「現ニ行ヒ終リタル際」トハ犯罪ノ終了シタル瞬間ヲ謂フモノニ非ス若干ノ時間ヲ隔テテ發覺スルモ兇行ノ痕跡尙ホ歴歷犯所ニ現存シ近ク犯行アリシコトノ明白ナル場合ヲ指稱スルモノトス (明治四十四年十月九日)

辯護人草原亥之助同池田直江上告趣意書第一點原判決ハ左ニ陳述スルカ如キ二个ノ違法アル鑑定人海老原道行ノ鑑定書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル不法アリ(一)該鑑定書ハ水戸地方裁判所土浦支部檢事上松操ノ鑑定命令ニ基キテ成立シタルモノナルコトハ同檢事ノ鑑定人訊問調書並ニ右鑑定書ニ其旨ノ記載アルニ依リテ明白タリ而シテ檢事カ鑑定人ヲ訊問シ及鑑定ヲ命令スルコトヲ得ルハ現行犯ノ場合ニ限ルモノナルコト刑事訴訟法上疑ヲ容レサル所ニシテ上松檢事モ亦本件ヲ現行犯ナリトシテ鑑定人ノ訊問ヲ爲シタルモノノ如シ然レトモ同檢事ノ作成ニ係ル明治四十四年二月十一日附ノ意見書並ニ麻生警察署ノ殺人事件報告ノ件ト題スル書面等ニ依レハ犯罪ハ二月五日行ハレタルモノナル事司法警察官カ右犯罪ヲ覺知シタルハ其翌六日ナル事又司法警察官及檢事カ犯罪ヲ覺知シタル當時(即六日七日八日九日ノ間)ニ於テハ犯人ノ何人ナルカ更ニ知レサリシ事ハ極メテ明ニシテ刑事訴訟法第五十六條第五十七條ノ現行犯ニ該當セサルコト勿論ナリ從テ檢事ハ同法第四百四十四條ノ特別處分トシテ鑑定ノ訊問及鑑定ヲ命令スルコトヲ得サルヤ亦明カニシテ此規定ニ違背シタル檢事ノ權限外ノ命令ニ基キテ成立シタル右ノ鑑定書カ違法ニシテ無効ナルコト辯ヲ待タスト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第五十六條ニ「現ニ行ヒ終リタル際」トアルハ犯罪ノ終了シタル瞬間ヲ謂フモノニアラス若干ノ時間ヲ隔テテ發覺スルモ兇行ノ痕跡尙歴歷犯所ニ現存シ近ク犯行アリシコト明



白ナルニ於テハ其罪ハ同條ニ所謂現行犯ナリトス記録ヲ閱スルニ檢事カ犯所ニ臨檢シタル際ニ於テモ犯行ノ痕跡尙依然トシテ其場所ニ現存シ犯罪ノ近ク行ハレタル狀況顯著ナリシコトハ檢事ノ檢診調書ニ「地上ニハ血痕ノ淋漓タルヲ認メタル旨」ノ記載アルニ徴シテ洵ニ明ナレハ本件ハ前示ノ現行犯ニ該當スルモノトス故ニ檢事カ鑑定人ヲ訊問シ之ニ鑑定ヲ命シタルハ正當ニシテ不法ニアラス

○刑事法規ニ「五年以下ノ懲役」又ハ「十年以下ノ禁錮」トアルトキハ五年又ハ十年ヲモ包含セシムルノ旨趣ナルヲ以テ「五年未滿ノ懲役」又ハ「十年未滿ノ禁錮」トアル場合トハ全然其趣ヲ異ニスルモノトス（明治四十四年十月十日）

辯護人渡邊證也上告趣意書第一點刑事訴訟法第八條ノ公訴時効ノ期間ハ刑法施行法第三十八條ヲ以テ改正セラレ而シテ公訴ノ時効ハ概ネ法定刑ヨリ其期間短キノミナラス刑法施行法中「以下」ナル文字ヲ使用シタルモノ絶ヘテ存スルコトナク「以下」ニ代フルニ「未滿」ナル文字ヲ使用シタルコト刑法施行法上全部ヲ通讀シテ寔ニ明白ナルヲ以テ刑法施行法ニ所謂「未滿」ナル文字ハ「以下」ト同一意義ニ解釋スヘク刑事訴訟法第八條ニ所謂「未滿」ナル文字ノ意義亦同一ナリトス若シ之ニ反スルトキハ「長期十年以下」ト「長期十年未滿」トノ間ノ罪ノ公訴時効ハ遂ニ依ルヘキ規定存セサルニ至ル說者或ハ曰ク「十年」ノ刑期ハ十年以上ニモ十年以下ニモ通シテ恰當スルコトヲ得ルヲ以テ長期十年以下ノ公訴時効ハ刑事訴訟法第八條第二號ニ依ルヘキモノナリト其說ノ無稽ナル一顧ノ價ナシ蓋シ刑事訴訟法第八條第二號ハ明カニ「長期十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年」ト規定シ所謂「長期十年以上」トハ法定刑ノ十年ヲ指示シ裁判官ノ裁斷シタル量定刑ヲ指示セサルコト疑ノ存セサル所ナレハナリ說者ノ言ハ畢竟法定刑ト量定刑トヲ混同シタル誤ニ坐スルモノト謂ハサルヘカラス本案被告ノ犯シタル文書偽造行使ノ行爲ハ刑法第五十九條第一項ニ規定セル三月以上五年以下ノ懲役ニ該ルヲ以テ其公訴ノ時効ハ刑事訴訟法第八條第四號ノ三年ナリトス而シテ被告ノ犯罪行爲ハ明治四十年十月十八日ニ行ハレ其公訴ハ明治四十三年十二月十九日ニ提起セラレ

○刑事法規ニ「五年以下ノ懲役」又ハ「十年以下ノ禁錮」トアルトキハ五年又ハ十年ヲモ包含セシムルノ旨趣ナルヲ以テ「五年未滿ノ懲役」又ハ「十年未滿ノ禁錮」トアル場合トハ全然其趣ヲ異ニスルモノトス（明治四十四年十月十日）

辯護人渡邊證也上告趣意書第一點刑事訴訟法第八條ノ公訴時効ノ期間ハ刑法施行法第三十八條ヲ以テ改正セラレ而シテ公訴ノ時効ハ概ネ法定刑ヨリ其期間短キノミナラス刑法施行法中「以下」ナル文字ヲ使用シタルモノ絶ヘテ存スルコトナク「以下」ニ代フルニ「未滿」ナル文字ヲ使用シタルコト刑法施行法上全部ヲ通讀シテ寔ニ明白ナルヲ以テ刑法施行法ニ所謂「未滿」ナル文字ハ「以下」ト同一意義ニ解釋スヘク刑事訴訟法第八條ニ所謂「未滿」ナル文字ノ意義亦同一ナリトス若シ之ニ反スルトキハ「長期十年以下」ト「長期十年未滿」トノ間ノ罪ノ公訴時効ハ遂ニ依ルヘキ規定存セサルニ至ル說者或ハ曰ク「十年」ノ刑期ハ十年以上ニモ十年以下ニモ通シテ恰當スルコトヲ得ルヲ以テ長期十年以下ノ公訴時効ハ刑事訴訟法第八條第二號ニ依ルヘキモノナリト其說ノ無稽ナル一顧ノ價ナシ蓋シ刑事訴訟法第八條第二號ハ明カニ「長期十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年」ト規定シ所謂「長期十年以上」トハ法定刑ノ十年ヲ指示シ裁判官ノ裁斷シタル量定刑ヲ指示セサルコト疑ノ存セサル所ナレハナリ說者ノ言ハ畢竟法定刑ト量定刑トヲ混同シタル誤ニ坐スルモノト謂ハサルヘカラス本案被告ノ犯シタル文書偽造行使ノ行爲ハ刑法第五十九條第一項ニ規定セル三月以上五年以下ノ懲役ニ該ルヲ以テ其公訴ノ時効ハ刑事訴訟法第八條第四號ノ三年ナリトス而シテ被告ノ犯罪行爲ハ明治四十年十月十八日ニ行ハレ其公訴ハ明治四十三年十二月十九日ニ提起セラレ



タルヲ以テ犯罪當時ヨリ起算シ既ニ滿三年以上ヲ經過シ公訴時効滿了セルヲ以テ原院ニ於テ公訴不受理ノ申立ヲ爲シタルニ拘ラス之ヲ棄却シタル原判決ハ法律ノ解釋ヲ誤リタル不法アルモノト思料スト云フニ在リ○依テ按スルニ我刑事法規ニ於テ刑ノ範圍ヲ掲クル場合ニ用キル「以下」又ハ「未滿」ナル文字ノ意義ニ付テハ左ニ説明スルカ如ク其間劃然タル區別アリ從テ兩者ヲ以テ同一意義ニ解スヘキモノニアラス例之法文ニ「五年以下ノ懲役」又ハ「十年以下ノ懲罰」トアルトキハ其所謂「五年以下」ノ中ニハ五年ヲモ包含セシメ「十年以下」ノ中ニハ十年ヲモ包含セシムルノ趣旨ニシテ即チ前者ハ一月以上五年マテノ懲役後者ハ一月以上十年マテノ懲罰ヲ意味スルモノナレハ右ハ要スルニ法文上「五年未滿ノ懲役」又ハ「十年未滿ノ懲罰」ト掲ケアル場合等トハ全然其趣旨ヲ異ニスルモノナルコト一點ノ疑ナシ今本件ヲ按スルニ被告ノ行爲ハ刑法第五百九條第一項第六十一條第一項第五十四條ニ依リ三月以上五年以下ノ懲役即チ前項說明ノ趣旨ノ如ク懲役三月以上五年マテノ範圍ニ於テ科刑スヘキモノニ該ルヲ以テ之ニ對スル公訴ノ時効ニ付テハ刑事訴訟法第八條第三號ノ「長期十年未滿ノ懲役(中略)ニ該ル罪ニ付テハ七年」トアルヲ適用スヘク所論ノ如ク同條第四號ノ「長期五年未滿ノ懲役(中略)ニ該ル罪ニ付テハ三年」トアルヲ適用スヘキモノニアラス左レハ論旨所掲ノ如ク明治四十年十月十八日ニ行ハレタル本件被告ノ犯罪行爲ニ對シテハ公訴ノ時効未タ滿了セサルコト明ナレハ原院カ本件公訴不受理ノ申立ヲ棄却シタルハ相當ナリ但シ論旨指示ノ刑事訴訟法第八條第三號ノ適用ニ關スル本院判決ノ趣旨ハ其後ノ判例ニ依リテ既ニ變更セラレタルモノナレハ之ヲ援用スル論旨ハ其當ヲ得サルモノトス

○煙草耕作者試作者煙草賣捌人等ヲシテ其代理人戸主家族同居者雇人其他ノ從業者カ爲シタル犯罪行爲ニ付キ罪責ヲ負ハシムルニハ是等ノ者カ其業務ニ關シ煙草專賣法又ハ同法ニ基キテ發セラレ、命令ニ違犯シタルコトヲ要スルノミニシテ該法令中煙草耕作者試作者煙草賣捌人等ヲ以テ犯罪ノ主體ト爲シタル條項ニ違反シタルコトヲ要セス

(明治四十四年十月十九日)

辯護人内藤庄吉上告趣意書第一點原判決ハ擬律錯誤ノ違法アルモノト思料ス明治三十七年法律第十四號煙草專賣法第二十二條第一項ニ依レハ製造煙草ノ販賣ハ政府ノ指定シタル煙草元賣捌人若ハ小賣人ニ非サレハ爲シ得サルコト明ナリ而シテ煙草元賣捌人ト煙草小賣人トハ其業務ノ範圍全然區別アリ(一)元賣捌人ハ政府ヨリ製造煙草ヲ買受ケ之ヲ煙草小賣人ニ賣渡スモノニシテ(二)小賣人ハ元賣捌人ヨリ製造煙草ヲ買受ケ之ヲ消費者ニ賣渡スモノトス(明治三十八年大藏省令第四號煙草賣捌規則第一條)此ノ如ク元賣捌人ト小賣人トハ其取引ノ方面ヲ異ニスルカ故ニ互ニ其範圍ヲ侵犯スルコトナキヤ勿論ナリ若シ夫レ元賣捌人ニシテ直接消費者ニ賣渡シ若ハ小賣人ニシテ他ノ小賣人ニ卸賣ヲナスカ如キハ專賣法第二十二條及第四十九條ニヨリ單ニ無免許ノ賣捌人トシテ處分セラレヘキモノニシテ元賣捌人タル業務若ハ小賣人タル業務トハ何等ノ關係ヲ有セサルモノナリ(大審院刑事第二部明治三十八年六月二十日判決同年(レ)第七四二號事件判決參照)而シテ各賣捌人ニ對スル專賣法ノ規定ヲ見ルニ小賣人ニ付テハ法第二十三條及賣捌規則第十二條第二十五條等アリ又元賣捌人ニ付テハ賣捌規則第五條第八號第九條第十二條第十四條第十五條等アリテ法ノ精神ハ元賣捌人ト小賣人トニ



付其營業ノ性質業務ノ範圍ヲ全然區別スルモノナル事明ナリ換言スレハ元賣捌人ノ業務中ニハ小賣人ノ業務ヲ包含セス小賣人ノ業務中ニモ亦元賣捌人ノ業務ヲ包含セサルモノナリ故ニ專賣法第六十五條ニ「煙草賣捌人……其代理人戸主……其他ノ從業者ニシテ其業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カル、コトヲ得ス」ト規定シタルハ賣捌人カ各自ノ業務ノ範圍内ノ事項ニ關シ從業者等ノ爲シタル違法行爲ニ付其責任ヲ負擔セシムルノ趣旨ニシテ其範圍外ニ屬スル行爲ニ付テハ其業主ニ責任ナキヤ明ナリ本件ニ於テ原院ノ認メタル事實ニ依レハ煙草小賣人タル上告人ノ夫寅吉カ上告人ノ煙草小賣業ニ從事中他ノ煙草小賣人松井シマ外五名ニ製造煙草ヲ販賣シタリト云フニ在レトモ寅吉ノ犯罪行爲ハ上告人ノ小賣業ノ範圍外ニ屬スルモノニシテ法第六十五條ニ所謂「其業務ニ關シ」トアルニ該當セサルモノトス從テ夫寅吉カ單純ニ法第二十二條第四十九條ニヨリ處罰セラル、ハ格別上告人ニ其責任ヲ波及セシムルハ法ノ精神ニ非スト思料ス（中略）又前掲御院判例ノ趣旨ヨリ推究スルモ元賣捌人カ小賣人ノ行爲ヲナシ小賣人カ元賣捌人ノ行爲ヲナシタル場合ニ於テハ元賣捌人又ハ小賣人タル資格ニ於テ處罰セラル、ニ非スシテ何等賣捌ノ資格ナキ者ト同一位置ニ在ルモノナレハ本件上告人ノ夫寅吉ノ行爲ニ付上告人ニ責任アリトスルモ小賣人タル資格ニ隨伴セサルコト明カナリ然ルニ法第六十五條ハ煙草耕作者試作者煙草賣捌人輸出者等カ各其資格ノ下ニ責任ヲ負擔セシメタルモノナルカ故ニ原院決ハ此點ヨリ考フルモ亦法ノ解釋ヲ誤リタルモノト思料ス要スルニ原院ノ認メタル事實ニヨレハ寅吉ノ行爲ハ上告人ノ業務ニ關スルモノニ非サルカ故ニ上告人ハ法第六十五條ニ依リ寅

吉ノ行爲ニ付キ責任ヲ負擔スヘキモノニ非サルニモ拘ハラヌ原判決カ同條及同法第二十二條第四十九條等ニ依リ有罪ノ判決ヲ與ヘタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノト思料スト云フニ在レトモ○煙草專賣法第六十五條ニ依レハ煙草耕作者試作者煙草賣捌人等ヲシテ其代理人戸主家族同居者雇人其他ノ從業者カ爲シタル犯法行爲ニ付キ其罪責ヲ負ハシムルニハ是等ノ者カ其業務ニ關シ煙草專賣法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルコトヲ要スルノミニシテ右法律命令中煙草耕作者試作者煙草賣捌人等ヲ以テ犯罪ノ主體ト爲シタル條項ニ違反シタルコトヲ以テ其要件トセサルコトハ夙ニ本院ノ判例トシテ認ムル所ナリ（明治四十一年（れ）第六七一號事件本院判決參照）故ニ煙草專賣法第二十二條ノ規定ニ違反スル行爲ヲ同法第四十九條ニ依リ處罰スルハ固ヨリ煙草賣捌人タル資格ニ基キ發シタル行爲ノ制裁ニアラサルハ論ヲ俟タスト雖モ煙草元賣捌人タル資格ニ基キ發シタル行爲ノ制裁ニアラサルハ論ヲ執行スルニ當リ其從業者ニ於テ煙草販賣ニ關スル同法第二十二條違反ノ行爲ヲ爲スカ如キハ即チ煙草賣捌人ノ從業者カ其業務ニ關シ同法ニ違反シタルモノニ外ナラサルヲ以テ同法第六十五條ニ依リ煙草賣捌人ハ同法第二十二條第四十九條ノ罪責ヲ辭スルヲ得ヌ原判決ノ認ムル事實ニ依レハ被告ハ煙草小賣人ニシテ其夫寅吉カ被告ノ爲メ煙草小賣業ニ從事中連續シテ他ノ煙草小賣人ニ政府製造煙草各種ヲ數回ニ販賣シタルモノナレハ該事實ニ對シ原審カ所掲法條ヲ適用シテ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ正當ナリ論旨ハ理由ナシ



○取引所稅法ニ於テ其違法行爲ニ對スル刑罰ハ取引所理事長ニ對シ之ヲ適用スヘキコトヲ規定シタルモノノ如キハ明治三十三年法律第五十二號ノ特例ニ屬スルモノナルヲ以テ右稅法第七條ノ犯法行爲アリタル場合ニ於テハ取引所理事長ニ對シ右法條所定ノ刑罰ヲ科スヘキモノトス (明治四十四年十一月十日)

辯護人中西六三郎高野金重上告趣意書第三點明治三十三年法律第五十二號「法人ニ於テ租稅ニ關シ事犯アリタルトキ處罰制」ニ依レハ第一條ニハ「各法規ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス」ト規定シテ法人ノ犯罪法人ノ處罰ヲ認メ其結果同條但書ニ於テ「但罰則ニ於テ罰金科料以外ノ刑ニ處スヘキコトヲ規定シタルトキハ法人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス」ト規定シテ法人處罰主義ヲ一貫スル結果法人ノ處罰ヲ金刑ニ限定シ尙ホ其第三條ニ於テ民事訴訟法強制執行ノ規定ニ從ヒテ執行ヲ爲シ以テ罰金科料ヲ徵收スルノ規定ヲ設ケタリ現ニ民事訴訟法ヲ適用ス之レレ法人カ罰金科料ヲ完納セサル場合ニ於ケル最終ノ手段ニシテ刑法ノ規定ヲ適用スヘカラサルコトヲ定メタルモノト云フヘク又斯ノ如クニシテ法人犯罪主義法人處罰主義ヲ一貫シタルモノト云フヘシ然ルニ原判決ハ刑法第十八條ヲ適用シテ罰金ヲ完納スル能ハサル場合ニ於テハ被告ヲ百日間勞務場ニ留置スル旨言渡ヲ爲シタリ法人處罰主義ニ背戻スルモノニシテ前掲法律ヲ無視シ刑法ヲ不當ニ適用シタル不法ノ裁判ナリト信スト云フニ在レトモ○明治三十三年法律第五十二號第一條ハ法人ノ代表者又ハ其雇人其他ノ從業者カ法人ノ業務ニ關シ租稅及葉煙草專賣ニ關スル法規ヲ犯シタル場合ニ於テ各法規ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用スヘキコトヲ定メタル一般ノ規定ニ係ルモノナリ而シテ取引所稅法ノ如ク其違犯行爲ニ

對スル刑罰ハ取引所理事長ニ對シ之ヲ適用スヘキコトヲ特ニ規定シタルモノノ如キハ前記法律ヨリ之ヲ見ルトキハ一種ノ特例ニ屬スルヲ以テ從テ右法律ノ發布アルモ別ニ其効力ニ影響ヲ及ホスヘキモノニアラス左レハ右稅法第七條ノ犯法行爲アリタル場合ニ於テハ前記法律第一條ノ規定ニ拘ハラス取引所理事長其モノニ對シテ右稅法第七條所定ノ刑罰ヲ當行スヘク取引所ニ對シテ之ヲ當行スヘキモノニ非ス右ノ刑罰ハ取引所ニ對シテ之ヲ當行スヘキモノニアラストセハ前記法律第三條ノ規定ハ取引所ニ對シテハ其適用ナキモノナルコト辯ヲ竣タサレハ原院カ本件ニ付キ右ノ規定ヲ適用セスシテ刑法第十八條ヲ適用シ以テ所論ノ言渡ヲ爲シタルハ相當ニシテ論旨ハ理由ナシ

第五點法律カ法人處罰主義ヲ採用スル以上ハ其處罰當時ニ於ケル法人ノ代表者ヲ以テ被告人ト爲ササルヘカラス從テ犯罪當時ノ代表者ニ何等ノ關係ナキナリ之法人處罰ハ法人其モノヲ罰スルモノニシテ代表者其人ヲ罰スルモノニアラサル當然ノ結果ナリトス然ルニ原判決カ處罰當時理事長ノ職ニアラサル女吉ヲ以テ被告人トシテ審理判決シタルハ不法ノ甚ダシキモノナリト信スト云フニ在レトモ○本件ノ如キ犯罪行爲ニ付テハ取引所ニ對シテ刑罰ヲ當行スヘキモノニアラスシテ取引所理事長ニ對シテ之ヲ當行スヘキモノナルコトハ第三點ノ論旨ニ對シテ既ニ説明シタル如クナルカ故ニ原院カ本件取引所ノ元理事長タル被告女吉ヲ以テ被告人トシ審理判決シタルハ相當ニシテ論旨ハ理由ナシ